イ　産業組合及同聯合會ノ事業資

第四章　資金ノ割當

第六條　地方公共團體、水利組合又ハ北海道土功組合本資金ノ借入ヲ爲サントスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書（第一號様式）ヲ地方長官ヲ經由シテ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スベシ

前項ノ地方公共團體ニシテ東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市（以下六大都市ト稱ス）以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナルトキハ前項ニ依リ大藏大臣ニ提出スル預金部資金借入申込書ハ預金部支部ヲ經由スベシ

第七條　資金ノ借入ヲ希望スル者道、府縣、六大都市、水利組合又ハ北海道土功組合ナル場合ニ於テ其ノ申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金部資金供給稟請書（第二號様式）ヲ地方長官ヲ經由シ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スベシ

資金ノ借入ヲ希望スル者六大都市以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナル場合ニ於テ其ノ申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金部資金供給稟請書（第二號様式）ヲ預金部支部ヲ經由シテ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スベシ

前二項ノ預金部資金供給稟請書ニハ起債決議書寫、起債許可書寫及供給稟請額ノ償還年次表ヲ添附スベシ

第八條　地方公共團體、水利組合及北海道土功組合以外ノ者本資金ノ借入ヲ爲サントスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書（第一號様式）ヲ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第三號乃至第七號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ、第八號乃至第十號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及商工大臣ニ地方長官ヲ經由シテ提出スベシ

第九條　第六條及前條ノ期限ハ大藏大臣ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ延長スルコトアルベシ

第十條　本章ノ規定ニ依リ預金部支部ヲ經由シテ提出スベキ書類ハ預金部支部ノ出張所ノ設アル區域ニ於テハ同出張所ヲ經由スルコトヲ要ス

第五章　資金ノ融通

第一節　總則

第十一條　地方公共團體ニ對スル資金ノ融通ハ直接預金部ニ於テ之ガ取扱ヲ爲スモノトス

地方公共團體以外ノ者ニ對シテハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ヲ經由シテ資金ノ融通ヲ爲スモノトス但シ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ此ノ外道、府縣轉貸ノ方法ニ依リ融通ヲ爲スコトアルベシ

第十二條　地方公共團體ニ對スル預金部資金ノ融通ハ當該地方債證券ノ引受又ハ貸付ノ形式ニ依ルモノトス

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ對スル預金部資金ノ融通ハ債券引受ノ形式ニ依ルモノトス但シ三年以内ノモノニ限リ貸付ノ形式ニ依ルコトアルベシ

第十三條　前條ノ規定ニ依ル地方債證券、債券又ハ貸付金ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトアルベシ

第十四條　日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還又ハ年賦償還、産業組合中央金庫ノ預金部資金貸付ハ定期償還若ハ年賦償還又ハ手形割引、日本興業銀行ノ預金部資金貸付ハ定期償還又ハ手形割引ノ方法ニ依ルモノトス

前項ノ定期償還貸付ノ償還期限ハ五年以内トシ年賦償還貸付ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトアルベシ

第十五條　前四條ノ外預金部資金ノ融通利率其ノ他ノ融通條件ニ關シテハ大藏大臣ノ時時定ムル所ニ依ルモノトス

第二節　地方公共團體ニ對スル資金ノ融通

第十六條　地方公共團體第七條ノ規定ニ依ル預金部資金ノ供給稟請ニ對シ資金供給ノ決定通知ヲ受ケタル場合ニ於テ現金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ預金部資金交付申請書（第三號様式）ニ償還年次表ヲ添ヘ道、府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部ニ、六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合ニ在リテハ預金部支部ニ之ヲ提出スベシ但シ資金ノ交付ヲ受クベキ期日ハ資金交付申請書發送ノ日ヨリ十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス

第十七條　地方公共團體日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ含ム以下同ジ）ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ地方債證券（第四號様式）又ハ借用證書（第五號様式）ヲ日本銀行當該店ニ提出スベシ

前項ニ依リ地方公共團體ガ日本銀行代理店ニ地方債證券又ハ借用證書ヲ提出スル場合ニ於テハ之ガ送付書ヲ添附スベシ

第十八條　道、府縣又ハ六大都市ガ轉貸ノ爲交付ヲ受ケタル預金部資金ノ貸付ニ付テハ第二十條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第三節　地方公共團體以外ノ者ニ對スル資金ノ融通

第十九條　地方公共團體以外ノ者ニ對シ預金部資金供給ノ決定アリタルトキハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ債券ノ引受又ハ預金部資金貸付申請書（第六號様式又ハ第七號様式）ヲ預金部ニ提出スベシ

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫前項ノ申請ニ依リ日本銀行本店ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ債券又ハ借用證書（第五號様式）ヲ日本銀行本店ニ提出スベシ

第二十條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫前條ノ規定ニ依リ貸付資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ貸付ヲ爲スベシ

第二十一條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫預金部資金ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ債務者トノ間ニ締結スル貸借契約ニ借入金ノ預金部資金ナルコト竝ニ借入金使用ノ目的ヲ明示シ且左ノ事項ヲ定ムベシ

一　債務者ガ其ノ借入金ヲ資金供給ノ目的以外ニ使用シタルトキ又ハ借入後長期ニ亘リ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用セザルトキハ之ヲ償還スルコト

二　預金部ハ債務者ニ就キ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徴スルコトアルベキコト

第二十二條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ其ノ交付ヲ受ケタル預金部資金中不用トナリタルモノアルトキハ其ノ金額ニ相當スル金額ヲ最近ノ元利金支拂期日ニ於テ償還スベシ但シ債券發行ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ券面額ニ滿チザル端數ハ之ヲ次期ノ計算ニ繰越スコトヲ得

第二十三條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ一口毎ニ區別シテ毎月之ヲ報告スベシ

前項ノ報告書ハ第二條第一號及第二號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、内務大臣及地方長官ニ、第三號乃至第七號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、農林大臣及地方長官ニ、第八號乃至第十號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、商工大臣及地方長官ニ提出スベシ

第六章　償還及利子拂

第二十四條　道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ日本銀行本店ニ對シ預金部資金元利金内譯書（第八號樣式）ヲ添ヘテ送金シ預金部ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書（第九號樣式）ヲ送付スベシ

第二十五條　六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ當該融通金ノ交付ヲ取扱ヒタル日本銀行ニ對シ預金部資金元利金内譯書（第八號樣式）ヲ添ヘテ送金シ預金部支部ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書（第九號樣式）ヲ送付スベシ

第二十六條　地方公共團體ニ於テ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ繰上償還ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ變更償還年次表ヲ添ヘ預金部ノ承認ヲ受クベシ

地方公共團體前項ノ承認ヲ受ケタルトキハ最近ノ元利金支拂期ニ於テ償還スベシ

第七章　雜則

第二十七條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ニ付別ニ帳簿ヲ設ケ整理スベシ

第二十八條　地方公共團體、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ毎年十二月三十一日現在ヲ以テ預金部資金ノ使用狀況報告書（第十號樣式）又ハ貸付狀況報告書（第十一號樣式）ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ預金部ニ提出スベシ但シ六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合ニ在リテハ該報告書各二通ヲ調製シテ翌年一月三十一日迄ニ預金部支部ヲ經由シテ之ヲ提出スベシ

〔北海警〕

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

預金部資金借入申込書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金　額　何圓
一、資金ノ用途　何事業（何々ノ爲轉貸）
一、償還方法　年賦（定期）
一、期　限　何年据置何年何月迄ニ償還（定期償還ノ場合ハ何年何月償還）
一、資金ヲ必要トスル時期　何年何月

右ニ依リ預金部資金借用致度此段及申込候也

年　月　日

借入申込者　氏　名㊞

大藏大臣
内務大臣
農林大臣
商工大臣　氏　名宛

註　本申込書ハ名宛毎ニ各別ニ調製スルコト

第二號樣式

預金部資金供給案請書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金　額　何圓

一、資金ノ用途　何事業（何々ノ爲轉貸）
一、起債許可年月日及番號　何年何月何日何第何號（起債ノ許可ナキモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セズ）
一、資金ノ交付ヲ受クベキ店名　日本銀行何店

右供給相成度別紙償還年次表相添ヘ此段及案請候也

年　月　日

資金供給案請者　氏　名㊞

大藏大臣
内務大臣
農林大臣　氏　名宛

註
一、本案請書ハ名宛毎ニ各別ニ調製スルコト
二、資金ノ交付ヲ受クベキ日本銀行ノ店ハ借受人ガ六大都市以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナルトキハ成ルベク其ノ金庫タル店又ハ其ノ取引アル店ヲ選定シ其ノ他ノ者ナルトキハ日本銀行ノ本店トスルコト

別紙

償還年次表（定期償還ノ方法ニ依ルトキハ本表ノ添附ヲ要セズ）

年月日	元金	利子	合計
何年何月何日	圓	圓	圓
何年何月何日			
、、、、、、			
、、、、、、			
合計			

〔北海警〕

第三號樣式

預金部資金交付申請書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金　額　何圓
一、利　率　年何分何厘
一、資金ノ交付ヲ受クベキ年月日　何年何月何日
一、資金ノ交付ヲ受クベキ店名　日本銀行何店
一、据置期限　何年何月何日
一、償還期限　何年何月何日
一、引換提供スベキ地方債證券（借用證書）ノ記番號
一、地方債證券ノ種類及枚數　何萬圓券何枚　何千圓券何枚
一、資金供給決定ノ年月日及番號

右御交付相成度別紙償還年次表相添ヘ此段及申請候也

追テ資金御交付ノ上ハ預金部ニ於テ本資金ニ關シ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之候

年　月　日

資金交付申請者　氏　名㊞

預金部長（預金部支部長）宛

註　資金ノ交付ヲ受クベキ日本銀行ノ店ハ借受人ガ六大都市以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナルトキハ成ルベク其ノ金庫タル店又ハ其ノ取引アル店ヲ選定シ其ノ他ノ者ナルトキハ日本銀行ノ本店トスルコト

別紙

償還年次表（定期償還ノ方法ニ依ルトキハ本表ノ添附ヲ要セズ）

年月日	元金	利子	合計
何年何月何日 何年何月何日 、、、 、、、	圓	圓	圓
合計			

第四號様式

No.　　所有者　大藏大臣

(道府縣市町村)債證券

第　回

何　圓

第一、此ノ(道府縣市町村)債ハ發行ノ日ヨリ昭和何年何月何日迄据置其ノ後昭和何年何月何日迄ニ之ヲ償還ス

第二、此ノ(道府縣市町村)債ノ利子ノ割合ハ一年百分ノ何トス

第三、此ノ(道府縣市町村)債ノ利子ハ何月何日及何月何日ニ於テ其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ發行又ハ償還ノ場合ニ於ケル一期ニ滿チザル端數利子ハ發行ノ際ニ於テハ現金拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ニ於テハ支拂當日迄日割計算ニ依ルモノトス

第四、此ノ(道府縣市町村)債券面記載事項以外ノ取扱ハ總テ何(道府縣市町村)債募集及償還方法ノ規程ニ遵據スルモノトス

年　月　日發行

北海道廳長官
何府縣知事
何市町村長　氏　　名㊞

〔北海道〕

註

一、證券ノ券面種類ハ百圓、五百圓、壹千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓トシ元金償還ノ都合ニ依リ適宜種類ヲ選擇シテ發行スルコト

二、證券ハ縱四寸四分、横九寸一分(曲尺)

三、證券ハ普通活版ニ附シ別ニ色刷等ヲ爲スニ及バザルモ活字ノ大サハ六號トスルコト

四、證券ニハ利札ヲ附セザルコト

第五號様式

第　　號

印紙　消印

借用證書

一金何圓也

右金額ハ何事業(轉貸)資金ニ充當ノ爲左記條件ヲ以テ預金部ヨリ本日借用仕候就而右元利金ハ借入條件ヲ遵守シ支拂可仕候也

追而本資金ニ關シ預金部ニ於テ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徴セラルルモ何等異議無之又本借用證書ハ預金部ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ地方債證券(何々債券)ニ引換可申候

記

一、資金ノ用途　何事業(何々ノ爲轉貸)
一、利率　年何分何厘
一、元利金支拂方法及時期　(註參照)
一、元利金支拂ノ場所　日本銀行何店

借受人　氏　　名㊞

大藏大臣　氏　　名宛

註

一、元利金支拂方法及時期ノ項ニハ

(イ)　年賦償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「別紙償還年次表ノ通リ償還スルモノトス(但シ本資金ニ依ル貸付金返濟高ガ前期償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本資金ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ一部又ハ全部ノ返濟アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返濟額相當ノ償還ヲ爲スモノトス)借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス」ト記載スルコト但シ括弧内ハ轉貸スベキ資金ヲ借入レタル者ニ限リ記載スルコト

(ロ)　定期償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「何年何月何日元金全額ヲ償還ス(但シ本資金ニ依ル貸付金ガ期限前ニ一部又ハ全部ノ返濟アリタルトキハ最近ノ利子支拂期ニ於テ之ガ相當額ヲ償還スルモノトス)利子ハ毎年何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス」ト記載スルコト但シ括弧内ハ轉貸スベキ資金ヲ借入レタル者ニ限リ記載スルコト

二、元利金支拂場所ノ項ノ何店ハ本資金ノ貸付ヲ取扱ヒタル日本銀行ノ店名ヲ記載スルコト

三、收入印紙ノ貼付ハ公共團體以外ノ借受人ニ限ルコト

第六號様式

債券引受申請書

一、資金年度及資金名　何年度何々資金
一、債券發行高　何圓

〔北海道〕

一、債券ノ記號又ハ回別　何號又ハ第何回
一、各債券ノ金額　何萬圓及何千圓
一、債券ノ總枚數　何萬圓券何枚、何千圓券何枚(記名利札付トス)
一、利子歩合　年何分何厘
一、發行價格　額面百圓ニ付百圓
一、申込期日　何年何月何日
一、拂込及發行期日　何年何月何日
一、据置期限　何年何月何日(一時ニ償還スルモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セズ)
一、償還期日　何年何月何日ヨリ向フ何年以内(一時ニ償還スルモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セズ)
一、償還方法　何年何月第一回ノ償還抽籤ヲ執行シ以後毎年二回(何月、何月)抽籤ヲ爲シ毎回元金何萬圓以上ヲ其ノ翌月ニ償還シ何年何月何日殘額全部ヲ償還ス但シ本資金ニ依ル貸付金返濟高ガ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本債券ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ全部又ハ一部ノ返濟アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返濟額相當額ノ償還ヲ爲スモノトス(一時ニ償還スルモノニ付テハ其ノ償還期日ノミヲ記入スルコト)
一、元金及利子支拂期　毎年何月何日、何月何日ノ二回利子ハ何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ募集又ハ償還ノ際ニ於ケ

ル一期ニ滿チザル端數利子ハ募集ノ際ハ現金拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フ

右ハ預金部資金ヲ以テ御引受相成度此段申請候也

年　月　日

申請者　氏　　　名㊞

預金部長　氏　　名宛

第七號樣式

預金部資金貸付申請書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金　　　額　何圓
一、利　　　率　年何分何厘
一、借　入　期　日　何年何月何日
一、償　還　方　法　何年何月何日　何圓
　、、、、、、
　但シ本資金ニ依ル貸付金返濟高ガ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ返濟スルモノトス
一、利　子　支　拂　期　每年何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ返濟ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フ

右預金部資金ヲ以テ御貸付相成度此段申請候也

年　月　日

貸付申請者　氏　　名㊞

預金部長　氏　　名宛

第八號樣式

借受人　氏　　名㊞

日本銀行本店（支店又ハ代理店）宛

預金部資金元利金内譯書

地方債證券（何々債券）發行又ハ借入年月日	回別又ハ記號	地方債證券（何々債券）發行額又ハ當初借入額	借入現在額	利率	送金額		償還券面別番號枚數	摘要
					利子額	償還額		
計								

註　一、地方債證券（何々債券）及借入金ハ區別ヲ爲シ各發行又ハ借入年月日順ニ記入スルコト
　　二、摘要欄ニハ支拂期日、送金月日等ヲ記入スルコト

第九號樣式

年　月　日

預金部長（預金部何支部長）氏名宛

預金部資金元利金支拂計算書

借受人　氏　　名㊞

借入資金別	地方債證券（何々債券）發行年月日	預金部引受代金拂込年月日	借入年月日	回別又ハ記號	債券發行額又ハ當初借入額	現在額	利率	利附期間	支拂所要額		支拂額	償還券面別枚數	摘要
									利子額	償還額			
					圓	圓			圓	圓	圓		
計													

註　一、資金別欄ニハ借入資金ノ名稱及用途ヲ記入スルコト
　　二、地方債證券（何々債券）及借入金ハ區別ヲ爲シ各發行又ハ借入年月日順ニ記入スルコト
　　三、摘要欄ニハ支拂期日、送金月日、償還債券番號及其ノ他參考事項ヲ記入スルコト

〔北海書〕

〔北海書〕

第十號様式

年　月　日

借受人　氏　名㊞

預金部長　氏　名宛

預金部資金ノ使用狀況報告

別紙ノ通及報告候也

（其ノ一）

預金部何々資金使用狀況明細表

（何年十二月三十一日現在）

事業ノ名稱及場所	事業著手及完成年月日				事業資金支出狀況							預金部資金						備考
					使途項目別	豫算額	支出濟額	支出年月日				借入額	年度別	借入並償還年月日				
	著手	年	月	日		圓	圓	自	年	月	日	圓		借入	年	月	日	
	完成							至						償還				
	著手							自						借入				
	完成							至						償還				
	著手							自						借入				
	完成							至						償還				
	著手							自						借入				
	完成							至						償還				
合計																		

〔[illegible]〕

註

一、本表ハ借受人ガ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル資金ニシテ其ノ事業ニ使用シタルモノニ付作成スルコト

二、本表ハ資金ノ種類別（公共團體普通事業資金、社會事業資金又ハ各種組合普通事業資金）ニ作成シ借入毎ニ順次記載スルコト

三、備考欄ニハ事業進捗ノ概況、豫算額中預金部資金以外ノ財源ニ依ルモノアルトキハ其ノ金額其ノ他實地調査上參考トナルベキ事項ヲ記載スルコト

〔[illegible]〕

（其ノ二）

預金部資金ノ借入額及使用額對照表

（何年十二月三十一日現在）

資金ノ區別			借入			償還			資金借入高		資金使用濟額	差引資金殘額	備考
資金名	年度	債券ノ記號又ハ回別	年月日			年月日			當初借入額	借入現在額			
			年	月	日	年	月	日	圓	圓	圓	圓	
合計													

註

一、本表ハ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル金額ト其ノ使用額トノ比較表ニシテ資金ノ種類及借入毎ニ記載スルコト

二、備考欄ニハ資金殘額ノ將來使用見込其ノ他參考事項ヲ記入スルコト

三、貸付金ノ形式ニ依リ融通ヲ受ケタル資金ニ付テハ債券ノ記號又ハ回別欄ニ貸付金ト明記シ尙借用證書ニ番號アルモノハ其ノ番號ヲモ記入スルコト

第十一號様式

年　月　日

借受人　氏　名㊞

預金部長　氏　名宛

預金部資金ノ貸付狀況報告

別紙ノ通及報告候也

（其ノ一）

預金部何々資金貸付狀況明細表

（何年十二月三十一日現在）

貸付先		貸付高		貸付金ノ使途	資金ノ年度別	貸付年月日	償還期限	貸付利率	元利金又ハ利子支拂期日	元利金延滞額	備考
名稱	所在地	當初	現在								
		圓	圓			年　月　日	年　月　日		月　日	元金 利子	
										元金 利子	
										元金 利子	
										元金 利子	
合計											

註　一、本表ハ借受人ガ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル資金ニシテ他ニ貸付ケタルモノニ付作成スルコト但シ日本勸業銀行ガ更ニ農工債券、北海道拓殖債券ヲ引受ケタル場合ハ農工銀行、北海道拓殖銀行ヨリ本表報告ッ提出シ日本勸業銀行ハ其ノ引受債券毎ニ條件、現在額等ヲ本書式ニ準ジ報告スルコト

二、本表ハ道府縣別及資金別（公共團體普通事業資金、社會事業資金又ハ各種組合普通事業資金）ニ作成シ貸付一件毎ニ記載スルコト

三、貸付高欄ノ現在額中ニハ元金延滞額ヲ含マシムルコト

四、元利金延滞額欄ニハ貸付一件毎ニ元利支拂延滞ノ有無竝ニ其ノ金額ヲ元金ト利子トニ區分掲記スルコト

五、備考欄ニハ實地調査上參考トナルベキ事項等ヲ記載スルコト尙日本勸業銀行ニ在リテハ直接貸ト代理貸トノ別ヲ記載スルコト

〔[illegible]〕

〔[illegible]〕

（其ノ二）

預金部資金ノ借入額及貸出額對照表

（何年十二月三十一日現在）

資金ノ區別			借入	償還	資金借入高		資金ノ貸出高		差引資金殘額	備考
資金名	年度	債券ノ記號又ハ回別	年月日	期限	當初借入額	借入現在額	總貸出額	貸出現在額		
			年　月　日	年　月　日	圓	圓	圓	圓	圓	
合計										

註　一、本表ハ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル金額ト其ノ貸出額トノ比較表ニシテ資金ノ種類及借入毎ニ記載スルコト

二、備考欄ニハ資金殘額ノ將來貸出見込其ノ他參考事項ヲ記入スルコト尙日本勸業銀行ニ在リテハ直接貸ト代理貸トノ別ヲ記載スルコト

三、農工銀行、北海道拓殖銀行ハ預金部直接引受ニ依ル資金ノ外日本勸業銀行引受ニ依ル資金ノ分ヲモ本表ニ記載シ備考欄ニ其ノ旨明記スルコト

四、貸付金ノ形式ニ依リ融通ヲ受ケタル資金ニ付テハ債券ノ記號又ハ回別欄ニ貸付金ト明記シ尙借用證書ニ番號アルモノハ其ノ番號ヲモ記入スルコト

●郵便年金積立金運用規則

（昭和三年八月三十日勅令第二百十八號）

朕郵便年金積立金運用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便年金積立金運用規則

第一條　郵便年金特別會計法ニ依ル積立金ハ遞信大臣之ヲ管理スベシ

第二條　積立金ハ郵便年金法第十五條ノ規定ニ依リ年金契約者又ハ年金受取人ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外簡易生命保險積立金運用委員會ニ諮問シ公債ヲ購入シ其ノ他有利且確實ナル方法ヲ以テ公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スベシ

第三條　所管大臣ハ毎年度積立金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ簡易生命保險積立金運用委員會ニ付議スベシ其ノ豫定ノ計畫ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第四條　積立金ニシテ放資ニ至ラザルモノハ一時之ヲ大藏省預金部ニ預入シ其ノ他有利且確實ナル有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

第五條　所管大臣ハ部下ノ官吏ニ命ジテ積立金ノ出納ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條　積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムベシ

●住宅資金貸付規程

（大正十二年三月八日廳令第十八號）

（改正　大正一二年廳令第八七號）

住宅資金貸付規程左ノ通定ム

住宅資金貸付規程

第一條　住宅組合又ハ住宅供給ヲ目的トスル産業組合ニ對スル資金ノ貸付ハ本規程ノ定ムル處ニ依ル

第二條　資金ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ借入金額償還資源償還方法及擔保物件ヲ記載シタル借入申込書ヲ北海道廳長官ニ提出スヘシ但シ産業組合ニ在リテハ定款、貸借對照表、財産目錄、借入ニ關スル決議書謄本及事業計畫書ヲ添付スヘシ

第三條　資金ハ組合ノ住宅、購入シタル住宅用地又ハ北海道廳長官ノ認ムル物件ヲ擔保トシテ貸付ス

住宅ヲ擔保ニ供セムトスルトキハ貸付金元利償還ニ至ル迄ノ間北海道廳長官ヲ受取人トシテ火災保險ニ附スヘシ

火災保險契約額ハ貸付金額ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　資金ノ貸付ヲ許可シタルトキハ擔保物件ヲ提供スヘシ

貸付金額ハ擔保物件評價價格ノ十分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス

擔保物件ノ滅失、毀損、價格ノ減少其ノ他必要ト認ムルトキハ更ニ擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

第五條　貸付金ハ前條ノ擔保ヲ提供シタル後全部又ハ分割シテ之ヲ交付ス

第六條　貸付金ハ元利ヲ併セ毎年九月一日及三月一日ノ兩度ニ之ヲ償還スヘシ

第七條　貸付金ノ償還年限ハ二十箇年以内トス

元利償還ニ付テハ前項年限内ニ於テ貸付初年度ヨリ三箇年以内ノ据置期間ヲ設クルコトヲ得

第八條　資金貸付ノ許可又ハ資金ノ貸付ヲ受ケタル組合ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ貸付ノ許可ヲ取消シ又ハ貸付金ノ一部若ハ全部ヲ一時ニ返還セシムルコトアルヘシ

一　貸付金ヲ他ノ目的ニ使用シタルトキ

二　資金貸付許可後三箇月以内ニ計畫工事ニ着手セス又ハ故ナク工事ノ遂行ヲ遲延シタルトキ

三　組合カ認可ナクシテ事業計畫ヲ變更シ又ハ中止シタルトキ

四　其ノ他本規程ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ貸付金償還ノ見込不確實トナリタルトキ

第九條　本規程ニ依リ北海道廳長官ニ提出スル書類ハ總テ所轄支廳、市役所ヲ經由スヘシ

附　則

第十條　本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　住宅資金轉貸ノ爲市町村ニ貸付スル場合ニハ本規程ヲ適用セス

第八章　出納官吏

●出納官吏事務規程　（大正十一年一月十一日／大藏省令第二號）

（改正　大正一五年大藏省令第七號、昭和元年第二號）

出納官吏事務規程左ノ通定ム

出納官吏事務規程

第一章　總則

第一條　出納官吏ハ本令ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條　出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三條　出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器中ニ藏置スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナル銀行ニ預入レ又ハ資産信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

第四條　出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第五條　出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ官金ト區分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

第六條　出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出ス小切手ハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

第七條　官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏面禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

第八條　現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ニ記入スヘシ

第九條　外國ニ於ケル出納官吏ノ事務取扱ニシテ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特例ヲ設クルコトヲ得

第十條　各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十一條　本令ハ別段ノ定ムル場合ヲ除クノ外出納員ノ事務取扱ニ付之ヲ準用ス

第十二條　本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章　收入官吏

第一節　收入金ノ領收

第十三條　收入官吏納人ヨリ納税告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第十四條　收入官吏納人ヨリ納税告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添附セスシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキ又ハ歳入徴收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第十五條　收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ邦貨ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額ノ外國貨幣ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徴收官ニ送付スル報告書ニ記載スヘキ邦貨額ニ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

第十六條　收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ邦貨ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル金額ノ邦貨ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徴收官ニ送付スル報告書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

第十七條　收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ外

國貨幣ヲ以テ收納シタルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ歳入徴收官ニ送付スル報告書ニ記載シ其ノ收納シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二節　收入金ノ拂込

第十八條　日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ添ヘ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未滿ナルトキハ毎十日分ヲ取纏メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第十九條　日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限内ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

一　領收金高百圓未滿ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日内

二　領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日内

三　領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日内

四　領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

第二十條　收入官吏其ノ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第十八條ノ規定ニ準シ拂込ヲ爲シ得ル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十二條　收入官吏外國ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ前四條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二十三條　收入官吏外國ニ於テ領收シタル現金ニシテ前條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲スコト能ハサルモノニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外一月分ヲ取纏メ之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ拂込ムヘシ

前項ノ現金拂込書ニハ邦貨額ヲ記載シ爲替券面額ヲ傍記スヘシ

第三節　現金拂込報告

第二十四條　收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ毎月第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ之ヲ取纏メ歳入徴收官ニ送付スルモノトス但シ歳入徴收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接之カ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章　資金前渡官吏

第一節　總則

第二十五條　資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預託スル場合ニ於テハ該資金前渡官吏ヲ任命シタル者豫メ其ノ資格氏名ヲ當該日本銀行ニ通知スヘシ

第二十六條　資金前渡官吏ハ前條ノ場合ニ於テ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十六條ノ二　本章ノ規定ニ依リ資金前渡官吏ノ振出ス小切手ニハ其ノ表面餘白ニ「預託金」ノ印ヲ押捺スヘシ

第二節　前渡資金ノ受入、保管及引出

第二十七條　日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ其ノ他ノ日本銀行ニ預託スヘシ但シ常時小口ノ現金支拂ヲ要スル場合ニ於テ支出官ノ定ムル所要金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　日本銀行所在地外ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ在勤地又ハ出張地最寄ノ日本銀行ニ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ預託スルコトヲ得日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏在勤地外ニ於テ現金ヲ保管スルトキ亦同シ

第二十九條　資金前渡官吏前二條ノ規定ニ依リ其ノ現金ヲ日本銀行ニ預託セムトスルトキハ之ニ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ預託金領收證書及小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

第三十條　資金前渡官吏日本銀行ニ預託シタル現金ヲ引出サムトスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スヘシ

第三節　支拂

第三十一條　資金前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ハ正當ナルカ、資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲シ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十二條　資金前渡官吏文官判任以上ノ者ヲ俸給ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ俸給額ヨリ國庫納付額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十二條ノ二　資金前渡官吏健康保險ノ被保險者ニ報酬ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ報酬額ヨリ被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十三條　民法ノ規定ニ依リ政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタルトキハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十四條　資金前渡官吏日本銀行預託金中ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ該預託金ニ對スル小切手ヲ振出スヘシ但シ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　資金前渡官吏ハ其ノ振出シタル小切手ニシテ振出日附後一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサルモノニ付テハ其ノ金額、年度、科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十六條　資金前渡官吏前條ノ金額ニ付歳入徴收官ヨリ納入ノ告知ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ該告知書ニ添ヘ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納入ノ告知ニシテ前任出納官吏ノ小切手振出ニ係ルモノナルトキハ前項ノ小切手表面餘白ニ「前任出納官吏何某振出ニ係ル分」ト記載スヘシ

第三十七條　第三十四條ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絶セラレタルカ爲其ノ所持人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ資金前渡官吏ハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ詳ニシ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シ之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十八條　前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十九條　資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名、支拂店名及送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ徴スヘシ

前項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏ハ第四號書式ノ預託金支拂通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏電信送金ヲ要スルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記入スルト共ニ前項ノ通知書ニ代ヘ電信ヲ以テ受取人ニ通知スヘシ

第四十一條　支出官事務規程中歳出金支拂通知書所載ノ支拂場所ノ變更ニ關スル規定ハ前條ノ預託金支拂通知書ノ支拂店變更ニ付之ヲ準用ス

第四十二條　毎年度ニ屬スル歳出金ノ支拂ヲ爲シ得ルハ翌年度四月三十日限トス

第四節　拂込及返納

第四十三條　資金前渡官吏第三十二條ノ手續ヲ爲シタルトキハ國庫納金額ニ相當スル現金ニ第五號書式ノ國庫納金額表ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第四十三條ノ二　前條ノ規定ハ資金前渡官吏第三十二條ノ二ノ手續ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ健康保險料被保險者負擔金表ハ第五號ノ二書式ニ依ル

第四十四條　資金前渡官吏第三十三條ノ手續ヲ爲シタルトキハ相殺金額ニ相當スル現金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添ヘ歳入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ債權者資金前渡官吏所屬廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以テ相殺シタルトキハ該官廳ノ歳入徵收官ヨリ納入告知書ヲ受ケ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條　政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スル場合ニ於テハ資金前渡官吏相殺金額ニ付前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ收納金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ超過シタル金額及相殺ノ相手方ノ氏名ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第四十六條　資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徵收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ現金ニ該告知書ヲ添ヘ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條　資金前渡官吏ハ前五條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額中ヨリ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

第四十八條　前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ第四十三條ノ場合ニ於テハ「國庫納金」、第四十三條ノ二ノ場合ニ於テハ「健康保險料被保險者負擔金」ノ印第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ「相殺額」ノ印ヲ押捺スヘシ

第五節　證明

第四十九條　資金前渡官吏日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ預託金拂込書竝支拂濟小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ預託金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ統轄店又ハ特扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第四章　歳入歳出外現金出納官吏

第五十條　歳入歳出外現金出納官吏現金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十一條　歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十二條　歳入歳出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徵シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五章　繰替拂出納官吏

第五十三條　本令ニ於テ繰替拂出納官吏ト稱スルハ會計規則第六十三條ノ規定ニ依リ其ノ取扱ニ係ル現金ノ繰替使用ヲ爲ス出納官吏ヲ謂フ

第五十四條　繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ニ付交互振替及繰替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ之ヲ一團トシテ取扱フヘシ

第五十五條　繰替拂出納官吏ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ保管ニ係ル現金ヲ日本銀行ニ預託スヘシ

第五十六條　第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ帝國鐵道官署ニ於ケル繰替拂出納官吏隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ヲ爲スノ必要アル場合ニ付之ヲ準用ス但シ預託金支拂通知書ハ第七號書式ニ依ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ運輸交通ノ不便ノ地ニ在ル債主又ハ出納官吏ヨリ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ求メタルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預託金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第五十七條　第十三條乃至第十七條、第二十五條、第二十六條、第二十六條ノ二、第二十九條、第三十條、第三十四條乃至第三十八條、第四十二條、第四十九條、第五十條及第五十二條ノ規定ハ繰替拂出納官吏ニ之ヲ準用ス

第五十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外繰替拂出納官吏ノ事務取扱ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第六章　事務引繼手續

第五十九條　出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納官吏ト共ニ記名捺印スヘシ

第六十條　日本銀行ニ預託金ヲ有スル前任出納官吏ハ前條ノ締切ヲ爲シタル日ニ於ケル預託金現在高ノ證明ヲ日本銀行ニ對シ請求スヘシ

第六十一條　前任出納官吏ハ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書竝其ノ引繼クヘキ帳簿、證憑其ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ調製シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保存スヘシ

第六十二條　前條ノ手續ヲ了シタルトキハ前任出納官吏ハ後任出納官吏ト共ニ記名捺印ノ上預託金現在高引繼通知書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサル金額ヲ區分記載スヘシ

第六十三條　第二十四條ノ規定ニ依リ調製スヘキ現金拂込仕譯書ハ後任收入官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第六十四條　前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ會計規則第百四十六條ノ規定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏本章ノ定ムル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第七章　雜則

第六十五條　出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ所屬官廳ニ報告スヘシ

第六十六條　出納官吏領收濟報告書、現金拂込書又ハ預託金拂込書ノ記載事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歳入徵收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十七條　出納官吏預託金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ受取人ヲシテ該預託金支拂通知書ヲ提出セシメ之カ訂正ヲ爲シ其ノ事由ヲ記入シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第六十八條　出納官吏第四十條及第五十六條ニ規定スル小切手ノ裏面記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十九條　出納官吏現金拂込ニ係ル領收證書又ハ預託金領收證書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ其ノ拂込濟ノ證明ヲ受クヘシ

第七十條　支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ關スル規定ハ第四十條第二項及第五十六條第一項ニ規定スル預託金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ付之ヲ準用ス

第七十一條　出納官吏預託金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第七十二條　出納官吏第三十九條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ送金ヲ依頼シタル後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ支拂未了ナル場合ニ限リ日本銀行ニ對シ預託金ニ戻入ヲ請求スヘシ其ノ小切手振出日附後一年ヲ經過シ仍支拂ヲ了セサルモノニ付亦同シ

附則

第七十三條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十四條　左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス
出納官吏現金取扱規則
明治三十年大藏省令第一號
帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金取扱手續
艦隊經費ヲ取扱フ出納官吏雜部保管金取扱手續

第七十五條　本令施行前金庫ニ寄託ヲ爲シタル現金ハ本令ニ依リ日本銀行ニ預託シタルモノト看做ス

第七十六條　本令施行前發行シタル保管金引出切符又ハ雜部保管金仕拂通知書ハ本令ニ依リ發行シタル小切手又ハ預託金支拂通知書ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

第一號書式

現金拂込書

第「何」號　大正「何」年度

「所管廳」「歳入徴收官官氏名」

「經常(臨時)」「項　款　部」

金

上記ノ金額拂込候也

大正「何」年「何」月「何」日

「何廳主任收入官吏

官　氏　名」印

又ハ「何廳主任收入官吏官氏名所屬」

「何廳分任收入官吏

官　氏　名」印

通知書

第「何」號　大正「何」年度

「經常(臨時)」「何廳主任收入官吏官氏名」拂込人又ハ「何廳主任收入官吏官氏名所屬」「何廳分任收入官吏官氏名」

金

上記ノ金額領收濟ニ付通知候也

大正「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店　印

「歳入徴收官官氏名」宛

領收證書

第「何」號　大正「何」年度

「所管廳」「歳入徴收官官氏名」

「經常(臨時)」「何廳主任收入官吏官氏名」拂込人又ハ「何廳主任收入官吏官氏名所屬」「何廳分任收入官吏官氏名」

金

上記ノ金額領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店　印

備考

一　用紙寸法（縱五寸六分　横三寸八分）輪廓寸法（縱四寸五分　横三寸三分）ノモノ三枚接續トシ左方ニ一寸ノ額代ヲ設クヘシ

二　金額、番號、年度、所管廳名、歳入徴收官官氏名及經常臨時部名ハ收入官吏ニ於テ記入スルモノトス

〔北海道〕

〔北海道〕

第二號書式

大正「何」年度

大正「何」年「何」月分現金拂込仕譯書

摘要	金額	備考
	圓	
前月迄拂込未濟		
本月中現金領收高		
計		
本月中現金拂込高		
差引翌月ヘ越		

大正「何」年「何」月「何」日

「主任(又ハ分任)收入官吏　官　氏　名」印

「歳入徴收官官氏名 宛

備考

用紙ハ美濃判四分ノ一トス

第三號書式

預託金拂込書

第「何」號

金

上記ノ金額預託候也

大正「何」年「何」月「何」日

「何廳出納官吏官氏名」印

日本銀行「何」店宛

備考

用紙　適宜

用紙寸法　美濃判四分ノ一

原符ハ適宜之ヲ設クルコトヲ得

第四號書式

領收證　　預託金支拂通知書

第「何」號	取扱廳名	預託金取扱日本銀行名

金

前記ノ金額日本銀行本店
（何地支店又ハ代理店）ニ於
テ受領セラルヘシ
大正「何」年「何」月「何」日
「何廳出納官吏官氏名」印
「何廳（又ハ）艦船
出納官吏官氏名」宛

前記ノ金額領收候也
大正「何」年「何」月「何」日
「何廳（又ハ）艦船
出納官吏官氏名」印

備考

一　用紙寸法（縱五寸二分　橫六寸三分）
　　輪廓寸法（縱四寸六分　橫五寸四分）
二　本書ハ左方ニ八分ノ綴代ヲ設クヘシ
三　支拂指定日本銀行ニ於テ支拂ノ上ハ本書ヲ預託金取扱日本銀行ニ送付スヘシ

第五號書式

收入取扱官廳

（一般會計）　　國庫納金額表

所管廳	年度	現金又ハ小切手	國庫納金者氏名	俸給額	國庫納金額	備考
				圓	圓	

上記ノ國庫納金額拂込候也
大正「何」年「何」月「何」日
「何」廳資金前渡官吏官氏名」印
「何廳收入官吏官氏名」宛

備考　用紙ハ美濃判半截トス

第五號ノ二書式

健康保險料被保險者負擔金表

收入取扱官廳

（一般會計）

所管廳	年度	現金又ハ小切手	健康保險被保險者氏名	報酬額	保險料負擔金	備考
				圓	圓	

上記ノ健康保險料被保險者負擔金拂込候也
昭和「何」年「何」月「何」日
「何廳資金前渡官吏官氏名」印
「何廳收入官吏官氏名」宛

第六號書式

收入取扱官廳

相殺額表

所管廳	年度	現金又ハ小切手	相殺相手方氏名	相殺金額	備考
				圓	

上記ノ相殺金額拂込候也
大正「何」年「何」月「何」日
「何廳資金前渡官吏官氏名」印
「何廳收入官吏官氏名」宛

備考　用紙ハ美濃判半截トス

第七號書式　（表面）

預託金支拂通知書　領收證

小切手振出日附	預託金取扱日本銀行名	取扱廳名	第「何」號

金

前記ノ金額日本銀行本店（何地支店又ハ代理店）ニ於テ受領セラルヘシ

大正「何」年「何」月「何」日

「何廳出納官吏官氏名」印

「何某（又ハ）何廳出納官吏官氏名」宛

前記ノ金額領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

「住　所

受取人　何　某」印

又ハ「何廳出納官吏

官　氏　名」印

收入印紙　印

（注意）受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覧スヘシ

備考

一　用紙寸法　縱五寸二分　横六寸三分

輪廓寸法　縱四寸六分　横五寸四分

二　本書ハ左方ニ八分ノ綴代ヲ設クヘシ

三　領收證書ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

〔北海書〕

（裏面）

注意事項

一　受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官吏公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ

二　受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

三　受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代理人ハ本書ニ代理人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ

四　受領金額（五圓）以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　小切手振出ノ日附ヨリ一箇年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス

六　本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

收入印紙　印

委任狀

表面金額ノ受取方ヲ「住　所ニ委任致候也

大正「何」年「何」月「何」日

何　某」印

参考（注意事項第四號中五圓以上トアルハ印紙税法改正ノ結果拾圓トナリタリ）

第八號書式甲

現金現在高書

金種類	金額	備考
	圓	

上記ノ通引繼ヲ了シ候也

大正「何」年「何」月「何」日

「前任出納官吏官氏名」印

「後任出納官吏官氏名」印

備考　用紙ハ美濃判半截トス

〔北海書〕

第八號書式乙

現金及預託金現在高書

現金在高	預託金現在高	計	振出済小切手支拂未済高	備考
圓	圓	圓	圓	

上記ノ通引繼ヲ了シ候也

大正「何」年「何」月「何」日

「前任出納官吏官氏名」印

「後任出納官吏官氏名」印

備考　一　用紙ハ美濃判半截トス

二　現金在高ハ其ノ金種ノ類ヲ備考欄ニ區分記載スヘシ

●大藏省所管一般會計歲入徵收官指定（抄錄）

大正十一年四月一日
大藏省達第二號

大藏省所管歲入各廳

改正　大正一三年達第三號、一四年第二號

大藏省所管一般會計歲入徵收官左ノ通相定ム

北海道廳長官
同　支廳長
同營林區署長

●收入官吏任命方

明治三十五年十二月二十五日
大藏省訓令第五十五號

警視廳　北海道廳　府縣

改正　大正二年訓令第二號

明治三十三年大藏省訓令第十八號左ノ通改正ス

一　各廳長官ハ其ノ廳ノ收入事務ニ關シ部下ノ官吏ニ收入官吏ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ一人ヲ主任收入官吏トシ其ノ他ハ主任收入官吏所屬ノ分任收入官吏トスヘシ北海道廳ニ於テハ各支廳ノ收入官吏ノ一人ヲ主任收入官吏トスヘシ

●收入官吏歲入歲出外現金出納ノ職務兼掌方

明治三十七年一月二十三日
大藏省訓令第三號

北海道廳　警視廳　府縣　稅關　稅務監督局
稅務署　（稅關事務局）　（臨時稅關工事部）
（臨時沖繩縣土地整理事務局）　專賣局
造幣局　印刷局　收入官吏

【北海書】

收入官吏タルモノハ歲入歲出外現金出納官吏トシテ歲入歲出外現金出納ノ職務ヲ兼掌スヘシ但シ各廳長官ハ必要ト認ムルトキハ他ノ官吏ニ歲入歲出外現金出納官吏ヲ命スルコトヲ得

●北海道廳取扱ニ係ル諸收入ニシテ收入官吏ヨリ日本銀行ニ拂込ム收入金取扱方

明治二十六年十二月二十六日
大藏省訓令第七十六號

北海道廳　收入官吏　日本銀行出納役

改正　明治三三年訓令第三二號、大正一二年第一二號

北海道廳取扱ニ係ル諸收入ニシテ收入官吏ヨリ日本銀行ニ拂込ム收入金取扱方明治二十七年一月一日以降左ノ通心得ヘシ

但明治二十六年大藏省訓令第十九號ハ本訓令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一　收入官吏ニ於テ領收シタル收入金ハ郵便爲替ヲ以テ之ヲ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

一　收入官吏前項ニ依リ拂込ヲ爲サントスルトキハ其出納ヲ取扱フ日本銀行ニ宛テタル爲替證書ニ現金拂込書ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ之ヲ該日本銀行ニ送付シ其領收證ヲ受クヘシ

一　日本銀行ハ前項爲替證書現金拂込書ノ送付ヲ受ケタルトキハ爲替證書ニ記載シタル拂渡シ郵便局ニ於テ現金ヲ領收シ該現金拂込書ニ接續セル領收證書及通知書ヘ式ノ如ク記入捺印ノ上其領收證書ハ拂込人ニ送付シ通知書ハ歲入徵收官ニ送付シ現金拂込書ハ日本銀行ニ留置クヘシ

●會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法並書類ノ樣式（抄錄）

大正十一年三月二十九日
大藏省令第二十號

【北海書】

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法並書類ノ樣式左ノ通之ヲ定ム

一　現金出納簿　別表第十四號書式ニ依ル

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四號書式

「現金出納簿」

年月日		摘要	受			拂			殘		
			現金	預金	計	現金	預金	計	現金	預金	計
			圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
何年											
何	何	何々金何某ヨリ收入（又ハ受入）	0								
ノ	ノ	日本銀行何店ヘ拂込				0			0		0
何	何	何々金支出官何某ヨリ受入	0			0					
	ノ	日本銀行何店ヘ預託		0	0						
	ノ	何々金何某ヘ拂渡				0					
	ノ	何々金何某ヘ拂渡ノ爲小切手振出					0	0	0	0	0
何	何	何々金日本銀行何店ヨリ預金部預金振込濟ノ通知ヲ受ク		0	0				0	0	0
何	何	何々金何某ヘ拂渡ノ爲小切手振出					0	0	0	0	0

備考

一　本簿ハ便宜帳式ト爲スコトヲ得

二　現金ヲ預託又ハ預入シタル場合ニ於テハ現金ハ之ヲ拂ノ部ニ掲ケ同時ニ預金ニ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

三　現金又ハ預金ノミノ取扱ヲ爲ス出納官吏ニ在リテハ本書式中ノ現金、預金、計ノ細區分ヲ廢シ單ニ受、拂、殘トシテ整理スルモ妨ケナシ

四　出納員ノ備フヘキ本簿ハ所管大臣ニ於テ本書式ニ準シ適宜ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

出納官吏現金出納簿記帳方

明治三十五年三月二十四日
大藏省訓令第十號

出納官吏

出納官吏現金出納簿ハ一人一冊トシ其職務主管廳ノ如何ヲ問ハス總テ混記スヘキ筈ノ處其記帳方往々區々ニ相成居候向不尠不都合ニ付自今左ノ通心得ヘシ

一　〔現金出納簿ハ一人一冊トシ其職務主管廳ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ混スヘシ〕（大正十一年一月大藏省令第二號第八條消滅）

一　現金出納簿ノ外別ニ補助簿ヲ設ケ其職務並ニ主管廳ヲ區別整理スルハ妨ナシ

一　保管金收入金ヲ兼取扱フ出納官吏ニシテ保管金ヲ歲入ニ納付スル場合ニ於テハ特ニ收入トシテ受入ノ記帳ヲ爲サス直チニ（金庫）ヘ拂込ノ記帳ヲ爲スヘシ

一　現金ハ其所屬年度ノ如何ニ拘ラス現ニ其取扱ヲ爲シタル年度ノ帳簿ニ登記スヘシ

一　金種類ノ同一ナル數廳ノ受拂ハ毎日取纏メ記帳スルモ妨ナシ

一　誤記訂正ハ必ス朱書スヘシ

一　〔記帳例左ノ如シ〕（大正十一年三月大藏省令第二十號別表第十四號書式消滅）

支拂未濟金歲入組入等ニ關スル件

大正十四年二月十七日
藏會第五號大藏省會計課通牒

所管各廳

出納官吏事務規程第三十五條、第三十六條又ハ保管金取扱規程第七條ノ規

【北海書】

定ニ依リ支拂未濟金額ニ相當スル資金ヲ歲入ニ組入ルル場合ハ一般會計ニ係ルモノハ總テ大藏省所管取扱廳大藏大臣官房會計課歲入徵收官大藏大臣官房會計課長ノ取扱ヲ一般會計歲入ニ又特別會計ニ係ルモノハ所管大臣ノ指定スル歲入徵收官ノ取扱ヲ當該會計歲入ニ組入ルヘク當該支拂未濟金ニ對スル償還金支拂ハ一般會計ニ在リテハ大藏省所管歲出諸支出金償還金ヨリ特別會計ニ在リテハ當該會計歲出諸支出金償還金ヨリ支出スルコトトシ之カ償還方ニ付テハ會計事務取扱規程第十八條ノ二ニ依リ御取扱相成度仍テ出納官吏事務規程第三十九條、第四十條及第五十六條ニ規定スル隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ノ爲預託金支拂通知書ヲ送付シタル場合又ハ保管金取扱規程第八條ニ規定スル保管金他店拂ノ爲保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ當該資金ヲ歲入ニ組入及償還請求ニ對スル支拂ヲ爲ス場合モ總テ前段ニ準シ御處理相成度

追テ資金前渡官吏カ出納官吏事務規程第三十五條ノ規定ニ依リ報告スヘキ支拂未濟金ニ關スル報告書ハ本文ノ區分ニ依リ歲入徵收官ニ、保管金拂渡ノ爲ニ振出シタル小切手ニ對スルモノニ付テハ取扱主任官ヨリ出納官吏事務規程第三十五條ノ規定ニ準シ當該官廳ノ長ヲ經由シテ歲入徵收官ニ報告セシメラレ度申副候

保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手受取人ニ於テ喪失セシ場合等ノ取扱方

大正十三年八月十二日
藏第四四號內務省會計課通牒

廳府縣　復興局　社會局　衛生試驗所
警察講習所　武藏野學院　榮養研究所
土木出張所　土木試驗所　癈兵院
職業紹介事務局　港務官廳
明治神宮造營局　特殊財產管理局

保管金支拂ノ爲振出シタル小切手ヲ受取人ニ於テ喪失セシ場合等ノ取扱方ニ關シ別紙甲號ノ通司法大臣官房會計課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答致置候旨大藏省主計局長ヨリ通牒有之候條右ニ依リ御處理相成度此段及通牒候也

【北海書】

（別紙甲號）

司法省會計課照會　大正十二年十一月二十二日
會甲第四〇九四號

保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手受取人ニ於テ喪失セシ等左記事項ニ關シ至急取扱方垂示相成度

一　小切手振出日附後一年ヲ經過セシ分ト否ラサル分トヲ問ハス燒失其他喪失毀損セシ分ニ付テハ債主ハ如何ナル方法ニ依リ現金支拂ヲ受ケ得ヘキヤ

二　喪失等ニ因リ公示催告、除權判決アリタル分ニ付テ同上

三　現實所持セル小切手ニシテ漫然一年ヲ經過シタル後ノ分ニ付テ同上

四　前各號ノ小切手ニシテ保管金規則第一條ニ依ル五年ノ期間ノ經過セサル中ハ何時ニテモ現金支拂ヲ受ケ得ラルルヤ

五　前各號ノ分ハ前キニ債權者ニ對シ小切手ヲ振出ス場合現金出納簿ノ拂ニ立テアルニ付若シ一年經過ノ事由ニ依リ一旦歲入ニ編入スヘキモノト假定セハ帳簿上ノ整理其ノ後現金支拂ヲ受タル場合ノ記帳ノ要否及歲入科目ヲ指定セラレ度

（別紙乙號）

大藏省主計局理財局回答　大正十三年七月二十四日

客年十一月二十二日附會甲第四〇九四號ヲ以テ保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手ニシテ受取人ニ於テ喪失セシ等ノ場合之カ支拂方ニ付御照會ノ趣了承右ハ左記ノ通御承知相成度此段及御回答候也

一　小切手振出後其ノ小切手カ燒失、紛失其他喪失毀損セシトキハ民法施行法第五十七條及民事訴訟法第七百七十七條以下ニ規定スル公示催告ノ手續ニ依リ當該小切手ヲ無效トスル除權判決ヲ受ケ其ノ小切手振出日附後未タ一年ヲ經過セサル場合ニ在リテハ小切手ノ支拂店ニ其ノ判決原本ヲ提示シ現金ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク若シ又振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ在リテハ小切手ヲ振出シタル當該官廳ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シ得ヘシ

二　前項ニ依ル

三　償還請求ニ必要ナル書類ヲ提出セシメ審査ノ上更ニ償還金トシテ之カ支拂ヲ受ケ得ヘシ

四　保管金規則第一條ニ所謂「五年」ノ時效ハ保管金支拂請求權行使ノ期間ニシテ此ノ期間內ニ於ケル其ノ請求ニ對シ現金ニ代ヘ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テハ從來ノ保管金支拂義務ハ既ニ消滅シ爾後ハ單ニ小切手上ノ債務ヲ負擔スルニ過キサル次第ナレハ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルモノニ付テハ償還請求權ヲ行使シテ之カ支拂ヲ受タルノ外ナキモノトス

五　小切手振出日附後一年ヲ經過シタルモノニ付テハ之ヲ歲入ニ編入シ償還ノ請求アリタル場合ニ於テハ償還金ヨリ支出スルノ取扱ヲ採リ度保管金取扱規程改正方手續中ナリ

右ノ場合現金出納簿摘要欄ニ「何年何月何日何某渡小切手一年經過ノ爲減」トシ拂預金欄ニ當該金額ヲ朱書シ同時ニ摘要欄ニ「同上事由ニ依リ歲入納付ノ爲拂」トシ拂預金欄ニ當該金額ヲ墨書スルモノトス

小切手振出日附後一年ヲ經過セルモノヲ歲入ニ編入スル場合ニ於ケル歲入科目ハ雜收入（款）雜入（項）小切手支拂未濟金收入（目）トス

會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件

大正十一年五月三十日
大藏省令第四十三號

會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條　會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額其ノ他ノ數量ニシテ「一」、「二」、「三」、「十」、「廿」、「卅」ノ數字ハ「壹」、「貳」、「參」、「拾」、「貳拾」、「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

第二條　會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ノ記載事項ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル諸書類帳簿ノ記載事項ニ付訂正、揷入又ハ削除ヲ爲サムトスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス但シ金錢又ハ物品ノ受授ニ關スル諸證書ノ數字ハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得ス數字以外ノ事項ニ付訂正、揷入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ作製者之ニ認印スルコトヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年大藏省令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

●歳入歳出外現金取扱方ニ關スル件

大正十一年四月十九日
愛第四號內務省會計課回答

愛知縣照會

○照會

左記ノ件疑義相生シ候間至急何分ノ御回示相煩度

一　歳入歳出外現金（濟生會救療費御救恤金幣饌料等）ハ保管金取扱規程ニ依リ保管金トシテ取扱可然乎

一　新聞保證金、度量衡保證金（供託ノモノ）契約保證金、土木工事起業保證金、遺失物法ニヨル拾得金ハ孰レモ政府ノ保管スヘキモノニ付保管金取扱規程第二條ニ依リ大藏省預金部ニ預ケ入レヲ爲スハ當然ナルモ前項歳入歳出外現金亦大藏省預金部ニ預ケ入（預金部預金取扱規程第四條）ヲ要スヘキニ付此場合預金通帳及小切手帳ハ一冊ヲ以テ兩者ヲ併算スヘキヤ又ハ別箇ノモノト爲シ處理スヘキヤ

【北海道】

○內務省回答

標記之件ニ付本年三月三日會第二二五號ヲ以テ御照會之趣了承右ハ第一項ノ內濟生會救療費ハ大正三年勅令第十八號第三條ノ規定ニ依リ資金前渡ヲ受ケタル官吏現金取扱ノ例ニ準シ主任官吏ヲシテ其ノ現金取扱ヲ爲サシムヘキモノニ付出納官吏事務規程中資金前渡官吏ニ對スル規定ニ依リ取扱ハレ可然ト存候又御救恤金ハ明治二十七年五月內務省庶務局通牒甲第一七八號官國幣社幣帛料及神饌料ハ明治二十三年內務省訓令第六九〇號ニ依リ夫々取扱ハレ候處改正會計規則第百二十條ノ規定モ有之候ニ付何分ノ規定ヲ設ケラルル迄ハ從前ノ例ニ依リ取扱ハレ候外無之ト存候尚又第二項中ノ度量衡保證金ハ度量衡法施行令第四條ニ依リ供託セシムヘキモノト存候尚資金前渡官吏取扱ノ分ハ（濟生會救療費ノ取扱ハ之ニ準ス）出納官吏事務規定中資金前渡官吏ニ對スル規定ニ依リ日本銀行ヘ預託シ預託金領收證書ノ交付ヲ受クヘキモノニシテ預金通帳ヲ使用セス又歳入歳出外現金出納官吏取扱ノ分ハ預金通帳及小切手帳ハ一冊ニ併記シ差支無之ト存候此段及回答候也

●會計規則中疑義ニ涉ル條文ノ解釋ニ關スル件

大正十一年二月二十八日
課第五五九內務省會計課通牒

廳府縣　土木出張所　衞生試驗所
千住製絨工場　警察講習所　武藏野學院
榮養研究所　明治神宮造營局　造神宮使廳

首記ノ件ニ關シ法規整理委員會ニ於テ別紙ノ通決定相成候ニ付爲御參考及御通牒候也

【北海道】

第二條第五號

供給者カ年度內ニ債務ノ履行ヲ終リ之カ代價ヲ支出整理期間タル翌年度四月三十日マテニ支拂フモノニアリテハ從來ノ通リ履行期日ノ屬スル年度ノ歳出トス

第九十七條

競爭入札加入ノ禁止ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ地域ヲ限定シ之ヲ行フヲ妨ケサルモノトス

第百六條

再入札ハ遲滯ナク之ヲ爲サシムル主旨ニシテ購買物件ノ性質等ニヨリ必要ノ場合ニ於テハ二十四時間ヲ超ヘサル範圍內ニ於テ施行スルヲ妨ケサルモノトス

第百十四條

軍艦及兵器彈藥ノ買入又ハ製造契約ハ本條第三號ニ該當スルモノトス

一　規則第三十二條ニ所謂納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノトハ專ラ納期所屬年度內ニ告知書ヲ發セサリシ爲翌年度以降ニ於テ告知書ヲ發シタル場合ヲ指稱シ取扱ノ手續上納期所屬年度ノ前年度內ニ告知書ヲ發シタル場合ハ之ヲ包含セスト解スヘキコト

二　規則第三十三條ノ領收證書ハ郵便電信電話官署ニ於テ收納スル印紙切手類賣捌代金及外國電報料金ノ如ク之ヲ交付セサルヲ慣例トスルモノニ付テハ今後ニ於テモ從來ノ通取扱フヲ妨ケサルコト

三　規則第六十一條第二項ニ依リ渡切經費ノ支給方法ニ付所管大臣大藏大臣ト協議ヲ要スル程度ハ大體從前ノ勅令規定ノ程度ニテ可ナルコト

四　規則第九十二條ニ依ル調書ハ當該官吏又ハ技術者ニ於テ其ノ事實ヲ調査確認セルコトヲ證シタル文書アルトキハ別ニ一定形式ノ調書ナルモノヲ作成スルニ及ハサルコト

五　規則第九十二條第二項ニ依ル檢査官吏ノ任命及第百三十六條ニ依ル檢査員ノ任命等ハ大臣ノ委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ任命スルモ支ナキコト

六　隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキモノヲ指名競爭ニ付シタル場合ニハ必スシモ指名競爭ニ關スル規定ニ依リ取扱ヲ一貫スルヲ要セス時宜ニ依リ隨意契約ニ變更スルモ支ナキコト其ノ隨意契約ニ依リ又ハ指名競爭ニ付スルコトヲ得ヘキモノヲ一般競爭ニ付シタル場合亦之ニ準ス

（規則第百十條第二項參照）

七　規則第百十二條及第百十九條ニ依ル通知ハ所管大臣ヲ經由シ當該官署長ヨリ直ニ之ヲ會計檢査院ニ通知スルヲ妨ケサルコト

八　規則第百三十七條ニ依ル立會官吏及第百四十六條ニ依ル計算書調製官吏ハ僻遠ノ地ニ在ル三等郵便局ノ如キ實際上官吏ヲ以テ之ニ充テ難キ向ニ在リテハ事務員ヲ以テ之ニ充ツルモ支ナキコト

●改正會計法規中疑義ノ件

大正十一年四月十一日
會第一二七二號內務省會計課長回答

三重縣知事照會

○照會

改正會計諸法規中左記ノ通疑義有之候條至急何分ノ御回報相成度右及御問合候也

左記

一　支出官、出納官吏、保管金取扱主任官ノ振出ス小切手ノ時效ニ關シテハ凡テ商法ノ規定ニ依ルモノト解シ可然乎果シテ然ラハ之カ期間ノ起算點承知致度

二　隔地ノ債主ニ送付スル支出官ノ歳出金支拂通知書出納官吏ノ預託金支拂通知書保管金取扱主任官ノ保管金支拂通知書ニ對シテハ凡テ政府ニ對

スル權利ノ生シタル日ヨリ時效ノ進行スヘキモノト解シ可然乎（小切手ノ如ク通知書ニ付テノ時效ヲ認メス）

三　前項ノ解釋ニシテ正當トスレハ日本銀行ノ支拂期間中ニ於テ時效ノ完成スル權利ニ付テハ之カ支拂通知書ニ期滿失效日ヲ記載シ日本銀行ニ於テ支拂セシメサル樣取扱必要ナキヤ（保管金支拂通知書ニハ樣式ニ期滿失效年月日記載アリ）

四　會計規則第百六十九條第一項及支出官事務規程第四十條ニヨル仕拂命令歳出金仕拂通知書ニシテ會計法附則第五項ニヨリ一ケ年以內ニ時效ノ完成スル債務ニ對シテモ一ケ年間ハ支拂スヘキモノナルヤ

五　保管金取扱規程第二十四條ニ依リ日本銀行ニ於テ歳入納付ヲ爲シタル保管金ニ對スル小切手ノ所持人一年內ニ支拂ヲ求メタル場合及保管金ノ償還ヲ受ケタル場合ノ手續承知致度

六　保管金取扱規程第二號書式中期滿失效年月日ハ期間滿了ノ日卽チ日本銀行ニ於テ支拂ヲ爲ス最終ノ年月日ヲ記載スヘキモノナルヤ

○內務省回答

客月十一日會第一二七二號ヲ以テ御照會首記ノ件左記ノ通リ思考致候

左　記

一　會計法ハ毫モ商法ノ規定ヲ排除スルモノニハ無之前段ハ御意見ノ通リ後段ハ商法第四三條及第四四條ニ依リ民法第一四〇條ヲ適用スルモノト被存候

二　時效ハ權利ヲ行使シ得ル時ヨリ進行シ支拂通知書ハ固ヨリ手形ニアラサルヲ以テ手形時效ノ適用無之ト存候

三　支拂期間中ニ時效ノ完成スル權利ハ現行法上無之唯保管金支拂通知書中例ヘハ遺失物法第十四條ニ依リ支拂期間中ニ期滿失效ノ事實有之ノミト被存候

四　會計法附則第五項ニ依リ一年以內ニ時效ノ完成スル權利ハ現行法上無之ト被存候

五　歳入納付ノ上ハ日本銀行對大藏省ノ關係ニシテ同省所管諸拂戻缺損補塡金ヨリ支拂ハルヘキモノト被存候モ支拂期間カ期滿失效期間ヨリ長キ場合ニハ保管主任官ヨリ小切手振出ト同時ニ銀行ヘ振出濟ノ旨豫メ御通知可然ト被存候

六　御意見ノ通リト存候

●出納官吏ノ命解執行方

昭和六年四月十日
訓令第十四號

支廳　警察署　營林區署　土木事務所
築港事務所　治水事務所　農事試驗場
水產試驗場　工業試驗場　廳立學校

出納官吏ノ命解執行方左ノ通定ム

出納官吏ノ命解執行方

第一條　本規程ニ部局長ト稱スルハ支廳長、警察署長、營林區署長、土木事務所長、築港事務所長、治水事務所長、農事試驗場長、水產試驗場長、工業試驗場長、廳立學校長ヲ云フ

第二條　出納官吏及其ノ代理官又ハ分任官竝ニ會計規則第百三十六條第百三十七條第百四十六條ノ吏員ハ部局長之ヲ命解スヘシ

第三條　出納官吏及其ノ代理官又ハ分任官ヲ命解シタルトキハ第一號樣式ニ依リ長官ニ報告スヘシ

第四條　會計規則第百三十四條ニ該當スルモノアルトキハ部局長ニ於テ之カ取扱ヲ爲シ直ニ其ノ顚末ヲ長官ニ報告スヘシ

第五條　會計事務取扱規程第四十條及第四十一條ニ該當スルモノアルトキハ長官ニ報告スヘシ

第六條　會計規則第百三十八條ノ規定ニ依リ出納官吏ノ帳簿金櫃ヲ檢査シタル官吏ニ對シテハ第二號樣式ニ依リ檢定書ヲ作製セシメ其所管大臣ニ提出スヘキ分ハ部局長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第七條　前條ノ檢定書ニハ第三號樣式ノ現金取扱額調書ヲ添付セシムヘシ

附　則

明治三十三年十一月訓第六百九十一號出納官吏ノ命解執行及屆出方ハ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

出納官吏異動表（　）

在職廳名	前任者官氏名	後任者官氏名	命解年月日

備考

一　（　）內ニハ出納官吏ノ種別ヲ記載スヘシ

二　出納官吏ノ種別ノ異ル每ニ各別紙ト爲スヘシ

（第二號樣式）

檢定書

金種類	保管高		帳簿殘高		增減事由
大藏省所管					
租税外收入	四二	〇〇〇	四二	〇〇〇	
內務省所管					
歳入歳出外現金	八	一一三	八	一二三	現金ニテ一錢不足アル事由ハ別紙ノ通
前渡資金	一、二〇〇	〇〇〇	一、二〇〇	〇〇〇	
外ニ公金	五〇	〇〇〇	五〇	〇〇〇	
合計	一、三〇〇	一一三	一、三〇〇	一二三	

年月日

檢査員　官　氏　名印

在職廳名
出納官吏（又ハ立會人）　官　氏　名印

所管大臣宛

備考

一　出納官吏若クハ立會人ヘ交付スル分ハ宛名ヲ付セサルモノトス

二　保管高及帳簿殘高ニハ預金及預託金ヲ含ムモノトス

（第三號樣式）

何年度自何年何月何日至何年何月何日現金取扱額調書

種類	領收額	拂込額及拂出額	殘額
（檢定書ト同一區分ニ依ル）			

備考

一　本調書ニハ取扱期間中ニ於ケル預金及現金ノ取扱總額ヲ記載スルモノトス

●出納官吏退職死亡ノトキ現住所ノ屆出方

明治三十五年四月二十二日訓令第五十七號

出納官吏

出納官吏ニシテ退職死亡シタルモノハ其計算證明ニ對シ認可狀ヲ受クル迄ハ現住所ヲ本人又ハ遺族ヨリ屆出ヘシ

●警察署ニ於ケル國庫納金收納ノ件

昭和七年十一月十八日會第二三八六號

從來警察署ニ於ケル國庫金收入中保證金ノ沒收及拾得物賣却代金等ハ其ノ署收入官吏ヲシテ取扱ハシメ候處爾今警察署ニ於ケル收入官吏ハ之ヲ廢シ收入ノ必要アル場合ハ直ニ所轄歲入徵收官ニ報告シ其ノ納入告知ヲ俟テ指定ノ日本銀行支店又ハ郵便局ニ拂込マシムルコトニ致度依命及通牒候也

●現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ヨリ提出スル仕拂計算書ヘ仕拂計算內譯書添附ノ件

明治二十三年九月三十日訓令號外

各部

現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ヨリ提出スル仕拂計算書ヘ別紙書式ノ仕拂計算內譯書ヲ添附セシムヘシ

但仕拂計算書提出濟ノ分ハ此際取纏メ差出サシムヘシ

(別紙)

出張官吏前渡ヲ受ケタル現金取扱心得別紙之通心得ラルヘシ

【北海書】

出張官吏前渡ヲ受ケタル現金取扱心得

要領

第一條　出張官吏前渡金ヲ受ケタルトキハ出納官吏トナリ其職務ヲ行フヘシ

第二條　出納官吏ハ大藏大臣又ハ會計檢査院ヘ直接シ且其職務上ニ付テハ總テ自己負擔ノ責ニ任スルヲ以テ其事蹟ノ明確ヲ要スルハ勿論證據計算等最モ注意スヘシ

出納

第三條　當該年度ノ仕拂ハ三月三十一日ヲ以テ完了シ其仕拂殘金額ハ翌月十日以內ニ別紙第一號書式ノ返納書ヲ以テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

四月一日以後ニ於テ前年度三月三十一日以前ニ屬スル仕拂ヲ要スルコトアルトキハ正當受取人ノ請求書ヲ取纏メ前項還納ノ手續ヲ爲スト同時ニ直接該受取人ヘ送金仕拂方仕拂命令官ヘ請求スヘシ

翌年度四月一日以後ノ仕拂元金ハ更ニ前金渡ヲ仕拂命令官ヘ請求スヘシ

返納金ノ返納告知書（別紙第六號書式）ヲ受ケタルトキハ期日マテニ指定ノ金庫ヘ納金シ金庫ノ別符付領收證ヲ得直チニ其領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ仕拂命令官ヘ請求スヘシ

返納金ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ期日以內ニ指定ノ金庫又ハ收入官吏ニ納金シ領收證ヲ得ヘシ但シ金庫ヘ納入シタルトキハ直チニ其領收證書ノ檢印及別符ノ切離ヲ收入官吏ニ請求スヘシ

仕拂殘金ノ返納ハ避クヘカラサル事故ヲ除クノ外指定ノ期日ヲ猶豫スルヲ得ス

第四條　前渡金五百圓未滿ハ一旅行ヲ通シタル總額トス

第五條　五百圓以上ハ出張先事務所ノ設ケアルト一時假設トノ別ナク總テ事務取扱所ノ體裁ヲ爲シタル場所ニ於テ其仕拂ヲ取扱フモノニシテ渾テ

前條ノ例ニヨラサルモノトス

第六條　出張先ニ於テ前渡金ヲ要スルトキハ路程ノ遠近ニ依リ往復日數ヲ見込請求スヘシ

第七條　現金ヲ仕拂フトキハ必ス正當受取人ノ領收證書ト引換ニ交付スヘシ

領收證書ノ程式ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第八條　前渡金ハ各項ノ金額ヲ流用スルヲ得ス

保管

第九條　出納官吏ノ保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スヘカラス

第十條　金庫所在地ヘ滯在スルトキハ其取扱フ所ノ現金ヲ保管ノ爲メ別紙第五號ノ書式ニ依リ其地ノ金庫ニ委託スヘシ

金庫ヘ保管委託ヲナスハ該金庫ノ保管證書ト引換ニ現金ヲ拂込ヘシ

前項保管金ヲ引戻サントスルトキハ金庫ノ保管證書ト引換ニ現金ヲ受取ルヘシ

第十一條　前條金庫保管金ヲ以テ小口拂ヲナサントスルトキハ別紙第二號書式ニ據リ出納官吏ノ資格氏名ヲ記シタル印鑑二通ヲ大藏大臣ヘ直チニ送付シ同時ニ其旨ヲ金庫ヘ申込ムヘシ

大藏大臣ヨリ印鑑ヲ金庫ヘ送付ノ通知ヲ受ケタルトキハ金庫ヨリ保管金差出シ切符用紙ヲ受取ルヘシ

保管金ノ仕拂ヲ金庫ニ請求スルトキハ總テ引出切符ヲ以テスヘシ

前項引出切符ヲ正當受取人ヘ交付スルトキハ同時ニ案內引出切符ヲ該金庫ヘ送付スヘシ

保管金引出切符ヲ受取人ヘ交付スルトキハ正當領收證書ト引換ヘシ

保管金ノ仕拂ヲ止メ殘金額ノ拂戾ヲ爲ストキハ引出切符ヲ以テスヘシ

第十二條　前渡金ノ誤拂過渡ヲ返納セシムルモノアルトキハ正當受取人ノ氏名住所及返納ヲ要スル計算事由其他必要ノ事實ヲ盡シ仕拂命令官ヘ申出ヘシ

【北海書】

第十三條　金庫ノ設ケナキ場所ニ於テ現金ノ保管ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ確實ナル銀行又ハ身代確實ナル一私人ニ其取扱フヘキ現金ノ保管ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ確實ナル契約ヲ爲スヘシ

身元保證金

第十四條　身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルヲ得

第十五條　身元保證金ハ就職ノトキ納付スヘシ

第十六條　身元保證金現金ヲ以テ納付スヘキモノハ現金ヲ預金局預金取扱所ヘ預ケ入レ其保管證書ヲ得別紙第三號書式ニ據リ本廳ヲ經由本廳外部局ニ於テハ該部局及ヒ本廳ヲ經由シテ大藏大臣ヘ進達スヘシ

第十七條　身元保證金土地ヲ以テ代用セントスルトキハ別ニ定ムル規程ニヨリ認可ヲ得而ル後土地ノ所在地價格及登記ヲ受ケントスル日限ヲ記シタル請求書二通ヲ製シ本廳ヲ經由本廳外ノ部局ニ於テハ該部局及本廳ヲ經由シテ大藏大臣ヘ進達スヘシ

土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ル

第十八條　身元保證金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札付ノ儘之レヲ金庫ヘ預ケ入レ其保管證書ヲ得之レニ書入證書ヲ添ヘ別紙第四號書式ニ據リ本廳ヲ經由本廳外ノ部局ニ於テハ該部局及ヒ本廳ヲ經由シテ大藏大臣ヘ納付スヘシ

公債證書ハ大藏大臣ヘ書入スルモノトス

公債證書ノ價格ハ明治二十三年三月中東京取引所平均相場ニ依リ爾後五箇年每ニ其年三月中ノ同取引所ノ平均相場ニ依リ其價格ヲ改定ス但明治二十三年三月以後新ニ發行ノ公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所平均相場ニ依ル

公債證書ノ利子札ハ利子ノ渡期ニ至リ其預ケ入レタル金庫ニ於テ受取ルヘシ

第十九條　身元保證金ハ會計檢査院ヨリ出納官吏在職中執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ得タル後本廳ヲ經由（本廳外ノ部局ニ於テハ該部局及本廳ヲ經由ス）シテ大藏大臣ニ證明シ其拂戻ヲ請求スヘシ

檢査

第二十條　左ノ場合ニ於テハ臨時檢査員ヲ派遣シ出納官吏ノ帳簿金櫃ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

一　出納官吏交替ノトキ
二　出納官吏轉免死亡停職ノトキ
三　臨時檢査ヲ必要ト認ムルトキ

第二十一條　前條檢査ヲ執行スルニ當リ出納官吏事故ニ據リ自身檢査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ命シタル官吏ニ於テ立會ヲナスヘシ

第二十二條　前條檢査ヲ執行シタルトキ檢査員ノ檢定書ニ出納官吏若クハ立會人署名スヘシ

帳簿計算書

第二十三條　出納官吏ハ別紙第七號第八號書式ノ帳簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

帳簿ハ各年度ニ區分調製スルモノトス

第二十四條　出納官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ別紙第九號書式ノ仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヘ送付スヘシ

證憑書類ノ程式ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第二十五條　前條ノ仕拂計算書ハ毎月調製シ翌月五日以內ニ發送スヘシ但歸廳ノ時ニ係ル分ハ歸廳ノ日ヨリ五日以內ニ差出スモノトス

年度末月ノ計算書ニ殘額アルトキハ第三條ノ返納書ト共ニ翌月十日以內ニ差出スヘシ

仕拂計算書ハ提出ノ後修正變更スルヲ得ス

第二十六條　計算書及證明上ニ付審理書ヲ受ケタルトキハ事理ヲ明確ニシ七日以內ニ答辯ヲナスヘシ

第二十七條　出納官吏交替ノトキ後任官吏ハ更ニ前渡金ヲ受ケ前任官吏ハ前渡ヲ受ケタル現金ヲ第二十五條ニヨリ精算スヘシ

第二十八條　出納官吏死亡其他ノ事故ニ據リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ特ニ命シタル官吏ヲシテ計算書ヲ調製セシムヘシ

第二十九條　金庫ヨリ別紙第十號書式ノ雜部金月計對照表甲乙二葉並證憑書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ相違ナキモノハ甲號表ヲ留置乙號表ニ式ノ如ク證明シ若シ相違アルモノハ其理由ヲ示シ（相違アルモノハ甲乙表二葉共返付）三日以內ニ金庫ヨリ送付セシ證憑書類ト共ニ金庫ニ返付スヘシ

附則

第三十條　出納官吏ノ心得ヘキ法規ハ概ネ左ノ如シ

會計法	明治二十二年 法律第四號
會計規則	同 勅令第六十號
會計檢査院法	同 法律第十五號
出納官吏現金取扱規則	同 大藏省令第十三號
出納官吏身元保證金納付ノ件	明治二十三年 大藏省令第四號
出納官吏身元保證金取扱規則	同 大藏省令第二號
定額戻入金取扱規程	明治二十二年 大藏省令第十六號
金庫出納事務規程	同 大藏省訓令第七十二號
保管金引出切符監守證式	同 大藏省訓令第七十號

金庫月計對照表調査　同　大藏省訓令第七十四號

（第一號）

返納書

一金何圓

但何年度所屬經費何何（項）年月日前渡ヲ受ケタル現金仕拂殘

內

金何圓　何何（目）
金何圓　何何（目）
金何圓　何何（目）

右返納候也

明治　年　月　日

出納官吏
官　姓　名

仕拂命令官
官　姓　名殿

（第二號）

印鑑進達書

小官儀何地金庫ヘ現金義務委託候ニ付別紙印鑑二通進達候條該金庫ヘ御下付相成度候也

明治　年　月　日

出納官吏
北海道廳　官　姓　名

大藏大臣爵氏名殿

竪四寸五分　横二寸

印鑑
官印
認印
北海道廳　官　氏　名

（第三號）

身元保證金納付書

一金何程

但何地預金局預金取扱所保管證書別紙之通

右納付候也

明治　年　月　日

出納官吏
北海道廳　官　氏　名

大藏大臣爵氏名殿

（第四號）

身元保證金納付書

一金何程

此公債證書額面何程內譯左ノ通
乙號　公債證書額面何圓　幾枚
丙號　公債證書額面何圓　幾枚
合幾枚

右納付候也

明治　年　月　日

出納官吏
北海道廳　官　氏　名

大藏大臣爵氏名殿

（第五號）

現金保管委託書

一金何程

右保管委託候也

明治　年　月　日

出納官吏
北海道廳　官　氏　名

何地金庫
御中

（第六號）（△印ハ朱書）

返納告知書

第何號	雜部
某年度	一金何▲程▲
所▲管▲廳▲	右何▲年何▲月何▲日限リ何▲地▲金▲庫▲ヘ返納スヘシ
返納人何▲某▲	明治何▲年何▲月何▲日 仕拂命令官　官▲　氏▲　名▲印

領收

第　號	仕拂命令官検印
年度	一金何▲程▲印　金庫取扱主任ノ印
返納人	右領收候也
	明治何▲年何▲月何▲日 何▲地▲金▲庫▲印

證書

第何▲號	經▲常▲（臨▲時▲）何▲何▲（款▲）	一金何▲程▲
某▲年度	何▲何▲（項▲）	
所▲管▲廳▲	何何（目▲▲▲）	
返納人何▲某▲	定額戻入ヲ要ス	明治何▲年何▲月何▲日何▲地▲金▲庫▲ヘ返納

〔北海書〕

（第七號）（用紙フールスカップ）

出納官吏現金出納簿

廳　　　　名

出納官吏　官　氏　　　　名

年月日		摘要	受			拂			殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何	何何金庫ヨリ受取	300	00	0						
	何	何何金庫ヨリ受取	430	00	0				730	00	0
	何	何何金庫ヘ拂渡				50	00	0			
	何	何何				20	00	0			
	何	何何				10	00	0			
	何	何何				5	00	0			
	何	何何				10	00	0			
	何	何何				2	00	0			
	何	何何				5	00	0	628	00	0
	何	何何				20	00	0	608	00	0

〔北海書〕

（第八號）

明治何年度

何何（款）

現金出納内譯簿

廳　　　　名

出納官吏　官　氏　　　　名

△備考

第一　領收高ノ欄ハ前渡金ヲ領收セシトキ其金額ヲ登記ス

第二　支出高ノ欄ハ支拂ヲ爲セシトキ及仕拂科目ノ更正ヲ要セシトキ其金額ヲ登記シ科目更正ノ爲減スヘキ金額ハ之ヲ控除スルモノトス

第三　前各項ノ事由摘要ニ記載方ハ樣式ニ倣フヘレ

1.（俸給及諸給）　傭人料

年月日		摘要	領收高			支出高			殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
明治何	年										
何	何	某地出張中費用トシテ領收	300	00	0				300	00	0
	何	何月何日ヨリ何月何日マテ使用人夫賃				50	00	0	250	00	0
	何	何　何				20	00	0	230	00	0

〔北海書〕

（臨　費）　器具器械費　2.

年月日		摘要	領收高			支出高			殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
明治何	年										
何	何	某地出張中費用トシテ領收	300	00	0				300	00	0
	何	何何買上代				20	00	0			
	何	何　何				5	00	0	275	00	0

3.（臨　費）　消耗品

年月日		摘要	領收高			支出高			殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
明治何	年										
何	何	某地出張中費用トシテ領收	30	00	0				30	00	0
	何	何何買上代				10	00	0			
	何	何　何				5	00	0	15	00	0
	△何	△何月何日何買上代ハ運搬ニ係ル費用ニ付通信運搬費ヘ科目更正				△5	00	0	20	00	0
		計				15	00	0			
		△科目更正				△5	00	0			
						10	00	0			

〔北海書〕

（臨　費）　通信運搬費　4.

年月日		摘要	領收高			支出高			殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
明治何	年										
	何	某地出張中費用トシテ領收	100	00	0				100	00	0
	何	何何所ヨリ何何所ヘ何何運送賃				10	00	0			
	何	何何買上代				2	00	0	88	00	0
	何	何何買上代消耗品ヨリ更正				5	00	0	83	00	0

（第九號）

明治何年度何何款）

何年何月（自何月何日至何月何日）

仕拂計算書

職　　　名

〔美濃紙〕

〔美濃紙〕

元受高									目番號	摘要	支出精算高			殘高			證憑書冊番地	備考
前月越高			本月領收高			計												
圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘			圓	錢	厘	圓	錢	厘		
										第一項　俸給及諸給								
										傭人料	70	00	0					
										何何	0							
0			300	00	0	300	00	0		第一項	70	00	0	230	00	0		
										第二項　廳費								
										器具器械費	25	00	0					
										消耗品費	10	00	0					
										通信運搬費	17	00	0					
0			430	00	0	430	00	0		第二項	52	00	0	378	00	0		
										第三項　何何								
										何何	0							
										何何	0							
0			0			0				第三項	0			0	00	0		
0			730	00	0	730	00	0			122	00	0	608	00	0		殘高總テ次期ヘ繰越又ハ本月中還納濟ノモノアルトキハ其事由ヲ詳記スヘシ但事由複雜ニ渉ルモノハ別紙ヲ以テ說明スルモ妨ケナシ

明治何年度何年何月（自何月何日至何月何日）仕拂計算書面之通相違無之候也

現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ官氏名印

會計檢査院長宛

明治何年何月何日

〔北海普〕

（第十一）

明治何年何月中雜部金月計對照表　第何號

摘要	金額 圓	錢	厘
前月ヨリ越高	0	00	0
本月受入高	18.000	00	0
合計	18.000	00	0
本月拂出高	6.000	00	0
差引翌月ヘ越高	12.000	00	0
△案內引出切符接受現金未拂高	9.000	00	0
差引殘高	3.000	00	0

〔北海普〕

表面之通相違無之依テ現金交附濟引出切符何枚及差附候條證明有之度候也

明治　年　月　日

（中央金庫）△印

又ハ

何地本金庫　△印

又ハ

（何地支金庫）△印

某廳主任官吏官氏名宛

書面ノ金額調査候處相違無之ニ付證明シ現金交附濟引出切符何枚及返却候也

明治　年　月　日

某廳主任官吏官氏名 印

▲是ヨリ以下ハ某廳主任官吏ニ於テ記載スヘキモノナリ

●陸軍召集諸費分任出納官吏設置ノ件

明治四十一年五月二十日
訓第五百十八號

支廳　警察署

改正　明治四一年訓第八〇五號、大正一一年第九三三號

明治四十一年五月陸軍省令第十一號陸軍召集諸費支出規程第六條同第七條ニヨリ陸軍召集諸費北海道廳出納官吏ノ分任出納官吏ヲ各支廳、各警察署ニ置キ召集諸費ノ取扱ヲ擔任セシメ候條左ノ通心得ヘシ

一　支廳長ハ其廳在勤ノ屬一名ニ陸軍召集諸費北海道廳出納官吏ノ分任出納官吏ヲ任命シ其官氏名ヲ報告スヘシ

一　支廳長ハ分任出納官吏タル屬轉免等ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ後任者ヲ命シ其官氏名ヲ町村長戸長ニ達シ當廳ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市、區ノ召集諸費仕拂ヲ爲スヘキ分任出納官吏在廳ノ支廳長ハ其官氏名ヲ市長、區長ニ通知スヘシ

一　警察署ニ於テハ上席警部、警部ヲ以テ署長トナス警察署ニ在テハ署長ヲ以テ陸軍召集諸費北海道廳出納官吏ノ分任出納官吏トス

一　警察署長ハ分任出納官吏異動ヲ生シタルトキハ其都度報告スヘシ

一　警察署長ハ分任出納官吏ノ官氏名ヲ〔分署長〕ニ達スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

一　警察署ニ於テ陸軍召集諸費支出規程第十五條ニ依ル分任出納官吏ノ代理者、會計規程第九十一條第九十二條第百條ニ據リ要スル檢査員立會員若クハ計算書ヲ調製セシムヘキ者ハ其次席者トス

支廳ニ於テ前項代理者ノ命免竝ニ檢査員、立會員若クハ計算書ヲ調製セシムヘキ者ノ任命ハ支廳長ニ於テスヘシ

明治四十一年六月四日
訓第五百八十一號

〔北海警〕

改正　大正一一年訓第九三四號

石狩支廳　渡島支廳　市役所

陸軍召集諸費仕拂ニ關シテハ札幌市ハ石狩支廳函館市ハ渡島支廳在勤陸軍召集諸費北海道廳出納官吏ノ分任出納官吏ヲシテ之ヲ取扱ハシム

改正　大正一一年訓第九三四號

大正三年四月一日
訓第三百二十五號

上川支廳　旭川市役所

旭川市ノ陸軍召集諸費仕拂ニ關シテハ上川支廳在勤陸軍召集諸費北海道廳出納吏ノ分任出納官吏ヲシテ取扱ハシム

改正　大正一一年訓第九三四號

大正七年二月一日
訓第六十六號

膽振支廳　室蘭市役所

室蘭市ノ陸軍召集諸費仕拂ニ關シテハ膽振支廳在勤陸軍召集諸費北海道廳出納官吏ノ分任出納官吏ヲシテ取扱ハシム

改正　大正一一年訓第九三四號

大正九年七月一日
訓第六百二十二號

釧路國支廳　釧路市役所

釧路市ノ陸軍召集諸費仕拂ニ關シテハ釧路國支廳在勤陸軍召集諸費北海道廳出納官吏ノ分任出納官吏ヲシテ取扱ハシム

●海軍召集諸費ニ關スル規程

明治四十三年十月四日
訓第九百七十三號

改正　大正三年訓第三二三號、一一年第九三五號

支廳　警察署〔同分署〕　市役所

海軍召集諸費ニ關スル規程左ノ通リ定ム

區役所　町村役場〔戸長役場〕

〔北海警〕

海軍召集諸費ニ關スル規程

第一條　分任出納官吏ハ之ヲ各支廳各警察署ニ置ク

支廳長ハ其ノ廳在勤ノ屬一名ニ分任出納官吏ヲ命シ其ノ官氏名ヲ町村長〔戸長〕ニ達シ北海道廳長官ニ報告スヘシ爾後異動ヲ生シタルトキ亦同シ

警察署ニ於テハ上席警部、警部ヲ以テ署長ト爲ス警察署ニ在リテハ署長ヲ以テ分任出納官吏トス

警察署長ハ前項分任出納官吏ノ官氏名ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ爾後異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第二項及第四項ニ依リ報告スル分任出納官吏ノ氏名ニハ右傍ニ片假名ヲ付スヘシ

第二條　市ノ召集諸費仕拂ニ關シテハ札幌市ハ石狩支廳函館市ハ渡島支廳旭川市ハ上川支廳室蘭市ハ膽振支廳釧路市ハ釧路國支廳在勤ノ分任出納官吏小樽市ハ北海道廳出納官吏ヲシテ之ヲ取扱ハシム

支廳長ハ所屬分任出納官吏ノ官氏名ヲ市長、區長ニ通知スヘシ

第三條　海軍召集諸費支出規程第十三條ニ依ル分任出納官吏代理者ノ命免會計規則第九十二條及第百條ニ據リ要スル檢査員立會員又ハ計算書ヲ調製スヘキ者ハ支廳長其ノ廳在勤ノ屬ニ之ヲ命スヘシ

警察署ニ於テハ前項ノ代理者檢査員立會員又ハ計算書ヲ調製セシムヘキ者ハ其ノ署在勤ノ次席警部トス但シ次席警部ヲ置カサル署ニ在リテハ上席警部補又ハ巡査部長トス

第四條　支廳長警察署長〔同分署長〕市長區長町村長〔戸長〕ハ充員召集ニ要スル諸費ヲ計算シ一月十日迄ニ海軍召集諸費支出規程第二號様式ニ依リ區長ハ（取扱分任出納官吏在勤廳ヲ經由シ）北海道廳長官ニ町村長〔戸長〕ハ支廳長警察署長ハ別記様式ニ依リ一月二十日迄ニ北海道廳長官ニ差出スヘシ

前項ノ概算表ハ充員召集一回分ノ諸費ヲ計上スルモノトス

別記

海軍召集諸費概算表

何支廳（警察署）印

區別＼費別	吏員旅費	郵便電信料	使丁賃	合計	備考
支廳					
何町村役場					
何〔戸長〕役場					
（警察署）					
（〔何分署〕）					
計					

●前渡出納官吏誤拂過渡金取扱ニ關スル件

明治三十四年十月二十二日
内經第一四〇一號内務部長回答

○河西支廳長照會

地方費現金前渡出納官吏仕拂計算ハ七月金庫開設ニ當リテ證明結了濟ニ有之候處其後ニ於テ出納吏取扱中ニ屬スルモノニシテ誤拂過渡金ノ追徴ヲ要スルモノ又ハ不足拂ノモノニシテ追給ヲ要スルモノ等ヲ發見シタル場合ハ出納吏取扱ヲ要セス凡テ支拂命令者ニ於テ追徴又ハ追給取扱可然哉右折返シ御教示御煩ハシ度此段及照會候也

〇内務部長回答

地方費ニ關スル追徵追給ノ件ニ付本月十日付發丙第一〇六四號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ見込ノ通取扱然可尤モ追徵ハ本來出納吏自身ニ回收スヘキモノナルモ便宜部局長ニ於テ取扱フヘキ筋ニ候ヘハ支出計算書中現金前渡仕拂命令濟額ノ部本月戾入額欄ニハ右追徵ニ關スル戾入額ヲモ記載シ又證憑ハ他ノ部分ニ別册ニ編纂スルノ外尙出納吏ヨリ仕拂ノ月金額科目債主及計算ノ基礎等ヲ記載シ且ツ誤拂過渡ニ係ル追徵金ヲ部局長ニ於テ定額戾入レタル旨詳記シタル申報書ヲ提出相成度樣致度此段及回答候也

●町村役場在勤ノ出納吏命解ニ關スル件

明治四十三年一月
一會第一〇三二號内務部長通牒

支廳長宛

（本文ノ肩書略左記ヲ左ニ揭ク）

〇第一部回答　（浦河支廳照會）

町村役場ニ出納吏ヲ置カサル場合ハ支廳在勤ノ出納吏ニ於テ出納ヲ取扱フヘキハ勿論ニ候得共實際事務上町村吏員ニ出納吏ヲ命スルノ必要可有之此場合ハ客年九月訓令第六十六號ニ依リ御處理相成可然

追テ町村役場在勤ノ出納吏ハ貴廳所屬ナルヲ以テ會計規則第三十六條ニ何等牴觸セサル義ト被存

●出納吏異動報告及管理期ノ件

明治四十五年七月
内會第四八九一號内務部長通牒

各廳長宛

出納吏異動ノ場合ハ爾後左表ニ依リ報告可相成尙計算書管理期ハ命解ノ日ヲ以テ區分スヘキ義ニ有之候

【北海警】

（左表）

在勤廳名	前任者官職氏名	後任者官職氏名	命解年月日	事務引繼年月日

右及報告候也

年　月　日

廳長名

長官宛

●出納吏管理期ニ關スル件

大正二年一月十三日
内會第三二五四號内務部長通牒

檜山支廳長宛

〇回答

出納吏命解ノ場合ハ直チニ電信ヲ以テ通知シ若シ電信通知不能ノ場合ニ於テハ前任者辭令到達ノ日迄取扱ニ係ル分ハ後任者取扱ノ分ニ併算シ計算書ニ其ノ内譯金額ヲ記載證明相成度

〇照會

（前文略）出納吏計算書管理期ハ命解ノ日ヲ以テ區分スヘキ趣ナルモ斯クテハ事實符合セサル點有之卽チ辭令到達ノ日マテ取扱ヒタル自己ノ責任ニ屬[illegible]ル證憑書現金ハ如何ニ處理スヘキヤ元來自己ノ取扱ヒタルモノハ自己ノ責任ヲ以テ長官ニ證明スヘキモノニシテ他人ノ取扱ヒタルモノ迄自己カ責任ヲ負フノ理ナカルヘシト被存候普通一般ハ辭令到達ノ日ヲ以テ管理期トシテ取扱ヒツツアル實態ナレハ獨リ出納吏ノミ命解ノ日ヲ以テ區分スルハ其當ヲ得サル義ト存候

●歲入歲出外現金出納ノ件

昭和七年十一月十九日
會第二三八五號内務部長通牒

【北海警】

警察署所在地ニ日本銀行代理店ナキ場合其ノ保管金ヲ隔地ノ代理店ニ預金スル向有之候處右ハ之ヲ取扱フ警察署自身ハ勿論隔地ノ代理店ヲ支拂店トスル小切手ノ交付ヲ受ケタル者ニ於テ甚シク不便ヲ感ズル儀ト存ゼラレ候條今後署所在地ニ日本銀行代理店アラザルトキハ保管金ハ總テ出納官吏事務規程第三條ニ依リ之ヲ郵便貯金ト爲スコトト致度尙從來預金中ノモノハ振出小切手中現金支拂ニ至ラザルモノヲ殘シ他ハ全部拂戾ノ上郵便貯金ト相成度

●出納吏ノ備フヘキ帳簿樣式變更ノ件

明治四十四年四月七日
内會第八六二號内務部長回答

檜山支廳長宛

〇照會

地方費會計取扱細則（第三十五條）ニ依リ出納吏ノ備フヘキ現金出納簿ハ洋式ニ制定セラレ居候處記載スヘキ事項ヲ缺カサル限リ和式ヲ用ユルモ敢テ差支無之哉

〇回答

右ハ別ニ支障無之候

第九章　保管

●保管金規則

明治二十三年一月七日
法律第一號

改正　明治三三年法律第一八號

朕保管金規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

保管金規則

第一條　法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス

但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一　保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二　保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三　訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條　保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若ハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條　保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條　保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ〔證券印稅〕ヲ納ムルニ及ハス

●保管金取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第五號

改正　大正一三年大藏省令第一九號、一五年第八號

保管金取扱規程左ノ通定ム

保管金取扱規程

第一章　總則

第一條　政府ノ保管ニ係ル現金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

「北海審」

第二條　取扱官廳ハ保管金ヲ預金部預金取扱規程ノ定アル所ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ其ノ官廳ノ出納官吏ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ依リ預入ヲ爲ス取扱官廳ハ所在地日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スコトヲ得

第四條　本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第四條ノ二　出納官吏事務規程第三十五條乃至第三十七條及第七十二條ノ規定ハ取扱官廳ノ振出シタル小切手ニシテ其ノ振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章　保管金ノ提出

第五條　保管金ヲ提出スル者ハ保管金提出書ヲ添ヘ現金ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ保管金ヲ提出スル者ハ預金部預金取扱規程第五條ノ規定ニ依リ保管金振込書ヲ添ヘ豫メ現金ヲ取扱官廳ノ預金取扱店ニ振込ミ預金部預金振込濟通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ保管金提出書ヲ添ヘ取扱官廳ニ提出スルコトヲ得

取扱官廳前二項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　取扱官廳前條ノ規定ニ依リ保管金ノ提出ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ保管金受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第三章　保管金ノ拂渡

第七條　保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ保管金拂渡請求書又ハ前條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書又ハ受領證書ニ領收ノ旨ヲ記載セシメ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ヲ除クノ外預金部預金ニ預入ヲ爲シタル取扱官廳ハ現金ノ交付ニ代ヘ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第八條　保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ拂渡ヲ請求セムトスルニ當リ取扱官廳ノ預金取扱店所在地外ノ預金取扱店ニ於テ支拂ヲ受ケムトスルトキハ前條ノ請求書又ハ受領證書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノナルトキハ預金部預金取扱規程第十二條ノ手續ヲ爲シ第二號書式ノ保管金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ

第四章　保管金利子ノ拂渡

第九條　保管金ノ利子ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ毎年三月三十一日迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘシ但シ保管金金額ノ拂渡ヲ受クル權利者ハ其ノ拂渡ヲ受クル時迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘキモノトス

前項ノ利子ハ保管金提出ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス保管金ノ一圓未滿ノ端數ニ對シ亦同シ

第十條　前條ノ權利者保管金ノ利子拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ保管金利子請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第十一條　取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ預金部預金取扱規程第十七條ノ規定ニ依ル預金部預金利子支拂請求書ヲ請求者ニ交付シ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ但シ前條ノ請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第五章　保管金ノ保管替

第十二條　甲官廳ニ保管金ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第四號書式ノ保管金保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十三條　甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ預金部預金取扱規程第十一條ノ手續ヲ爲シ保管金保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ尙有利子ノモノハ第五號書式ノ保管金利子參考表ヲ添附シ之ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第十四條　乙官廳前條ノ請求書及其ノ預金取扱店ヨリ預金部預金領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ保管金受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第十五條　前二條ノ規定ハ甲官廳保管金ヲ提出シタル者ノ請求ニ依ラスシテ保管金ヲ乙官廳ニ保管替ヲ爲サムトスル場合ニ於ケル甲官廳及乙官廳ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ甲官廳ハ第十三條ノ規定ニ依リ送付スル保管金保管替請求書ニ代ヘ保管金保管替通知書ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス

第六章　政府ノ所得ニ歸シタル保管金

第十六條　保管金規則、遺失物法其ノ他ノ法令ニ定メタル期間ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ

第十七條　主務官廳前條ノ調書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ取扱官廳毎ニ所得總額ヲ記載金額トセル納入告知書ヲ取扱官廳ニ送付スヘシ

取扱官廳前項ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ依リ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　第十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外保管金ニシテ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ歲入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第七章　雜則

第十九條　保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲スヘシ

第二十條　支出官事務規程中歲出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十一條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　保管物取扱規程及明治三十六年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス

第二十三條　本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ當該金庫ノ國庫金出納ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ヲ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ

第二十四條　前條ノ保管金ノ拂渡、他店拂、保管替、歲入納付、特殊資金ニ組入又ハ期滿失效年月日ノ變更ニ關スル通知ノ手續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、第十二條乃至第十五條及第十八條ノ手續ヲ爲スモノトス

前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ

第一號書式　保管金受領證書（用紙寸法半紙判半紙）

保管金受領證書

第　　號

金

保管ノ事由

上記金額領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名㊞

何某宛

上記金額領收候也

年　月　日

住所

氏名㊞

某廳取扱主任官宛

備考

一　本書ハ之ヲ縱書トスルコトヲ得

二　受取人本書ヲ以テ保管金ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第二號書式　保管金支拂通知書（用紙寸法半紙判半截）

保管金支拂通知書

保管金受領證書日附番號

期滿失效年月日

小切手振出日附

小切手ヲ宛テタル店名

金

前記ノ金額日本銀行（何店）ニ於テ受領セラルヘシ

年　月　日

某廳取扱主任官　氏　名㊞

何某宛

領收證

前記ノ金額領收候也

年　月　日

住所

氏　名㊞

收入印紙㊞

備考

一　用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐フル用紙ヲ用ユヘシ

二　官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シ發行スヘシ

三　領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

〔北海書〕

（注意）受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

裏面書式（參考第五號中「五圓以上」トアルハ印紙税法改正ノ結果「十圓以上」トナリタルニ付注意セラレタシ）

（注意事項）

一　受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ

二　受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

三　受取人カ代理人ヲ以テ支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本書刷込ノ委任狀ニ相當ノ事項ヲ記入スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ

四　代理人カ支拂ヲ受クル場合ニ於テハ表面領收證ノ部ニ代理人タルノ肩書ヲ附スヘシ

五　受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　小切手振出ノ日附ヨリ一年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス

七　本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支拂ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

委任狀

表面金額ノ受取方ヲ　　ニ委任致候也

年　月　日

收入印紙㊞

住所

氏　名㊞

〔北海書〕

第三號書式　保管金利子請求書（用紙寸法半紙判半截）

保管金利子請求書

年月日第　號保管金ニ對スル利子支拂相成度及請求候也

年　月　日

住所

氏　名㊞

某廳取扱主任官宛

金

保管金　ニ對スル　年　月ヨリ　年　月迄　年分ノ割

右支拂フヘキコトヲ證明ス

年　月　日

日本銀行（何店）宛

某廳取扱主任官　官　氏　名㊞

前記金額領收候也

年　月　日

住所

氏　名㊞

日本銀行（何店）宛

第四號書式　保管金保管替請求書（用紙寸法半紙判半截）

保管金保管替請求書

金

保管金受領證書日附番號

保管スヘキ法令ノ條項

保管ノ事由

新取扱官廳名

上記ノ通保管替相成度候也

年　月　日

住所

氏　名㊞

某廳取扱主任官宛

本書保管替ノ申出ヲ承認候間貴廳ノ保管金トシテ取扱相成度候也

但シ別紙保管金利子參考表ヲ添附ス（利付ノ分ニ限リ此ノ但書ヲ記入スルコト）

年　月　日

某廳取扱主任官　官　氏　名㊞

某廳宛

備考

本書ハ之ヲ謄書トスルコトヲ得

第五號書式　保管金利子參考表（用紙寸法半紙判半截）

保管金利子參考表

摘要	受	拂	殘

某廳取扱主任官官氏名㊞

備考

摘要ノ欄ニハ前年度ヨリ越及月別ヲ記入スヘシ

第六號書式　保管金政府所得調書（用紙寸法美濃判半截）

保管金政府所得調書

第　　號　　年度分

受入年月日	保管金受領證書番號	保管ノ事由	期滿失效年月日	金額

某廳取扱主任官　官　氏　名㊞

●政府保管有價證券取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第八號

改正　大正一五年大藏省令第一一號

政府保管有價證券取扱規程左ノ通定ム

政府保管有價證券取扱規程

第一章　總則

第一條　政府ノ保管ニ係ル有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條　取扱官廳ハ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　取扱官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第四條　本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章　保管有價證券ノ提出及寄託

第五條　保管有價證券ヲ提出スル者ハ第一號書式ノ政府保管有價證券提出書及其ノ印鑑ヲ添ヘ有價證券ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

取扱官廳前項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　取扱官廳ハ保管有價證券ヲ提出スル者ヲシテ豫メ有價證券ヲ日本銀行ニ於ケル取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ振込マシムルコトヲ得

第七條　保管有價證券ヲ提出スル者前條ノ振込ヲ爲サムトスルトキハ第二號書式ノ政府保管有價證券振込書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ政府保管有價證券振込濟通知書ノ交付ヲ受クヘシ

保管有價證券ヲ提出スル者前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券振込濟通知書及其ノ印鑑ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第八條　取扱官廳第五條又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ有價證券又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ提出ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ政府保管有價證券受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第九條　取扱官廳第五條ノ規定ニ依リ提出ヲ受ケタル政府保管有價證券ヲ日本銀行ニ寄託セムトスルトキハ政府保管有價證券提出書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ送付シ政府保管有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ但シ第五條第二項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券提出書ヲ省略セシメタルモノニ付テハ第四號書式ノ政府保管有價證券內譯書ヲ添附スルモノトス

第十條　取扱官廳ハ遺失物法ノ規定ニ依リ保管スル有價證券ヲ寄託セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第十一條　保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ第五條ノ場合ニ於テハ取扱官廳ヲ經テ日本銀行ニ、第七條第一項ノ場合ニ於テハ政府保管有價證券振込書ニ添ヘ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第三章　保管有價證券ノ拂渡

第十二條　保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ第五號書式ノ政府保管有價證券拂渡請求書又ハ第八條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十三條　取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ請求者ニ交付スヘシ

取扱官廳前條ノ請求ニ依リ政府保管有價證券ノ一部ノ拂渡ヲ要スルトキハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込済通知書ニ一部拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付シ請求者ニ對シテハ第六號書式ノ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ受託證書、通知書又ハ拂渡書ノ交付ヲ受ケタル者ハ之ヲ日本銀行ニ提出シ有價證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十四條　取扱官廳第十二條ノ請求ヲ受ケタルトキ第二條但書ノ規定ニ依リ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ之ヲ請求者ニ拂渡スヘシ

第十五條　保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ支拂期到來シタルモノノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第七號書式ノ政府保管有價證券利札請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第二條但書ノ規定ニ依リ取扱官廳ニ於テ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ前項ノ權利者ハ前項ノ請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ請求者ニ交付スヘシ

第十六條　取扱官廳日本銀行ヨリ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券元利金受入ノ通知ヲ受ケタルトキハ保管金トシテ之カ整理ヲ爲スヘシ

第四章　保管有價證券ノ保管替

第十七條　甲官廳ニ身元保證金トシテ有價證券ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第八號書式ノ政府保管有價證券保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十八條　甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該有價證券ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絶シ、日本銀行ニ寄託セルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ政府保管有價證券保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ之ヲ乙官廳ニ送付シ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込済通知書ニ寄託替ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第十九條　乙官廳前條ノ請求書ノ送付及日本銀行ヨリ政府保管有價證券受託證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第五章　政府ノ所得ニ歸シタル保管有價證券

第二十條　政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ

主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ該有價證券ヲ換價シ歲入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第六章　證明

第二十一條　取扱官廳日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ政府保管有價證券ノ受入及拂渡ノ請求書ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ政府保管有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ統轄店又ハ特扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テ統轄店取扱官廳ノ所在地外ニ在ルトキハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ

第七章　雜則

第二十二條　取扱官廳政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込済通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第七條第一項ノ振込人政府保管有價證券振込済通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十三條　政府保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込済通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲シ其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第二十四條　取扱官廳政府保管有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ

附則

第二十五條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條　本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管有價證券ハ當該金庫ノ政府有價證券取扱ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ニ寄託シタルモノト看做ス

前項ノ保管有價證券ハ從前ノ規定ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第一號書式　政府保管有價證券提出書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券提出書
何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也　何枚
內譯
何圓券　何第何番ヨリ何第何番迄　何枚
但シ何年何月渡以降利札附屬（利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト）
何圓券　何第何番　何枚
但シ何年何月渡利札缺欠
保管ノ事由
右提出候也
年　月　日　住所　氏　名㊞
某廳取扱主任官宛
右證券寄託候也
年　月　日
某廳取扱主任官官　氏　名㊞
日本銀行（何店）宛

備考
一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ
二　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第二號書式　政府保管有價證券振込書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券振込書
何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓他　何枚
內譯
何圓券　何第何番ヨリ何第何番迄　何枚
但シ何年何月渡以降利札附屬（利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シタル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト）
何圓券　何第何番　何枚
但シ何年何月渡利札缺欠
右某官廳ノ保管有價證券トシテ振込候也
年　月　日　住所　氏　名㊞

日本銀行（何店）宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ

二　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第三號書式　政府保管有價證券受領證書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券受領證書

保管日附　　下記證券領收候也

保管ノ事由　　某廳取扱主任官氏名㊞

何某宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及回數別	備考

上記證券拂渡ノ證書領收候也

年月日

住所

氏名㊞

某廳取扱主任官宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二　利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三　本書ヲ以テ有價證券ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

【北海書】

第四號書式　政府保管有價證券內譯書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券內譯書

保管日附　　下記證券寄託候也

年月日

提出者氏名

某廳取扱主任官氏名㊞

日本銀行（何店）宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及回數別	備考

備考

【北海書】

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二　利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五號書式　政府保管有價證券拂渡請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券拂渡請求書

政府保管有價證券受領證書日附及番號（內渡ノトキハ政府保管有價證券受領證書ノ內ト記入スルコト）

何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也　　何枚

內譯

何圓券　何第何番　　何枚

右證券拂渡相成度候也

年月日

住所

氏名㊞

某廳取扱主任官宛

右證券拂渡ノ證書領收候也

年月日

氏名㊞

某廳取扱主任官宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ

二　政府保管有價證券受領證書記入額全部ノ拂渡ヲ請求スル場合ニハ證券ノ記番號ヲ省略スルコトヲ得

三　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第六號書式　政府保管有價證券一部拂渡書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券一部拂渡書

保管日附　　下記證券拂渡相成度候也

年月日

提出者氏名

某廳取扱主任官氏名㊞

日本銀行（何店）宛

下記證券領收候也

年月日

住所

氏名㊞

日本銀行（何店）宛

證券種別	枚數	券面額	券面記番號及回數別	備考

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二　利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三　遺失物法ニ依ルモノナルトキハ日本銀行カ拂渡ヲ爲スヘキ最終ノ期日ヲ餘白ニ記入スヘシ

第七號書式　政府保管有價證券利札請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券利札請求書

保管日附
取扱官廳名
何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也　何枚
內譯
何圓券　何第何番　何枚
右證券ノ何年何月渡利札交付相成度候也
年　月　日　住所　氏名㊞
日本銀行（何店）宛
右利札領收候也
年　月　日　氏名㊞
日本銀行（何店）宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ

二　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第八號書式　政府保管有價證券保管替請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券保管替請求書

政府保管有價證券受領證書日附及番號
何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也　何枚
內譯

何圓券　何第何番　何枚
但シ何年何月渡利札缺欠
右證券何官廳ノ保管有價證券ニ變更相成度候也
年　月　日　住所　氏名㊞
某廳取扱主任官宛
保管替ヲ承認候間貴廳ノ保管有價證券トシテ取扱相成度候也
年　月　日　某廳取扱主任官官氏名㊞
某廳取扱主任官宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ

二　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

●日本銀行寄託中ノ有價證券處分方ノ件

昭和二年八月八日
石會第四號內務大臣會計課通牒
石川縣宛

○回答

本年三月三日發會第八一四號ヲ以テ標記ノ件御照會有之候處右ノ場合檢事ハ政府保管有價證券取扱規程第十二條ノ所謂「保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者」ニ該當スルヲ以テ該檢事ヨリ取扱官廳ニ對シ同條ノ規定ニ依ル政府保管有價證券拂渡請求書ヲ提出シ保管有價證券ノ一部拂渡ノ請求アリタルトキハ取扱官廳ハ同取扱規程第十三條第二項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ新聞紙法第十五條ノ趣旨ニ依リ檢事ニ對シ一部拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之レヲ日本銀行ニ送付シ請求者ニ對シテハ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ交付シ請求者ヲシテ直接日本銀行ヨリ拂渡ヲ受ケシムルモノト被存候付右ニ依リ御處理相成度

○照會

新聞紙發行人ニシテ新聞紙法違反罪ニ依リ罰金五拾圓ニ處セラレタルモノ之ヲ納入セサル爲裁判所檢事ヨリ新聞紙法第十五條ノ趣旨ニ依リ該發行人身元保證金（國債證券二百五拾圓日本銀行支店ニ寄託中）中ヨリ徴收方照會越候就テハ之カ處理手續規定無之樣被存候ニ付玆ニ差懸リ必要ニ付至急何分ノ御指示相煩度候也

●政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ換價方法竝歲入ニ納付方等ノ件

大正十二年九月一日
大藏省藏第八三五四號
北海道廳長官

保管金取扱規程第十六條及政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ主務官廳ハ其ノ廳トシ政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ換價方法竝歲入ニ納付方等ニ關シテハ別紙取扱手續ニ依リ處理スヘシ

（別紙）

政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ換價方法竝ニ歲入ニ納付又ハ資金ニ組入手續

第一條　政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ報告ヲ受ケタル主務官廳ハ本手續ニヨリ該有價證券ヲ換價シ換價金額ヲ歲入ニ納付又ハ資金ニ組入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條　取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券ニシテ既ニ償還期ノ開始セルモノニ付テハ證券ノ種類ニヨリ取扱官廳ヲシテ左ノ取扱ヲ爲サシムヘシ

一　國債證券ニ付テハ取扱官廳ヲシテ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ出納官吏ヲシテ現金拂込書又ハ預託金拂込書ヲ添付セシメ有價證券ノ寄託店タル日本銀行ニ提出セシムルコト

二　國債證券以外ノ有價證券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ證券ノ拂渡ヲ受ケ該證書ニ對スル償還金受領ノ手續ヲ爲シタル後出納官吏ヲシテ該金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムルコト

第三條　前項ノ規定ハ有價證券トシテ取扱タル利札ニシテ支拂期ノ開始セル者ニ付キ之ヲ準用ス

第四條　主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル國債證券ニ付買入銷却方ヲ請求セントスルトキハ其證券ノ名稱、記號額面及附屬利札ニ於ケル支拂期（何年何月何日渡以降利札付屬ト記載スルコト）竝證券ヲ引渡スヘキ日本銀行名ヲ記載シタル書面ニ買入銷却ヲ要スル事由及擔保又ハ保證ニ充用シタルモノナルトキハ其ノ擔保額又ハ保證額政府ノ所有ニ歸シタル年月日竝ニ最低賣渡價格ヲ付記シ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ但シ引渡スヘキ國債證券ハ引渡當時利子支拂期未開始ノ附屬利札ノ完備セルモノニ限ルモノトス

前項ノ國債證券ニシテ引渡ノ際既ニ利子支拂期ノ開始セル利札ノ附屬シアル場合ハ取扱官廳ヲシテ之ヲ截棄セシメ其ノ利札ノ取扱ニ付テハ第三條ノ規定ニ依リ之カ手續ヲナサシムヘシ

第五條　主務官廳前條第一項ノ請求ニ對シ大藏省ノ承認ヲ受ケタルトキハ國債證券引渡方ヲ取扱官廳ニ通知シテ之カ手續ヲ爲サシメ代金納入方ニ付テハ日本銀行本店ニ對シ納入ノ告知書ヲ發スヘシ

第六條　主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券中第二條乃至第四條ノ規定ニ依リ難キ有價證券又ハ大藏省ヨリ國債證券買入銷却ノ承認ヲ

得サリシ證券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ其ノ拂渡ヲ受ケ取扱官廳ヲシテ之カ換價ノ手續ヲ爲サシメ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムヘシ

第七條　主務官廳前條ノ規定ニヨリ取扱官廳ヲシテ換價ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ不利益ト認ムルトキ又ハ取扱ニ付不便ナリト認ムルトキ若クハ其他ノ狀況ニ鑑ミ換價ノ手續不能ト認ムルトキハ取扱官廳ヨリ該證券ヲ現送セシメ主務官廳換價ノ手續ヲ爲シ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

●政府ノ所有ニ歸シタル無記名國債證券其他ニシテ償還期開始ニ係ルモノ歲入ニ編入方

大正元年八月二十日
内務次官通牒八六號

所管各廳

政府ノ所有ニ歸シタル無記名國債證券、鐵道證券（帝國鐵道會計法第二條ノ二ニ依リ發行スル證券）大藏省證券ニシテ償還期開始セルモノハ取扱廳ニ於テ保管證書裏面ニ事由ヲ記載シ現金拂込書ヲ添付シ收入官吏ヨリ取扱「金庫（金庫役設派出所ヲ除ク）」ニ提出候ハバ（金庫）ニ於テ償還金ヲ受領シ拂込書指定ノ歲入ニ編入スヘキ旨（金庫出納役）ヘ令達候趣大藏大臣ヨリ通知有之候條御承知相成度依命此段及通牒候也

●〔違警罪〕卽決例（抄錄）

明治十八年九月二十四日
太政官布告第三十一號

明治十四年九月第四十四號布告及ヒ同年十二月第八十號布告ヲ廢止シ〔違警罪〕卽決例別紙ノ通リ制定ス

右奉　勅旨布告候事

（別紙）

〔違警罪〕卽決例

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限內之ヲ留置ス但刑期五日內ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

●〔違警罪〕卽決例ニ依ル保證金取扱ニ關スル件

大正十五年五月四日
大藏省藏計第二二五號大藏省主稅局長回答

兵庫縣宛

〇回答

大正十五年一月十六日付兵會第一七八號ヲ以テ〔違警罪〕卽決例ニ依ル保證金ノ取扱ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ請求ニ係ル正式裁判ノ申立成立シタルコトヲ確メタル後本人ノ請求ニ依リ還付スヘク若シ本人ノ請求ナキトキハ保管金規則第一條ノ規定ニ依ル時效定成ヲ待テ歲入ニ編入スヘキモノト認メ條條此段及回答候也

〇照會

〔違警罪〕卽決ニ因ル拘留處分ニ對シ正式裁判請求ノ爲保證金ヲ提出シタル場合ハ明治四十四年神奈川縣知事ノ請訓ニ對スル依命回答ニ依リ該保證金ハ一件記錄ト共ニ裁判所ニ送致スヘキモノナリトノ理由ニ依リ保管轉換方要求スル向有之候然ルニ從來本縣ニ於テハ正式裁判請求ト同時ニ一件記錄ノミ裁判所ニ送致シ保證金ハ卽決例ノ範圍ヲ脫スル者ニ付正式裁判ノ結果ニ依ラス本人ノ請求ニ依リ五ケ年間保管シ期滿失效ヲ待テ歲入ニ編入致居候處前記ノ通リ目下差懸リノ件モ有之付テハ御回答ノ趣旨ニ依リ取扱可然哉至急何分ノ御回報相成度此段及照會候

●拘留科料卽決處分手續

大正十一年三月二十八日
訓第三百號

警察部　警察署（同分署）

拘留科料卽決處分手續左ノ通定メ大正十一年四月一日ヨリ施行ス

拘留科料卽決處分手續

第一條　警察官吏拘留科料ニ該ル罪ニ付告發ヲ爲スニハ第一號樣式ノ書面ヲ以テスヘシ

第二條　官吏公吏以外ノ者ヨリ口頭ヲ以テ告訴告發自首又ハ其ノ取下變更等ノ申立アリタルトキハ調書ヲ作リ之ヲ本人ニ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ若本人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨附記スヘシ

第三條　被告事件複雜又ハ重要ナルモノニ付テハ被告人及關係人ノ取調ヲ爲シ其ノ調書ヲ作リ證據物件ヲ領置シタルトキハ第二號樣式ノ領置物件目錄ヲ作成スヘシ

第四條　拘留科料ノ卽決處分ハ警察官署長自ラ之ヲ爲スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ハ代理者ニ於テ爲スコトヲ得

第五條　勞役場留置期間ハ科料金額壹圓ヲ一日ニ換算シ其ノ壹圓ニ滿タサルモノト雖仍一日ニ換算スヘシ

第六條　本案事件罰金以上ノ罪ニ該ルモノト思料スルトキ若ハ本案事件外ニ罰金以上ノ罪ニ該ル事件アリト思料シタルトキハ其ノ事案ニ付司法處分ノ手續ヲ爲スヘシ管轄外ト認ムル被告事件ハ必要ナル取調ヲ爲シ速ニ其ノ管轄官廳ニ移送スヘシ

第七條　拘留科料ニ附帶スル私訴ヲ爲ス者アルトキハ民事裁判所ニ出訴スヘキ旨諭示スヘシ

第八條　卽決言渡ノ原本ハ第三號樣式ニ依リ作成シ對席ノ場合ハ之ヲ讀聞カセ缺席ノ場合ハ言渡書ノ正本ヲ作成シ送達スヘシ

第九條　言渡書正本ノ送達ハ左ノ各號ニ依リ警察官吏ヲ以テ之ヲ爲サシムヘシ

一　言渡書ハ被告人ニ其ノ在ラサルトキハ成年ノ家族ニ法人ナルトキハ其ノ代表者業務擔當員若ハ其ノ代理者ニ送達シ第四號樣式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ徵スヘシ若署名捺印スルコト能ハサルトキハ備考ニ其ノ理由ヲ記載スヘシ

二　被告人ノ住所職業年齡等ニ相違アリト雖其ノ人違ヒナキコト判明シタル者ニハ其ノ儘送達シ相違ノ點及其ノ事由ヲ備考ヘ記載スヘシ

三　被告人正當ノ理由ナクシテ受領ヲ拒ムトキハ其ノ言渡書ヲ差置キ其ノ旨送達書ニ記載スヘシ

四　被告人死亡所在不明其ノ他ノ事由ニ依リ送達シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ復命スヘシ

第十條　被告事件無罪及免訴スヘキモノ又ハ訓戒ニ止メタル事件ハ記錄ノ餘白ニ其ノ理由及年月日ヲ記載スヘシ

第十一條　〔違警罪〕卽決例（以下單ニ卽決例ト稱ス）第九條第十條ニ依ル必要處分ハ其ノ留置日數ヲ被告人ニ告知シ直ニ執行スヘシ留置中假納金又ハ保證金ヲ差出シタルトキハ留置日數ニ相當スル金額ヲ

控除シタル殘額ヲ徴收シ其ノ留置ヲ解クヘシ

第十二條　被告人管轄地外ニ在ルトキハ言渡書ノ送達又ハ刑若ハ勞役場留置ノ執行ヲ第四號又ハ第五號ノ樣式ノ書面ニヨリ其ノ管轄警察官署ニ囑託スヘシ

第十三條　前條ニ依リ囑託ヲ受ケタル警察官署ハ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一　言渡書ハ第九條ニ準シ之ヲ處理シタル後送達書ヲ囑託警察官署ニ回送スヘシ

二　刑又ハ勞役場留置執行ハ第十一號樣式ノ即決處分簿ニ登載シタル上速カニ執行シ之ヲ終ハリタルトキハ回答欄所定ノ記入ヲ爲シ囑託警察官署ニ回送スヘシ

三　被告人死亡所在不明其ノ他ノ事由ニ依リ言渡書ノ送達又ハ刑若ハ勞役場留置ノ執行ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ一件記錄ハ囑託警察官署ニ返送スヘシ

被告人ニシテ正式裁判ヲ請求シタルトキ亦同シ

四　拘留刑執行中其ノ執行停止ヲ爲スヘキ事故生シタルトキハ第二十條ニ準シ停止處分ヲ爲シ其ノ旨囑託警察官署ニ通知スヘシ

五　拘留刑又ハ勞役場留置執行中假出場ヲ許ス情狀在リト認メタルトキハ第二十二條ニ依リ處理シ其ノ旨囑託警察官署ニ通知スヘシ

六　言渡書ノ送達又ハ刑若ハ勞役場留置執行受託ノ被告人他ノ警察官署ノ管轄地間ニ在ルトキハ書類ヲ移牒シ其ノ旨囑託警察官署ニ通知スヘシ

七　前號ニヨリ移牒ヲ受ケタル警察官署ハ本條各號ニ依リ處理スヘシ

第十四條　刑又ハ勞役場留置ノ執行ヲ囑託シタル警察官署ハ左記各號ノ場合ニ在リテハ受託警察官署ニ於テ未タ其ノ執行ニ著手セサルトキニ限リ直ニ囑託解除ノ通知ヲ爲シ之ヲ執行スヘシ

一　拘留ノ言渡ヲ受ケタルモノ受刑ノ爲出頭シタルトキ

二　科料ノ言渡ヲ受ケタルモノ科料ノ納付ヲ爲シタルトキ

三　科料ノ言渡ヲ受ケタルモノ勞役場留置執行ヲ受クル爲出頭シタルトキ

四　前各號ノ外囑託警察官署ニ於テ執行スルヲ便宜トスルトキ

第十五條　正式裁判ノ請求アリタルトキハ即決例第六條ニ依リ其ノ一件記錄ニ第六號樣式ノ正式裁判請求事件送致書ヲ附シ管轄區裁判所檢事ニ送致スヘシ但シ必要ト思料シタルトキハ本人又ハ關係人ヲ取調ヘ調書ヲ作リ且證據物件ノ領置ヲ爲シ併送スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ一件記錄ヲ謄寫シ原本ノ位置ニ編綴シ置クヘシ

第十六條　科料ハ收入印紙保證金ハ現金ニテ納付セシメ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　科料ノ納付ヲ受ケタルトキハ第十二號樣式ノ科料及保證金受領簿ニ記入シ領收證ヲ交付シ同時ニ消印スヘシ

二　保證金ヲ差出シタルトキハ前號帳簿ニ記入シ領收證ヲ交付シ執行ヲ終ハリタルトキハ之ヲ還付シ領收證ハ返付セシムヘシ

三　保證金ヲ沒入シタルトキハ直ニ所定ノ歲入手續ヲ爲スヘシ

四　保證金ヲ差出シタル後正式裁判ノ請求在リタルトキハ一件記錄ヲ檢事ニ送致前還付ノ手續ヲ爲スヘシ

五　科料及保證金受領簿ハ科料ト保證金ハ別冊若ハ口座分トスヘシ

第十七條　囑託シタル事件ニシテ受託警察官署ヨリ言渡書ノ送達又ハ刑若ハ勞役場留置執行ノ回答アリタルトキハ即決處分簿所定ノ記入ヲ爲スヘシ

第十八條　科料ヲ完納セサル者ニ對スル勞役場留置ハ第七號樣式ノ留置命令書ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第十九條　拘留又ハ勞役場留置執行ハ左ノ區別ニ依ルヘシ但シ監獄ニ送致スル場合ハ第八號樣式ノ囑託書ニ言渡書ノ謄本ヲ添付スヘシ

一　監獄所在地ノ警察官署ハ監獄ニ送致シテ執行ヲ求ムヘシ但シ時宜ニヨリ所屬ノ留置場ニ於テ執行スルコトヲ得

二　監獄ナキ地ノ警察官署ハ所屬ノ留置場ニ於テ執行スヘシ

三　留置人員多數ニシテ收容不能ノ場合又ハ監獄ナキ地ノ警察官署ニシテ留置場ナキトキハ最近ノ監獄若クハ警察官署ニ送致シ執行ヲ求ムヘシ

第二十條　拘留刑ノ執行中刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ依リ執行ノ停止ヲ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシメ（必要ニ依リ醫師二名以上ノ立會診斷ヲ爲サシムヘシ）第九號樣式ノ停止決定書ヲ作リ同法第三百二十條ニ準シ直ニ之ヲ停止スヘシ

監獄ノ通報ニヨリ拘留刑執行停止ノ必要アリト認メタルトキハ第九號樣式ノ停止決定書ニ第十號樣式ノ出監囑託書ヲ添ヘ送付スヘシ

前二項ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタルトキハ札幌控訴院管內司法警察官執務規程ニ基キ所定ノ名簿ニ記入視察ヲ爲シ執行停止ノ事故止ミタルトキハ直ニ殘刑ノ執行ヲ爲スヘシ

前項ノ場合受託事件タルトキハ囑託警察官署ニ通知スヘシ

死亡其ノ他ノ事由ニ依リ殘刑ノ執行ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十一條　刑ノ執行停止ヲ受ケタル者管轄地外ニ轉居シタルトキハ其ノ管轄警察官署ニ視察竝執行停止ノ事故止ミタルトキノ殘刑執行ヲ囑託スヘシ

第二十二條　拘留刑又ハ勞役場留置執行中刑法第三十條ニ依リ假ニ出場ヲ許ス情狀アリト認メタルトキハ典獄ニ移牒スヘシ

第二十三條　即決例及本手續ニ依リ作ルヘキ言渡書及調書其ノ他ノ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日及場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印スヘシ但シ所屬官署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場合ハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

書類ヲ作ルニ文字ヲ改竄スヘカラス若挿入削除又ハ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣字體ヲ存シ其ノ數ヲ記載スヘシ

第二十四條　警察官署ニハ左ノ簿冊ヲ備ヘ其ノ都度整理スヘシ

一　即決處分簿　　第十一號樣式

即決處分シタル事件ハ其ノ處分月日順ニヨリ登載シ受託事件ハ別冊トスヘシ但シ事件僅少ノ署ニ在リテハ口座分ニスルコトヲ得

二　即決處分ニ關スル書類編冊

言渡書原本及告發書其ノ他調書等一件記錄ヲ處分順ニ綴ル

三　即決處分受託事件ニ關スル書類編冊

即決處分受託事件關係書類ヲ即決處分簿登載順ニ依リ綴ル

四　訓戒事件其他ニ關スル書類編冊

訓戒ニ附シタルモノ及無罪免訴ニ關スル書類ヲ綴ル

五　拘留科料刑執行ニ關スル書類編冊

送達書類其他往復書類等ヲ綴ル

第二十五條　左ノ事項ハ其ノ都度詳細ノ狀況ヲ具シ警察部長ニ報告スヘシ

一　科料十五圓以上拘留二十五日以上ヲ言渡シタルトキ

二　外國人ヲ處分シタルトキ

三　正式裁判ノ請求アリタルトキ及其ノ結果

四　其ノ他必要ト認メタル事項

第二十六條　本手續第二十二條ニ依リ典獄ニ移牒セントスルトキハ豫メ警察部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十七條　陸海軍人軍屬ノ違警罪處分例ノ適用ニ付テモ亦本手續ニ準據スヘシ

第一號樣式　（用紙半紙半枚）

告發書

被告人住所身分職業氏名年齡

犯罪年月日時及場所

犯罪事實

法令適條

備考

右告發候也

大正　年　月　日

警察署

巡查

署長警　　殿

第二號樣式（用紙半紙黃色）

領置物件目錄

左記ハ　　事件ニ付證據トシテ領置此目錄ヲ作ルモノナリ

大正　年　月　日

何警察(分)署長

官　氏　名

物件番號	品目	員數	差出人住所氏名	所有主住所氏名	處分
號		一			
號					
號					
號					
號					
號					
號					
號					

【北海警】

第三號樣式（用紙半紙）

言渡書

被告人住所身分職業氏名年齡

犯罪日時場所及事實

法令適條及科刑

對席缺席別

科料不完納ノトキ勞役場留置日數

正式裁判請求期間

領置物件處分

必要處分

大正　年　月　日

警察(分)署長　氏　名印

第四號樣式（用紙半紙）

送達書

即決言渡書　一通

右　　ニ送達スヘキモノ也

大正　年　月　日

何警察(分)署長

官　氏　名

送達月日時

送達場所

受取人氏名印

送達シ能ハサル理由

備考

右ノ通取扱候也

大正年月日

何警察(分)署勤務

巡查　氏　名印

【北海警】

第五號樣式（用紙半紙）

囑託書

住所氏名

言渡年月日

刑名刑期金額

法令適條

右ノ通即決處分候條別紙言渡書送達ノ上執行方御取計相成度候也

大正年月日

何警察(分)署

警察(分)署御中

回答

拘留執行　自　月　日　至　月　日

科料金徵收　年　月　日

勞役場留置　年　自　月　日　至　月　日

備考

右ノ通候也

大正　年　月　日

警察(分)署

警察(分)署御中

第六號樣式（用紙半紙）

正式裁判請求事件送致書

法令適條

刑名刑期金額

被告人氏名年齡

右頭書ノ通即決言渡タル處正式裁判請求候ニ付一件書類及送致候也

大正　年　月　日

何警察(分)署長

官　氏　名

何區裁判所

檢事　　殿

備考

目錄

文書種類	丁數	文書種類	丁數

第七號様式（用紙半紙）

勞役場留置執行命令書

住所身分職業

氏名　年齢

何々法令第何條違犯

年月日　即決言渡科料金　圓

年月日　即決言渡確定

科料金不納額　圓

勞役場留置　日

右勞役場留置ノ執行ヲ爲スヘキモノ

大正　年　月　日

何警察〔（分）〕署長

官氏名

第八號様式（用紙半紙）

拘留
科勞役場留置　執行囑託書

言渡シタル拘留勞役場留置日數	拘留　日 勞役場留置　日
執行スヘキ拘留勞役場留置日數	拘留　日 勞役場留置　日
確定年月日	
刑期起算日	
通算日數	
氏名	
年齢	
備考	

〔北海警〕

右ハ別紙謄本ノ通即決言渡確定セル（モ科料金ヲ完納セサルニ付勞役場留置）ニ付拘留執行相成度候也

大正　年　月　日

何警察〔（分）〕署長

官氏名

警察〔（分）〕署長殿

何〔監獄典獄〕殿

第九號様式（用紙半紙）

刑ノ執行停止決定書

拘留人住所氏名年齢	
刑名刑期	
起算及滿期	起算　年　月　日 滿期　年　月　日
停止スヘキ事故	

右者刑事訴訟法第三百十九條第二項及第三百二十條ニ準據シ其ノ刑ノ執行ヲ停止ス

大正　年　月　日

何警察〔（分）〕署長

官氏名

年　月　日午前後　時　分刑ノ執行ヲ停止セリ

殘日數　日

第十號様式（用紙半紙）

出監囑託書

拘留囚

右者別紙刑ノ執行停止決定書ニ基キ直ニ出監取計相成度候也

追テ出監ノ月日御回報相成度申添候

大正　年　月　日

何々監獄典獄殿

何々警察〔（分）〕署長㊞

〔北海警〕

第十一號様式（用紙美濃紙）　即決處分簿

番號	署長 主任
言渡年月日	
確定年月日	
法令適條	
拘留	日 執行　自　月　日　至　月　日
科料	納付　月　日
正式裁判請求	大正　年　月　日
言渡書送達囑託	大正　年　月　日何署
刑又ハ勞役場留置執行囑託	大正　年　月　日何署
被告人ノ住所職業	
氏名	
年齢	
保證金	圓 納付　月　日 沒入　月　日 還付　月　日
勞役場留置日數	日 執行　自　月　日　至　月　日
記錄送致	月　日裁判所檢事
送達	大正　年　月　日
執行	自　月　日　至　月　日
備考	

注意　刑ノ執行停止ノ月日、殘刑執行月日、假出場ノ月日、被告人所在不明、死亡、送達不能、執行不能等ハ備考ニ記入スヘシ

第十二號　科料保證金受領簿（用紙美濃紙形横二ッ折）

進行番號	即決處分簿番號	氏名	科料保證金	言渡年月日	納入年月日	備考	收入印紙貼付欄
署長 取扱者			金　圓　錢也	大正　年　月　日	大正　年　月　日		

切取線

○取扱者契印

領收證　○……取扱者印
一金　圓　錢也
但　年　月　日書渡科料收入印紙
拘留　日保證金
右領收候也
大正　年　月　日
殿
警察〔分〕署印

●囚人及刑事被告人押送規則（抄錄）

明治三十一年十一月二十六日
勅令第四百十五號

第三條　被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ押送スル者ハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一　物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二　貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但シ五圓未滿ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

第四條　前條ニ依リ送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

附則

第十條　本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官（東京府ニ於テハ警視總監）之ヲ爲スヘシ

第十一條　本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

〔北海警〕

第十二條　明治十五年太政官達第十號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物商取締法（抄錄）

明治二十八年三月六日
法律第十三號

第十三條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若クハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察署ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

●質屋取締法（抄錄）

明治二十八年三月十三日
法律第十四號

第十五條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若クハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以內ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領收證書ヲ交付スヘシ

●保管金取扱規程、預金部預金取扱規程及政府保管有價證券取扱規程ニ依ル帳簿樣式

大正十一年四月二十六日
訓令第三十二號

內務部　支廳、警察署〔同分署〕警察醫署〔同分署〕築港事務所　土木派出所　農事試驗場　同支場、北海道水產試驗場　同支場　治水事務所　出納官吏取扱主任

大正十一年二月大藏省令第五號保管金取扱規程同省令第六號預金部預金取扱規程及同省令第八號政府保管有價證券取扱規程ニ依ル帳簿樣式ヲ左ノ通定ム

第一號

保管金整理簿

受入第號	保管金受領年月日	期滿失效年月日	拂出年月日	保管金額	保管ノ事由	保管金提出者氏名	取扱者認印
				圓			

備考

一　現金及預金部預金振込済通知書等ヲ提出シタルトキハ本簿ニ受入登記ヲ了シタル後保管金受領證書ヲ作成シ割印ヲ施シ交付スルコト

二　保管金ヲ拂渡ストキハ拂出年月日ヲ記載スルコト

三　受入第號ハ逐次號ヲ追フテ書込ムコト

〔北海警〕

第二號

政府保管有價證券整理簿

受入番號	受入年月日	有價證券及同振込済通知書番號	期滿失效年月日	拂出年月日	證券種別	枚數	券面額	券面番號及回數	保管ノ事由	提出者氏名	取扱者認印
							圓				

備考

一　政府保管有價證券及政府保管有價證券振込済通知書ヲ提出シタルトキハ本簿ニ受入登記ヲ了シタル後政府保管有價證券受領證書ヲ作成シ割印ヲ施シ交付スルコト

二　政府保管有價證券ヲ下戾スルトキハ拂出年月日ヲ記載スルコト

三　受入番號ハ逐次號ヲ追フテ書込ムコト

第三號甲

政府保管有價證券受拂簿

年月日	摘要	受入		拂出		殘高	
		枚數	券面額	枚數	券面額	枚數	券面額
			圓		圓		圓

備考

一 本簿ハ政府保管有價證券ノ受入拂出アルトキハ枚數券面額ヲ登記スルモノトス

二 本簿ハ月計累計ヲ記スルモノトス

【北海道】

第三號乙

政府保管有價證券受拂簿

年月日	摘要	受入		拂出		殘高	
		枚數	券面額	枚數	券面額	枚數	券面額
			圓		圓		圓

備考

一 本簿ハ政府保管有價證券振込濟通知書、政府保管有價證券ノ受託證書ニ記載ノ枚數券面額ニヨリ受入拂出ヲ登記スルモノトス

二 前項振込濟通知書ト受託證書トハ區分ヲ要セス混記スルモノトス

三 本簿ハ月計累計ヲ記スルモノトス

四 日本銀行ヨリ政府保管有價證券月計突合表ヲ提出シタルトキハ本簿ト照對ノ上證明スルモノトス

●保管現金物品ヲ亡失毀損シタル場合報告方 【北海道】

明治三十四年三月十五日
訓第百八十六號

（文書 警察署 師範學校 中學校 函館商業學校 種畜場 小樽築港事務所）

水火盜難其他ノ事故ニ因リ保管ノ現金物品ヲ亡失毀損シタル場合ニハ左ノ區別ニ依リ即時報告スヘシ

但シ明治二十九年六月訓第百六十七號ハ廢止ス

一 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ政府ノ損失ヲ生シタルトキハ左ノ書類添附ヲ要ス
  一 出納官吏ノ顛末書
  二 損失金額所管並金種類ノ區分調書
  三 監督ノ任アル官吏ノ實況調書
  四 盜難又ハ遺失ニ由リ告訴告發紛失屆遺失屆等ヲ爲シタルトキハ其ノ書類ノ謄本
二 出納官吏保管ノ物品ヲ亡失毀損シタル者ニ對シ辨償ヲ命シタルトキハ左ノ書類添附ヲ要ス
  一 亡失毀損ニ係ル物品ノ名稱數量
  二 同上價格調書
  三 辨償命令書ノ謄本
三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ
四 出納官吏ニ辨償ヲ命シ之カ辨償ヲ終ヘ若ハ終ヘサルニ依リ私訴ヲ提起シタルトキ
五 前二項私訴ニ對スル裁判所ノ判決執行ノ結果

●保管證書出納事務取扱手續

大正七年二月二十八日
訓令第十一號

（廳中一般 文書・營林區署〔同分署〕 築港事務所 土木派出所 農事試驗場 水產試驗場 出納官吏 保管證書出納主任）

保管證書出納事務取扱手續左記ノ通相定ム

保管證書出納事務取扱手續

第一條 保管證書ノ出納ハ本手續ニ規定シタルモノヲ除クノ外明治二十六年六月內務省訓第四四二號及明治二十六年大藏省令第二十號ニ據リ取扱フヘシ

第二條 現金若ハ有價證券ノ保管ヲ要スルモノアルトキハ當該事務取扱者ヨリ保管證書出納主任ニ對シ書式第一號ノ通知ヲ爲スヘシ

第三條 金庫交付ノ保管證書ヲ權利者ヨリ差出シタルトキハ保管證書出納主任ハ書式第二號ノ領收證書ヲ權利者ヘ交付スヘシ

第四條 保管證書ノ拂戻ヲ要スルトキハ權利者ヨリ第三條ノ領收證書ヲ差出サシメ當該事務取扱者ハ適宜ノ箇所ニ拂戻ノ事由ヲ記載シ之ヲ保管證書出納主任ニ送付スヘシ

第五條 保管證書出納主任ハ前後ノ領收證書ヲ受ケタルトキハ權利者ヲシテ其ノ裏面ニ領收ノ旨ヲ記載シ署名捺印セシメ引換ニ保管證書ヲ還付スヘシ

第六條 保管ニ係ル現金ヲ歲入ヘ編入スルトキハ當該事務取扱者ヨリ歲入徵收官（分掌官ヲ含ム以下同シ）及保管證書出納主任ニ其ノ事由ヲ報告スヘシ

歲入徵收官前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ保管證書出納主任ヲシテ保管證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ收入官吏ニ證書ノ引繼ヲ爲サシムヘシ

第七條 保管ニ係ル國債證券カ政府ノ所有ニ歸シタルトキハ當該事務取扱者ハ其ノ事由ヲ部局長ニ報告スヘシ

部局長ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ事由ヲ具シ大藏省ニ實渡方ヲ長官ニ上申スヘシ

第八條 部局長ハ國債證券買上ノ通知アリタルトキハ歲入ニ編入ノ事由ヲ歲入徵收官ニ報告シ同時ニ保管證書出納主任ヲシテ保管證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ歲入徵收官ニ證書ノ引繼ヲナサシムヘシ

第九條 保管ニ係ル國債證書以外ノ有價證券カ政府ノ所有ニ歸シタルトキハ當該事務取扱者ハ物品會計官吏及保管證書出納主任ニ其ノ事由ヲ報告スヘシ

保管證書出納主任前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ保管證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ物品會計官吏ニ證書ヲ引繼クヘシ

第十條 保管證書ハ部局長ノ判決ヲ得テ受拂ヲ執行スヘシ

第十一條 保管期限ノ延長、權利ノ移轉其ノ他保管證書ノ變更ヲ要スルトキハ當該事務取扱者ヨリ之ヲ保管證書出納主任ニ通知スヘシ

第十二條 保管證書出納主任ハ第三號書式ノ保管證書出納簿第四號書式ノ保管證書出納補助簿ヲ設ケ受拂ノ登記ヲ爲スヘシ

第十三條 明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程第六條ニ依ル現金又ハ有價證券ノ受拂ヲ爲ストキハ書式第四號ニ準シ領收證書受拂簿ヲ設ケ登記スヘシ

附 則

本手續ハ大正七年三月一日ヨリ施行ス

第一號書式

保管金通知書

一金何圓 （現金ナルトキノ記載例）
一何々公債證書額面何百圓也 （有價證券ノ記載例）
內譯何百圓券何號何番同何番何枚（未拂期附屬利札ヲ記スコト）
權利者住所氏名

〔北海事〕

保管スヘキ法令適用條項
保管ノ事由
保管期限
保管金庫
右寄託通知書發付相成度候也
年 月 日
保管證書出納主任殿
何部何課

第二號書式 寸法適宜

保管證書領收原符

第 號 年 度 納人 氏 名
契約保證金（何々）
一金何程 （現金ノ記載例）
一 何々公債證書額面何百圓也 （有價證券ノ記載例）
保管證書番號第何號
但（保管ノ事由ヲ記載スルコト）
大正 年 月 日領收

印

第 號 年 度 納人 氏 名
契約保證金（何々）
一金何程 （現金ノ記載例）
一何々公債證書額面何百圓也 （有價證券ノ記載例）
保管證書番號第何號

領收

〔北海事〕

證書

但（保管ノ事由ヲ記載ノコト）
右保管證書領收候也
年 月 日
何組保管證書出納主任
官 氏 名㊞

領收證書裏面

表書ノ保管證書正ニ領收候也
年 月 日
住 所
氏 名㊞

第三號書式

保管證書出納簿

年月日		摘要	受入			拂出			殘高		
4	1	何之誰何々工事請負契約保證金	1.000	00	0				1.000	00	0
	1[illegible]	何之誰何々物品供給契約保證金	515	00	0				1.515	00	0
	30	何之誰契約履行濟ニ付下戻				515	00	0	1.000	00	0
		四月分計	1.515	00	0	515	00	0			

一 本簿ハ受入及拂出決議ニ基キ其ノ都度登記スヘシ
一 本簿ハ月計及累計ヲ現スヘシ
一 本簿ハ保管證書毎ニ登記スヘシ

第四號書式 保管證書出納補助簿

受入番號	受入年月日	拂戻番號	拂戻年月日	保管證書番號	摘要	金	額	權利者氏名

備考

一 本簿ハ種別毎ニ口座ヲ設ケ記載スヘシ（契約保證金又ハ身元保證金ノ類）
一 受入番號及拂戻番號ハ年度毎ニ改ムヘシ
一 摘要欄ニハ保管ノ事由及ヒ現金有價證券ノ區分ヲ記載スヘシ

第十章　遺失物及埋藏物竝漂流物關係

●遺失物法

明治三十二年三月二十四日
法律第八十七號

改正　大正二年法律第四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遺失物法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法

第一條　他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限ニアラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ノ返還ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條　警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手數ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス

賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス賣却處分ニ對シテハ出訴スルコトヲ得ス

第三條　拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第四條　物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條　第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條　第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過クルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條　拾得者ハ豫メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條　物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

物件ノ返還ヲ受クヘキ各權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シ第一項ノ例ニ依ルコトヲ得

法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニアラス

第九條　拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ横領シタルニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日内ニ第一條第一項又ハ第十一條第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受クルノ權利竝ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

第十條　管守者アル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船車建築物等ノ占有者ヲ以テ拾得者トス自己ノ管守スル場所ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者亦同シ

本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ物件ヲ拾得シタル者ト折半スヘシ

第十一條　犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ

前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノヲ除ク外本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ公訴權消滅ノ日ヨリ一箇年間還付ヲ受クル者ナキトキニ限リ拾得者ニ於テ所有權ヲ取得ス

犯罪捜査ノ爲必要ナルトキハ警察官ニ於テ公訴權消滅ノ日マテ公告ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條　誤テ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件又ハ逸走ノ家畜ニ關シテハ本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條　埋藏物ニ關シテハ第十條ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ準用ス

學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシテ其ノ所有者知レサルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ

埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スヘシ

本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六箇月內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條　本法及民法第二百四十條第二百四十一條ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取得ノ日ヨリ六箇月內ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

第十五條　本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付ヲ受クル者ナキトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス

第十六條　（削除）

附　則

第十七條　明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

〔北海書〕

●遺失物法施行細則

明治三十二年四月八日
內務省令第四號

遺失物法施行細則左ノ通之ヲ定ム

遺失物法施行細則

第一條　遺失物法第一條ニ定メタル公告ハ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模樣及拾得ノ場所、日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳記シ十四日間最寄揭示場ニ揭示シ仍貴重ノ物件ト認ムルトキハ官報又ハ新聞紙ニ揭載スルモノトス

第二條　遺失物法第十條ニ依リ管守者物件ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察官署ニ送付スルト同時ニ便宜最寄ノ場所ニ於テ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模樣及拾得ノ場所、日時ヲ揭示スヘシ但シ揭示ノ場所ヲ有セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　遺失物法第二條ニ依リ賣却ヲ要スル物件ニシテ高價ナリト認ムルモノハ公告シテ競賣ニ付スヘシ但シ即時ニ賣却セサレハ滅失又ハ毀損ノ虞アル物件又ハ公告ノ後競買人ナキ物件ハ此ノ限ニアラス

公告ハ其ノ地方慣行ノ方式ニ從ヒ之ヲ爲シ且公告ニハ競賣ニ付スル物件ノ名稱、種類、數量、擔任官吏ノ氏名、執行ノ場所、日時ヲ記スルヲ要ス

第四條　賣却物件ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス競賣ノ場合ニ於テ最高價競買人競賣當日ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物件ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其ノ物件ヲ競賣スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス

第五條　拾得ノ物件國庫ノ所有ニ歸シタルトキハ遺失物法第三條ニ依リ警察費ヨリ支辨シタル保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

●遺失物法施行細則第四條高價ノ物件ノ件

明治三十二年四月八日
內務省訓第三五七號

廳府縣（東京府ヲ除ク）

省令第四號第三條中高價ノ物件トアルハ大凡其價格參拾圓以上ノモノ又第一條中貴重ノ物件トアルハ參拾圓以上ノモノハ勿論假令價格ノ評定スヘカラサルモノト雖特ニ尊重スヘキ性質ノ物件ヲ指ス儀ト心得ラルヘシ

〔北海書〕

●遺失物法ニ依ル物件取扱規程

明治三十二年九月十五日
訓第五百十六號

改正　明治四一年訓第七八八號、大正一二年第六四四號

內務部　文書　警察署〔同分署〕
〔戶長役場〕

遺失物法ニ依ル物件取扱規程左ノ通リ定ム

遺失物法ニ依ル物件取扱規程

第一條　遺失物法ニ依ル物件ヲ拾得又ハ發見シ警察官署ニ差出シタル者アルトキハ第一號樣式ノ帳簿ニ其物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模樣、其他ノ事項ヲ詳記シ金員ニ在リテハ第四號樣式ノ保管金受領證書、有價證券ニ在リテハ第五號樣式ノ政府保管有價證券受領證書其他ノ物件ニ在リテハ第六號樣式ノ保管物品受領證書ヲ交付スヘシ

前項ノ受領證書ノ番號ハ帳簿ト同一番號ヲ記載スヘシ

第二條　途上急行ヲ要スル爲メ若ハ警察官署遠隔ノ地ナルカ爲メ前條ノ物件ヲ警察官署ニ差出サレンコトヲ巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ申出タルトキハ第二號樣式ノ帳簿ニ記入シ權利拋棄者ニハ納付證裏面ニ其旨記入セシメ假受領證ヲ交付スヘシ但貴重ノ物件又ハ金員ハ可成警察官署ニ差出サシムルコトヲ要ス

第三條　派出所巡査駐在所巡査前條ニ依リ物件ヲ受領シタルトキハ納付證ヲ添ヘ速ニ所轄警察官署ニ送付スヘシ

第四條　警察官署物件ヲ受領シタルトキハ金員ハ所屬歲入歲出外現金出納官吏ニ物品ハ保管物品取扱主任ニ保管セシメ第一號樣式品目數量又ハ金員ノ字ノ下ニ認印セシメ又ハ領收證ヲ徵シ置クヘシ

物品ニハ別記雛形ノ紙札ヲ繫付スヘシ

第五條　警察官署派出所巡査又ハ駐在所巡査ヨリ納付證ト共ニ物件ヲ受ケタルトキハ前條ニ依リ處分シ受領證ヲ本人ニ郵送又ハ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ派出所又ハ駐在所ニ第三號樣式領收證ヲ交付スヘシ

第六條　物主ヨリ物件ノ下渡ヲ申出タルトキ若ハ物主不明ニシテ拾得者又ハ發見者ニ下渡サントスルトキハ第一號樣式甲號裏面式ノ如ク署名捺印セシメ之ヲ交付スヘシ金員及有價證券ニ係ルトキハ先ニ交付シタル受領證書ニ式ノ如ク記名捺印セシメ之ト引換ニ交付スヘシ

第七條　拾得者又ハ發見者ニ下付シタル受領證ハ物件下渡ノ際徵收シ保存シ置クヘシ

第七條ノ二　遺失物法第十五條ニ依リ拾得物品國庫ノ所有ニ歸シタルトキハ特別ノ規程アルモノヲ除クノ外六箇月間ニ之ヲ賣却シ歲入ニ編入スルノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　物件ノ賣却權利拋棄其他取扱上參考トナルヘキコトハ詳細備考欄內ニ記入スヘシ

第九條　遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝若クハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノ場合ニ於テハ其品質、形狀、發掘ノ年月日、場所及口碑其他徵證ト爲スヘキ事項等ヲ詳記シ模寫圖ヲ添ヘ速ニ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ警察部ニ於テ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ通報スヘ

シ

一　古墳關係其他學術技藝若クハ考古ノ資料ト爲ルヘキモノハ　宮内省

二　石器時代遺物ハ　東京帝國大學

第十條　東京帝國大學職員カ前條ノ埋藏物ヲ發掘シタル場合ニ於テ携帶歸學ノ必要ヲ申出タルモノアルトキハ假領收書ヲ徵シ便宜之ヲ交付スルコトヲ得但古墳ノ疑アル場合ニ於テハ同職員ニ於テ豫メ宮内省ノ同意ヲ得テ發掘ニ着手シタルコトヲ明記セシムヘシ

前項ノ取扱ヲ爲シタルトキハ同大學職員名、同大學ニ於テ宮内省ノ同意ヲ得タルニ付携帶歸學ヲ認メタルコト及前條規定ノ各事項ヲ詳具シ速ニ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ警察部ニ於テ内務省及宮内省ニ報告スヘシ

第十一條　警察官署ニ於テ第九條ノ埋藏物ヲ宮内省又ハ東京帝國大學ニ送付ノ通報ヲ受ケタルトキハ假領收書ヲ徵シ物件ノ毀損セサル樣裝置シテ之ヲ發送シ運送ニ要スル費用ハ警察費ヲ以テ支辨セス輸送受托債權者ノ請求書ヲ徵シ之ヲ宮内省又ハ東京帝國大學ニ回付スヘシ

第十二條　宮内省又ハ東京帝國大學ニ於テ貯藏ノ必要アル旨通知ヲ受ケタル埋藏物ニシテ公告後法定ノ期間ヲ經過シ所有者發見セス所有權國庫ニ歸屬シタルトキハ其宮内省ニ係ルモノハ相當代價ヲ以テ同省ニ讓渡シ東京帝國大學ニ係ルモノハ同學ニ保管轉換ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ宮内省ヘ讓渡スル場合ニ於ケル讓渡價格ハ該物件ニ關シ國庫ニ於テ支出シタル金額ト爲スヘシ

第十三條　宮内省又ハ東京帝國大學ニ於テ貯藏ノ必要ナキ旨通報ヲ受ケタル埋藏物ハ學術技藝若クハ考古ノ資料ニ供スヘキ物件ノ取扱ヲ爲サス法定期間經過後發見者ニ交付スル等便宜ノ處分ヲ爲スヘシ

第十四條　警察官署ニ於テ前二條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ其旨報告スヘシ

籤形（厚紙）　二寸

表面

明治　年

第　號

拾得者又ハ發見者　氏　名

裏面

一何　何

又ハ

一何　何

何個ノ内一

第一號樣式（用紙寸法半紙判半截）　表面

第　號

署長認印

取扱者

一名　稱○　品質種類模樣形狀　○數量

保管物品取扱主任

一金　圓○　五拾錢銀貨　○二枚

歲入歲出外現金出納官吏認印

發見又ハ拾得年月日時

場所

受領年月日

公告年月日

拾得者又ハ發見者本籍住所居所

氏　名

備考

同　裏面

署長認印　取扱者

署長認印　取扱者

表書ノ金品ニ對シテハ拙者ニ下付セラルル場合ニモ其下付ヲ望マス候

表書ノ金品ニ對シテハ報勞金ヲ望マス候

年　月　日

氏　名印

表書ノ物件御下渡相成正ニ領收候也

年　月　日

失者（拾得又ハ發見者）

住所（居所）

氏　名印

報勞金　圓授受候也

失者　氏　名印

拾得者又ハ發見者　氏　名印

第二號樣式

第　號　取扱者巡査

一名稱　品質　種類　模樣　形狀　數量

表

第　　號

物納付證

一名稱　品質　種類　模樣　形狀　數量

明治　年　月　日　時

於テ

前記ノ物件得者要務ノ都合ニ依リ當所ヘ差出シタルヲ以テ假受領證付與致置候也

明治　年　月　日

派出所
駐在所　巡査

面

第　　號

物假受領證

一名稱　品質　種類　模樣　形狀　數量

右ハ　警察〔分〕署ニ差出スヘキ分當所ヘ差出シタルヲ以テ假リニ此證書ヲ付與候也

年　月　日

派出所
駐在所　巡査

殿

〔北海警〕

裏

此假受領證請取後一箇月以上ヲ經過シ表記警察官署ヨリ受領證ノ交付ヲ受ケサルトキハ郵便又ハ便宜ノ方法ヲ以テ受領證ヲ請求スヘシ

表書ノ金品ニ付テハ拙者ニ下付セラルル場合ニモ下付ヲ望マス候

表書ノ金品ニ付テハ報勞金ヲ望マス候

年　月　日

氏　　名印

面

年　月　日　時　　ニ於テ

年　月　日

住　所
居　所

拾得者（發見者）氏　　名印

〔北海警〕

第三號樣式

第　　號

物領收證　○　取扱者認印

署長認印

一名稱　○　品質種類模樣形狀　數量

前書ノ物件正ニ領收候也

年　月　日

警察〔分〕署　印

巡査　　殿

第四號樣式（用紙寸法半紙判半截）表面

保管金受領證書

第　　號

金

保管ノ事由

上記金額領收候也

年　月　日

何警察署〔分署〕取扱主任官　官氏　名印

何某宛

上記金額領收候也

年　月　日

住所

氏　　名印

何警察署〔分署〕取扱主任官宛

裏面

拾得物發見者心得

一　遺失物法ニ依ル物件（次項ニ係ルモノヲ除ク）ハ公告ヲ爲シタル後一ケ年内（埋藏物ハ六ケ月）内ニ其主ナキトキハ之ヲ得者ニ支給ス依テ得者ハ一ケ年（埋藏物ハ六ケ月）ニ滿チタルトキハ當署ヘ此證書持參物件ノ引取方ヲ申出ツヘシ若シ所有權取得ノ日ヨリ六ケ月内ニ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

一　犯罪者ノ置去リタルト認ムル物件ハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノ

ト認ムルモノヲ除ク外公訴權消滅ノ日ヨリ一ケ年間還付ヲ受クル者ナキトキニ限リ拾得者ニ下付スルモノトス

一　物主知レタルトキハ其物件ハ之ヲ失者ニ還付スヘシ但報勞トシテ得者ハ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル金員ヲ給セラルヘシ

一　拾得者轉居シタルトキハ此證書ノ番號ヲ記シ當署ニ屆出ツヘシ但遠隔ノ地ニ轉居シタルトキハ最初屆出テタル地ニ住居シ居ル者ヲ代人ト定メ其居所氏名ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆ハ郵便ニ依ルモ差支ナシ

一　此證書ヲ亡失シタルトキハ直チニ當署ニ屆出テ再ヒ證書ヲ請取ルヘシ

第五號樣式（用紙寸法半紙判半截）表面

政府保管有價證券受領證書

第　號

保管日附　下記證券領收候也

保管ノ事由

何警察署〔分署〕取扱主任官　官　氏　名㊞

何某宛

證券種別	枚數	券面額	券面記番號及回數別	備考

上記證券拂渡ノ證書領收候也

年　月　日

住　所

氏　名㊞

何警察署〔分署〕取扱主任官宛

【[illegible]】

同　裏面

拾得物發見者心得

一　遺失物法ニ依ル物件（次項ニ係ルモノヲ除ク）ハ公告ヲ爲シタル後一ケ年內（埋藏物ハ六ケ月內）ニ其主ナキトキハ之ヲ得者ニ支給ス依テ得者ハ一ケ年（埋藏物ハ六ケ月）ニ滿チタルトキハ當署ヘ此證書持參物件ノ引取方ヲ申出ツヘシ若シ所有權取得ノ日ヨリ六ケ月內ニ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

一　犯罪者ノ置去リタルト認ムル物件ハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノト認ムルモノヲ除ク外公訴權消滅ノ日ヨリ一ケ年間還付ヲ受クル者ナキトキニ限リ拾得者ニ下付スルモノトス

一　物主知レタルトキハ其物件ハ之ヲ失者ニ還付スヘシ但報勞トシテ得者ハ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル金員ヲ給セラルヘシ

一　拾得者轉居シタルトキハ此證書ノ番號ヲ記シ當署ニ屆出ツヘシ但遠隔ノ地ニ轉居シタルトキハ最初屆出テタル地ニ住居シ居ル者ヲ代人ト定メ其居所氏名ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆ハ郵便ニ依ルモ差支ナシ

一　此證書ヲ亡失シタルトキハ直チニ當署ニ屆出テ再ヒ證書ヲ請取ルヘシ

第六號樣式（用紙寸法半紙判半截）表面

第　號

保管物品受領證書

前記物品領收候也

年　月　日

何警察署〔分署〕取扱主任　官　氏　名㊞

何某宛

同　裏面

拾得物發見者心得

一　遺失物法ニ依ル物件（次項ニ係ルモノヲ除ク）ハ公告ヲ爲シタル後一ケ年內（埋藏物ハ六ケ月內）ニ其主ナキトキハ之ヲ得者ニ支給ス依テ得者ハ一ケ年（埋藏物ハ六ケ月）ニ滿チタルトキハ當署ヘ此證書持參物件ノ引取方ヲ申出ツヘシ若シ所有權取得ノ日ヨリ六ケ月內ニ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

一　犯罪者ノ置去リタルト認ムル物件ハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノト認ムルモノヲ除ク外公訴權消滅ノ日ヨリ一ケ年間還付ヲ受クル者ナキトキニ限リ拾得者ニ下付スルモノトス

一　領置ノ物件滅失毀損ノ虞アルトキ又ハ其保管ニ不相當ノ費用若クハ手數ヲ要スルトキハ賣却スルコトアルヘシ

一　法令ノ規定ニヨリ私ニ所有スルコトヲ禁シタル物件ハ下渡ササルモノトス

一　物主知レタルトキハ其物件ハ之ヲ失者ニ還付スヘシ但報勞トシテ得者ハ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル金員ヲ給セラルヘシ

一　拾得者轉居シタルトキハ此證書ノ番號ヲ記シ當署ニ屆出ツヘシ但遠隔ノ地ニ轉居シタルトキハ最初屆出テタル地ニ住居シ居ル者ヲ代人ト定メ其居所氏名ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆ハ郵便ニ依ルモ差支ナシ

一　此證書ヲ亡失シタルトキハ直チニ當署ニ屆出テ再ヒ證書ヲ請取ルヘシ

【[illegible]】

●警察官吏拾得シタル場合取扱方

明治三十二年六月八日
警甲第一九號ノ內警保局通牒
廳府縣（東京府愛媛縣ヲ除ク）

遺失物法取扱ニ關シ甲號ノ通愛媛縣知事ヨリ問合アリ乙號ノ通回答致候條爲御參考及通牒置候也

甲號

愛媛縣問合

遺失物件取扱上左ノ件々疑義有之候條貴見及御問合候也

一　遺失物法ニハ警察官吏ニ係ル明文ナシ故ニ一般人民同樣取扱ヒ可然哉

二　前項然リトセハ遺失物法施行以前ニ於テ已ニ警察官吏ノ拾得ニシテ榜示後保管中ノモノモ倘拾得者タル警察官吏ニ給付スヘキカ

乙號

警保局回答（警甲第一九號）

本年四月二十八日付警保發第一七〇號ヲ以テ遺失物件取扱ニ關シ御問合ノ趣了承右ハ官吏職務上拾得シタルモノハ國庫ニ於テ拾得シタルモノトシ御取扱相成度從テ遺失物法施行前拾得ニ係ル物件モ右ニ據リ御取扱相成度此段決裁ヲ經テ及回答候也

●公告方法及取得期間起算方

明治三十二年七月二十四日
警甲第三七號警保局通牒
廳府縣（東京府ヲ除ク）

遺失物法施行規則第一條ニ依リ官報又ハ新聞紙ニ揭載スルハ十四日ノ揭示期間ニ一回又ハ數回必要ト認ムル程度ニ於テスヘキモノニシテ揭示期間引續キ揭載ヲ要スル義ニハ無之其ノ揭載ノ如キモ必スシモ廣告欄ニ公告ヲ要セス彙報　雜報、公文欄等ニ便宜ノ方法ヲ以テ記載セシメラレ可然要スルニ廣ク告知ノ手段ヲ盡サシムルノ趣旨ニ過キス尤モ民法第四百二十條ノ所有權取得期間ハ官報新聞紙ノ揭載如何ニ拘ハラス揭示期間滿了ノ次日ヨリ

起算スル義ニ候條右樣御了知相成度疑義有之哉ニモ聞及候ニ付依命此段及通牒候也

●官廳其他ノ構内ニ於テ拾得シタル物件ニシテ國庫ノ所有ニ歸シタル場合取扱方

明治三十三年五月九日
警甲第一〇號ノ内内務次官通牒

廳府縣　土木監督署　衞生試驗所　神宮司廳

遺失物法第十條ニ依リ官廳ニ屬スル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ拾得シタル物件ニシテ國庫ノ所有ニ歸スル場合ハ其ノ拾得屆ヲ受ケタル警察官署ニ於テ現金ハ直ニ收入シ物品ハ賣却ノ上收入シ特別會計ニ屬スル官廳カ拾得者タル場合ハ現金物品トモ其ノ官廳ニ引繼クコトニ各省協議濟ニ付依命此段及通牒候也

●葉煙草、製造煙草其他ノ取扱方

明治三十八年七月一日
警甲第二八號ノ内警保局通牒

廳府縣

遺失物法ニ依リ屆出ヲ受ケタル葉煙草、製造煙草、煙草代用品及其ノ原料煙草製造器械並ニ卷紙取扱方ニ關シ大藏省ト協議ノ上別紙各項ノ通決定候ニ付依命此段及通牒候也

一　葉煙草、政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草（葉煙草專賣法ニ依リ民間ニ於テ製造シタル製造葉煙草ヲ除ク）煙草製造專用ノ器具機械、卷紙ハ物件返還ヲ受クヘキ者煙草專賣法ニ依リ右物件ヲ所有スルコトヲ認メラレタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ依リ之ヲ返還スヘキハ勿論ナルモ其他ノ場合ニ於テハ右等物件ハ煙草專賣法ニ依リ私ニ所有スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ其ノ屆出ヲ受ケタルトキハ遺失物法第一條第一項但書及同第八條第三項ニ依リ之ヲ處分シ其ノ葉煙草ハ最寄葉（煙草收納所）ニ其ノ他ノ物件ハ最寄（煙草製造所）ニ無償ニテ引繼ヲ爲スヘシ

二　物件ノ返還ヲ受クヘキ權利者煙草專賣法ニ依リ右等物件ヲ所有スルコトヲ認メラレタル者ナルトキト雖トモ其ノ權利ヲ拋棄シ又ハ法定期間内ニ於テ引取ヲ爲サス爲メニ右物件國庫ニ歸シタル場合ニ於ケル該物件ノ處分ハ前項ニ同シ

三　遺失物法第二條第一項ニ依リ前項ノ物件ヲ處分セントスルトキハ第一項ノ區分ニ依リ有償引繼ヲ爲スヘシ但シ第二條第一項ノ處分ハ事實已ムヲ得サル場合ニ於テ之ヲ爲スヲ要ス

四　政府ノ證票アル製造煙草舊葉煙草專賣法ニ依リ民間ニ於テ製造シタル製造煙草代用品及其ノ原料、煙草製造專用ニアラサル器具機械遺失物法第十五條ニ依リ國庫ニ歸屬シタルトキハ政府ノ證票アル製造煙草ハ最寄（煙草製造所）ニ無償引繼ヲ爲シ煙草代用品及其ノ原料ハ之ヲ廢棄シ其ノ他ノ物件ハ一般遺失物ノ例ニ依リ適宜處分スヘシ

五　物件引繼ノ爲メ要スル運搬費ハ引受官署ニ於テ負擔ス

●遺失鹽取扱方

明治三十九年四月十三日
祕乙第五二號警保局通牒

廳府縣（東京府ヲ除ク）

遺失物法ニ依リ屆出ヲ受ケタル鹽ニシテ政府ヨリ賣渡タルモノニアラサルトキハ鹽專賣法第三十四條ニ依リ該鹽ハ（鹽務局）ヘ交付可相成ハ勿論ニ候得共政府ヨリ賣渡タルモノナルコト判明ナラサル鹽モ遺失物法第二條ニ依リ處分シ而シテ該鹽ハ之ヲ賣却セス所轄（鹽務局）ニ交付シ專賣法第三十四條ノ賠償金ヲ以テ賣却代金ト看做シ處理候樣致度依命此段及通牒候也

追テ右運搬ニ要スル費用ハ（鹽務局）ニ於テ支辨スル筈ニ有之候

●遺失公債證書取扱方

明治四十年十月九日
警甲第二四號警保局通牒

廳府縣（東京府ヲ除ク）

公私債證書證遺失ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付テハ豫テ御問合ノ向ニ對シ舊遺失物取扱規則ニ於テハ遺失物ヲ以テ論セサルノ明文アリタルニ依リ格別ナレトモ新法ニ在リテハ之レニ異ルヲ以テ法定期間内ニ遺失者不明ノ場合ニハ拾得者ニ交付スヘキ筈ノ者ニ可有之尤モ此場合ニ於テハ公告又ハ其ノ他ノ方法例ヘハ其ノ發行者ニ照會シ且執レノ場合ニテモ公示催告ニ注意シ殊ニ記名式ノモノニ在テハ記名者ニ通知スル等ノ方法ニ依リ可成返還ノ途ヲ求メラレタキ旨經伺ノ上申達置候處國債證券及利札紛失ノ場合ニ付テハ日本銀行ニ於テ官報ニ廣告スヘキニ付右拾得ノ屆出アリタルトキハ官報廣告ニ依リ或ハ日本銀行、其取扱店又ハ派出所ニ就キ紛失屆出ノ有無ヲ確メタル上相當措置相成候樣致度此段及通牒候也

追テ國債證券ニ付テハ客年七月一日以降滿六ケ年内利札（現ニ證書ニ附著セルモノヲ除ク）ニ在リテハ仕拂期限後四ケ年内ニ拾得屆出アリタル場合ニ於テ同年七月一日以前紛失ノ屆出ノ官報廣告有之ヤ否ヤヲ御取調相成度此段申添候也

●拾得金品ニシテ價額ノ少ナキモノ便宜處分ノ件

大正元年十一月十六日
警第九〇一號警保局依命通牒

廳府縣（東京府ヲ除ク）

遺失物法ニ依ル拾得金品ニシテ其ノ價格ノ少キモノニ在テハ拾得者ニ下付スル等便宜ノ處分ヲ爲シ得ルノ規定ヲ設ケラレタキ旨申出ノ向有之候處右ハ同法第七條ヲ活用スルニ於テハ便宜ノ處分ヲ爲シ得ル次第ニ付相當御措置相成候樣致度依命此段及通牒候也

●拾得屆出ニ係ル郵便爲替及小爲替券處理ニ關スル件

大正十二年八月四日
發警第七四號内務省通牒

標記ノ件ニ關シ大正六年十二月三日内務省閣警第六號通牒中第二項受領人無指定ニ係ル郵便小爲替ノ取扱方ニ付テハ今後左記ニ依リ御處理相成度候

受取人無指定郵便小爲替證書拾得屆出アリタル場合ノ取扱方

一　警察官署ニ於テ有效期間内ニ於ケル郵便小爲替證書ノ拾得屆出アリタルトキハ其ノ記號番號振出局名、同月日並ニ金額等相當臺帳ニ登錄シ直ニ該證書ヲ貯金局ニ送付スルコト

二　貯金局ニ於テ前項ノ爲替證書ニ對シ有效期間内ニ再證書ノ發行又ハ爲替金拂戾ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求者ニ對シ爲替證書ハ警察署ニ拾得屆出アル旨ヲ通知シ一面警察官署ニ對シ當該證書ヲ送付スルコト

三　貯金局ニ於テハ第一項ノ爲替證書ニ對シ有效期間經過後再度證書ノ發行若クハ爲替金拂戾ノ請求ヲ受ケタルトキハ警察官署ニ其ノ旨通知シ一面請求人ニ對シテハ警察官署ニ拾得屆出アルモノニ付警察官署ニ出頭ノ上相當措置ヲ了スヘキ旨ヲ通知スルコト

四　警察官署ニ於テ前二項ノ通知ヲ受ケタルトキ再度證書ノ發行又ハ爲替金拂戾請求者ト拾得者トノ間ニ措置ヲ了セシメタル上貯金局ニ其ノ旨ヲ通知スルコト此ノ場合ニ於テハ該請求者ヲシテ拾得者ニ對シ遺失物法ノ規定ニ準シ報勞金ヲ贈與セシムルコト

五　貯金局ニ於テ前項通知ヲ受ケタルトキハ一般ノ例ニ依リ相當措置スルコト

六　第一項ノ場合ニ於テ警察官署ヨリ爲替證書ノ送付前貯金局ニ於テ既

ニ再度證書ノ發行ヲ爲シ又ハ爲替金ノ拂戾ヲナシタルモノハ直ニ警察官署ニ其ノ旨ヲ通知シ警察官署ハ拾得者ニ其ノ屆出ニ係ル小爲替證書無效ノ旨ヲ通知スルコト

七　小爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタルモノノ拾得屆出アリタル場合ニ於テハ警察官署ハ其ノ無效ナル旨ヲ拾得者ニ指示シ之カ害用ノ弊ヲ防ク爲任意警察官署ニ提供セシメ直チニ貯金局ニ送付スルコト

八　警察官署ニ於テ有效期間ヲ經過セサル爲替證書拾得ノ屆出後一年ヲ經過シタルトキハ遺失物ニ依ル取扱ヲ爲サス拾得者ニ對シテハ郵便爲替法トノ關係ヲ告知シ警察官署ニ於テ臺帳ノ登錄事項ヲ抹消セス其ノ儘處理シ置クコト

九　前項ノ場合ニ於テ警察官署ニ於テ第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遺失物法ノ規定ニ準シ第四項ト同一ノ措置ヲ了セシムルコト

一〇　再度證書ノ發行又ハ爲替金拂戾ノ請求ナクシテ爲替證書ノ有效期間經過後三年間ヲ經過シタルトキハ爲替法ノ規定ニ依リ郵便官署ニ於テ爲替金ノ國庫歸屬處分ヲナスヘキニ付警察官署ニ於テハ臺帳中之ニ該當スヘキ爲替證書ヲ調査シ臺帳記載事項ヲ抹消シ事件ノ結了トナスコト

●拾得物件ノ時效ニ關スル件

大正十三年三月四日
阪警第一二號警保局通牒
廳府縣長官（大阪東京ヲ除ク）

拾得物件引取期間滿了ニ關シ大阪府知事ヨリ別紙甲號ノ通リ照會有之候ニ對シ乙號ノ通リ回答致置候條御了知相成度候

（甲號）

大阪府照會
大正十二年十一月三十日
會第三三九二號

遺失物ヲ拾得シタル者遺失物法第十四條ニ依リ其ノ所有權ヲ取得シ當該期間ノ最終日ハ恰モ休日ニ當リ警察官署ハ該物件ノ拂渡ノ事務ヲ取ラサルヲ知リ翌月曜日ニ之カ請求ノ爲メ出頭セリ此ノ場合ニ於ケル效力ノ如何ニ付テハ現今我國ノ各官廳ハ事務受付時間ニ別段ノ制限ナク縱令休日ト雖モ宿直員ヲ置キ執務セル慣習ナレハ請求ナキ以上當然當日ヲ以テ失效ト相成ルヘキ義ト信シ居候得共休日ニ於テハ現實ニ本件拂渡ノ事務ヲ爲ササルモノナレハ民法第百四十二條ニ該當シ翌日ハ猶效力ヲ有スルモノトスル意見モ有之疑義ニ涉リ候條何分ノ御指示相煩度候也

（乙號）

警保局回答
大正十三年三月四日
阪警第一二號

大正十二年十一月三十日付會第三三九二號ヲ以テ拾得物件ノ引取期間ノ滿了ニ關スル件御照會相成候處本件ハ日曜日其ノ他ノ休日ニ遺失物ノ引渡ヲ爲ササルノ慣習アルニ於テハ其ノ翌日ニ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ民法第百四十二條ノ規定ニ從ヒ御處理相成可然モノト存候

【北海警】

●遺失物法ノ適用ニ關スル件

昭和二年九月七日
內務省警保局通牒
廳府縣長（東京府及和歌山縣ヲ除ク）

本件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答致置候條御了知相成度

（甲號）

和歌山縣照會
昭和二年八月五日
保第五一八八號

近時洋鳥類ノ飼養特ニ流行シ各階級ヲ通シ愛玩又ハ副業トシテ之カ飼畜盛トナリ隨而此等鳥類ノ逸走又ハ拾得共ニ多ク往々警察署ニ拾得ノ屆出ヲ爲スモノ有之候處右ハ逸走ノ家畜ト看做シ遺失物法第十二條ヲ適用ス

ヘキヤ又ハ家畜外ノ動物トシテ民法第百九十五條ヲ適用スヘキモノナリヤ聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相煩度此段及稟伺候也

（乙號）

內務省警保局回答
昭和二年九月七日
內務省發和警第一一號

本件ニ關シ八月五日保第五一八八號附ヲ以テ御照會ニ係ル洋鳥ノ如キハ通常野生セスシテ人ノ飼養ニ依リ生育シ且相當ノ賣買價値ヲモ有スル次第ニ付逸走ノ家畜トシ遺失物法ヲ適用相成可然　右經伺ノ上

【北海警】

●遺失金貨取扱方ノ件

大正十年十二月二十六日
內務省阪警第四三號

遺失物件取扱方ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答置候條御承知相成度候

（別紙）

甲　號

會第二〇一二號（大正十年七月二日）

大阪府知事　池　松　時　和

內務省警保局長湯地幸平殿

遺失物件取扱方ノ件

遺失物中金貨ヲ其ノ所持ノ方法トシテ環ニ嵌メ込（時計若ハ帶留等ノ裝飾用ニ供シタルモノ）或ハ鎖鑰ヲ施シ開キ難キ容器ニ收メタル場合（セルロイド製ノ嚢中ニ在ルモノ）等有之候處金貨タルコトヲ認メ文字紋章等ニ對シ何等變改毀損ヲ加ヘサル場合ノ取扱方ニ關シ左記ノ通リ甲乙二說有之候條貴見承知致度目下差懸リタル事件モ有之候ニ付電報ニテ御回答相煩度此段及照會候也

甲　之ヲ金庫ニ寄托スル爲メ金貨ヲ包容物（環或ハ容器等）ヨリ取出スニハ包容物ニ毀損ヲ與ヘサレハ取出シ難ク卽チ遺失物ニ損害ヲ與ヘ而モ容器ヨリ取出スニ特殊ノ技術ヲ施ス場合ニハ之カ爲ニ費用ヲ要スル事ナキヲ保セス然ル時ハ利害關係人ニ損害ヲ與フルモノナリ而モ一旦之ヲ金庫ニ拂込ムトキハ明治三年頃發行セル五圓、拾圓等ノ金貨ニシテ容易ニ求メ難キモノト雖拂渡ノ際金庫ハ有合セノ通貨ヲ以テ仕拂ヒ遺失當時ノ金貨ヲ得サルヘシ然ルトキハ遺失者若ハ拾得者ノ所有權ヲ侵害スルノミナラス遺失物其ノ物ヲ交付シ權利者ヲ保護スル遺失物法ノ精神ニモ悖ルモノト認メラルルニ付之ヲ物品トシテ警察官署ニ保管スヘシ

乙　右ハ金貨ヲ所持スル一種ノ方法ニ過キサルヲ以テ保管物取扱規程（明治二十六年九月大藏省令第二〇號）ニ依リ金錢トシテ金庫ニ寄托スル爲前記甲號ノ如キ處分ヲ爲スモノニシテ多少遺失物ヲ毀損シ又ハ遺失當時ノ金貨ヲ與ヘサルモ規定ノ結果ニシテ權利ノ侵害ニアラス故ニ此ノ場合ハ現金トシテ寄托スルヲ當然トス

乙　號

阪警第四三號（大正十年十二月二十六日）

內務省警保局長

大阪府知事殿

遺失物件取扱方ノ件回答

七月二日附會第二〇一二號ヲ以テ遺失物件取扱方ニ關シ御照會相成候處右ハ金貨ニアラサル物件トシテ取扱可然ト存候右經伺ノ上申進候

●拾得金取扱方ノ件

大正六年十二月二十六日
大藏省往第一二五二三號大藏省主稅局長回答
金庫出納役宛

○照會

一　遺失物法第一條第二項ハ警察署ニ於テ返還ヲ受クヘキモノノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ卽時ニ公告ノ手續ヲ爲ササルヘカラサル

ノ主旨ト解シ從テ金庫ニ送付セラルル保管金ニ就テハ常ニ必ス期滿失效期日ヲ確定シ在ルモノト心得可然也

二　前項ノ結果失效期間ノ計算方ニ付テハ民法第百四十條ノ規定ニ從ヒ公告期間ノ初日ハ之ヲ算入セサル者トシテ金庫受理ノ日ヨリ起算シ一年半ト十五日ヲ以テ失效期間ノ最長期間ト心得可然也

三　遺失物法第二條ノ賣却代金ニ就テモ前各項同樣ト心得可然也

四　遺失物法第十一條ニ依ル拾得金ニ對スル公訴期間ハ警察官署ノ見込ヲ以テ算定セラレ期滿失效期日計算セラルヘキ儀ト心得取扱居候得共右ニテ可然也

○回答

一　遺失物ノ氏名居所共ニ不明ナル場合ニ於テハ可成速ニ公告ノ手續ヲ爲スヲ要スルモ必スシモ即時ニ公告セサルヘカラサル法意ニアラスト認ム又拾得金ヲ金庫ニ送付スルハ明治二十三年大藏省訓令第七十八號ノ次第モ有之特別ノ事由ナキ限リハ公告後數日ヲ經過シ尙遺失者ヲ知ル見込ナキ場合ニ限ル儀ト存候從テ保管ノ爲金庫ニ送付セラルル拾得金ニ付テハ來示ノ如ク送付書面上常ニ期滿失效期日ノ確定シ在ル儀ト存シ候

二　警察官署ノ爲スヘキ公告期間ハ其起算點ニ付遺失物法執行細則中特別ノ規定ナキヲ以テ公告ヲ爲シタル初日ヨリ起算シ十四日間ニテ終了スルモノト解スルヲ相當ト認ムヘキヲ以テ金庫カ拾得金ノ寄託ヲ受ケタル日ト送付書面上ノ期滿失效ノ期日トノ間ニ存スル日數ハ常ニ一年六ケ月ト十四日以內トナルヘキ筋合ト存シ候

三　第一項第二項ト同樣御取扱相成可然ト存候

四　遺失物法第十一條第二項但書ニ所謂公訴權消滅ノ日ハ刑事訴訟法第六條、第八條、第十條ニヨリ法律上確定スヘキモノナルモ公訴ノ時效期間ノ計算ニ關シ如何ナル刑ニ該當スル犯罪ナルヤハ事件ノ實際ニ就キ當該官吏ノ認定ニヨルノ外ナク而シテ其消滅ノ日ヨリ起算シ一年六箇月ニシテ失效ノ期間滿了スル次第ナレハ金庫カ寄託金ノ送付ヲ受ケタル日ト送付書ニ記載サレタル期滿失效ノ期日トノ間ニ存スル日數ハ當然一年六箇月以內トナルヘキ儀ト存シ候

尙犯罪搜査又ハ斷罪ノ資料トナルヘキ金錢ハ公訴權消滅ノ日マテ物品トシテ物品會計官吏ノ保管ニ屬スヘキ者ナレハ絕對ニ金庫ニ於テ受領スヘキモノニアラス但シ犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル金錢ナルモ犯罪搜査又ハ斷罪ノ資料トナラサル物件ハ所有者ニ還付スヘキモノナレハ此場合ニ於テハ普通ノ手續ニ依リ必ス廣告ヲ爲スヘキモノニシテ期滿失效ノ期日モ廣告期間滿了ノ翌日ヨリ起算スル等總テ普通ノ遺失物ノ場合ト異ナル所ナキ儀ト存シ候

【北海警】

●學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノトキ取扱方

明治三十二年十月二十六日
內務省訓第九八五號

廳府縣

遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝若クハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物ヲ發見シタルトキハ其ノ品質形狀發掘ノ年月日場所及口碑等徵證トナルヘキ事項ヲ詳記シ模寫圖ヲ添ヘ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ通知スヘシ

一　古墳關係品其ノ他學術技藝若ハ考古ノ資料トナルヘキモノハ宮內省
一　石器時代遺物ハ東京帝國大學

宮內省又ハ東京帝國大學ヨリ前項埋藏物送付ノ通知ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ徵シ物品ノ毀損セサル樣裝置シテ之ヲ送付スヘシ運送ニ關スル費用ハ警察費ヲ以テ支辨シ宮內省又ハ東京帝國大學ニ要求スヘシ

宮內省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要アル旨通知ヲ受ケタル埋藏物ニシテ公告後法定ノ期間ヲ經過シ所有者發見セス所有權國庫ニ歸屬シタルトキハ其ノ宮內省ニ係ルモノハ相當代價ヲ以テ同省ニ讓渡シ東京帝國大學ニ係ルモノハ同學ニ保管轉換ノ手續ヲ爲シ當省ヘ報告スヘシ

【北海警】

宮內省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要ナキ旨通知ヲ受ケタル埋藏物ハ學術技藝若クハ考古ノ資料ニ供スヘキ物件ノ取扱ヲ爲サス法定期間經過後發見者ニ交付スル等便宜ノ處分ヲ爲スヘシ

●學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノトキ取扱方

明治三十四年四月一日
熊甲第七號ノ內警保局通牒

廳府縣（東京府ヲ除ク）

遺失物法第十三條第二項ニ依リ取扱フヘキ埋藏物中宮內省又ハ帝國大學ニ於テ保管ノ必要ナシト認メタル物件ニシテ參考用トシテ廳府縣ニ於テ保存スル場合ニ於ケル取扱方ニ關シ本日訓令相成候處右ニ依リ廳府縣ニ於テ保存セントスルトキハ可成豫メ宮內省又ハ帝國大學ニ依賴シ其ノ適否ノ鑑別ヲ受ケ候上保存候事ニ御取扱相成候樣致度依命此段及通牒候也

●學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物取扱方

明治三十四年四月一日
內務省訓第二二一號

廳府縣（東京府ヲ除ク）

遺失物法第十三條ニ依ル學術技藝若クハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物取扱方ニ關シテハ三十二年十月訓第九八五號ヲ以テ訓令及置候處宮內省又ハ帝國大學ニ於テ保管ノ必要ナシト認メタル物件ニシテ地方長官ニ於テ教育其ノ他ノ參考トシテ保存ヲ要スト認ムルトキハ內務大臣ニ報告シ遺失物法第十三條第二項ニ依リ取扱ヒ廳府縣ニ於テ保管スルハ差支無之候而シテ發見者又ハ發見シタル土地所有者ニ給付スル相當代價ハ國庫費中（遺失物收得費）ノ目ヨリ支出スヘシ

●學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物ヲ宮內省ニ讓渡スル場合ノ價格

明治三十四年十一月二十一日
內甲第二六號警保局會計課通牒

廳府縣（東京府ヲ除ク）

遺失物法第十三條ニ依リ考古ノ資料等ニ供スヘキ物件宮內省ヘ讓渡スル場合ニ於ケル讓渡價格ハ該物件ニ關シ國庫ニ於テ支出シタル金額ト爲スコトニ決定相成候條右樣御取扱相成度依命此段及通牒候也

第十一章　檢査及證明

●會計檢査院法

明治二十二年五月十日
法律第十五號

改正（明治及大正ハ之ヲ略ス）
昭和二年法律第二六號、四年第二二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計檢査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計檢査院法

第一章　組織

第一條　會計檢査院ハ天皇ニ直隷シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條　會計檢査院ハ院長一員部長三員檢査官十二員ヲ置キ之ヲ會計檢査官トシ別ニ書記官專任二員副檢査官專任二十員及書記ヲ置ク

第三條　院長ハ親任、部長ハ勅任、檢査官ハ勅任又ハ奏任、書記官及副檢査官ハ奏任、書記ハ判任トス

勅任檢査官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條　會計檢査院ニ三部ヲ設ケ各部部長一員檢査官四員ヲ以テ檢査ノ事務ヲ分掌ス

第六條　會計檢査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計檢査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ休職ヲ命セラルルコトナシ

會計檢査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　父子兄弟ハ同時ニ會計檢査官トナルコトヲ得ス

第八條　會計檢査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條　會計檢査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一　第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二　第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三　第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四　檢査事務ノ規程計算證明ノ樣式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五　其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條　計算檢査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計檢査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章　職權

第十二條　會計檢査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ檢査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一　總決算

二　各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三　日本銀行ノ政府ノ爲取扱フ現金及有價證券ノ出納ニ關ル決算

四　政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル國體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

五　法律勅令ニ依リ特ニ會計檢査院ノ檢査ニ屬セラレタル決算

第十四條　會計檢査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ檢査確定スルト同時ニ左ノ事項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一　總決算及各省決算報告書ノ金額ト日本銀行ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二　歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ニ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三　豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條　會計檢査院ハ各年度ノ會計檢査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條　會計檢査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ檢査員及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ檢査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計檢査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計檢査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第四號團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　現金物品ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計檢査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計檢査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條　會計檢査院ハ計算書及計算證明ノ樣式竝ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條　會計檢査院ハ各官廳ヲシテ檢査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計檢査院長ハ檢査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地檢査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ檢査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

前二項ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル各官廳以外ノモノニ付之ヲ準用ス

第二十條　會計檢査院ハ出納官吏ノ計算證及證憑書類ヲ檢査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十條ノ二　會計檢査院ハ日本銀行ノ計算ヲ檢査シ正當ナリト判決シタルトキハ其旨ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ正當ナラスト決定シタルトキハ大藏大臣ニ移牒シテ相當ノ處置ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條　會計檢査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ　天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條　出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ樣式ヲ守ラサルトキハ會計檢査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條　政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計檢査院ニ於テ檢査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條　會計檢査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脫漏二重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐僞ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計檢査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章　附則

第二十五條　會計檢査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（大正十年四月法律第五三號）

本令施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年八月勅令第三九四號ヲ以テ第二條及第五條ノ改正規定ハ同年九月一日ヨリ此ノ他ハ大正十一年三月勅令第三〇號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

●計算證明規程

大正十一年三月十七日
會計檢査院達第一號

改正　大正一一年達第二號、一五年第一號、昭和二年第一號、第二號

大正四年會計檢査院達第一號計算證明規程左ノ通改正ス

計算證明規程

第一章　總則……四五一
第二章　歲入……四五一
第一節　通則……四五一
第二節　租稅……四五二
第三節　租稅外歲入……四五二
第三章　歲出……四五二
第一節　通則……四五二
第二節　支出……四五三
第三節　資金前渡官吏ノ出納……四五五
第四章　國庫金運用……四五六
第五章　國債……四五六
第六章　現金出納……四五六
第一節　通則……四五六
第二節　收入金……四五六
第三節　歲入歲出外現金……四五七
第四節　繰替拂現金……四五七
第七章　物品出納……四五七
第八章　國有財產……四五九
第九章　日本銀行……四五九
第十章　團體及諸營造……四六〇
附　則……四六一

計算證明規程

第一章　總則

第一條　計算書ハ改措塗抹ヲ爲スヘカラス若誤記脫字等ニ因リ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ畫シ之ニ捺印スヘシ

第二條　證憑書類ハ原本ニ限ル若原本ヲ提出シ難キトキハ當該主任者ノ保證アル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

外國文ヲ以テ記載シタル證憑書類ニハ譯文ヲ附スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三條　外國貨幣ヲ基礎トシ又ハ外國貨幣ヲ以テ收支ヲ爲シタルモノハ換算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ但シ別ニ定メアル外國貨幣換算價格ニ依リタルモノハ證憑書類ニ其ノ換算價格ヲ附記シ本文ノ書類ヲ省略スルコトヲ得

第四條　證憑書類中既ニ他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其ノ旨計算書ノ備考ニ記載スヘシ

第二章　歲入

第一節　通則

第五條　歲入徵收官ハ第一號書式ニ依リ毎月歲入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ニ於テ特ニ指定シタルモノ若ハ其ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

第六條　左ノ事項ハ最終徵收額計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ證明書ヲ添附スヘシ

一　年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由
二　調定誤謬其ノ他ノ爲拂戾ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

第七條　歲入徵收額計算書ニハ日本銀行月計突合表及別ニ指定スル明細書ヲ添附スヘシ

第八條　證憑書類ノ編纂ハ左ノ區分ニ依ル

一　内國稅ニ在リテハ各目ニ區分シ尙準據シタル條項ノ異ル毎ニ細分スヘシ

二　關稅、噸稅及稅關雜收入ニ在リテハ本國及各支署若ハ出張所毎ニ各目ニ區分スヘシ

三　其ノ他ノ歳入ニ在リテハ各目ニ區分シ事ノ複雜ナルモノハ尚適宜ニ細分スヘシ

證憑書類ノ表紙ニハ其ノ紙數及金額ヲ記載スヘシ

第二節　租稅

第九條　證憑書トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一　課稅基本ノ決定及其ノ取消變更ニ關スル決議書、申告書、檢査簿、査定簿等賦課徴收ノ基礎ヲ證明スヘキ一切ノ書類

二　課稅免除、徴收猶豫、延納許可ヲ爲シ若ハ之カ取消變更ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

三　滯納處分、擔保物件及收容貨物ノ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ之ニ關スル一切ノ書類

四　不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類

五　賦課又ハ滯納處分ノ引繼引受ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

六　前各項ノ外賦課徴收上ノ處理ニ關スル書類

第十條　證憑書類ハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ

第三節　租稅外歳入

第十一條　證憑書トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一　物件ノ賣拂、貸付、製造、修繕其ノ他收入ニ關スル決議書、契約書、賣渡請求書等徴收ノ基礎ヲ證明スヘキ一切ノ書類

二　延納ヲ許可シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

三　滯納處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

四　不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類

會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略シタルモノハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第十二條　物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニ付一般競爭ニ付シタルモノハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

二　豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類

三　一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

前項ノ規定ハ隨意又ハ指名競爭ニ依リタル契約ニ付之ヲ準用ス

第十三條　競爭ニ付スルモ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ競爭ニ付シタルトキハ尚前回ノ競爭ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記シ尚競爭ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

第十四條　豫定代價千圓ヲ超ユル財産ノ賣拂、豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超ユル物件ノ貸付及二千圓ヲ超ユル其ノ他ノ契約ニシテ一般競爭ニ付セサルモノハ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ證憑書ニ附記シ尚會計規則第百十四條第一項第十九號乃至第二十一號ニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第十五條　國有財産ノ賣拂及貸付ニシテ隨意契約ニ依リタルモノハ其ノ賣拂價格又ハ貸付料ノ評定調書ヲ提出スヘシ

第十六條　物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニシテ變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ提出スヘシ

第十七條　證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第三章　歳出

第一節　通則

第十八條　支出官ハ第二號書式ニ依リ毎月支出計算書ヲ資金前渡官吏ハ第三號書式ニ依リ毎月前渡資金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

資金前渡官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ説明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

第十九條　資金前渡官吏ノ分任官ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任官ヲ經由スヘシ

第二十條　證憑書類ハ各目ニ區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算拂ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ附記スヘシ但シ各目ニ區分シ難キモノハ其ノ關係書類ト共ニ各項ニ區分編纂シ各目仕譯書ヲ添附スヘシ

概算拂ニ對スル精算證書ハ別ニ之ヲ編纂シ各目ニ區分スヘシ

資金前渡官吏ノ支拂ニ關シ領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ證憑書ノ表紙ニ附記シ爾後到達ニ從ヒ支拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ

資金前渡官吏ノ分任官ノ取扱ニ係ル證憑書ハ別ニ之ヲ編纂シ其ノ各目、金額、紙數及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

第二節　支出

第二十一條　左ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ説明書ヲ添附スヘシ

一　年度、科目其ノ他ノ更正若ハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

二　誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ依リ歳入ニ編入スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

第二十二條　受拂勘定ヲ爲スヘキ特別會計ニ屬スル最終支出計算書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ其ノ他ノ特別會計ニ在リテハ別ニ之ヲ指定ス

一　受拂勘定表竝物品會計官吏毎ニ區分シタル物品價格受拂仕譯書

二　年度末日計算表

三　固定資本價格增減表竝其ノ評價書類

四　物品ノ價格ヲ評定シ又ハ改定シタルモノアルトキハ毎件其ノ事由及計算ノ基礎ヲ示セル調書

五　支出未濟ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ毎件其ノ金額事由調書

六　代價收入濟ニシテ物品未渡ニ係ルモノ又ハ代價支出濟ニシテ物品未收ニ係ルモノアルトキハ毎件其ノ金額事由調書

七　既往年度代價收入濟ニ係ル物品ノ拂出ヲ爲シタルモノ又ハ既往年度代價支出濟ニ係ル物品ノ受入ヲ爲シタルモノアルトキハ毎件其ノ數量金額調書

八　賣渡代價確定未濟ニシテ物品ノ拂出ヲ爲シタルモノアルトキハ毎件其ノ數量金額事由調書

第二十三條　最終支出計算書提出ノ際概算拂、資金前渡ノ精算ニ至ラサルモノ、前金拂ニ係ル工事、製造又ハ物件ノ買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノ、年度、科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未濟ニ係ルモノアルトキハ其ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

最終支出計算書提出ノ後年度科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

前各項ノ事項ハ完結ニ從ヒ其ノ證憑書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第二十四條　證憑書トシテ提出スヘキモノハ領收證書、請求書、契約書等支出ノ所由竝計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但シ事ノ簡明ナルモノニ付テハ會計檢査院ノ承認ヲ經テ仕譯書、簿冊又ハ證明書ヲ以テ代用スルコトヲ得

隔地者ニ支拂ノ爲日本銀行ニ資金ヲ交付シタル場合ニ在リテハ日本銀行

ノ領收證書ヲ提出スヘシ

領收證書ヲ得難キ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ附記シタル證明書ヲ提出スヘシ

領收證書ニハ小切手ノ番號ヲ記載スヘシ

會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略シタルモノハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第二十五條　俸給其ノ他一定ノ給與ニシテ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ事由及年月日ヲ證憑書ニ附記スヘシ

年金又ハ恩給ノ領收證書ニハ年額及受領者ノ資格ヲ示シ遺族ノ受領ニ係ルモノハ其ノ權利ノ起因ヲ附記スヘシ

第二十六條　旅費ノ領收證書若ハ精算證書ニハ其ノ用務及旅行ノ年月日、日數、路程、汽車汽船賃、宿泊地等ヲ記載シタル仕譯書ヲ添附スヘシ但シ領收證書又ハ精算證書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

旅行中遠路ヲ經過セシモノ病氣滯在其ノ他ノ事故ニ因リ特ニ日數ヲ要シタルモノ又ハ實費拂ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二十七條　渡切經費ニ付テハ最初支出證明ノ際其ノ領收證書ニ支給額決定ノ基礎ヲ明ニシタル仕譯書ヲ添附スヘシ爾後支給額ヲ增減シタルトキ亦同シ

會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ前項ノ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條　工事、製造及物件ノ買入、借入其ノ他ノ契約ニ付一般競爭ニ付シタルモノハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　契約ニ關スル決議書類
二　公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ
三　豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類
四　一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

【北海審】

前項ノ規定ハ指名競爭ニ付シタル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　競爭ニ付スルモ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ競爭ニ付シタルトキハ前回ノ競爭ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記シ倘競爭ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

第三十條　五千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ三千圓ヲ超ユル財産ノ買入若ハ賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超ユル物件ノ借入及二千圓ヲ超ユル其ノ他ノ契約ニシテ一般競爭ニ付セサルモノハ決議書類ヲ添附シ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ證憑書ニ附記シ倘會計規則第百十四條第一項第十九號及第二十二號ニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第三十一條　豫定年額又ハ總額貳千圓ヲ超ユル物件ノ買入、運送及勞力供給ノ請負等ニ關シ單價契約ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ契約書類ヲ最初支出證明ノ際ニ提出シ爾後支出ヲ爲シタルトキハ領收證書ニ契約書類提出ノ年月ヲ附記スヘシ

第三十二條　貳千圓ヲ超ユル工事、製造及物件ノ買入、借入其ノ他ノ契約ニシテ變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ提出スヘシ

第三十三條　三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ關スル領收證書ニハ會計規則第九十二條第一項ニ依リ監督又ハ檢査シタル官吏若ハ技術者ノ作リタル調書ヲ添附スヘシ但シ物品ニ付テハ證憑書ニ檢收濟ノ年月日ヲ附記シ調書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

工事製造ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ヒタルモノハ其ノ領收證書ニ會計規則第九十二條第二項ニ依リ檢査官吏又ハ技術者ノ作リタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ部分拂ニシテ第二回以降ノ支拂ニ係ルモノナルトキハ前支拂ノ年

月ヲ附記スヘシ

前各項ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　總價額五千圓ヲ超ユル直營工事ニ付テハ最初支出證明ノ際起工ニ關スル決議書類、設計書、仕譯書、圖面及其ノ附屬書類ヲ提出シ設計ヲ變更シタルトキハ其ノ書類ヲ提出スヘシ

直營工事竣功シタルトキハ竣功報告書ヲ調製シ竣功後一箇月以內ニ提出スヘシ但シ二箇年度以上ニ亙ル工事ニ在リテハ當該年度內ニ於ケル既濟ノ部分ニ付竣功報告書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添附スヘシ

竣功報告書ヲ提出スヘキ工事及其ノ報告書ノ樣式ハ別ニ之ヲ指定ス

第三十五條　直營ニ係ル製造其ノ他ノ作業ニ關シテハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ事業成績書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添附スヘシ

第三十六條　請負ニ付シタル工事、製造等ニ付材料ヲ官給シ又ハ代價ヲ支拂ハスシテ物件勞力ヲ使用シタルトキハ其ノ種類、員數及價格ヲ記載シタル仕譯書ヲ證憑書ニ添附スヘシ但シ證憑書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

第三十七條　一工事ニシテ數廳ニ分チ起工スルモノニ在リテハ最初支出證明ノ際大體ニ關スル計畫書若ハ目論見書ヲ提出スヘシ

第三十八條　國有財産ヲ取得シタルトキハ之ニ對スル支出ノ證憑書ニ國有財産臺帳登錄濟ノ年月日、物品ヲ取得シタルトキ又ハ運送ヲ爲サシメタルトキハ之ニ對スル支出ノ證憑書ニ物品出納簿ニ登記濟又ハ運送濟ノ年月日ヲ記載シ其ノ物品出納簿ニ登記シ難キモノハ受領濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但シ前金拂又ハ概算拂ニ係ルモノハ其ノ完結スヘキ期限ヲ附記スヘシ

第三十九條　諸拂戾金、缺損、補塡金、償還金ノ類ハ其ノ證憑書ニ支出ヲ要スル事由及事實ノ生シタル年月日ヲ記載スルノ外之カ支出ノ決定ヲ爲シタル年月日ヲ附記スヘシ

【北海審】

第三節　資金前渡官吏ノ出納

第四十條　左ノ事項ハ前渡資金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由
二　誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ付處分ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由
三　現金ヲ亡失シ又ハ缺損補塡ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由
四　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由
五　他ノ出納官吏ト現金ノ受授ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ氏名及金額

第四十一條　最終前渡資金出納計算書提出ノ際概算拂ノ精算ニ至ラサルモノ、前金拂ニ係ル工事、製造又ハ物件ノ買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノハ、領收證書ノ到達セサルモノ、年度科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未濟ニ係ルモノ、支拂殘額ノ返納ヲ了セサルモノアルトキハ其ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

最終前渡資金出納計算書提出ノ際振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未濟ノモノアルトキハ振出日附、番號、科目、金額及債主名ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

最終前渡資金出納計算書提出ノ後年度、科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

前各項ノ事項ハ完結ニ從ヒ其ノ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第四十二條　前渡資金出納計算書ニハ會計規則第百三十九條ニ依ル檢定書ヲ添附スヘシ

第四十三條　證憑書トシテ提出スヘキモノニ付テハ第二節ノ規定ヲ準用ス

第四章　國庫金運用

第四十四條　國庫金ノ運用ヲ管掌スル官吏ハ第四號書式又ハ第五號書式ニ依リ每月運用計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

每年度最終計算書ニハ別ニ指定スル明細書ヲ添附スヘシ

第四十五條　國庫金運用ノ計畫ヲ決定シタルトキハ當月分ノ計算書ニ之カ決議書類ヲ添附スヘシ其ノ計畫ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四十六條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　證券類ノ應募、引受又ハ買入等ヲ爲シタルトキハ其ノ決議書類

二　大藏省證券類ヲ發行シ又ハ一時借入ヲ爲シタルトキハ其ノ必要ノ事由ヲ記載シタル決議書類

三　貸付又ハ用途指定ノ預入ヲ爲シタルトキハ其ノ決議書及契約書類

四　證券類ヲ賣却シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ之ヲ拂出シ若ハ地金類ヲ賣買シタルトキハ其ノ關係書類

五　貨幣類ノ價格差增減其ノ他ノ損益ニ對シテハ算出ノ基礎ヲ認ムヘキ書類

證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第五章　國債

第四十七條　國債事務ヲ管掌スル官吏ハ第六號書式ニ依リ每月國債增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ

第四十八條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　證券ヲ發行シタルモノニ在リテハ監督官吏ノ調製シタル證券發行濟確認書但シ交付公債ニ在リテハ證券ノ領收證書

二　借入金ヲ爲シタルモノニ在リテハ其ノ決議書及契約書類

三　甲種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ監督官吏ノ調製シタル登錄濟確認書

四　鐵道ノ買收其ノ他代償ノ爲公債ヲ發行シタルモノニ在リテハ其ノ決議書類及發行額算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第四十九條　證憑書類ハ國債ノ種類每ニ區分シテ之ヲ編纂シ表紙ニ其ノ金額紙數ヲ記載スヘシ證憑書未到達ノモノアルトキハ其ノ旨ヲ表紙ニ記載シ爾後到達ニ從ヒ別ニ區分編纂シテ之ヲ提出スヘシ

第六章　現金出納

第一節　通則

第五十條　收入官吏ハ第七號書式、（歲入歲出外現金出納官吏ハ第八號書式」、繰替拂出納官吏ハ第九號書式ニ依リ現金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ

一　月證明ニ屬スルモノハ翌月十五日限

二　年證明ニ屬スルモノハ年度經過後若ハ出納官吏及出納員交替後三十日限

出納官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

分任出納官吏及出納員ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任出納官吏ヲ經由スヘシ

第五十一條　現金出納計算書ニハ會計規則第百三十八條ニ依ル檢定書ヲ添附スヘシ

第五十二條　證憑書類ハ所屬年度每ニ受入拂出ニ大別シ適宜區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第二節　收入金

第五十三條　收入官吏ノ調製スヘキ收入金現金出納計算書ハ每年度之ヲ提出スヘシ

第五十四條　左ノ事項ハ收入金現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　現金ヲ亡失シ又ハ缺損補塡ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三　拂込未濟ノモノ又ハ後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十五條　證憑書トシテ提出スヘキモノハ日本銀行又ハ他ノ出納官吏ノ領收證書トス

第三節　歲入歲出外現金

第五十六條　歲入歲出外現金出納官吏ノ調製スヘキ歲入歲出外現金出納計算書ハ每年度之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ニ於テ特ニ指定シタルモノハ每月又ハ年數回ニ之ヲ提出スヘシ

第五十七條　左ノ事項ハ歲入歲出外現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　現金ヲ亡失シ又ハ現金ノ缺損ニ對シ補充ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三　後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十八條　振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未濟ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ歲入歲出外現金出納計算書ノ備考ニ記載シ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

第五十九條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類

二　拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

第五十六條但書ニ依リ每月又ハ年數回ニ證明スヘキモノノ證憑書類ハ別ニ之ヲ指定ス

第四節　繰替拂現金

第六十條　繰替拂出納官吏ノ調製スヘキ繰替拂現金出納計算書ハ鐵道官署ニ在リテハ每月、遞信官署ニ在リテハ每年度之ヲ提出スヘシ

第六十一條　左ノ事項ハ繰替拂現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　現金ヲ亡失シ又ハ缺損、補塡ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三　後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第六十二條　振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未濟ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ繰替拂現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ鐵道官署ニ在リテハ每年度最終ノ繰替拂現金出納計算書ニ限リ之ヲ記載スヘシ

前項ノ事項ハ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

第六十三條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類

二　拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

第七章　物品出納

第六十四條　物品會計官吏ハ第十號書式ニ依リ毎年度又ハ會計官吏交替ノ際物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後又ハ會計官吏交替後二箇月限之ヲ提出スヘシ

物品會計官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

主任物品會計官吏ノ計算書ニ分任物品會計官吏ヨリ提出シタル報告書ヲ添附スルトキハ其ノ出納計算ノ併算ヲ省クコトヲ得但シ該報告書ハ計算書ノ書式ヲ準用スヘシ

分任物品會計官吏ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任物品會計官吏ヲ經由スヘシ

第六十五條　物品出納計算書ハ物品ノ種類若ハ所用ノ目的ニ依リ類別シテ毎品之ヲ列記スヘシ

國有財産ニ編入セラレタル動産ニシテ國有財産增減計算書ニ品名、數量ヲ揭記シタルモノニ在リテハ物品出納計算書各類別ノ備考ニ其ノ價額ヲ記載シ毎品ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第六十六條　左ノ事項ハ物品出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ證明書ヲ添附スヘシ

一　前年度ヨリノ越高ニシテ前年度末現在高ニ比シ異動アルモノハ其ノ事由

二　物品會計官吏物品ノ亡失毀損ニ對シ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第六十七條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　物品ノ出納ニ關スル命令書及領收證書但シ特ニ指定スルモノヲ除クノ外他ノ官吏ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

二　亡失毀損拂ノ物品ニ對シテハ他ノ官吏ノ認定セル品目、數量、價格、及其ノ亡失毀損ノ事實ヲ記載シタル證明書、辨償ニ係ルモノハ其ノ仕譯書

【北海書】

三　贈與拂等ノ物品ニ對シテハ其ノ價格事由ヲ記載シタル證明書又ハ決議書

四　作業、鐵道、海軍工廠資金及鐵道用品資金所屬其ノ他ノ事業用物品ニシテ不用物品ニ組換ヘタルモノアルトキハ毎件其ノ事由及原價又ハ見積價格ヲ記載シタル仕譯書若ハ決議書

五　現在高ニ對シテハ監督ノ任アル官吏ノ保證書

造幣局地金類ニ對シテハ前項ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一　受入地金ニ對シテハ地金預リ證書原符、地金勘定書其ノ他受入ノ事實ヲ證明スヘキ書類

二　地金拂ニ對シテハ地金領收證書其ノ他拂渡ノ事實ヲ證明スヘキ書類

三　貨幣拂ニ對シテハ日本銀行ノ貨幣拂渡報告書又ハ貨幣領收證書

四　差增減ニ對シテハ當該上官ノ認定アル主任官吏ノ證明書

五　各種地金ノ殘高ニ對シテハ年度末地金貸借計算表

收入印紙及郵便切手類ニ對シテハ第一項ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一　交換渡ニ對シテハ其ノ事由並種類、員數ヲ記載シタル決議書又ハ當該上官ノ認定書

二　廢棄賣藥ニ係ル拂渡ニ對シテハ賣藥營業者ノ請求書及領收證書

三　燒却拂ニ對シテハ其ノ事由並種類、員數ヲ記載シタル當該上官ノ認定書及立會官吏ノ證明書

四　保管轉換及返納等ノ爲他ノ會計官吏トノ間ニ受拂ヲ爲シタルモノニ對シテハ其ノ科目及種類毎ニ官署名、數量ヲ記載シタル明細書

第六十八條　證憑書類ハ受拂ニ大別シ物品出納計算書ニ揭クル區畫ニ從ヒ品目毎ニ區分編纂シ其ノ表紙ニ數量並價格ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但シ一品目ノ證書僅少ナルモノハ計算書ニ揭クル品目ノ順次ニ從ヒ合綴スルモ妨ナシ

一ノ證憑書中數種ノ品目ヲ混記セルモノアルトキハ別册ニ編纂シ其ノ表紙ニ毎品目ノ數量價格合計ヲ記載スヘシ

第八章　國有財産

第六十九條　各省大臣又ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局長ハ第十一號書式ニ依リ毎三箇月間ニ於ケル國有財産增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又ハ二回ニ提出スルコトヲ得

第七十條　國有財産增減計算書ハ財産ノ種類ニ應シ其ノ用途又ハ目的ニ依リ類別シ種目毎ニ列記スヘシ

第七十一條　毎年度最終ノ國有財産增減計算書ニハ別ニ指定スル明細書ヲ添附スヘシ

第七十二條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　國有財産ノ種類ヲ變更シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ明ニシタル關係書類

二　國有財産ノ滅失シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ明ニシタル調書

三　無償ヲ以テ國有財産ヲ得喪シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書其ノ他ノ關係書類

四　公債ノ發行ニ依リ國有財産ヲ取得シタルモノアルトキハ其ノ決議書及價格算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

五　交換ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書、價格評定ニ關スル調書其ノ他ノ關係書類但シ價格評定調書ニハ相互ノ地位及隣接地ノ狀況ヲ明ニシタル圖面ヲ添附スヘシ

六　出資ノ目的ト爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書類及出資額算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

七　無償ヲ以テ貸付、準貸付、保管、委託又ハ部分林ト爲ス等ノ契約ヲ締結シタルモノアルトキハ其ノ用途ヲ明ニシタル決議書類但シ決議書類ニハ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ附記スヘシ

【北海書】

八　賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書其ノ他ノ關係書類

九　前各號中ノ契約ニシテ變更解除ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

第七十三條　前條ノ證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第九章　日本銀行

第七十四條　日本銀行ハ第十三號書式ニ依リ毎月國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎月末日限之ヲ提出スヘシ

前項ノ計算書ニハ別ニ指定スル內譯書ヲ添附スヘシ

第七十五條　政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ損害ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ事實ヲ記載シタル報告書ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ損害ニ對シ賠償又ハ其ノ他ノ處理ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ顛末ヲ報告スヘシ

第七十六條　毎月國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ニハ左ニ揭クル明細書ヲ添附スヘシ

一　國債ノ發行ニ依ル收入金受拂明細書　第十四號書式
二　國債應募拂込金延滯ニ因ル失效高明細書　第十五號書式
三　國債元利拂資金受拂明細書　第十六號書式

前項第一號ノ明細書ニハ外國貨幣ヲ以テ領收シタルモノアルトキハ其ノ種類員額ヲ備考ニ記載スヘシ

第一項第三號ノ明細書ニハ年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノ、誤拂、過渡ニシテ其ノ處分ヲ爲スヘキモノ、時效ノ中斷又ハ停止アリタルモノニ對シ支拂ヲ爲シタルモノ及政府ニ對シ損害ノ賠償ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ金額事由ヲ備考ニ記載スヘシ

第七十七條　毎年度五月分國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ニハ第十七號書式ニ依リ調製シタル前年度所屬歲入金歲出金出納明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ明細書提出ノ後年度、科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度金額事由ヲ記載シタル報告書ヲ提出スヘシ

第七十八條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　歲入金、歲出金、預託金ノ受拂及歲出支拂未濟越繰金ノ支拂ニ對シテハ當該官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表
二　預金部資金ノ受拂ニ對シテハ當該官吏又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表及受拂計算表
三　隔地拂資金振替金ノ受拂ニ對シテハ債主ノ領收證書及統轄店又ハ取扱郵便局ノ證明ヲ受ケタル突合表但シ領收證書ハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ提出スヘシ
四　國債ノ發行ニ依ル收入金ノ出納ニ對シテハ大藏大臣命令ノ謄本、應募申込書及應募保證金還付ノ領收證書但シ應募申込書及應募保證金還付ノ領收證書ハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ提出スヘシ
五　國債ノ應募額募集額ニ超過シタルモノアルトキハ其ノ割當方法決定ニ關スル書類
六　國債元利金ノ支拂ニ對シテハ大藏大臣令達ノ謄本、監督官廳ノ保證アル支拂濟證券調書、支拂濟利賦札調書又ハ領收證書
七　大藏大臣ノ令達ニ依リ受拂ヲ爲シタルモノニ對シテハ其ノ令達ノ謄本
八　前各號以外ノ國庫金ノ受拂ニ對シテハ命令書、通知書、領收證書其ノ他ノ關係書類
九　有價證券ノ受拂ニ對シテハ當該官吏又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表及受拂計算表

〔北海書〕

證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第七十九條　證憑書類ハ分類編纂シ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第十章　團體及諸營造

第八十條　政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ受クル團體及諸營造ハ第十八號書式ニ依リ毎年度收支計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ公共團體ニ在リテハ出納閉鎖期經過後一箇月其ノ他ニ在リテハ決算期經過後三箇月限之ヲ提出スヘシ但シ會社ニ在リテハ會計檢査院ノ承認ヲ經商法第百九十條ニ依ル書類ヲ以テ計算書ニ代用スルコトヲ得

第八十一條　收支計算書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ但シ會計檢査院ノ指定シタルモノハ別ニ之ヲ提出スヘシ

一　補助金又ハ特約保證ニ關スル申請書、命令書及計畫書
二　命令書ノ定ムル所ニ依リ特ニ政府ノ許可又ハ認可ヲ經若ハ更正ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ書類
三　收支豫算書
四　公共團體ニ在リテハ決算報告書會社ニ在リテハ商法第百九十條ニ依ル書類其ノ他ニ在リテハ決算明細書及財產目錄

左ノ補助又ハ特約保證ニ對シテハ前項ノ外各書類ヲ添附スヘシ

一　災害土木費補助ニ在リテハ一位單價表及工事箇所別明細書
二　關東州地方費ニ在リテハ水道電氣其ノ他之ニ類スル事業ノ損益仕譯書
三　航路補助ニ在リテハ各航路別收支明細書
四　南滿洲鐵道株式會社ニ在リテハ諸勘定內譯書
五　鐵道補助ニアリテハ收支計算書附屬仕譯書

第八十二條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　契約書、決議書其ノ他收支ノ事實ヲ證明スヘキ書類但シ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ
二　工事ノ補助ニ在リテハ前號ノ外設計書、圖面、直營工事ニ係ル竣功報告書、竣功認定及殘餘金處分ニ關スル書類但シ竣功報告書ニ付テハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス

附則

本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正十一年三月以前ノ月證明竝大正十年以前ノ年證明ニ係ルモノハ從前ノ規程ニ依ル

書式（略ス）

●出納官吏檢査規程

明治二十五年五月十七日
大藏省訓令第三十號

出納官吏

出納官吏檢査規程左ノ通リ相定候條爲心得此旨訓令ス

出納官吏檢査規程

第一條　大藏大臣ハ其指揮監督ノ下ニアル出納官吏ノ金櫃帳簿及事務取扱方ノ實況ヲ檢査スルヲ必要ト認ムルトキハ檢査員ヲ特派シテ之ヲ施行ス

第二條　檢査員ハ檢査章ヲ携帶シ之ヲ出納官吏ニ示シタル後檢査ニ著手シ其旨當該廳長ニ通告スヘシ

第三條　檢査員ハ出納官吏ヨリ出納計算書ヲ差出サシメ之ヲ帳簿及保管ノ現在金ニ照合スヘシ

第四條　檢査員ハ出納官吏ノ帳簿竝ニ收支ノ手續等例規ニ反スルコトナキヤ否ヲ稽査スヘシ

第五條　檢査員出納官吏ノ金櫃帳簿等檢査ニ關シ必要ト認ムルトキハ當該廳ニ向ヒ其關係書類ノ送付ヲ求ムルコトアルヘシ

第六條　檢査員出納官吏ノ保管スル現金ノ檢査ヲ了シタルトキハ檢定書二通ヲ調製シ該官吏ヲシテ之ニ署名捺印セシメ其ノ一通ヲ本人ニ交付スヘシ

〔北海書〕

第七條　檢査員出納官吏ノ帳簿ノ檢査ヲ了シタルトキハ帳簿表紙ノ裏面ニ何年何月何日マテノ出納ハ檢査濟ナルコトヲ記載シ更ニ記名調印ヲ爲スヘシ

●出納官吏ハ何時タリトモ金櫃帳簿等ノ檢査ニ應スヘキ件

明治二十五年五月三十一日
大藏省訓令第三十五號

出納官吏

本年當省訓令第三十號ニヨリ出納官吏ノ金櫃帳簿等檢査トシテ檢査員臨檢ノトキ休暇日又ハ退廳後ニ際スルモ檢査員ノ通知ニヨリ出納官吏ハ何時タリトモ其檢査ニ應スル儀ト心得ヘシ

●出納官吏受檢心得

明治二十五年六月三日
內務省訓第三百九十七號

廳府縣　衞生試驗所　土木監督署

本年大藏省訓令第三十號出納官吏檢査規程第五條ニ依リ檢査員ヨリ關係書類ノ送付ヲ求ムルトキハ差支ナキ限リハ該員ノ要求ニ應スベシ

●會計監査規程

明治二十七年一月二十二日
訓第二十一號

財務部

當廳會計監査規程左ノ通定ム

北海道廳會計監査規程

第一條　監査ハ會計ニ關スル法律命令ノ實施ヲ周到ナラシメ會計事務ノ整理ヲ期スル爲ニ執行スルモノトス

第二條　監査ハ實際ニ臨ミ又ハ證憑書類ニ依リ又ハ特ニ提供セシメタル書

類ニ就キ之ヲ執行ス

第三條　監査上誤謬違算ヲ發見シタルトキハ主任官吏ニ移牒シ訂正ノ手續ヲ爲サシム

第四條　監査上法規ニ背戾シ又ハ事實ニ適合セス又ハ過誤拂ニ屬スル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ長官ニ稟申シ同時ニ其事由ヲ主任官吏ニ通告スルモノトス

第五條　監査上處務怠慢又ハ秩序不整ト認ムル場合アルトキハ之ヲ長官ニ稟申シ同時ニ監督ノ任アル官吏ニ通告スルモノトス

第六條　出納官吏故意怠慢ノ所爲ニ因リ政府ノ損害ヲ生シタリト認ムル事項アルトキハ意見ヲ具シ長官ノ指揮ヲ受クルモノトス

第七條　監査ノ手續ハ財務部ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

●臨時現金前渡官吏仕拂證明手續

明治三十七年四月十三日
訓第三百八十九號

改正　明治四三年訓第七六八號

殖民地　土木部

臨時現金前渡官吏仕拂證明手續別册ノ通相定メ候條仕拂證明ニ關スル各規程ニ依ルノ外尚本手續ヲ遵守シ將來下檢査官ノ摘出及會計檢査院ノ審理ヲ受クルコトナキヲ期シ金錢ノ出納ハ勿論計算證明ニ至ルマテ平素注意候樣無漏示達スヘシ

但別册ハ別ニ之ヲ頒ツ

（別册）

臨時現金前渡官吏仕拂證明手續

第一條　臨時現金前渡官吏ハ會計檢査院ヘ直接シ且其職務上ニ付テハ總テ自己負擔ノ責ニ任スルヲ以テ其事蹟ノ明確ヲ要スルハ勿論證憑計算等最モ注意シ以下各條ニ依リ取扱フヘシ

〔北海警〕

第二條　前渡金ヲ請求セントスルトキハ第一號書式ニ依リ一ケ月分ツツノ請求書ヲ調製シ所屬課所ヘ差出スヘシ

殖民地撰定、區劃測設、地形測量及堤塘調査ニ在テハ二ケ月分ツツ其他ハ最初ノ月ニ限リ二ケ月分ヲ請求スルコトヲ得

第三條　臨時現金前渡官吏ハ第二號書式ノ現金出納簿及第三號書式ノ現金出納內譯簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

但二目以上ノ現金前渡ヲ受ケサルモノハ現金出納內譯簿ヲ省略スルコトヲ得

第四條　現金仕拂ニ際シ先ツ請求書ヲ徵シ而シテ後裏面ヘ領收ノ旨記載セシメ現金ヲ交付スルモノアルモ自今ハ請求書ヲ省略シ單ニ領收證書ノミ徵收スヘシ

第五條　正當受取人ノ領收證書ハ第四號第五號ノ書式ニ依ルヘシ

第六條　運搬賃ノ領收證書ニハ第六號書式ノ證明書ヲ添付スヘシ

但次回ノ運搬ニシテ前ノ運搬ト品目數量量目ニ異動アルモノハ其增減ノ事由ヲ證明書ノ備考ニ詳記シ其異動ナキモノハ領收證書中右傍ノ餘白ヘ其旨付記シ主任者署名捺印シテ證明書ヲ省略スルコトヲ得

第七條　左ノ場合ニ於テハ領收書ニ其事由ヲ記載シタル證明書ヲ添付スヘシ

一　駄馬雇上ニ際シ一頭一里ノ賃錢カ金拾貳錢以上ナルトキ

二　駄馬一頭ノ負荷カ拾六貫目以下ナルトキ

第八條　證憑書類（領收證書證明書委任狀其他仕拂ニ關スル一切ノ書類ヲ云フ以下同シ）ノ字體ハ正格鮮明ナルヘシ若シ文字ヲ更正刪除挿入シタルトキハ其行上部ノ欄外ヘ何字更正何字刪除何字挿入ト記載捺印スヘシ

第九條　證憑書類ニ記載スル金員ニシテ一二三十廿卅ノ數字ハ壹貳參拾貳拾參拾ノ字體ヲ用ユヘシ

第十條　證憑書類ノ金員ハ總テ算出ノ基礎ヲ明カニスヘシ

第十一條　領收證書ハ正當受取人ノ署名捺印ニ限ル若シ代理人ナルトキハ委任狀添付ヲ要ス

第十二條　營業ニ關スルモノニシテ金高五圓以上ノ領收證書ニハ印紙稅法ニ依リ貳錢ノ收入印紙ヲ貼用セシムヘシ

第十三條　總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初仕拂ノ證憑書類ニハ其設計書仕譯書設計圖面及其付屬書類ヲ添付スヘシ

第十四條　物品ヲ購入シタルトキハ領收證書中右傍ノ餘白ヘ其所要ノ事由ヲ朱記シ主任者捺印スヘシ

第十五條　人夫雇入ノトキハ規程ニ依リ必ス身元引受證ヲ徵スヘシ

第十六條　人夫ニシテ一箇月以上繼續雇入ノモノノ賃錢ハ每月末日ヲ以テ打切リ支給スヘシ

第十七條　同一人ニシテ前ノ領收證書ト後ノ領收證書ト印影異ナルモノハ其理由書ヲ添付スヘシ

第十八條　其月分ノ仕拂ヲ了リタルトキハ會計檢査院ヘ仕拂證明ノ爲メ現金出納簿及現金出納內譯簿ノ結果ニ依リ第七號書式ノ仕拂計算書及第八號書式ノ仕拂計算內譯書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月五日限リ所屬課所ヲ經由シテ之レヲ下檢査官ヘ提出スヘシ

第十九條　前項ノ證明方遲延スルカ又ハ證明スルモ下檢査官ニ於テ正確ト認メサルトキハ翌月分ノ前渡金仕拂ヲ停止スヘキニ付期日ヲ確守スルハ勿論苟モ違式誤算ナキヲ期シ提出スヘシ

第二十條　最初前渡金受領シタル月ニ於テ仕拂ナキトキハ次期ノ計算書提出ノ際其備考欄內ヘ「現金　明治何年何月何日受領シタルモ同月ニ於テ仕拂ナシ」ト記載スヘシ

第二十一條　全月仕拂ナキトキ（例之四月、六月仕拂アリテ五月仕拂ナキトキ）ハ仕拂計算書及仕拂計算內譯書提出スルニ及ハス是又次期ノ計算書提出ノ際其備考欄內ヘ「明治何年何月中仕拂ナシ」ト記載スヘシ

〔北海警〕

第二十二條　現金仕拂後誤拂（甲ニ仕拂フヘキヲ乙ニ仕拂ヒタルトキノ類）過渡（十圓仕拂フヘキヲ二十圓仕拂タルトキノ類）ヲ發見シタルトキハ直ニ其誤拂過渡金ヲ直接徵收シ其金額ヲ現金出納簿拂ノ區及現金出納內譯簿支出高ノ區ヘ朱記シ殘高ヘ加ヘ置クヘシ

第二十三條　仕拂證明後前項ノ事實ヲ發見シタルモノニ係ルトキハ次回證明ノトキ仕拂計算書中本月回收額ノ區ヘ其金額ヲ揭記シ仕拂額ヨリ控除シ又仕拂計算內譯書ハ前月越高ノ區ヘ其金額ヲ加ヘ共ニ備考欄內ヘ其事由ヲ詳記スヘシ

第二十四條　前渡金ヲ金庫ヘ義務委託シタルトキハ其金額竝拂込年月日及其月末殘額ヲ仕拂計算書ノ備考ヘ記載スヘシ

第二十五條　計算書ニ添付スヘキ證憑書類ハ目每ニ編纂シ第九號書式ノ表紙ヲ付シ袋綴トナシ綴目ニハ契印スヘシ

第二十六條　證憑書類ニハ一枚每ニ左傍ノ上端ニ第一號ヨリ順次番號ヲ付シ（領收證書ハ勿論證明書委任狀等總テノ書類ニ番號ヲ付スヘキモノトス）最終ノ番號ト表紙ニ記載シタル紙數ト符合スルヲ要ス此番號ハ每月新ニ第一號ヨリ起スモノトス

第二十七條　事業完了若クハ其年三月三十一日ニ至リ仕拂殘金アルトキハ三日以內ニ第十號書式ノ返納書ヲ調製シ所屬課所ヘ差出スヘシ

第二十八條　前項ノ返納金ニ對シ返納告知書ヲ受ケタルトキハ必ス期日內ニ指定ノ金庫ヘ納付シ其領收證書ヲ得テ之ヲ其月分ノ證憑書類トシテ半紙野紙ヘ貼付シ第二十五條ノ例ニ依リ編綴シ仕拂計算書ニ添ヘ返納ノ即日差出スヘシ

第二十九條　前項ノ場合ニ於ケル仕拂計算書ニハ本月返納額ノ區ヘ其返納金額ヲ揭記シ前月迄領收額ヨリ控除シタル金額ヲ計ノ區ヘ記載シ殘額ノ區ハ零トシ備考欄內ニハ「仕拂殘金何程ハ明治何年何月何日返納濟」ト記載スヘシ又仕拂計算內譯書ハ支出精算高ノ區ヘ返納金額ヲ揭記シ殘額ノ區ハ零トシ備考欄內ニハ仕拂計算書ト同シク返納濟ノ旨記載スヘシ

第三十條　返納書差出方遲延シ又ハ期日内ニ返納セス若クハ出納事蹟ノ明確ヲ缺クトキハ會計檢査院ヨリ審理書ヲ發シ答辯ヲ求メラルルコトアルニ付總テ期日ヲ愆ラサルハ勿論出納事蹟ヲ明瞭ニスヘシ

第三十一條　會計檢査院ヨリ審理書ヲ發セラレタルトキハ受領後三日以内ニ答辯ヲ付シ所屬課所ヲ經テ之ヲ下檢査官ヘ提出スヘシ若シ其答辯ニシテ取調ニ時日ヲ要シ期日内ニ提出シ難キトキハ提出期限ヲ豫定シタル理由書ヲ差出スヘシ

第三十二條　臨時現金前渡官吏ニシテ退職死亡シタルモノハ其計算證明ニ對シ認可狀ヲ受クル迄ハ現住所ヲ本人又ハ遺族ヨリ屆出ツヘシ

第三十三條　本手續ノ條項ハ地方費ノ現金前渡ヲ受クル出納吏ニモ之ヲ準用ス

（第一號書式）

請求書

一金何程

但何々ノ爲メ仕拂ヲ要スル經費現金前渡ノ分何年何月分

內譯

金何程　人夫賃

但（事由算出ノ基礎ヲ示スヘシ其事項ノ複雜ナルモノハ別紙ト爲スモ妨ナシ）

金何程　運搬賃

但事由（同上

金何程　何々

但事由（同上）

右請求候也

年月日

何所勤務
臨時現金前渡官吏　官　氏　名㊞

長官宛

【北海警】

（第二號書式）

一　現金出納簿ハ一人一冊トシ其科目ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ混記スヘシ

一　金種類ノ同一ナル數廉ノ受拂ハ毎日取纏メ記帳スルモ妨ナシ

但現金出納內譯簿ヲ省略セルモノニ在テハ之ヲ取纏メス一口毎ニ記帳スヘシ

一　誤記脫字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ朱ニテ二線ヲ横畫シ主任官吏之レニ捺印スヘシ

一　用紙ハフールスカップトス

一　記帳例下記ノ如シ

出納官吏現金出納簿

北海道廳

出納官吏　官　氏　名

年月日		摘要	受			拂			殘		
明治何年			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
四	十	某地出張中費用トシテ受領何年何月分									
	二十	何某渡何年何月何日ヨリ何月何日迄人夫賃									
	何	何々									
		四月分計									
五	五	何某渡何所ヨリ何所迄運賃									
	何	何々									
		五月分計									
		累計									
六	一	何某渡人夫賃何年何月何日ヨリ何月何日迄何日分支給スヘキヲ誤テ何日分支給ニ付過渡追徵									
	何	前渡金受領何年何月分									
	何	何々									
		六月分計									
		累計									
七	十	何々									
	何	何々									
		七月分追次繰高									
		追次繰高									

【北海警】

年月日		摘要	受			拂			殘		
明治	何年		圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
七	二十	前葉締高									
	同	七月分前葉締高									
	何	何々									
		七月分計									
		累計									

【北海書】

（第三號書式）

一　現金出納内譯簿ハ一人一册トシ目毎ニ口座ヲ設ケ記帳スヘシ

一　金種類同一ノモノト雖モ毎日ノ受拂ハ之レヲ取纏メス一口毎ニ記入スヘシ

一　誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ朱ニテ二線ヲ横畫シ主任官吏之レニ捺印スヘシ

一　用紙ハフールスカツプトス

一　記帳例左ノ如シ
但現金出納簿ノ例ニ倣ヒ月計累計ヲ付スヘシ

明治何年度

何々（款）

現金出納内譯簿

北海道廳

出納官吏　官　氏　名

何々（款）　何々（目）

年月日		摘要	領收高			支出高			殘		
明治	何年		圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
四	十	前渡金受領何年何月分									
	二十	何々									

何々（款）　何々（目）

年月日		摘要	領收高			支出高			殘		
明治	何年		圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
四	十	前渡金受領何年何月分									
	二十	何々									

【北海書】

（第四號書式）

領收證

一金何程

但何々ノ爲メ何年何月何日ヨリ何月何日マテ何日間御雇上人夫賃一日金何程

（此所ニ使役ノ證明ヲ爲シ別ニ使役證明書ヲ添付スルニ及ハス以下同シ）

使役者　官　氏　名㊞

官　氏　名㊞

右正ニ領收候也

年　月　日

住所　氏　名㊞

臨時現金前渡官吏

官　氏　名殿

（此處ニ順次番號ヲ付スヘシ）

第何號

（第四號書式ノ二）

領收證

一金何程

但何々ノ爲メ何年何月何日ヨリ何月何日マテ何年何日間（ノ內）潛水夫其他御雇上賃

內譯

金員	勤務日數	事故	一日ノ賃錢	備考	住所氏名
金何程	何日	休業何日	金何程	潛水夫	住所氏名
金何程	何日何分	何分ハ時間外ノ勞働	金何程	大工	
金何程	何日	何々	金何程	石工	
金何程	何日		金何程	鍛冶	
金何程	何日		金何程	人夫	

（委任狀ニ住所記載アルモノハ此所ノ住所ヲ省略スルモ妨ナシ）

【北海書】

何某外何人代理（及本人）

【北海書】

年　月　日

住所　氏　名㊞

臨時現金前渡官吏

官　氏　名殿

（第五號書式）

領收證

（此所ニ運搬濟ノ證明ヲ爲シ別ニ運搬濟ノ證明書添付スルニ及ハス）

何年何月何日運搬濟

官　氏　名㊞

一金何程

但何々御用物運搬賃

內譯

名稱	送達場所	數量	賃錢割合	小計
何々包何々入	何所ヨリ何所マテ	何個此目方何程	何々ニ付金何程	金
何々何入	何所ヨリ何所マテ	何個此斤量何程	何哩以上何斤ニ付金何程	金
何　何	何所ヨリ何所マテ	何個此運送馬車何程	一輛ニ付金何程	金
何　何	何所ヨリ何所マテ	何々船何艘	何艘ニ付金何程	金
何　何	何所ヨリ何所マテ	何里	何里ニ付金何程	金

右正ニ領收候也

住所　氏　名㊞

臨時現金前渡官吏

官　氏　名殿

（第五號書式ノ二）

領收證

何年何月何日運搬濟
官　氏　名㊞

一金　何　程

但何々御用物何々何個此目方何十貫目何所ヨリ何所マテ運搬ノ爲メ馱馬何頭御雇上賃此里數何里一里一頭金何程

右正ニ領收候也

年　月　日　住所　氏　名㊞

臨時現金前渡官吏
官　氏　名殿

（第六號書式）

證明書

明治何年何月何日何某ヘ仕拂ノ運搬賃金何程ニ對スル御用物內譯左ノ如シ

品目	數量	量目	摘要
天幕	何張	何拾貫目	一張何貫目
柳行李	何個	何貫目	何々何貫目何々何貫何拾目入
何々	何個	何貫目	何々
計	何個	何拾貫目	

備考

前回ノ運搬ニ比シ個數ニ於テ何個量目ニ於テ何貫目ヲ增（減）シタルハ何々ノ理由ニ依リ何々

右之通相違無之候也

年　月　日　臨時現金前渡官吏　氏　名㊞

會計檢查院長宛

【北海書】

（第七號書式）

明治何年度何年何月（自何月何日至何月何日）仕拂證明候也

臨時現金前渡官吏
官　氏　名㊞

會計檢查院長宛

年　月　日

地方費ノ現金前渡ヲ受クル出納吏ヨリ提出ノ分ハ宛名ヲ北海道廳長官ト爲スヘシ

【北海書】

前月迄仕拂額			本月仕拂額			本月回收額			計			殘額			備考
圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	
0			0			0			0			0			○交替ノトキハ前任官吏計算額ヲ併算スヘシ ○定額ニ戻入シ又ハ歳入ニ納付スル爲メ現金ヲ金庫ヘ拂込ミタルモノハ本返納額ノ區ニ揭記シ領收額ヨリ控除スヘシ ○仕拂證明ノ後誤拂過渡其他ノ返納金ヲ受取人ヨリ領收シタルトキハ本月回收額ノ區ニ揭記シ仕拂額ヨリ控除スヘシ
0			0			0			0			0			
0			0			0			0			0			
0			0			0			0			0			
0			0			0			0			0			
0			0			0			0			0			
0			0			0			0			0			

前月迄領收額	本月領收額	本月返納額	計	摘要
圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	
				經常(臨時)部
				何々(款)
				何々(項)
				何々(目)
0	0	0	0	何々
				何々
				何々
0	0	0	0	何々
0	0	0	0	

〔北海書〕

一　計算書ノ用紙ハ鞣沙引厚質美濃紙二ツ折ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ綴代ヲ存スヘシ

一　計算書ハ改揷塗抹ヲ禁ス若シ誤記脫字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ朱ニテ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

明治何年度
何年何月(自何月何日至何月何日)
歳出經常(臨時)部
何々(款)
仕拂計算書

證憑書何冊

北海道廳

（第八號書式）

明治何年度何年何月(自何月何日至何月何日)仕拂計算內譯書面之通相違無之候也

臨時現金前渡官吏
官　氏名　㊞

長官宛

年　月　日

地方費ノ現金前渡ヲ受クル出納吏ヨリ提出ノ分ハ宛名ヲ內務部長ト爲スヘシ

〔北海書〕

摘要	支出精算高	殘高	備考
	圓 錢 厘	圓 錢 厘	
經常(臨時)部			
何々(款)			
何々(項)			
何々(目)			
何々			
計			
何々			
何々			
何々			
計			
合計			

	元受高													
前月越高			本月領收額			科目更正增			科目更正減			計		
圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘

［北海書］

明治何年度北海道本廳　（北海道拓殖費）（北海道地方費）
明治何年何月　（自何月何日至何月何日）
歲出經常（臨時部）
北海道本廳（北海道拓殖費）（北海道地方費）
仕拂計算內譯書

北海道廳

［北海書］

（第九號書式）　用紙ハ半紙白紙
明治何年度　何年何月分
經常（臨時）部　何々（款）　何々（項）　何々（目）
一金何程
此證憑書類表紙ヲ除キ何枚
臨時現金前渡官吏　官　氏　名㊞

（第十號書式）
返納書
前渡高金何程
內
金何程　何年何月何日受取
金何程　何年何月何日受取
一金何程　返納高
精算高金何程
但何々ノ爲メ現金前渡ノ處事業完了（年度分界）ニ付仕拂殘金返納
右返納候也
年　月　日
何所勤務
臨時現金前渡官吏　官　氏　名㊞
長官宛

●地方費支出證憑書表紙記載方ニ關スル件

大正六年三月三日
內會第一一四七號內務部長通牒
各廳長宛

地方費支出證憑書表紙記載方ニ付テハ明治四十三年三月二十五日付一會第一九四八號ヲ以テ及通牒置候處今回別紙ノ通改正候條了知相成度

第　　號　　　北海道廳
地方費歲出大正　年度大正　年　月分
部　款　項　目
一金　本月仕拂高
內譯
金　本證書現在高
內
金　現金前渡高
金　概算渡高
金　別冊精算追給高
一金　本月戻入高
內譯
金　本證書現在高
金　別冊精算戻入高
一金　乙號仕拂命令高
節區分
本月仕拂高ノ部
金　科目
金　科目
金　科目
金　科目
本月戻入高ノ部
金　科目
第　　號

北海道廳

北海道地方費歳出大正五年度大正　年　月分

部　款　項　目

一金　本月支拂高

内譯

金　本證書集計高

金　別册精算追給高

一金　本月戻入高

内譯

金　本證書集計高

金　別册精算戻入高

節區分

本月仕拂高ノ部

金

金

金

金

第　號

北海道廳

地方費歳出大正　年度大正　年　月中概算渡ノ分

部　款　項　目

精算高金　本月精算仕拂高

内譯

金

金

外　定額戻入高

【北海替】

金　精算追給高

一金　乙號仕拂命令高

節區分

本月仕拂高ノ部

金　科　目

金　科　目

本月戻入高ノ部

金　科　目

第　號

北海道廳

北海道地方費歳出大正五年度大正五年　月分

部　款　項　目

概算渡ニ對スル精算書

大正　年　月分

一金　精算高

一金　追給高

一金　戻入高

第　號

廳　　名

北海道地方費大正　年度歳出大正　年　月分

金庫領收證書

一金　款

右關係書類編纂區分

金　號　證書

金　號　證書

金　號　證書

金　號　證書

金　號　證書

●現金出納證明ニ關スル件

明治四十五年六月二十六日
内會第四三七二號内務部長回答
函館土木派出所長宛

○照會

明治四十四年度（四十四年十月四日四十五年三月三十一日）現金出納計算書ニ對シ會臺第三二號ヲ以テ函館支金庫ヘ拂込ノ八百五拾參圓ハ金庫ヘ寄托シタルモノニシテ支出高トシテ計上スヘキモノニアラス保管ノ形式ニヨリ翌年度ヘ繰越スヘキモノニ付云々トノ御推問有之右ニ依レハ支出高トシテ證明スヘキモノハ現實ニ出納吏ノ保管ノ責任ヲ離レタルモノ卽チ正當權利者ニ還付シ若クハ交付（差押ノ場合）セシ場合等ノ金額ニ限ル義ト被認候處右ハ從來ノ取扱振ニ反スル樣認メ候條（從來ノ報告ニハ本人ニ還付シタルモノト否トヲ問ハス總テ寄托ノ爲メ金庫ニ送付シタル金庫ノ領收證ヲ以テ證明報告セリ）左ノ各項ト共ニ一應御見解ノ程承知致度此段及照會候也

一　本文見解ノ通リトスレハ出納吏ノ保管中ニ屬シ現ニ金庫ニ寄托中ノモノニ付テハ金庫受領證等ヲ以テ證明スルニ及ハサル義ナルヤ

二　沒收ノ場合ニ於テ廳長ヨリ道金庫ニ收入ヲ命令シタル場合（會計規則第四七條及三三條及道廳工事請負手續四二條參照）ハ收入命令ノ寫及收入濟通知ノ寫又ハ差押權利者ニ交付シタル場合ハ取立若クハ轉付命令及權利者ノ領收書寫等ヲ以テ證明シ又本人ニ還付シタル場合ハ出納吏ニ對スル本人ノ領收證ヲ以テ證明シ可然哉

三　現金出納簿拂ノ部ハ寄托ノ爲メ金庫ニ送付セシモノハ登載ノ限リニ無之單ニ出納吏保管ノ責任ヲ離レタルモノノミ登載スヘキモノト認メラルルモ右二項ノ沒收ノ場合ハ金庫ヨリノ收入濟通知ノ日ニ依リ記帳スヘキ義ト心得可然哉　以上

【北海替】

○回答

本月十八日付函派庶第六三八號ヲ以テ本件照會ノ趣了承右ハ第一、二、三項共御見解ノ通取扱可然此段及回答候也

第十二章　收入

第一節　國庫收入

●市町村國稅徵收事務手續

明治四十三年六月二十六日
訓令第五十八號

改正　明治四四年訓令第四六號、大正一一年第六三號、昭和二年第一〇號

支廳　市役所　町村役場

市町村國稅徵收事務手續左ノ通定ム但シ別册ハ別ニ之ヲ頒ツ

市町村國稅徵收事務手續

第一條　市町村ハ國稅徵收事務整理ノ爲左ノ帳簿ヲ設備スヘシ

一　地租名寄帳　第一號樣式
二　一人別徵稅原簿　第二號樣式
三　國稅收納簿　第三號樣式
四　國稅收納集計簿　第四號樣式
〔五　國稅過誤納金整理簿　第五號樣式〕

第二條　市町村長ニ於テ納稅告知書ヲ發シタルトキ又ハ其ノ更訂ヲ爲シタルトキハ年度稅目納期金額納稅者氏名等ヲ收入役ニ通知スヘシ

第三條　收入役ニ於テ稅金ヲ領收シタルトキハ毎日稅目納期毎ニ金額納入人員及納稅告知書ノ枚數ヲ記載シタル集計表ニ納稅告知書ヲ添付シ之ヲ市町村長ニ回付スヘシ

第四條　市町村長ハ前條ノ集計表ニ基キ規定ノ送付書ヲ調製シ之ヲ收入役ニ交付シ金庫ニ送付セシムヘシ

前項ノ送付ハ遲クモ納期限ノ翌日ヲ過クルコトヲ得ス

第五條　市町村長ニ於テ過誤納金ノ現金收入ヲ要スルトキ又ハ之ヲ納稅者ニ交付ヲ要スルトキハ收入役ニ通知スヘシ

第六條　收入役ニ於テ前二項ニ依リ收支ヲ爲シタルトキハ其ノ旨市町村長ニ通知スヘシ但シ支出ニ對シテハ其ノ領收證ヲ添付スルコトヲ要ス

附　則

本令ハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ施行ス但シ宅地租ニ關スル規定ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

明治三十七年七月北海道廳訓令第八十二號ハ之ヲ廢止ス但シ明治四十三年分ノ宅地租ニ關シテハ仍從前ノ規定ヲ適用ス

(別册)

記　載　例

一　地租名寄帳

(一)　甲號帳簿ハ田、畑、宅地、雜地ノ四科目ニ區分シ各納期毎ニ現在額ヲ整理スヘシ但シ前納期後異動ナキモノハ重テ現在額ヲ揭記スルコトヲ要セス

(二)　本帳簿ノ卷首ニ番號氏名ヲ記載セル索引表ヲ附シ各氏名ノ初紙ニ該當番號ノ見出ヲ附シ索引ニ便スヘシ

(三)　地租納稅者ニシテ其ノ土地所在ト同郡市町村内ノモノハ其郡市町村名ノ記入ヲ省略スヘシ

(四)　納稅管理人アルモノハ地租納稅者ノ左傍ニ其ノ住所氏名ヲ朱記スルモノトス

(五)　相續改氏名納稅管理人變更住所移轉等ノ場合ハ便宜之ヲ更正スヘシ

(六)　地目ノ欄ハ雜地ニ限地租條例第三條ニ依リ各地目ヲ記入シ其ノ他ハ記入ヲ省略スヘシ

(七)　地租ノ欄ハ現在額ヲ整理スル場合ニ於テノミ記入スルモノトス

(八)　賣買及質入質取其ノ他異動ニ係ルモノノ増ハ墨書減ハ朱記スヘシ

（九）合計ハ各科目毎ニ名寄帳ノ末尾ニ附シ異動アル毎ニ之ヲ整理シ之ニ依リテ稅務署ニ地價地租ノ報告ヲ爲スモノトス

（十）乙號帳簿ハ北海道地方稅、市町村稅等ヲ徵收スル場合ニ於テ田、畑、宅地、雜地ノ四科目ニ區分シ各納期毎ニ之ヲ整理スルモノトス但シ他ノ帳簿等ニ依リ明瞭ナル事項ハ之ヲ省略シ又ハ本簿ヲ設ケサルコトヲ得

（十一）耕地整理法第十六條ニ依リ一定ノ期間負擔又ハ利益ヲ受クヘキ金額及砂防法ニ依リ輕減セラルル地租額ニ對スル地價額ハ當該土地ノ地價欄ノ左傍ニ記載シ（利益ヲ受ケ又ハ輕減セラルルモノハ朱書）置キ地租ノ徵收ヲ爲ストキハ地價ノ合計額ニ加除スルモノトス

（十二）都市計畫法ニ依ル土地區劃整理地ニシテ耕地整理法第十六條ニ該當スル土地アルトキハ前號ニ準シ整理スルモノトス

（十三）地租條例第十三條ノ二ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑ニ付テハ各筆毎ノ摘要欄ニ「自作」ト朱書スルモノトス但シ同一人ノ田又ハ畑ノ全部ニ付地租ヲ徵收セサル場合ハ各筆毎ノ記載ヲ省略スルモ妨ナシ

（十四）永小作地ニシテ地租條例第十三條ノ二ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑ニ付テハ前號ニ準シ「永小作」ト朱書整理スルモノトス

（十五）前二號ノ田畑ニシテ地租條例第十三條ノ二ニ該當セサルニ至リタルトキハ「自作」又ハ「永小作」ノ記載ヲ抹消スルモノトス

（十六）地租條例第十三條ノ二ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑アルトキハ現在額ノ次ニ「不徵收額」ノ行ヲ設ケ其ノ段別地價ノ合計額ヲ朱書シ更ニ其ノ次ニ「差引額」ノ行ヲ設ケ整理スルモノトス

（十七）地租條例第十三條ノ二ニ依ル田畑地價ノ合計金額二百圓未滿ナルヤ否ノ調査ニ付テハ別ニ帳簿ヲ設ケ整理スルモノトス

二　一人別徵稅元帳

（一）本簿ハ毎年三月一日及十月一日ノ現在員數稅額等ヲ掲ケ合計ヲ附シ收納簿ノ基礎ト爲スヘシ

【北海書】

（二）摘要ノ欄ニハ新規、轉入、轉出、相續竝其年月日等ノ區分ヲ記入スヘシ

（三）製造廢止、轉出等ニ係ルモノハ欄上ニ消印ヲ押捺スヘシ但シ製造廢止ニ係ルモノハ其ノ年ノ納期後ニ於テ消印スルモノトス

（四）納稅管理人アルモノハ其住所氏名ヲ併記スヘシ

三　國稅（定期）收納簿

（一）納期ノ一定セル國稅中地租ニ付テハ名寄帳ニ依リ當該納期ニ屬スル各科目ノ租額ヲ集計シ之ヲ分配シテ記載シ其他ハ一人別徵稅元帳又ハ納額通知書ニ添附スル一人別仕譯書ヨリ㋑印ノ如ク移記シ其合計ヲ納額通知書ノ金額ト對照シ差違ナキヲ認メタル後納稅告知書ヲ作リ發付スルモノトス

（二）增額ノ爲追加納額通知書ヲ受ケタルトキハ㋺印ノ如ク記載スヘシ但シ其ノ納稅告知書ノ發付ニ付テハ前項ニ同シ

（三）減額ノ通知ヲ受ケタルトキハ㋩印ノ如ク朱記シ其ノ納稅告知書ヲ訂正スルモノトス

（四）稅金ヲ領收シタルトキハ㋥印ノ如ク記載シ收入役認印スルモノトス

（五）滯納者ノ報告ヲ爲シタルトキハ一人別ニ㋭印ノ如ク朱記スルモノトス

（六）地租ノ收納簿ニハ末尾ニ合計ヲ附シ異動アル毎ニ之ヲ整理シ之ニ依リテ稅務署ニ地租ノ納額ヲ報告スルモノトス

四　國稅（隨時）收納簿

（一）隨時收入ニ係ル國稅ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ㋑印ノ如ク記載スヘシ但シ其納稅告知書ヲ作リ發付スルハ定期收納簿ニ同シ

（二）稅金ヲ領收シタルトキハ㋺印ノ如ク記載スルモノトス

五　國稅收納集計簿

（一）本簿ハ日々收納簿ヘ登記セシ金員ヲ集計シテ記載スルモノトス

（二）納稅告知書ヲ發セシトキハ㋑印ノ如ク記載シ增額ノ爲追加納稅告知書ヲ發セシトキハ㋺印ノ如ク記載シ減額ノ通知ヲ受ケタルトキハ㋩印ノ如ク（金額ハ納額ノ欄ヘ）朱記スルモノトス

【北海書】

（三）日々領收スル國稅ハ㋥印ノ如ク記載シ納額ヨリ領收額ヲ控除セシ差額ヲ未納額ノ欄ヘ記入スルモノトス

（四）國稅ヲ日本銀行ヘ送付スルトキハ㋭印ノ如ク（金額ハ領收額ノ欄ヘ）朱記スルモノトス

（五）滯納報告ヲ爲シタルトキハ㋬印ノ如ク（金額ハ納額ノ欄ヘ）朱記スルモノトス

（第一號樣式）

地租名寄帳

市役所
何郡何町（村）役場

甲號

田之部

「」ハ朱記

何府縣何郡何市區町村大字何々何番地
何　某

「納稅管理人大字何々何番地
何　某」

現在額及異動	大字	字	番地	地目	段別	地價	地租	摘要
買得					町 二三〇三	二〇圓七九〇〇	圓	何年何月何日何某ヨリ
質取					一二二七	一一六一〇〇		何年何月何日何某ヨリ
「質入」					「〇九〇〇」	「八一〇〇〇」		「何年何月何日何某へ」
何年何月何日現在額					二七〇〇	二四三〇〇〇	八二六〇	

合計

現在及異動年月日	地目	段別	地價	地租	摘要
何年何月何日現在		町	圓	圓	
何年何月何日現在	何々				何々ノ爲増加

乙號

計　　何　某

現在年月日	段別	地價	地租	地方税	市町村税	摘要
何年何月何日現在額	町	圓	圓	圓	圓	

（第二號樣式）

【北海番】

【北海番】

〔自家用醤油税〕一人別徴税元帳

市役所
何郡何町（村）役場

種別	税額	一納期ノ納額	製造許可年月日	製造廢止年月日	摘要	住所氏名
一	〇圓五〇〇	〇圓二五〇	何年何月何日		何々	大字何々何番地　何某
二	一〇〇〇	〇五〇〇	何年何月何日		何々	大字何々何番地　何某
三	二〇〇〇	一〇〇〇	何年何月何日		何々	大字何々何番地　何某
四	三〇〇〇	一五〇〇	何年何月何日		何々	大字何々何番地　何某
五	四〇〇〇	二〇〇〇	何年何月何日		何々	大字何々何番地　何某
何年十月一日現在	一〇五〇〇	五二五〇				何人

（第三號樣式ノ一）

明治何年度
國稅（定期）收納簿

【本簿ハ宅地租ト其ノ他ノ土地租トハ各別ニ其他ハ稅目每ニ調製スヘシ但シ其紙數少キモノハ合綴シ見出ヲ附シ又本簿ハ之ヲ洋式ト爲スコトヲ妨ケス】

市役所
何郡何町（村）役場

第一（宅地租）　（「」內ハ朱書）

番號	氏名	第一期 金額	第一期 領收月日印	第二期 金額	第二期 領收月日印
一	何某	㋑ 二圓五〇〇	㊁何月何日領收㊞	㋑ 二圓五〇〇 ㋺ 五〇〇	㊁何月何日領收㊞
二	何某	㋑ 三二〇〇 ㋩ 「一二〇〇」	㊁何月何日領收㊞	二〇〇〇	㋭「何月何日滯納報告ス」

第二（其ノ他ノ土地租）　（第一期）　（「」內ハ朱記）

【北海普】

【北海普】

番號	氏名	田租	畑租	雜地租	計	領收月日印
一	何某	㋑ 三圓〇〇〇 ㋺ 五〇〇	㋑ 一圓〇〇〇 ㋩ 「五〇〇」	圓	㋑㋺㋩ 四圓〇〇〇 四三〇〇 四〇〇〇	㊁何月何日領收㊞
二	何某	㋑ 二〇〇〇		㋑ 一〇〇〇	㋑ 三〇〇〇	㋭「何月何日滯納報告ス」

第二（其ノ他ノ土地租）　（第二期）　（「」內ハ朱記）

番號	氏名	田租	畑租	雜地租	計	領收月日印
一	何某	㋑ 三圓〇〇〇 ㋺ 五〇〇	㋑ 一圓〇〇〇 ㋩ 「五〇〇」	圓	㋑㋺㋩ 四圓〇〇〇 四三〇〇 四〇〇〇	㊁何月何日領收㊞
二	何某	㋑ 二〇〇〇		㋑ 一〇〇〇	㋑ 三〇〇〇	㋭「何月何日滯納報告ス」

合計

納期別	納税告知高發付金額及人員			領收		滯納報告	
	元額	更訂額	人員	金額	人員	金額	人員
田租前年第二期	圓	圓		圓		圓	
畑租前年第二期							
雜地租前年第二期							
宅地租第一期							
田租第一期							
畑租第一期							
雜地租第一期							
宅地租第二期							

第三（第三種所得税）

番號	氏名	第一期		第二期		第三期		第四期	
		金額	領收月日印	金額	領收月日印	金額	領收月日印	金額	領收月日印
一	何　某	㋑ 四圓二五〇	何月何日領收㊞	圓		圓		圓	

〔北海審〕

〔北海審〕

第四（營業税）〔（自家用醤油税）〕〔（賣藥營業税）〕

番號	氏名	前期分又ハ前半年分		後期分又ハ後半年分	
		金額	領收月日印	金額	領收月日印
一	何　某	㋑ 一五圓三〇〇	㋥ 何月何日領收㊞	圓	

（第三號様式ノ二）

明治何年度

國税（隨時）收納簿

市役所

何郡何町（村）役場

（本簿ハ之ヲ洋式ト爲スコトヲ妨ケス）

番號	氏名	税目	納期	金額	領收月日印
一	大字何々　何　某	何税（目）	何月何日	㋑ 一二圓三五〇	㋺ 何月何日領收㊞
二	大字何々　何　某	何税（目）	何月何日	㋑ 三〇〇〇	㋺ 何月何日領收㊞

（第四號樣式）

明治何年度
國稅收納集計簿

【本簿ハ每納期宅地租、田租、畑租、雜地租ハ各別ニ其他ハ各稅目隨時收入ハ項每ニ區分シ合綴シテ見出ヲ附スヘシ但シ本簿ハ之ヲ洋式ト爲スコトヲ妨ケス】

市役所
何郡何町（村）役場

第（一）期　（宅地租）（田租）（畑租）（雜地租）　（所得稅）　【（營業稅）】
（自家用醬油稅）　（賣藥營業稅）
（「 」內ハ朱記）

年月日	摘要	納額	領收額	未納額
何月何日	告知書發付	㋑ 八七〇圓五〇〇	圓	八七〇圓五〇〇
何月何日	領收濟		㋥ 四八六二五〇	三八四二五〇
何月何日	增額ノ分告知書發付	㋺ 五八七〇		三九〇一二〇
「何月何日」	「減額通知」	㋩ 「一二五〇〇」		三七七六二〇
何月何日	領收濟		㋥ 三五七八七〇	一九七五〇
「何月何日」	「日本銀行何店ヘ送付」		㋭ 「八四四一二〇」	
「何月何日」	「何某外何人滯納報告ス」	㋬ 「一九七五〇」		〇

【北海替】

【北海替】

隨時收入　（宅地租）（田租）（畑租）（雜地租）　（所得稅）　【（營業稅）】
【（自家用醬油稅）】　【（賣藥營業稅）】
（「 」內ハ朱記）

年月日	摘要	納額	領收額	未納額
何月何日	告知書發付	㋑ 一五圓三五〇	圓	一五圓三五〇
何月何日	領收濟		㋥ 一二三五〇	三〇〇〇
何月何日	同		㋥ 三〇〇〇	〇
「何月何日」	「日本銀行何店ヘ送付」		㋭ 「一五三五〇」	

合計
（「 」內ハ朱記）

年月日	摘要	納額	領收額	未納額
何月何日	告知書發付	㋑ 一、二五七圓八五〇	圓	一、二五七圓八五〇
何月何日	領收濟		㋥ 一、一三五二七〇	一二二五八〇
何月何日	增額ノ分告知書發付	㋺ 九七二八〇		二一九八六〇
何月何日	告知書發付	㋑ 一二三五〇〇		三四三三六〇
「何月何日」	「日本銀行何店ヘ送付」		㋭ 「一、一三五二七〇」	
何月何日	領收濟		㋥ 二一五二八〇	一二八〇八〇
「何月何日」	「減額通知」	㋩ 「二二五六〇」		一二五五二〇

「何月何日」	「日本銀行何店へ送付」		㋭	「二一五二八〇」	
「何月何日」	「何人分滯納報告ス」	㋬「一二五五二〇」			○

●諸收入收納取扱規程

明治三十三年四月六日
大藏省訓令第二十七號

警視廳　北海道廳　府縣　稅關
稅務監督局　稅務署

改正（明治ハ之ヲ略ス）、大正一一年訓令第一〇號

明治二十六年大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程左ノ通リ改正シ明治三十三年度ヨリ施行ス

諸收入收納取扱規程

第一條　警視廳北海道廳府縣稅關稅務監督局及稅務署ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ取扱フヘシ但監獄ノ收入ハ此限ニ在ラス

第二條　歲入徵收官ハ諸收入ヲ徵收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以內ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ別記書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納人ヲシテ收入官吏ニ卽納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス

第三條　歲入徵收官ハ其所屬部署長、〔官立學校長及北海道廳所管鐵道各驛主席官吏〕ニ委任シテ諸收入收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條　納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ

第五條　歲入徵收官ハ納金ヲ其期限內ニ納付セサル者アルトキハ直チニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

〔北海督〕

第六條　（削除）

第七條　歲入徵收官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歲入金月計突合表ヲ添ヘ稅務署長ハ翌月五日マテニ其ノ他ハ翌月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

稅務署長ノ提出スル徵收報告書ハ稅務監督局ヲ經由スヘシ

稅務監督局長前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ其月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

第八條　諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之レヲ定ムヘシ

第九條　本規程中歲入徵收官ニ關スル規程ハ北海道支廳長及北海道營林區署長ニ準用ス

北海道支廳長及北海道營林區署長ノ提出スル徵收報告書ハ北海道廳ヲ經由スヘシ

北海道廳長官前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ大藏省ニ送付スヘシ

（別記）

備考

一　領收證書及報告書（通知書）用紙ノ納入金額納入年度種類等ハ總テ納入告知書發行廳ニ於テ記入スルモノトス

二　歲入徵收官ト同一官廳內ニ在ル收入官吏ノ領收濟報告ハ納入告知書ニ領收濟年月日ヲ記入捺印シテ之ニ代用シ報告書ヲ省略スルコトヲ得

用紙適宜（縱四寸五分橫三寸三分）ノモノ二枚（縱四寸五分橫二寸五分）ノモノ一枚接續

〔北海督〕

納　入　告　知　書

第「何」號	「某」年度	「何」郡市「何」町村「何某」納
經常（臨時）	「何々（款）」「何々（項）」	「何々（目）」
大藏省主管	「取扱廳名」	歲入徵收官「官氏名」

一金何程

「但何々」（收入ノ目的ヲ記載ス）

右（何）年（何）月（何）日限リ收入官吏官氏名又ハ「日本銀行何店」又ハ「日本銀行本店、支店又ハ代理店」ヘ納付スヘシ

明治「何」年「何」月「何」日

納入告知書發行者　官　氏　名㊞

報　告　書
（日本銀行ハ通知書）

第「何」號	「某」年度	「何」郡市「何」町村「何某」納
經常（臨時）	「何々（款）」「何々（項）」「何々（目）」	大藏省主管 取扱廳名

一金何程

右領收濟ニ付報告（日本銀行ハ通知）候也

明治「何」年「何」月「何」日

「收入官吏官氏名」㊞
又ハ「日本銀行何店」㊞

「歲入徵收官氏名宛」

領　收　證　書

第「何」號	「某」年度	「何」郡市「何」町村「何某」納
「取扱廳名」		

一金何程

「但何々」

右領收候也

明治「何」年「何」月「何」日

「收入官吏官氏名」㊞
又ハ「日本銀行何店」㊞

●諸收入收納規程第三條ニ據ル諸收入歲入徵收官ノ事務委任ノ件

大正十一年八月一日
訓第六百八十六號

內務部　支廳　警察署　土木事務所
築港事務所　治水事務所
農事試驗場　同支場　水產試驗場
同支場　工業試驗場

改正　大正一二年訓第三八六號、昭和二年第四六六號

明治三十三年大藏省訓令第二七號諸收入收納規程第三條ニ據リ諸收入歲入徵收官ノ事務ヲ學校長土木事務所長築港事務所長治水事務所長水產試驗場長農事試驗場長工業試驗場長ニ委任シ警察署農事試驗場支場及水產試驗場支場（千歲支場ヲ除ク）ニ於ケル同事務ハ所轄支廳長函館市ニ於ケル同事務ハ函館支廳長小樽市ニ於ケル同事務ハ後志支廳長旭川市ニ於ケル同事務ハ上川支廳長室蘭市ニ於ケル同事務ハ室蘭支廳長釧路市ニ於ケル同事務ハ釧路支廳長之ヲ取扱フヘシ

大正三年四月訓第三百三十八號ハ之ヲ廢止ス

●租稅外諸收入收納事務取扱手續

大正四年二月二十五日
訓令第十一號

改正　大正七年訓令第七號、一一年第二一號、第一一五號

內務部　支廳　警察署〔同分署〕　營林區署
同分署　築港事務所　土木事務所
水產試驗場　同支場　治水事務所　廳立學校
町村役場〔戶長〕役場　收入官吏

租稅外諸收入收納事務取扱手續左ノ通定ム

租稅外諸收入收納事務取扱手續

第一條　支廳長營林區署長及明治三十三年四月大藏省訓令第二七號諸收入收納取扱規程第三條ニ依リ歲入徵收官ノ委任ヲ受ケタル分掌官ハ大正十一年三月大藏省令第二十號第六號書式徵收簿及第一號書式ノ徵收元簿ヲ備ヘ調定又ハ收納ノ時々記簿整理スヘシ

使用料貸付料（建物貸下料ヲ除ク）ニ關シテハ前記簿冊ノ外第二號書式ノ徵收臺帳ヲ備フヘシ

官吏遺族扶助法納金竝使用料貸下料（建物貸下料ヲ除ク）ニ關シテハ第一號書式ノ徵收元簿ヲ省略スルコトヲ得

第二條　支廳長管內ノ一級町村及二級町村ヲシテ其ノ町村內ノ歲入金ヲ徵收セシムルトキハ第三號書式ノ徵收元帳及租稅外歲入督促元簿ヲ備フヘシ

第三條　收入官吏現金ヲ領收シタルトキハ直ニ領收濟報告書ヲ納入告知書發行者ニ送付スヘシ

支廳長營林區署長及分掌官前項ノ報告書又ハ領收濟通知書ヲ受ケタルトキハ記簿整理ヲナスヘシ但シ分掌官ニ於テ納入告知書ヲ發シタルモノナルトキハ分掌官之ヲ保存スヘシ

〔北海書〕

第四條　支廳長營林區署長及分掌官ハ徵收簿ニ依リ毎月大正十一年三月大藏省令第二十號第四號書式徵收報告書ヲ調製シ支廳長營林區署長ハ翌月十五日限リ當廳ニ分掌官ハ翌月五日限リ其ノ所屬ノ歲入徵收官ニ送付スヘシ但シ異動ナキトキハ其ノ旨通報スヘシ

徵收報告書ノ其ノ月收入金額ヲ日本銀行ノ月計突合表ニ對比シ不符合アルトキハ第八號書式徵收報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額仕譯書ヲ添付スヘシ

第五條　前條ニ依リ調製スル徵收報告書中現金拂込仕譯ハ郵便局ニ拂込タル金額ト日本銀行ニ拂込タル金額トヲ區別スヘシ

郵便局扱ノ前月迄拂込未濟翌月越高ノ金額ハ收入官吏扱前月迄拂込未濟、翌月越高ノ次行ニ各外書トシテ記載スヘシ

第六條　收入官吏ハ大正十一年三月大藏省令第二十號第十四號書式現金出納簿及第四號書式ノ現金出納內譯簿ヲ備ヘ出納ノ事實ヲ登錄スヘシ

第七條　收入官吏ハ毎月大正十一年一月大藏省令第二號出納官吏事務規程第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ領收及拂込ノ有無ニ拘ハラス其ノ月ノ終ニ於テ支廳長營林區署長ニ送付シ分掌官ニ於テ納入告知書ヲ發シタルモノナルトキハ分掌官ニ送付スヘシ

歲入徵收報告書中現金拂込仕譯書ノミニ異動アルトキハ大正十一年三月大藏省令第二十號第四號書式乙現金拂込濟仕譯書ヲ調製シ支廳長營林區署長ハ翌月十日限リ當廳ニ分掌官ハ翌月五日限リ所屬ノ歲入徵收官ニ送付スヘシ其ノ郵便局ヘ拂込タルモノノ區分記載方ハ第五條ニ準據スヘシ

第八條　支廳長營林區署長及分掌官ハ前條第一項ノ現金拂込仕譯書ヲ受ケタルトキハ之ヲ精査シ毎月取纏メ合計ヲ附シテ保存スヘシ

第九條　支廳長營林區署長分掌官ノ發スル納入告知書ノ納付場所ヲ收入官吏ト指定シタルトキハ其ノ納入告知書ハ指定シタル收入官吏ヲ經由納人ニ交付スヘシ

分掌官ノ發シタル納入告知書ノ納付場所ヲ郵便局ト指定シタルトキハ金額年度科目納入人氏名ヲ所屬ノ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第十條　收入官吏ハ第六號書式ノ徵收整理簿ヲ備ヘ前條ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ要領ヲ登錄スヘシ納入金ヲ收納シタルトキ亦同シ但シ歲入徵收官分掌官所在廳ニ在勤スル收入官吏ハ本簿ノ備付ヲ省略スルコトヲ得

第十一條　町村長ハ前條徵收整理簿竝第七號書式ノ租稅外歲入收納簿ヲ備ヘ調定收納竝出納ヲ登錄スヘシ

附則

第十二條　本手續ハ大正四年三月一日ヨリ施行ス

從來備付諸帳簿ハ大正三年度ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

明治三十三年五月訓第二百五十九號ハ大正四年二月二十八日限リ之ヲ廢止ス

書式

一號

年度

徵收元簿

廳名

一　本簿ハ各科目每ニ口座ヲ設ケ其ノ調定額ニ對シテハ月計累計ヲ朱記スルモノトス

一　森林收入主產物拂下代竝地所拂下代ハ其ノ合計額ニ對シ月計累計ヲ朱記シ更ニ各科目ノ內譯金額ヲ記スルモノトス

一　前年度收入未濟繰越額アルトキハ相當科目ノ首葉ニ口座ヲ設ケ年度及納人別ニ金額要件ヲ移記シ之カ合計ヲ朱記スヘシ

〔北海書〕

一號ノ甲（森林收入主產物拂下代地所拂下代ハ本書式ニ依ル）

森林收入　主產物拂下代　地所拂下代

納入告知書 番號	納入告知書 發付年月日	納入告知書 納期日	科目	調定金額	領收年月日	納付場所	摘要	納人住所氏名
一	何年何月何日	何年何月何日	主產物拂下代	一〇〇〇〇圓	年月日	何々	牧場何町步一町步何程代價何程用材何石一石何程代價何程薪炭材何棚一棚何程代價何程	何々
			地所拂下代	五〇〇〇				
二	何年何月何日	何年何月何日	主產物拂下代			何々	畑何町步一町步何程代價何程	何々
			地所拂下代	二〇〇〇				

備考

一　本樣式ハ未開地處分法ニ依リ賣拂タル立木土地拂下代ヲ收納スル官廳ニ限リ備フルモノトス

一號ノ乙（森林收入主產物拂下代地所拂下代、官有物貸下料建物貸下料ヲ除キタル其他ノ分）

項　　　目

納入告知書			調定金額	領收年月日	納付場所	摘要	納人住所氏名
番號	發付年月日	納期日					
			圓				

備考

一　未開地處分法ニ依リ賣拂タル立木土地拂下代ヲ收納セサル官廳ハ森林收入主產物拂下代土地拂下代ト雖トモ本書式ニ據ルモノトス

一號ノ丙（官有物貸下料、建物貸下料）

官有物貸下料　建物

第　號官舍	貸下場所	建坪	地坪	貸下料月額
		坪		一金

	建築原價	評定價格		
年月日				
金額	圓			
貸下許可年月日				
返納年月日				
貸下人氏名				

【北海舊】

貸下料

二號

月別	納入告知書			調定金額	領收年月日	納付場所	摘要
	番號	發付年月日	納期日				
四月分				圓			四月十二日返納ニ付半月分又ハ四月十六日貸下ニ付半ケ月分又ハ何々
五月分							
六月分							

何年

徵收臺帳

廳名

一　本簿ハ各科目每ニ口座ヲ設クルモノトス

郡區町村字地番若ハ水面所在	使用貸下許可年月日	素地及水面ノ種類	使用ノ目的

使用貸下人住所氏名

年別	納入告知書			調定金額	領收年月日	納付場所	備考
	番號	發付年月日	納期日				

三號ノ甲

段別又ハ坪數	一ケ年料金	同更正料金	同上更正シタル年月日	使用貸下期間	返地命令年月日	滿期年月日	摘要

年度

徵收元帳

廳名

一　本簿ハ各科目每ニ各町村別ニ口座ヲ設クルモノトス

一　△印ハ朱記トス

町村名

項

年月日	摘要	納期日	調定金額	收入濟額	不納缺損額	收入未濟額
年月日	第何號納入告知書ヲ發ス		100000	—	—	100000

【北海舊】

三號ノ乙

目

同	同	同	同				
納入通知ヲ受ク	何々ニ依リ調定外誤納分	何々ニ依リ缺損	△怠納報告ヲ受ク	△完結			
●							
	1000		△七000				
九0000	1000						
		三000					
10000	1000	七000	0				

年度

租稅外歲入督促元簿

廳名

一　本簿ニ依リ整理スルモノハ該當年度ニ限リ本簿ヲ徵收元簿ニ代フ

一　本簿ハ各科目每ニ口座ヲ設クルモノトス

項

督促狀發付年月日及番號	指定納期	金額	領收年月日	納付場所	摘要	納人住所氏名

目

四號

年度

現金出納內譯簿

區名

一　本簿ハ經常部臨時部ニ分チ口座ヲ設クルモノトス
一　本簿ハ月計累計ヲ記スルモノトス

年月日	摘要	受 圓	拂 圓	殘 圓

五號（削除）

六號

年度

徴收整理簿

區名
町村名

一　本簿ハ各科目毎ニ口座ヲ設ケ月計累計ヲ朱記スルモノトス
一　前年度收入未濟繰越額アルトキハ相當科目ノ首葉ニ口座ヲ設ケ年度及納人別ニ金額要件ヲ移記シ之カ合計ヲ朱記スルモノトス

六號ノ甲

項　　目

納入告知書			調定金額	領收年月日	摘要	納人住所氏名
番號	發付年月日	納期日				
			圓			

六號ノ乙

森林收入　主産物拂下代
地所拂下代

納入告知書			科目	調定金額	領收年月日	摘要	納人住所氏名
番號	發付年月日	納期日					
			主産物拂下代 地所拂下代	圓			

備考
一　未開地處分法ニ依リ賣拂タル立木、土地拂下ヲ收納スル收入官吏ニ限リ森林收入主產物及地所拂下代ハ本書式ニ依ル

七號

年度

租税外歳入收納簿

町村名

一　本簿ハ各科目毎ニ口座ヲ設ケ月計累計ヲ朱記スルモノトス
一　△印ハ朱記トス

八號

徴收報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額仕譯書

大正何年度　　大正何年何月分

項　　目

年月日	摘要	調定金額	收納金額	拂込金額	拂込未濟額
年月日	何號納額告知書ヲ受ク	圓 100000	圓	圓	圓
年月日	何某ヨリ收納		九〇〇〇〇		九〇〇〇〇
年月日	何々金庫拂込			九〇〇〇〇	〇
年月日	怠納報告額	10000			
	△完結				

差額		事由
突合表ノ方超過 圓	突合表ノ方不足 圓	

備考　超過若ハ不足ノ事由ハ詳細ニ記載ヲ要ス

用紙寸法　縱六寸　横六寸五分

●官有土地水面使用料徴收方

大正十二年三月十九日
訓第二百五十一號

官有土地水面使用料徴收方自今左ノ通リ取扱フヘシ（警中一般　支廳）

一　使用料ハ使用許可指令ノ翌日ヨリ徴收ス

一　使用期限中返還願出ノモノ、料金ハ返還許可指令ノ日マテ徴收ス

●印紙ヲ以テ歳入金納付ニ關スル件

大正九年六月二十三日
勅令第百九十號

改正　大正一二年勅令第二三六號、第二八八號

朕印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　政府ニ納ムヘキ手數料、罰金、科料、過料、刑事追徴金、訴訟費用、非訟事件ノ費用及少年法第六十一條ノ規定ニ依リ徴收スル費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納メシムルコトヲ得但シ印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ手數料ノ種目ハ主務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

第二條　法令ニ依リ印紙ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入金ヲ納ムルトキハ收入印紙ヲ用ウヘシ

收入印紙ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條　收入印紙ハ郵便局所、郵便切手賣捌所又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ之ヲ賣捌ク賣捌ニ關スル規程ハ遞信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官、關東廳所轄地域以外ノ支那ニ在リテハ外務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正九年六月二十四日官報）

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

〔北海警〕

明治三十年勅令第四百五十二號
明治三十一年勅令第百四十號
明治三十二年勅令第二十六號
明治三十二年勅令第五十六號
明治三十八年勅令第二百二十七號
明治四十年勅令第三百四十二號
明治四十二年勅令第四十一號

●收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納ムルトキ印紙貼付方

明治三十八年十一月十六日
大藏省令第五十一號

改正　大正九年大藏省令第二一號

收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼付スヘシ

●收入印紙ヲ以テ納付スヘキ手數料種目

明治三十年十月十一日
內務省令第二十八號

改正（明治ハ之ヲ略ス）、大正五年內務省令第三號

左ノ種目ノ手數料又ハ代價ヲ收入印紙ヲ以テ納ムルトキハ其ノ金額ニ相當スル印紙ヲ願書其ノ他ノ書類ニ貼用スヘシ

一　〔醫術開業試驗手數料〕
一　藥劑師試驗手數料
一　藥品其ノ他檢査手數料
一　〔藥品其ノ他再檢査手數料〕
一　〔醫術開業免狀書換手數料〕〔毀損亡失ニ係ルモノ〕

〔北海警〕

一　藥劑師免狀書換手數料〔毀損亡失ニ係ルモノ〕
一　文官試驗手數料
一　〔版權登錄證再度下付手數料〕
一　〔版權登錄證訂正手數料〕
一　〔版權免許料〕
一　〔版權免許證明書下付手數料〕
一　阿片代價
一　明治三十二年內務省令第二十六號第五條ニ依ル目錄簿閲覽手數料
一　明治三十五年內務省令第九號第三條ニ依ル健全證書交付手數料
一　沖繩縣及東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於ケル屠畜檢査手數料

前項ニ依リ貼用シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但出願者又ハ請求者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

明治三十八年十一月十六日
大藏省令第五十號

改正　明治三九年大藏省令第三號、第二五號、大正三年第一八號、七年第三七號、九年第二〇號、昭和六年第六號

收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手數料種目左ノ如シ

一　賣藥法施行規則第五條ニ依ル手數料
二　文官試驗手數料

昭和六年二月三日
農林省令第二號

蹄鐵工免狀書換手數料及蹄鐵工ノ登錄稅ニ關スル件左ノ通定ム

蹄鐵工免狀ノ毀損亡失ニ因ル書換手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムベシ

蹄鐵工ノ登錄稅又ハ前項ノ手數料トシテ納ムル收入印紙ハ願書ニ之ヲ貼用スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前受理シタル出願ニ關スル登錄稅及手數料ノ納付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●罰金及科料等徴收方

明治三十五年三月三十日
訓令第三十八號

（支廳　警察署〔同分署〕〔戶長役場〕）

改正　明治三五年訓令第四九號、第六五號

租稅外歳入金ノ內罰金及科料等徴收方左ノ通リ相定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

一　警察署及〔同分署〕ニ分任收入官吏ヲ置キ罰金及科料沒收金健全證書下付ノ手數料竝ニ警察主管ニ係ル物品拂下代ノ徴收事務ヲ取扱ハシム

二　前號分任收入官吏ハ警察署及〔同分署〕所在地ヲ所轄スル支廳ニ於ケル主任收入官吏ニ屬スルモノトス

但札幌函館小樽三區ニ於ケル警察署及〔同分署〕在勤ノ分任收入官吏ハ各其所在支廳ノ主任收入官吏ノ所屬トス

●科料金其他取扱手續

明治三十三年四月七日
訓第百九十八號

（支廳　警察署〔同分署〕〔戶長役場〕）

改正　明治三三年訓第八二六號、三七年第六七五號

明治三十二年九月訓第五百八號科料金其他取扱手續左ノ通リ改正ス

科料金其他取扱手續

第一條　違警罪即決例ニ依リ科料ノ言渡ヲ爲シタル場合ハ其確定ヲ待チ速ニ被告人ノ住所氏名言渡月日科料金額處罰條項等ヲ支廳又ハ戶長役場ニ通知スヘシ但シ本人轉住其他ノ理由ニ依リ他ノ支廳又ハ戶長役場ニ納付

セシムルヲ便利ト認ムル場合ハ其警察官署ニ囑託シ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

科料ノ假納ヲ命シタル場合ハ即時通知シ徴收セシムヘシ

第二條　違警罪即決例ニ依リ保證金ノ上納ヲ命シタル場合ハ即時歳入歳出外現金出納官吏ニ通知シ徴收セシムヘシ但シ確定ノ場合ハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

保證金ノ上納ヲ命セラレタル者ニシテ正式裁判ヲ請求シタルトキハ其旨歳入歳出外現金出納官吏ニ通知シ檢事局ニ送付セシムヘシ

第三條　支廳又ハ〔戸長役場〕ニ於テ科料金納入アリタルトキ及納入期日ニ至リ完納セサルトキハ即日關係警察官署ニ通知スヘシ

科料假納金納入アリタルトキハ即日通知スヘシ

第四條　支廳又ハ〔戸長役場〕ニ於テ保證金ノ納入ヲ了シタルトキハ直ニ關係警察官署ニ通知スヘシ

第五條　科料金納入ノ通知ヲ受ケタル警察官署ハ即時違警罪件名簿ニ其年月日ヲ記載スヘシ

第六條　警察官署ニ於テ違警罪科料金ノ徴收ヲ爲スニ當リ轉居其他ノ事由ニ因リ管外警察官署ヘ納付セシムルヲ便利ト認ムルトキハ第一條第二項ニ準シ其地警察官署ヘ囑託スヘシ

前項科料金徴收方他管內警察官署ヨリ受託ノ場合ハ本手續ニ據リ處理シ其結果ヲ囑託署ヘ通知スヘシ

●收入印紙ヲ以テ科料ヲ納付セシムル場合ノ取扱方

明治三十八年十二月二十七日
訓第千百十一號

文書　警察署〔警察分署〕

〔北海警〕

本年十一月勅令第二百二十七號ニ依リ收入印紙ヲ以テ科料ヲ納付セシムル場合ハ左記ニ依リ取扱フヘシ

一　歳入徴收官納入告知書ヲ發スルトキハ左ノ要領ヲ告知書ノ餘白ニ記載スヘシ

　一　收入印紙ヲ以テ納付スルヲ得ルコト

　一　收入印紙ヲ以テ納付スルニハ告知額ニ相當スル印紙ヲ納入告知書ノ裏面ニ貼付シ之ヲ歳入徴收官又ハ分任收入官吏ニ差出スコト

　一　納人ハ收入印紙ニ消印ヲ要セサルコト

二　歳入徴收官又ハ分任收入官吏收入印紙ヲ以テ納付ヲ受ケタルトキハ直ニ納付告知書ヲ添ヘ其旨ヲ警察署長又ハ〔警察分署長〕ニ通知シ且調定控除ノ手續ヲ爲スヘシ

分任收入官吏ニ於テ納人ヨリ收入印紙ヲ以テ納付ヲ受ケタルトキハ前項ノ外其旨歳入徴收官ニ通知スヘシ

三　警察署長又ハ〔警察分署長〕ニ對シ納人ヨリ收入印紙ヲ以テ即納シタルトキハ左ノ如ク取計フヘシ

　一　納人ヲシテ納付金額件名及年月日竝ニ住所氏名ヲ記載セル納付書ヲ作成セシメ之ニ納付額相當ノ收入印紙ヲ貼付セシムルコト

　一　納人ヲシテ收入印紙ニ消印ヲ要セサルコト

四　納人ニ於テ一件ノ金額中幾分ヲ收入印紙ニテ納付シタルトキハ分納ノ例ニ準シ其殘額ニ付更ニ調定ノ手續ヲ爲シ且帳簿ニ其事由ヲ附記スヘシ

五　警察署長又ハ〔警察分署長〕ハ納人ヨリ收入印紙ヲ以テ納付ヲ受ケタルトキ又ハ歳入徴收官分任收入官吏ヨリ第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ納人ニ對シ納付濟證ヲ交付スヘシ

六　納付濟證ニハ收入印紙額面金額件名及年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シ且署印ヲ押捺スヘシ

七　納付濟ノ收入印紙ニハ警察署長又ハ〔警察分署長〕ハ納人ノ面前ニ於テ

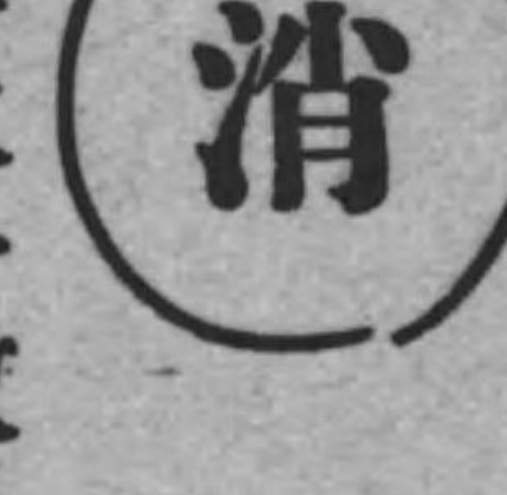
黑肉ヲ以テ左ノ雛形ノ消印ヲ押捺スヘシ

但假納ニ係ルモノハ確定ヲ待テ署員立會ノ上消印ヲ爲スヘシ

〔北海警〕

消印雛形

径八分
輪幅八厘



●科料金及手數料帳簿書式

明治四十一年二月十九日
訓第百五十二號

廳中一般　文書　警察署〔同分署〕

科料金及手數料等ノ納付ニ貼用シテ提出スル收入印紙ハ收受後黑肉ヲ以テ書類ト印紙面トニ掛ケテ消印ヲ爲シ別紙書式ノ帳簿ヲ備ヘテ貼用高ヲ記載スヘシ

書式

何年度

收入印紙貼用額登錄簿

廳名

年月日	金額	摘要	住所氏名
、、、	、、	納付ノ理由詳記	、、、、、　、、、、
、、、	、、	スヘシ	、、、、、　、、、、

備考

一　本簿ハ各種目別ニ口座ヲ設ケ月計累計ヲ付スルモノトス

第二節　賦課徴收

●地方税ニ關スル件

大正十五年三月二十七日
法律第二十四號

改正　昭和六年法律第五〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地方税ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　北海道、府縣ハ本法ニ依リ特別地税、家屋税、營業税及雜種税ヲ賦課スルコトヲ得

第二條　特別地税ハ地租法第七十條ノ規定ニ依リテ地租ヲ免除シタル田畑ニ對シ地租法第八條ノ賃貸價格ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

特別地税ノ徴收ニ關シテハ地租法第十二條ノ規定ヲ準用ス

第三條　特別地税ノ賦課率ハ賃貸價格百分ノ三・一以内トス

特別地税ニ對シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ賦課スヘキ附加税ノ賦課率ハ前項ニ規定スル制限ノ百分ノ八十以内トス

第四條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第二條ノ例ニ依リ賃貸價格百分ノ二・五ノ外其ノ分賦金額以内ニ限リ前條第一項ニ規定スル制限ニ達スル迄特別地税ヲ賦課スルコトヲ得

北海道地方費又ハ府縣費ノ一部ノ分賦ヲ受ケタル市町村ハ前條第二項ニ規定スル制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ特別地税附加税ヲ賦課スルコ

トヲ得但シ北海道、府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ前條第一項ニ規定スル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　特別地稅又ハ其ノ附加稅ト段別割トヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ第三條又ハ前條ノ規定ニ依リ其ノ地目ノ土地ニ對シ賦課シ得ヘキ制限額ト特別地稅額又ハ其ノ附加稅額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ賦課カ第三條乃至前條ニ規定スル制限ニ達シタル場合ニ非サレハ明治四十一年法律第三十七號第五條ノ規定ニ依ル地租、營業收益稅又ハ所得稅ノ附加稅ノ制限外課稅ヲ爲スコトヲ得ス

特別地稅又ハ其ノ附加稅ト段別割トヲ併課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ前條ニ規定スル制限ニ達シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ特別地稅又ハ其ノ附加稅カ制限ニ達シタルモノト看做ス

第七條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

左ニ揭クル場合ニ於テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ
三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ
四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スルハ營業收益稅及所得稅ノ附加稅ノ賦課カ明治四十一年法律第三十七號第二條及第三條ニ規定スル制限ニ達シタルトキニ限ル

【北海警】

第八條　特別地稅及其ノ附加稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租附加稅ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租附加稅額ノ當該田畑ノ賃貸價格ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　家屋稅ハ家屋ノ賃貸價格ヲ標準トシテ家屋ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第十條　家屋ノ賃貸價格ハ家屋稅調查委員ノ調查ニ依リ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ決定ス

第十一條　左ニ揭クル家屋ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ家屋稅ヲ賦課セサルコトヲ得

一　一時ノ使用ニ供スル家屋
二　賃貸價格一定額以下ノ家屋
三　公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル家屋

第十二條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第九條乃至前條ノ例ニ依リ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

第十三條　家屋稅及其ノ附加稅ノ賦課率及賦課ノ制限並家屋ノ賃貸價格ノ算定及家屋稅調查委員ノ組織ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　營業稅ハ營業收益稅ノ賦課ヲ受ケサル營業者及營業收益稅ヲ賦課セサル營業ヲ爲ス者ニ之ヲ賦課ス

第十五條　營業稅ヲ賦課スヘキ營業ノ種類ハ營業收益稅法第二條ニ揭クルモノ及勅令ヲ以テ定ムルモノニ限ル

第十六條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第十四條及前條ノ例ニ依リ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得

第十七條　第十一條第三號ノ規定ハ營業稅ニ之ヲ準用ス

第十八條　營業稅ノ課稅標準並營業稅及其ノ附加稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ種類ハ勅令ヲ以テ定ムルモノ並內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十條　第十一條第三號ノ規定ハ雜種稅ニ之ヲ準用ス

第二十一條　雜種稅ノ課稅標準並雜種稅及其ノ附加稅ノ賦課ハ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　市町村ハ本法ニ依リ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得

第二十三條　戶數割ハ一戶ヲ構フル者ニ之ヲ賦課ス

戶數割ハ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第二十四條　戶數割ハ納稅義務者ノ資力ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第二十五條　戶數割ノ課稅標準タル資力ハ納稅義務者ノ所得額及資產ノ狀況ニ依リ之ヲ算定ス

第二十六條　第十一條第三號ノ規定ハ戶數割ニ之ヲ準用ス

第二十七條　戶數割ノ賦課ノ制限、納稅義務者ノ資產ノ狀況ニ依リ資力ヲ算定シテ賦課スヘキ額其ノ他納稅義務者ノ資力算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　北海道府縣以外ノ公共團體ニ對スル第七條ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅營業稅及雜種稅其ノ附加稅並戶數割ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治十三年第十六號布告及同年第十七號布告ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス

第六條及第七條中營業收益稅トアルハ大正十五年度分特別地稅及其ノ附加稅ニ付テハ國稅營業稅トス

家屋稅ハ大正十八年度分迄ニ限リ第九條乃至第十二條ノ規定ニ拘ラス別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ賦課スルコトヲ得

附則（昭和六年四月法律第五〇號）

【北海警】

本法ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和六年度分ニ付從前ノ地租ヲ標準トシ地租附加稅ヲ賦課スル北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ガ昭和六年度分特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從前ノ地價ヲ標準トシ從前ノ規定ニ依リ之ヲ賦課スベシ此ノ場合ニ於テ段別割ヲ併課スルトキハ段別割ノ總額ノ制限ハ從前ノ規定ニ依ル

北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ニ於ケル改正制限率ニ依リ賦課スルコトヲ得ベキ特別地稅額又ハ其ノ附加稅額ト地租附加稅額トノ合算額ガ從前ノ地價又ハ地租ヲ標準トシ從前ノ制限率ニ依リ賦課スルコトヲ得ベキ特別地稅額又ハ其ノ附加稅額ト地租附加稅額トノ合算額ニ達セザル場合ニ於テ特別ノ必要アルトキハ昭和十二年度分迄ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ差額ノ範圍內ニ於テ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ニ規定スル制限及第七條第一項ノ制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ニ於ケル改正制限率ニ依リ賦課スルコトヲ得ベキ特別地稅額又ハ其ノ附加稅額ト地租附加稅額トノ合算額ガ從前ノ地價又ハ地租ヲ標準トシ從前ノ制限率ニ依リ賦課スルコトヲ得ベキ特別地稅額又ハ其ノ附加稅額ト地租附加稅額トノ合算額ヲ超ユル場合ニ關シテハ昭和十二年度分迄ニ限リ勅令ヲ以テ第三條乃至第五條ノ制限內ニ於テ之ニ代ルベキ課稅ノ制限ヲ定ムルコトヲ得

前二項ニ揭グル特別地稅額、其ノ附加稅額及地租附加稅額ノ算定ニ關シテハ內務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

北海道府縣以外ノ公共團體ニ對スル第三項ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

●地方稅ニ關スル法律施行ニ關スル件

大正十五年十一月十六日
勅令第三百三十九號

改正　昭和六年勅令第四九號

朕大正十五年法律第二十四號地方稅ニ關スル法律施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　大正十五年法律第二十四號第九條ノ家屋トハ住家、倉庫、工場其ノ他各種ノ建物ヲ謂フ

第二條　家屋ノ賃貸價格ハ貸主ガ公課、修繕費其ノ他家屋ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ家屋ヲ賃貸スル場合ニ於テ賦課期日ノ現狀ニ依リ貸主ノ收得スベキ金額ノ年額ヲ以テ之ヲ算定ス

第三條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ其ノ家屋ノ賃貸價格ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル類似ノ他ノ家屋ノ賃貸價格ニ比準シテ之ヲ定ム

第三條　家屋稅ノ賦課期日後建築セラレタル家屋ニ付テハ工事竣成ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ家屋稅ヲ賦課ス

大正十五年法律第二十四號第十一條ノ規定ニ基キテ家屋稅ヲ賦課セザル家屋又ハ法律ニ依リテ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得ザル家屋ガ家屋稅ノ賦課期日後之ヲ賦課スルコトヲ得ベキモノト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ家屋稅ヲ賦課ス

家屋稅ノ賦課期日後家屋カ滅失シ其ノ他家屋トシテノ效用ヲ失ヒタルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ月迄月割ヲ以テ家屋稅ヲ賦課ス大正十五年法律第二十四號第十一條ノ規定ニ基キテ家屋稅ヲ賦課セザル家屋又ハ法律ニ依リテ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得ザル家屋ト爲リタルトキ亦同ジ

家屋稅ノ賦課後前項ノ事實ヲ生ズルモ其ノ賦課額ハ之ヲ變更セズ

第四條乃至第七條　（削除）

第八條　家屋ノ賃貸價格ニ對スル賦課率ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ府縣ニ於テ之ヲ定ム

第九條　前條ノ規定ハ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ於テ賦課スベキ家屋稅ニ關シ之ヲ準用ス

第十條　戶數割ヲ賦課スル市町村ニ於テ賦課スベキ家屋稅附加稅ノ賦課率ハ本稅百分ノ五十以內トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ課稅スルコトヲ得

左ニ揭グル場合ニ於テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ
三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ
四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ノ規定ニ依リテ制限外課稅ヲ爲スハ特別地稅附加稅ガ大正十五年法律第二十四號第七條ノ規定ニ依リテ制限外課稅ヲ爲ス場合ニ限ル但シ特別地稅附加稅ナキトキハ地租附加稅又ハ段別割ガ明治四十一年法律第三十七號第五條ノ規定ニ依リテ制限外課稅ヲ爲ス場合ニ限ル

第十一條　內務大臣及大藏大臣ガ戶數割ヲ賦課シ難キモノト認メタル市町村ニ於テ賦課スベキ家屋稅附加稅ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　市ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十六但シ明治四十一年法律第三十七號第三條第三項ノ規定ニ依リテ所得稅附加稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十
二　町村ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ六十但シ明治四十一年法律第三十七號第三條第三項ノ規定ニ依リテ所得稅附加稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ五十五

特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

第十二條　大正十五年法律第二十四號第十五條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ賦課スベキ營業ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

運河業
棧橋業
船舶碇繫場業
貨物陸揚場業
兩替業
湯屋業
理髮業
寄席業
遊技場業
遊覽所業
藝妓置屋業

第十三條　營業收益稅法第二條ニ揭グル營業ニ對スル營業稅ノ賦課額ハ同法ニ依ル個人ノ營業收益稅額ノ最低額未滿トス

第十四條　營業稅ノ課稅標準ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第十五條　年稅又ハ期稅タル營業稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニ對シテハ其ノ發生ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ營業稅ヲ賦課ス

前項ノ營業稅ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニ對シテハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ營業稅ヲ賦課ス

第一項ノ營業稅ニ付テハ其ノ賦課後營業ノ承繼アリタル場合ニ於テハ前營業者ノ納稅ヲ以テ後ノ營業者ノ納稅ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用セズ

月稅タル營業稅ノ賦課期日後其ノ月十五日迄ニ納稅義務發生シタルトキハ其ノ營業稅ノ全額、十六日以後納稅義務發生シタルトキ又ハ十五日迄ニ納稅義務消滅シタルトキハ其ノ半額ヲ賦課ス

前二項ノ場合ニ一ノ府縣ニ於テ納稅義務消滅シ他ノ府縣ニ於テ納稅義務發生シタルトキハ納稅義務ノ發生シタル府縣ハ納稅義務ノ消滅シタル府縣ニ於テ賦課シタル部分ニ付テハ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

第十六條　營業稅附加稅ノ賦課率ハ本稅百分ノ九十以內トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

第十七條　大正十五年法律第二十四號第十九條ノ規定ニ依リ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ベキモノノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

船
車
水車
市場
電柱
金庫
牛馬
犬
狩獵
屠畜
不動產取得
漁業
遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者
演劇其ノ他ノ興行
遊興

前項ニ揭グル課目ハ府縣ニ於テ之ヲ取捨スルコトヲ得

【北海警】

特別ノ必要アル場合ニ於テ第一項ノ種類以外ノモノニ對シ雜種稅ヲ賦課セントスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十八條　第十五條ノ規定ハ雜種稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

第十九條　雜種稅ノ課稅標準及其ノ制限率其ノ他賦課ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第二十條　雜種稅附加稅ノ總額ハ本稅總額ノ百分ノ八十九以內トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ賦課スルコトヲ得

第二十一條　戶數割總額中納稅義務者ノ資産ノ狀況ニ依リ資力ヲ算定シテ賦課スベキ額ハ戶數割總額ノ十分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十二條　戶數割納稅義務者ト生計ヲ共ニスル同居者ノ所得ハ之ヲ其ノ納稅義務者ノ所得ト看做ス但シ其ノ納稅義務者ヨリ受クル所得ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　同一人ニ對シ數市町村ニ於テ戶數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ各其ノ市町村ニ於ケル所得ヲ以テ其ノ者ノ資力算定ノ標準タル所得トス

其ノ所得ニシテ分別シ難キモノアルトキハ關係市町村ニ平分ス

戶數割ヲ納ムル市町村以外ノ地ニ於ケル所得ハ納稅義務者ノ資力算定ニ付住所地市町村ニ於ケル所得ト看做ス

前二項ニ規定スル所得計算ニ付關係市町村異議アル場合ニ於テ其ノ府縣內ニ止マルモノハ府縣知事、數府縣ニ涉ルモノハ內務大臣之ヲ定ム

第二十四條　所得ニ依ル資力算定方法ニ關シテハ第二十一條乃至前條ニ定ムルモノノ外內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第二十五條　戶數割ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニ對スル賦課額ハ大正十五年法律第二十四號第二十四條乃至第二十七條及本令第二十一條（又ハ附則第六項）乃至前條ノ規定ニ依リテ定マリタル他ノ納稅義務者ノ賦課額ニ比準シテ之ヲ定ム

第十五條第一項、第二項及第五項ノ規定ハ戶數割ノ賦課ニ之ヲ準用ス但シ戶數割ノ賦課後納稅義務消滅スルモ其ノ賦課額ハ之ヲ變更セズ

第二十六條　市町村長ハ其ノ市町村住民ニ非ザル者（法人ヲ除ク）ノ當該市町村內ニ於テ生ズル其ノ年度分所得及其ノ所得ノ基本タル事實ヲ毎年四月末日迄ニ其ノ住所地市町村長ニ通報スベシ但シ當該市町村ニ於テ其ノ者ニ戶數割ヲ賦課スルトキ又ハ其ノ住所地市町村ニ於テ戶數割ノ賦課ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　戶數割ハ左ノ制限ニ超ユルコトヲ得ズ

一　市ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十七

二　町村ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ六十

特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

第二十八條　本令中市町村ニ對スル許可ノ職權ハ內務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第二十九條　本令中府縣、府縣知事又ハ町村ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ町村ニ準ズルモノニ之ヲ適用ス

第三十條　北海道移住民ニシテ主トシテ耕作又ハ牧畜ノ事業ニ引續キ從事シ移住ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者ニ對シテハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治三十二年勅令第二百七十六號、府縣稅戶數割規則及大正十一年勅令第二百八十二號ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス

明治十三年第十七號布告第九條ノ規定ニ依リテ爲シタル處分ニシテ第十七條第一項ノ課目ニ該當セザルモノニ對スルモノハ本令施行ノ際內務大臣及大藏大臣ノ指定スル雜種稅ノ課目ニ對スルモノニ限リ之ヲ第十七條第三項ノ規定ニ依リテ爲シタル許可ト看做ス

【北海警】

本令施行ノ際現ニ府縣稅家屋稅附加稅ヲ賦課スル市町村ハ第十一條ノ規定ニ依ル承認ヲ受ケタルモノト看做ス

市町村特別稅家屋稅及之ニ類スル特別稅ニ關スル條例ニシテ本令施行ノ際內務大臣及大藏大臣ノ指定スルモノハ大正十五年度分限リ其ノ效力ヲ失フ

戶數割總額中納稅義務者ノ資産ノ狀況ニ依リテ資力ヲ算定シ賦課スベキ額ハ特別ノ事情アル市町村ニ於テハ當分ノ間戶數割總額ノ十分ノ四迄ト爲スコトヲ得

附　則（昭和六年四月勅令第四九號）

本令ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和六年度分ニ付テハ第十六條第一項ノ改正規定中百分ノ九十トアルハ百分ノ八十九トス但シ營業稅年額二十五圓ヲ超ユル金額ニ對シテハ百分ノ八十トス

市町村ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業ニ對スル昭和六年度分營業稅ヲ分別シテ納メザル場合ニ於テ其ノ營業稅ノ年額二十五圓ヲ超ユルトキハ前項但書ノ規定ハ賦課ノ歩合ニ依リ算出シタル本稅額ヨリ二十五圓ニ賦課ノ歩合ヲ乘ジテ得タル金額ヲ控除シタル殘額ニ付之ヲ適用ス

北海道、府縣ガ營業收益稅附加稅ノ制限外課稅ヲ爲ス場合ニ於テ特別ノ必要アルトキハ昭和八年度分迄ニ限リ第十三條ノ制限ヲ經過シテ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得

前項制限外ノ賦課額ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

第四項ノ場合ニ於テハ制限ヲ超過セザル營業稅及第十二條ニ揭グル營業ニ對シ賦課スル營業稅モ亦制限外ノ賦課ヲ爲スモノト看做シ其ノ制限外ノ賦課額ニ對シ前項ノ規定ヲ適用ス

第四項及前項ノ營業稅ノ制限外ノ賦課率又ハ賦課定額ハ之ヲ制限內ノ賦課率又ハ賦課定額ト區分シテ定ムベシ

昭和六年度乃至同八年度分ニ限リ營業稅ノ賦課率又ハ賦課定額ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

●地方稅ニ關スル法律施行規則

大正十五年十一月二十七日
內務、大藏省令

大正十五年法律第二十四號地方稅ニ關スル法律施行規則左ノ通定ム

地方稅ニ關スル法律施行規則

第一條　大正十五年法律第二十四號第十一條各號ノ家屋ノ範圍ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二條　營業稅ハ營業ノ純益ヲ標準トシ又ハ營業ノ收入金額（賣上金額、請負金額、報償金額ノ類ヲ含ム）資本金額、營業用建物ノ賃貸價格若ハ從業者ノ數ヲ標準トシテ之ヲ賦課シ又ハ定額ヲ以テ之ヲ賦課ス

前項ノ賦稅標準其ノ他營業稅ノ賦課方法ニ付テハ當分ノ間內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條　營業收益稅法第七條ノ規定ハ營業稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

專ラ行商又ハ露店營業ヲ爲ス者ニ對シテハ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

大正十五年法律第二十四號第十七條ノ規定ニ基キ營業稅ヲ賦課スルヲ不適當トスルモノハ前二項ニ定ムルモノノ外府縣ニ於テ之ヲ定ムベシ

第四條　船ニ對シテハ主タル碇繫場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

前項ノ主タル碇繫場ナキトキ又ハ主タル碇繫場ノ所在地ニ付關係府縣ニ

於テ異議アルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第五條　車ニ對シテハ主タル定置場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第六條　水車、電柱及金庫ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第七條　市場ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ經營者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第八條　牛馬及犬ニ對シテハ飼育地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第九條　狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十條　屠畜ニ對シテハ屠殺地府縣ニ於テ其ノ家畜ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第十一條　不動産ヲ取得スル者ニ對シテハ其ノ不動産所在ノ府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十二條　左ニ揭グル不動産ノ取得ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

一　家督相續又ハ遺産相續ニ因ル不動産ノ取得
二　法人ノ合併ニ因ル不動産ノ取得
三　信託財産ニシテ委託者カ信託行爲ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スベキ不動産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得但シ當該不動産ニ付其ノ後受益者ヲ變更シタル場合及信託法第二十二條ノ規定ニ依リ固有財産ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ時ニ不動産ノ取得アリタルモノト看做シ雜種稅ヲ賦課ス
四　信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ不動産ノ取得
五　信託ノ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動産ノ取得

第十三條　漁業ニ對スル雜種稅ハ當分ノ間從來ノ例ニ依リ之ヲ賦課ス

【北海警】

新ニ漁業ニ對シ雜種稅ヲ賦課セントスルトキ又ハ其ノ賦課率若ハ賦課方法ノ變更ヲ爲サントスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ其ノ舊慣ヲ改メ其ノ他賦課方法ヲ變更スルコトナクシテ賦課率ヲ低減スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス其ノ住所地府縣ニ於テ之ヲ賦課セザルトキハ三月以上滯在ノ府縣ニ於テ之ヲ賦課ス

第十五條　同一人ニシテ遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ノ二以上ニ該當スルトキハ其ノ一ニ就キ雜種稅ヲ賦課ス其ノ稅額異ルトキハ多キニ從フ

第十六條　演劇其ノ他ノ興行ヲ爲ス者及遊興ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ行爲地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十七條　遊興ニ對シ消費金額ノ全部ヲ標準トシテ賦課スル雜種稅ハ遊興者一人當一回ノ消費金額二圓ニ滿チザルモノニ之ヲ賦課スルコトヲ得ズ

第十八條　第四條乃至前條ニ定ムルモノノ外雜種稅ノ課稅標準及其ノ賦課率又ハ賦課額其ノ他賦課ニ關シ必要ナル事項ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムベシ

第十九條　第三條第三項ノ規定ハ雜種稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

第二十條　戸數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ計算ス

一　營業ニ非ザル貸金ノ利子竝公債、社債、預金及貯金ノ利子ハ前年中ノ收入金額
二　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
三　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月二日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額
四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額但シ無記名株式ノ配當ニ付テハ同期間内ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額

株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

五　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非ザルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額
六　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非ザル資産、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

信託財産ニ付生ズル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スベキ受益者ガ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得額ヲ計算ス

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト見做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ營業ハ相續人ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得額ヲ計算ス但シ被相續人ノ資力算定ノ標準タル所得額ニ算入シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年ニ戸數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ最近ノ戸數割賦課ノ時ニ算定シタル所得額ヲ以テ其ノ資力算定ノ標準トス但シ未ダ其ノ所得ノ算定ナカリシ者ニ關シテハ年度開始ノ日ノ屬スル年ヲ基準トシ前各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

第二十一條　前條第一項第二號及第六號ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕料又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第二十二條　第二十條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス

【北海警】

第二十三條　第二十條乃至前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二、三千圓以下ナルトキハ同十分ノ三、千五百圓以下ナルトキハ同十分ノ四、八百圓以下ナルトキハ同十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除ス

第二十四條　第二十條乃至前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ納稅義務者及之ト生計ヲ共ニスル同居者中年度開始ノ日ニ於テ年齡十四歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具廢疾者アルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス

一　所得千圓以下ナルトキ
　年齡十四歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具廢疾者　一人ニ付　百圓以内
二　所得二千圓以下ナルトキ
　同　一人ニ付　七十圓以内
三　所得三千圓以下ナルトキ
　同　一人ニ付　五十圓以内

前項ノ不具廢疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ戸數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ニ之ヲ算入セズ

一　軍人從軍中ノ俸給及手當
二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
三　旅費、學資金、法定扶養料及救助金
四　營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得

五　日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ外國ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得

第二十六條　戸數割納稅義務者第二十條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年一月三十一日迄ニ戸數割ノ賦課額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十條第四項但書ニ該當スル者ハ賦課後十四日迄ニ賦課額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得

市町村前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ者ノ當該所得額ヲ査覈シ其ノ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得額ヲ更訂シ之ヲ基準トシテ更ニ其ノ者ノ資力ヲ算定シ其ノ者ニ付テノミ戸數割ノ賦課額ヲ減ズルコトヲ得

年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年ニ戸數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依リ更訂シタル所得額ニ依リ其ノ者ノ資力ヲ算定シ戸數割賦課後前二項ノ事實ヲ生ジタルトキハ其ノ者ニ付テノミ戸數割ノ賦課額ヲ減ズルコトヲ得

第二十七條　大正十五年法律第二十四號第二十六條ノ規定ニ依リ戸數割ヲ賦課スルヲ不適當トスル者ハ市町村ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二十八條　大正十五年勅令第三百三十九號第二十八條ノ規定ニ依リ左ニ揭グル事項ニ付テノ許可ノ職權ハ府縣知事ニ之ヲ委任ス

一　同令第十條第二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シ課稅スルコト

二　同令第十條第三項ノ規定ニ依リ同條第二項ノ制限ヲ超過シ同條第一項ノ制限率ノ百分ノ五十以內ニ於テ課稅スルコト

三　同令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ制限ヲ超過シ市ニ於テ戸數割總額ガ當該年度ノ市稅豫算總額ノ百分ノ四十七以內ニ於テ課稅スルコト

四　同令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ制限ヲ超過シ町村ニ於テ戸數割總額カ當該年度ノ町村稅豫算總額ノ百分ノ七十以內ニ於テ課稅スルコト

第二十九條　本令中府縣、府縣知事又ハ町村ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ町村ニ準ズルモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ〔大正十六年〕度分ヨリ之ヲ適用ス

府縣稅戸數割規則施行細則ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス

●地方稅ニ關スル法律命令ノ施行ニ關スル件

昭和二年三月三十一日
發地第三號內務省地方、大藏省主稅兩局長通牒

改正　昭和五年發地第二九號

地方稅ニ關スル法律命令ノ施行ニ關シテハ特ニ別記ノ廉廉御留意ノ上御措置相成度又同一課稅目的ヲ有スル市町村特別稅ニ付テモ別記ニ依リ取扱方夫夫市町村ニ對シ御示達相成度

追而左記通牒ハ昭和二年度ヨリ廢止セラルル義ニ有之尙府縣稅戸數割ニ關スル通牒及大正十三年三月三十一日發地第二一號信託ニ依ル不動產所有權ノ取得ニ對スル課稅ノ件依命通牒ハ昭和二年度ヨリ自然消滅ト相成ベキ義ニ付爲念

左　記

明治三十六年三月地甲第一二號依命通牒

明治四十一年九月十二日往第一〇、九八一號市町村步一稅ノ標準改正ニ關スル通牒

大正七年十月十一日發地第一七〇號傭人稅設定ニ關スル件通牒

同八年七月七日藏地第八號私立學校ノ建設ニ關スル課稅免除ノ件依命通牒

同九年四月十三日發地第八〇號建物建築稅ノ件依命通牒

同十一年三月三十一日發地第一三八號遊興稅ノ義ニ付依命通牒

同年七月十三日發地第六三號電柱稅ニ關スル件依命通牒

同年九月二十九日京地第一九一號電柱稅ニ關スル件依命通牒

同十三年九月九日發地第六號遊興稅ノ件ニ付依命通牒

別　記

家屋稅ニ關スル事項

一　家屋稅ノ配當標準タル宅地地價トハ土地臺帳面ニ於テ宅地タルモノノ地價ノ義ナルコト

二　家屋稅ノ配當標準タル戸數トハ現住戸數（構戸者ノ數）ノ義ニシテ戸數ニ含ムコトトセル法人ノ本店及支店トハ商法ノ規定ニ基キ登記ヲ爲シタル本店及支店ノ義ナルコト

三　戸數割ヲ賦課シ難キ市町村ハ戸數割ヲ賦課シ難キ事情アルコトニ關シ內務大臣及大藏大臣ノ承認ヲ受クルヲ要ス若シ其ノ承認ヲ受ケタル後戸數割ヲ賦課スルコトト爲サントスルトキハ別ニ手續ヲ要セザルモ更ニ又戸數割ヲ賦課シ難キ事情アルモノトシテ家屋稅附加稅ニ付特別ノ取扱ヲ受ケントスルトキハ新ニ內務大臣及大藏大臣ノ承認ヲ受クルヲ要スルコト

四　家屋稅ノ賦課ヲ不適當トスル家屋ノ範圍ハ施行規則第一條ノ規定ニ依リ各府縣ニ於テ適宜之ヲ定メ然ルベキモ農業倉庫業法ニ依リ經營スル農業倉庫（賃借ニ係ル建物ヲ除ク）及大正八年法律第三十八號（私立學校用地免租ニ關スル件）第一條第一號及第二號ニ揭グルモノノ用ニ供スル建物（賃借ニ係ル建物ヲ除ク）ニ對シテハ家屋稅ヲ賦課セザルコト

追テ地方稅ヲ免除スベキ私立學校ノ建物ハ法律第三十八號ニ依ル免租地ノ區域ニ在ルモノニ付テハ賃借ニ係ル建物ヲ除キ其ノ全部、有租地ノ區域ニ在ルモノニ付テモ亦同樣ノ趣旨ニ依リ同法第二條ノ範圍ニ於テ取計フコト

五　市町村ニ對スル家屋稅ノ配當手續ハ賦課規則中ニ之ヲ規定シ一定ノ期日ニ配當ヲ行フコト

六　施行勅令第八條及第九條ノ規定ニ依ル許可稟請ニ際シテハ當該年度ノ歲出入豫算及別紙第一號樣式ニ依ル調書ヲ添附スルコト

營業稅ニ關スル事項

一　營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除セラレタル重要物產ノ製造業者ニ對シテハ營業稅ヲ賦課セザルコト

二　營業稅ノ課稅標準ニ付テハ地方ノ實情ニ應ジ施行規則第二條ノ課稅標準中適當ナルモノヲ選擇シテ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ得ルモ營業稅ノ配賦課稅ハ然ルベカラザルコト

雜種稅ニ關スル事項

第一　電柱稅ニ關スル事項

一　電柱稅ハ年額左ノ制限以內タルベキコト

（イ）木柱本柱　一本ニ付　金七十錢
（ロ）同　支柱　一本ニ付　木柱本柱ノ制限額ノ半額
（ハ）鐵　柱　一本ニ付　木柱本柱ノ制限額ノ一倍半
（ニ）鐵　塔　一基ニ付　木柱本柱ノ制限額ノ三倍

特別ノ事情アルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ承認ヲ受ケ鐵塔ニ對シ前記制限ヲ超過シテ賦課シ得ルコト但シ現ニ兩大臣ノ許可ヲ受ケ前記制限ヲ超過シテ賦課セルモノハ其ノ許可年限間更ニ承認ヲ受クルヲ要セザルコト

二　市町村ニ於ケル電柱稅附加稅又ハ特別稅電柱稅ハ年額左ノ制限以內タルベキコト

（イ）市　木柱本柱　一本ニ付　金三圓ニ相當スル額
（ロ）町村　同　一本ニ付　金一圓五十錢ニ相當スル額
（ハ）本柱支柱、鐵柱及鐵塔ニ對スル課稅ノ制限ニ付テハ前項道府縣ノ

電柱税ノ制限ヲ準用スルコト

特別ノ事情アルトキハ電柱税附加税ニ付テハ道廳長官、府縣知事ノ承認（雜種税附加税ノ不均一賦課ニ該當スル場合ニハ其ノ許可）ヲ受ケ又特別税ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ鐵塔ニ對シ前記制限ヲ超過シテ賦課シ得ルコト但シ現ニ兩大臣ノ許可ヲ受ケ前記制限ヲ超過シテ賦課セルモノハ其ノ許可年限間更ニ許可ヲ受クルヲ要セザルコト

三　既ニ許可ヲ受ケテ賦課セル電柱税又ハ電柱税附加税ニシテ前二項ノ制限ヲ超過セルモノハ機會ヲ見計ヒ相當低減スベキコト

四　木柱控柱ノ類ニ對シテハ課税セザルコト

五　鐵筋「コンクリート」ノ電柱ニ對シテハ其形狀ニ應ジ鐵柱又ハ鐵塔ニ準ジテ課税シ得ルコト

六　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ於テハ前記府縣ト市トノ電柱税制限額ヲ合算シタルモノニ相當スル額迄賦課シ得ルコト

七　賦課期日ノ直前一ケ年分ノ事業年度ノ利益配當年六分未滿ナルトキハ課税セザルコト

八　道府縣ガ電柱税ヲ賦課スル場合ニ於テハ市町村ハ特別税電柱税條例ノ施行ヲ停止シ其ノ許可ヲ受ケタルト同額迄附加税トシテ賦課スベキコト

第二　狩獵税ニ關スル事項

狩獵税ハ左ノ制限以内タルベキコト

一　狩獵法第八條ニ規定スル一等及二等ニ該當スルモノ　國税一圓ニ付　金十三錢

二　同三等ニ該當スルモノ　國税一圓ニ付　金十錢

第三　不動産取得税ニ關スル事項

一　不動産取得税ノ課率ハ不動産價格千分ノ七以内タルベキコト

特別ノ事情アルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ承認ヲ受ケ不動産價格千分ノ十二迄賦課シ得ルコト但シ現ニ兩大臣ノ許可ヲ受ケ賦課セルモノハ其ノ許可年限間更ニ承認ヲ受クルヲ要セザルコト

二　市町村ニ於ケル不動産取得税附加税又ハ特別税不動産取得税ハ不動産價格千分ノ十ニ相當スル課率以下タルベキコト

特別ノ事情アルトキハ不動産取得税附加税ニ付テハ道廳長官、府縣知事ノ承認（雜種税ノ不均一賦課ニ該當スル場合ニハ其ノ許可）ヲ受ケ又特別税ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ不動産價格千分ノ二十ニ相當スル課率迄賦課シ得ルコト但シ現ニ兩大臣ノ許可ヲ受ケ賦課セルモノハ其ノ許可年限間更ニ許可ヲ受クルヲ要セザルコト

三　電柱税ニ關スル事項（六）及（八）ハ不動産取得税及特別税不動産取得税ニ之ヲ準用スルコト

四　住宅ノ改良又ハ其ノ供給緩和ノ目的ヲ以テ小住宅ヲ建築スル場合ニハ課税セザルコト

第四　遊興税ニ關スル事項

一　遊興税ノ課税標準ハ之ヲ消費金額ノ全部ト爲スカ又ハ其ノ一部（花代ノ類）ト爲スカハ任意ナルモ同一團體ノ課税標準トシテ其ノ一ニ依ルベキコト

二　遊興税ハ左ノ制限以内タルベキコト

（甲）消費金額ノ全部ヲ課税標準ト爲ス場合

道府縣　消費金額百分ノ五

市町村

（イ）道府縣ニ於テ遊興税ヲ賦課セザルコト　消費金額百分ノ十

（ロ）市町村ガ北海道地方税又ハ府縣税ノ附加税トシテ賦課スルトキ

北海道地方税又ハ府縣税ノ課率ト通算シ　消費金額百分ノ十

（乙）消費金額ノ一部（花代ノ類）ヲ課税標準ト爲ス場合

道府縣　消費金額百分ノ七

市町村

（イ）道府縣ニ於テ遊興税ヲ賦課セザルトキ　消費金額百分ノ十四

（ロ）市町村ガ北海道地方税又ハ府縣税ノ附加税トシテ賦課スルトキ

北海道地方税又ハ府縣税ノ課率ト通算シ　消費金額百分ノ十四

（丙）道府縣ガ消費金額ノ全部ヲ課税標準ト爲ス場合ニ於テ市町村ガ消費金額ノ一部ヲ課税標準ト爲シ又ハ道府縣ガ消費金額ノ一部ヲ課税標準ト爲ス場合ニ於テ市町村ガ消費金額ノ全部ヲ課税標準ト爲ストキハ市町村ノ遊興税ハ道府縣ノ遊興税ノ課率ト通算シ消費金額ノ全部又ハ一部ノ百分ノ十二以内タルベキコト

三　消費金額ノ一部（花代ノ類）ヲ課税標準トシテ課税スル場合ニ於テハ免税點ヲ設ケザルモ差支ナキコト

四　道府縣ガ遊興税ヲ賦課スル場合ニ於テハ市町村ハ特別税遊興税條例ノ施行ヲ停止シ附加税トシテ賦課スベキコト但シ市町村ノ遊興税ガ道府縣ノ遊興税ト課税標準ヲ異ニスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラザルコト

五　道府縣ノ遊興税ト市町村ノ遊興税ト免税點ヲ異ニスル場合ニ於テハ市町村ハ道府縣ノ遊興税ノ免税點以下ノ部分ニ付テノミ特別税遊興税ヲ賦課シ得ルコト

六　北海道地方税又ハ府縣税ノ徴收義務者ヲ定メタル場合ニ於テハ市町村長ヲシテ徴收金ノ拂込ヲ受ケシメ之ヲ取纏メテ北海道地方費又ハ府縣ノ金庫ニ拂込マシムルガ如キ規定ヲ設ケ得ザルコト

七　徴收義務者ヲ定メタルトキハ遊興税ノ拂込ハ證紙ヲ以テスルコトト爲スヲ得ザルコト

第五　前掲以外ノ雜種税ニ關スル事項

一　施行勅令第十七條第三項ノ規定ニ依リ設定シタル雜種税ニ付課税標準ヲ變更スルコトナク單ニ其ノ課率ノ低減ヲ爲ス場合ニ於テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルヲ要セザルコト

二　觀覽税ハ入場料一人一回金拾五錢以上ノモノニ限リ賦課シ得ベク其ノ課率ノ制限ニ關シテハ遊興税ノ制限（甲）ヲ準用スルコト但シ地方競馬ニ關スル觀覽税ハ左ノ制限以内トシ競馬法ニ依ル競馬ニ付テハ課税セザルコト

道府縣　入場料金額百分ノ三

市町村

（イ）道府縣ニ於テ觀覽税ヲ賦課セザルトキ入場料金額百分ノ五

（ロ）市町村ガ北海道地方税又ハ府縣税ノ附加税トシテ賦課スルトキ北海道地方税又ハ府縣税ノ課率ト通算シ入場料金額百分ノ五

三　傭人税ノ課税標準タルベキモノハ家事用ノ僕婢ニ限リ從業者又ハ作男ノ如キ專ラ營業若ハ職業ニ從事スル者竝家事ト營業若ハ職業トニ兼ネ從事スル者ハ課税標準ト爲スベカラザルコト

戸數割及戸數割ヲ賦課セザル市町村ノ家屋税附加税ニ關スル事項

一　施行勅令第二十三條第二項ノ適用ニ關シ必要アルニ依リ府縣ハ毎年二月末日迄ニ翌年度ニ於テ戸數割ヲ賦課セザル市町村名ヲ取調ベ内務大臣ニ報告スルコト

二　資産ノ狀況ニ依ル資力ノ算定ニ付テハ之ガ利用ヲ誤リテ負擔ノ不均衡ヲ惹起スルコトナキ樣嚴密ニ監督スルコト

三　資力算定ノ標準タル所得額ノ計算上職工其ノ他勞役者ノ賃銀等ハ其ノ者ガ獨立ノ企業者ニ非ズシテ專ラ雇傭關係ニ依リ收得スルモノナルニ於テハ假令日給ノモノト雖モ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハズ所謂勤勞所得トシテ取扱フベキコト

四　施行勅令第二十六條ノ規定ニ依リ市町村長ニ於テ通報義務ヲ有スル所得ノ範圍ハ其ノ市町村住民ニ非ザル者ガ當該市町村ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ依テ生ズル所得ニシテ此ノ通報ノ遲速ハ他市町村ノ戸數割ノ賦課ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ通報期限ヲ嚴守スル樣充分ニ監督スルコト

尚所得ノ基本タル事實ヲモ併セテ通報セシムルハ之ヲ受ケタル市町村ニ於テ資力算定ノ標準タル資産狀況ヲ測定スル場合ノ參考ニ資スルガ爲(例ヘバ田畑山林ノ所得、家屋又ハ營業ノ所得等其ノ所得ノ基本タル事實ヲ知ルヲ得シムル趣旨)ナルニ付特ニ注意セシムルコト

五　戸數割ノ制限外課税ヲ爲サムトスル場合及戸數割ヲ賦課セザル市町村ニ於テ家屋税附加税ノ制限外課税ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ各國税附加税及特別地税附加税ハ所定ノ制限率迄之ヲ賦課シタルコトヲ要スルコト

六　戸數割ノ制限外課税ヲ爲サムトスル場合及戸數割ヲ賦課セザル市町村ニ於テ家屋税附加税ノ制限外課税ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ基本財産(特別基本財産ヲモ含ム)ノ蓄積又ハ積戻ハ其ノ財源ヲ指定寄附又ハ財産ヨリ生ズル收入ニ求ムルモノヲ除クノ外之ヲ停止シ負擔輕減ノ資ニ充ツルコト但シ追加賦課ノ爲メ制限外課税ヲ爲サムトスル場合ニ於テ從前議決ニ基キ既ニ蓄積ヲ施行シタルモノハ此ノ限ニアラザルコト

七　戸數割ノ制限外課税ノ許可稟請及戸數割ヲ賦課セザル市町村ニ於ケル家屋税附加税ノ制限外課税ノ許可稟請ニ付テハ昭和二年三月三十一日內務大藏省訓令第三三四號訓令市町村其ノ他公共團體ニ於ケル課税等ニ關スル議決ノ許可稟請ニ添附スベキ書類調製樣式ノ件ニ準ジ調製シタル書類及別紙第二號樣式ニ依ル調書ヲ添附スルコト

〔北海書〕

八　前項制限外課税ノ許可稟請ニ際シテハ左記ノ廉ニ付特ニ注意スルコト

(イ)　歲入一覽表及歲出一覽表ハ訓令所定ノ通調製シ不備ナキヲ期スルコト

(ロ)　歲入ニ公債ヲ計上シタル場合ニ於テハ其ノ起債許可ノ稟請ヲ同時ニ提出セシムルコト若シ委任許可債ナルトキハ許否ノ見込ヲ稟請書ニ附記スルコト

(ハ)　歲出ニ國ノ事業ニ對スル寄附金ヲ計上シタル場合ニ於テ內務省ニ內申ヲ要スルモノナルトキハ其ノ內申書ヲ同時ニ提出スルコト

(ニ)　歲出中相當多額ノ寄附金又ハ補助金ノ計上アル場合ニ於テハ其ノ內容及必要ナル事由ヲ稟請書ニ附記スルコト

(ホ)　基本財産蓄積費ヲ豫算ニ計上シタル場合ニ於テハ蓄積ノ財源ヲ稟請書ニ明記スルコト仍ホ從前議決ニ基キ既ニ執行濟ノモノナルトキハ其ノ旨ヲ附記スルコト

(ヘ)　戸數割ノ制限外課税ノ許可及戸數割ヲ賦課セザル市町村ニ於ケル家屋税附加税ノ制限外課税ノ許可ハ賦課スベキ豫算ノ總額ヲ許可スルモノナルヲ以テ假令課率ヲ增加セズ自然增收ノ爲豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲ス場合ニ於テモ苟モ當初許可ヲ受ケタル賦課スベキ豫算總額ヲ超ユル場合ハ更ニ許可ヲ要スルコト但シ他ノ市町村税ニ於テ追加ヲ爲シ戸數割及家屋税附加税ノ額ガ法定ノ制限割合ヲ超過セザルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

九　施行規則第二十八條ノ規定ニ依リ戸數割ノ制限外課税ノ許可ヲ爲シタルトキハ別紙第三號樣式ニ依ル報告書ヲ內務大臣ニ提出スルコト

第一號樣式

家屋税參考表

種目		本年度	前年度
府縣税豫算總額		圓　厘	圓　厘
家屋税額			
府縣税總額ニ對スル家屋税ノ百分比			
地租附加税課率	宅地		
	其ノ他		
特別地税課率			
營業收益税附加税課率			
所得税附加税課率			

備考

一　當初課税ノ稟請ヲ爲サントスルトキハ前年度欄ニハ當初豫算(同時議決ノ追加豫算ヲ合算ス)ニ依リ記入スルコト但シ昭和二年度ニ限リ家屋税額ニ付テハ戸數割税額(家屋税ヲ賦課シタルモノアルトキハ之ヲ合算シタル額)營業收益税附加税課率ニ付テハ營業税附加税課率ヲ記載スルコト

一　同一年度內ニ於テ數度許可稟請ヲ爲サントスルトキハ二回目以後ニ於テハ稟請當時ノ現在ニ依リ相當欄ニ記入シ前年度欄ノ記載ハ之ヲ要セザルコト

一　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ於ケル家屋税ニ付テハ本樣式ニ準ジ調書ヲ作製スルコト

第二號樣式

〔北海書〕

戸數割制限外課税參考表

種目		本年度	前年度
市町村税豫算總額		圓　厘	圓　厘
戸數割税額			
市町村税豫算總額ニ對スル戸數割税額ノ百分比			
制限額（税總額百分ノ三十七又ハ六十）			
戸數割納税義務者一人當			
地租附加税課率	宅地		
	其ノ他		
特別地税附加税課率			
營業收益税附加税課率			
「所得税附加税課率」			

備考

一　當初課税ノ稟請ヲ爲サントスルトキハ前年度欄ニハ追加ヲ合算シタル豫算ニ依リ記入スルコト但シ昭和二年度ニ限リ營業收益税附加税課率ニ付テハ營業税附加税課率ヲ記載スルコト

一　同一年度內ニ於テ數度許可稟請ヲ爲サントスルトキハ二回目以後ニ於テハ稟請當時ノ現在ニ依リ相當欄ニ記入シ前年度欄ノ記載ヲ要セザルコト

一　戸數割ヲ賦課セザル市町村ニ於ケル家屋税附加税ノ制限外課税ニ

付テハ本樣式ニ準ジ調書ヲ作製スルコト但シ納税義務者一人當ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三號樣式

戸數割制限外課税許可報告昭和何年度（自何月至何月）何道府縣

税目	市町村税豫算總額	戸數割税額	戸數割制限外課税額	制限外課税額ノ費途	
戸數割	圓	圓	圓	土木費 教育費 衞生費 何々	圓
計					

許可件數　何件

許可團體數　何市（町村）

備考

一　本件報告ハ一年度分ヲ二期ニ分チ四月ヨリ九月迄ノ分ヲ十月末日迄ニ、十月ヨリ三月迄ノ分ヲ四月末日迄ニ報告スルコト

二　市ノ分ト町村ノ分トハ各別表ニ之ヲ調製スルコト

三　「許可團體數」後半期分ニ在リテハ前半期ニ於テ許可シタル團體ト重複スルモノアルトキハ其ノ數ヲ附記スルコト

●北海道舊土人保護法（抄錄）

明治三十二年三月二日
法律第二十七號

改正　大正八年法律第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道舊土人保護法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道舊土人保護法

第一條　北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以内ヲ限リ無償下付スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス

一　相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス

二　質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス

三　北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス

四　留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ

前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方税ヲ課セス又登錄税ヲ徴收セス

舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ揭ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

●郵便法（抄錄）

明治三十三年
法律第五十四號

第七條　郵便專用物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押スルコトヲ得ス

郵便專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

●電信法（抄錄）

明治三十三年三月十四日
法律第五十九號

第十一條　電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

●相續税法（抄錄）

明治三十八年一月一日
法律第十號

第二十六條　府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續税ノ附加税ヲ課スルヲ得ス

●住宅組合法（抄錄）

大正十年四月
法律第六十六號

第十一條　住宅組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

●北海道地方税條例

昭和七年三月二十六日
條令第三號

北海道會竝ニ北海道參事會ノ議決ヲ經北海道地方税條例ヲ左ノ通定ム

北海道地方税條例

第一章　税目及納税義務者

第一條　地方税ハ左ノ税目ニ依リ之ヲ賦課ス

一　地租附加税
二　特別地税
三　營業收益税附加税
四　所得税附加税
五　鑛業税附加税
六　家屋税
七　段別割
八　營業税
九　雜種税
　船税
　車税
　電柱税
　金庫税
　玉突臺税
　畜犬税
　傭婦税
　傭人税
　狩獵税
　流木税
　不動産取得税
　遊興税
　興行税
　漁業税
十　都市計畫特別税
　地租割
　營業收益税割

第二條　國税附加税ハ各國税納税義務者ニ之ヲ賦課ス

第三條　段別割ハ地租ヲ徴收セサル土地（地租法ノ規定ニ依ル免租年期地、災害免租地及自作農免租地ヲ含マス）ニ對シ所有者ニ之ヲ賦課ス但シ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者又ハ地上權者ニ之ヲ賦課ス

第四條　藝妓置屋業税ハ藝妓ノ抱主又ハ自前ノ藝妓ニ之ヲ賦課ス

第五條　船税ハ船ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

車税ハ馬車、自轉車又ハ自動車ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

電柱税ハ電柱ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

金庫税ハ金庫ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

玉突臺稅ハ玉突臺ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

畜犬稅ハ畜犬ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

傭婦稅ハ酌婦、女給若ハ仲居ノ傭主若ハ抱主又ハ自前ノ酌婦ニ之ヲ賦課ス

傭人稅ハ主トシテ家事用ニ係ル傭人ノ傭主ニ之ヲ賦課ス

狩獵稅ハ狩獵免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ賦課ス

流木稅ハ河川又ハ湖沼ニ於テ流送ヲ爲ス木材ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

不動產取得稅ハ不動產ノ所有權ヲ取得シタル者ニ之ヲ賦課ス

遊興稅ハ料理屋、貸座敷其ノ他類似ノ場所ニ於テ藝妓、酌婦又ハ娼妓ヲ侍セシメ飲食又ハ享樂ヲ爲シタル者ニ之ヲ賦課ス

興行稅ハ興行ヲ爲ス者ニ之ヲ賦課ス

漁業稅ハ定置漁業、區劃漁業及特別漁業權者ニ、其ノ他ノ漁業ニ付テハ營利ノ目的ヲ以テ漁業ヲ爲ス者ニ之ヲ賦課ス

第七項ニ於テ仲居ト稱スルハ料理屋、飲食店（酒類ヲ提供セサル飲食店ヲ除ク）又貸座敷ニ於テ配膳其ノ他ノ取扱ヲ爲ス婦女ヲ謂フ

第六條　都市計畫特別稅ハ市ノ區域內ニ於ケル土地ニ對スル地租及市ノ區域內ニ於テ爲ス營業ニ對スル營業收益稅ノ納稅義務者ニ之ヲ賦課ス

第七條　左ノ家屋ニ對シテハ家屋稅ヲ賦課セス

一　一時ノ使用ニ供スル假設的家屋

二　一戸構（一棟數戸構ノ家屋ニシテ所有者同一ナルトキハ之ヲ一戸構ト看做ス）ノ賃貸價格十五圓未滿ノ家屋

三　長官ノ指定スル專ラ公益ニ關スル事業ヲ營ム者又ハ產業組合法若ハ漁業法ニ依リ設立シタル法人ノ所有シ且專ラ其ノ事業ニ使用スル家屋

第八條　荒地（災害ニ因リ地形ヲ變シ又ハ作土ヲ損傷シタル土地）ニ對シテハ段別割ヲ賦課セス

第九條　左ノ營業ニ對シテハ營業稅ヲ賦課セス

〔北海營〕

一　法人ノ營業

二　純益金額五十圓未滿ノ營業

三　營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除セラレタル製造業

四　何人ヲモ使用セス自ラ勞務ニ服シテ爲ス運送業但シ自動車、自動自轉車、發動機船（モーターボートヲ含ム）又ハ帆船ヲ使用シテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　左ニ揭クルモノニ對シテハ雜種稅ヲ賦課セス

一　商品タル物件

二　第七條第三號ニ揭クル者ノ所有シ且專ラ其ノ事業ニ使用スル船、車及金庫

三　非常專用ノ船、馬車及自動車

四　神佛祭典專用ノ船及馬車

五　耕作專用ノ船及馬車

六　渡船、刳船、地方稅ノ賦課ヲ受クヘキ漁業ニ專用スル船、本船ニ搭載スル船及船橋ノ組成ニ用フル船

七　車輪ノ內徑五十五センチメートル未滿ノ自轉車

八　主トシテ電氣事業ヲ營ム會社ニシテ賦課期日前最近ノ事業年度（六箇月ヲ以テ一事業年度ト爲スモノニ在リテハ最近ノ二事業年度）ニ於ケル利益配當步合年六分未滿ノモノノ所有スル電柱

九　產業組合法ニ依リ設立シタル法人ノ所有スル電柱

十　手提金庫

十一　玉突場業者ニ於テ其ノ營業ニ使用スル玉突臺

十二　哺乳中ノ畜犬

十三　公共團體ニ於テ爲シタル不動產ノ取得

十四　第七條第三號ニ揭クル者カ專ラ其ノ事業ニ使用スル目的ヲ以テ爲シタル不動產ノ取得

十五　共有物ノ分割ニ因ル不動產ノ取得但シ持分ヲ超過シタル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十六　北海道國有未開地處分法第二條前段又ハ第三條ノ規定ニ依ル十五町步未滿ノ土地ノ取得

十七　自作農創設維持資金又ハ民有未墾地開發資金ノ貸付ヲ受ケテ爲シタル土地ノ取得

十八　土地區劃整理又ハ耕地整理ノ換地處分ニ因ル土地ノ取得

十九　價格五百圓未滿ノ建築但シ同一年度內ニ同一市町村內ニ於テ爲シタル建築ニシテ通算價格五百圓ニ達スルモノハ此ノ限ニ在ラス

二十　災害復舊ノ爲同一市町村內ニ於テ災害後二年內ニ工事ニ著手シタル建築但シ建築價格カ災害當時ニ於ケル建物ノ價格ヲ超ユルコト五百圓以上ナル場合ニ於テ其ノ超過ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二十一　料金五錢以下ノ興行

二十二　長官ニ於テ專ラ慈善ノ目的ヲ以テ爲スモノト認メタル興行

第十一條　貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者ノ營業及其ノ所有スル物件ニ對シテハ地方稅ヲ賦課セス

〔北海營〕

第二章　課稅標準及稅率

第十二條　國稅附加稅、特別地稅、家屋稅及都市計畫特別稅ノ稅率ハ毎年度豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　段別割ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

地目		課稅標準及稅率	
宅地	一等地	一坪平均	一錢六厘
	二等地	同	八厘二毛
	三等地	同	五厘二毛
	四等地	同	三厘二毛
	五等地	同	一厘四毛
田	一等地	一段步平均	四十四錢
	二等地	同	三十八錢
	三等地	同	三十三錢
	四等地	同	二十八錢
	五等地	同	二十四錢
	六等地	同	二十錢
	七等地	同	十六錢
畑	一等地	一段步平均	二十五錢
	二等地	同	二十一錢
	三等地	同	十八錢
	四等地	同	十五錢
	五等地	同	十二錢
	六等地	同	十錢
	七等地	同	八錢
	八等地	同	六錢
牧場	一等地	一段步平均	一錢一厘
	二等地	同	一錢
	三等地	同	九厘
山林原野	一等地	一段步平均	七厘
	二等地	同	六厘
	三等地	同	五厘
	一等地	一段步平均	二十五錢

其ノ他ノ土地	二等地	同	十五錢
	三等地	同	八錢

段別割ハ現地目ニ依リ之ヲ賦課ス

第十四條　營業税ハ左ノ課税標準及税率ニ依リ之ヲ賦課ス

業名	課税標準及税率			
一般營業（藝妓置屋業以外ノモノ）		純益		百分ノ二・二
藝妓置屋業	本玉	月税	收入金	百分ノ四・五
	半玉	同	同	百分ノ三・一

一般營業税ノ課税標準タル純益ハ營業收益税ノ例ニ依リ之ヲ算定ス

藝妓置屋業税ノ課税標準タル收入金ハ藝妓一人每ニ其ノ月中收入ニ係ル線香代ヨリ二割ヲ控除シタル金額ニ依リ之ヲ算定ス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル藝妓一人每ノ金額二十五圓未滿ナルトキハ之ヲ二十五圓ト看做ス但シ其ノ月全ク就業セサル藝妓、其ノ月十五日以前ニ轉出若ハ廢業セル藝妓又ハ其ノ月ノ十六日以後ニ轉入若ハ開業セル藝妓ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　雜種税ハ左ノ課税標準及税率ニ依リ之ヲ賦課ス

種類		課税標準及税率		
船税		第一種　汽船	一艘	五圓
		外ニ登簿噸數一噸每ニ二十錢ヲ併課ス		
		第二種　發動機船（モーターボートヲ含ム）	一艘	三圓
		第三種　帆船	一艘	二圓五十錢
		外ニ登簿噸數一噸又ハ積石數十石每ニ十五錢ヲ併課ス		
		第四種　艀船		
		一等地	一艘	三圓
		二等地	同	二圓
		外ニ積石數十石每ニ一等地ハ十五錢、二等地ハ十錢ヲ併課ス		
		第五種　其ノ他	一艘	一圓五十錢
		登簿噸數ノ算定ナキ船ニ付テハ總噸數ノ十分ノ六ヲ以テ登簿噸數ト看做ス		
車税	馬車	第一種　主トシテ農業又ハ漁業ニ使用スルモノ	一輛	一圓五十錢
		第二種　其ノ他	同	二圓五十錢
	自轉車	第一種　發動機ヲ有スルモノ	一輛	十圓
		第二種　其ノ他	同	一圓五十錢
	自動車	第一種　サイドカー附自動自轉車	一輛	十五圓
		第二種　其ノ他		
		第一類　運送業者ニ於テ其ノ營業ニ使用スルモノ		
		乘用	一輛	四十圓
		貨物用	同	三十圓
		第二類　其ノ他		
		乘用	一輛	六十圓
		貨物用	同	五十圓
電柱税		第一種　木柱		
		第一類　單柱	一本	七十錢
		第二類　複柱	組成柱一本每ニ	五十錢
		第二種　鐵柱（鐵筋コンクリート柱ノ類ヲ含ム）	一本	一圓五錢
		第三種　鐵塔	一基	二圓十錢
金庫税		第一種　外面體積百八十立方デシメートル未滿ノモノ	一箇	二圓五十錢
		第二種　同　百八十立方デシメートル以上ノモノ	同	三圓五十錢
		第三種　同　三百立方デシメートル以上ノモノ	同	六圓
		第四種　同　五百立方デシメートル以上ノモノ	同	八圓五十錢
		第五種　同　八百立方デシメートル以上ノモノ	同	十一圓
		第六種　同　千百立方デシメートル以上ノモノ	同	十三圓
		第七種　同　千四百立方デシメートル以上ノモノ	同	十六圓
		第八種　同　千八百立方デシメートル以上ノモノ	同	二十圓
玉突臺税			一臺	六十圓
畜犬税			一頭	二圓五十錢
傭婦税		第一種　酌婦	一人　月税	一圓十錢
		第二種　女給	同　同	九十錢
		第三種　仲居	同　同	八十錢
傭人税		第一種　同一市町村ニ於テ傭人一人ヲ使用スルモノ		一圓八十錢
		第二種　同　二人ヲ使用スルモノ	傭人一人每ニ	三圓
		第三種　同　三人以上ヲ使用スルモノ	同	四圓五十錢
		第四種　同　五人以上ヲ使用スルモノ	同	六圓
狩獵税		第一種　狩獵法第八條ノ一等及二等ニ該當スルモノ	狩獵免許税	百分ノ十三
		第二種　同　三等ニ該當スルモノ	同	百分ノ十
流木税		第一種　薪用材	造材石數一石每ニ	二錢
		第二種　其ノ他	同	五錢
		第一種　建物ノ建築（改築及增築ヲ含ム）ニ因ル不動産ノ取得　建築價格ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用ス		
		二千圓以下ノ金額		千分ノ七

不動産取得税		二千圓ヲ超ユル金額	千分ノ八・五
		一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十
		十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二
	第二種　其ノ他	不動産價格	千分ノ十二
遊興税		消費金額	百分ノ五
興行税	一等地	日税　料金	七人ノ額
	二等地	同　同	六人ノ額
	三等地	同　同	五人ノ額
	四等地	同　同	四人ノ額
	五等地	同　同	三人ノ額
	料金ガ一圓以上ナルトキハ二割、二圓以上ナルトキハ三割、三圓以上ナルトキハ五割ヲ増課ス 一日二回以上興行ヲ爲ストキハ尚五割ヲ増課ス 此ノ場合ニ於テ每回料金ヲ異ニスルトキハ最高料金ヲ標準トス但シ其ノ稅額ハ每回ノ稅額ノ合算額ヲ超ユルコトヲ得ズ		
漁業税	定置漁業、區劃漁業及特別漁業ニ付テハ一漁業權每ニ、許可漁業ニ付テハ一許可每ニ、其ノ他ノ漁業ニ付テハ一種類每ニ之ヲ賦課ス		
(一)漁場割			
定置漁業、區劃漁業及	季税	漁場賃貸價格	百分ノ七
	右ノ規定ニ依リ算出シタル稅額四圓未滿ナルトキハ之ヲ四圓トス		
特別漁業	著業スルモノニ對シテハ外ニ漁場賃貸價格ノ百分ノ三ヲ増課ス但シ賃貸價格三百圓未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラズ		
(二)漁船割	漁場割ノ賦課ヲ受ケザル漁業中動力附漁船ヲ用フル漁業(烏賊釣漁業ヲ除ク)ニ對シ之ヲ賦課ス 許可漁業ニシテ著業セザルモノニ對シテハ五割ヲ減率賦課ス 同一人ガ二以上ノ漁業ヲ營ム場合ニ於テ其ノ使用船同一ナルトキハ各漁業每ニ二割ヲ減率賦課ス但シ著業セザル漁業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ		
機船底曳網	第一種　總噸數十二噸未滿ノモノ	一般　季税	四十五圓
	第二種　同　十二噸以上ノモノ	同　同	五十五圓
	第三種　同　十六噸以上ノモノ	同　同	六十五圓
	第四種　同　二十噸以上ノモノ	同　同	七十五圓
	第五種　同　二十五噸以上ノモノ	同　同	八十五圓
	第六種　同　三十噸以上ノモノ	同　同	百圓
	第七種　同　四十噸以上ノモノ	同　同	百五十圓

タラバ蟹刺網		一般　季税	四十圓
旋網	第一種　一艘ヲ使用スルモノ	季税	四十圓
	第二種　二艘以上ヲ使用スルモノ	一艘每ニ　同	二十五圓
鮪流網	第一種　總噸數十二噸未滿ノモノ	一般　季税	十五圓
	第二種　同　十二噸以上ノモノ	同　同	三十圓
	第三種　同　二十噸以上ノモノ	同　同	五十圓
鮭流網、鱒流網及鰛流網	第一種　總噸數十二噸未滿ノモノ	一般　季税	十五圓
	第二種　同　十二噸以上ノモノ	同　同	三十圓
	第三種　同　二十噸以上ノモノ	同　同	五十圓
	第四種　同　三十噸以上ノモノ	同　同	七十五圓
	第五種　同　四十噸以上ノモノ	同　同	百圓
延繩	第一種　總噸數五噸未滿ノモノ	一般　季税	十圓
	第二種　同　五噸以上ノモノ	同　同	十五圓
	第三種　同　十二噸以上ノモノ	同　同	二十圓
	第四種　同　二十噸以上ノモノ	同　同	三十圓
其ノ他		一般　季税	十圓
(三)漁具割	漁場割ノ賦課ヲ受ケザル漁業中左ノ漁業(動力附漁船ヲ用フル漁業ヲ除ク)ニ對シ之ヲ賦課ス 許可漁業ニシテ著業セザルモノニ對シテハ五割ヲ減率賦課ス		
鰊旋網	一等地	一統　季税	三十圓
	二等地	同　同	二十圓
	三等地	同　同	十圓
	四等地	同　同	五圓
鰊以外ノ旋網		一統　季税	十五圓
鰊刺網	一等地	一放　季税	十三錢
	二等地	同　同	九錢
	三等地	同　同	七錢
	四等地	同　同	四錢
打瀬網		一統　季税	三十六圓
氷下待網		一統　季税	一圓五十錢

鮭鱒曳網		一統	季税	三圓五十錢
底建網		一統	季税	五圓
地曳網及船曳網	第一種　百五十メートル未滿ノモノ	一統	季税	二圓五十錢
	第二種　百五十メートル以上ノモノ	同	同	四圓
	第三種　三百メートル以上ノモノ	同	同	六圓五十錢
潜水器		一臺	季税	七十圓
八ツ目筌		一箇	季税	八錢
(四)漁獲割				
捕鯨	第一種　背美鯨	一頭		百二十八圓
	第二種　長須鯨及座頭鯨	同		四十八圓
	第三種　抹香鯨	同		四十圓
	第四種　其ノ他	同		二十圓
(五)從業者割	漁場割、漁船割、漁具割又ハ漁獲割ノ賦課ヲ受ケザル漁業ニ對シ之ヲ賦課ス 女子從業者ニ對シテハ五割ヲ減率賦課ス 漁業ヲ爲ス者（漁業ヲ爲ス者ト共ニ漁業ニ從事スル其ノ同居家族ヲ含ム）自ラ從業者トシテ從業者割ノ賦課ヲ受クベキ二以上ノ漁業ニ從事スルトキハ税率ノ高キモノ一箇ヲ賦課ス但シ同一市町村ニ於テ漁業ニ從事スルトキニ限ル			

烏賊釣	一等地	從業者一人每ニ	季税	二圓二十五錢
	二等地	同	同	一圓八十錢
	三等地	同	同	九十錢
	動力附漁船ニ乗組ミ從業スル者ニ對シテハ二割ヲ增課ス			
延繩	一等地	從業者一人每ニ	季税	一圓三十五錢
	二等地	同	同	九十錢
海扇桁網	一等地	從業者一人每ニ	季税	二圓二十五錢
	二等地	同	同	一圓三十五錢
	三等地	同	同	九十錢
昆布採取	一等地	從業者一人每ニ	季税	二圓七十錢
	二等地	同	同	一圓八十錢
	三等地	同	同	一圓三十五錢
	四等地	同	同	九十錢
タラバ蟹刺網、鰛刺網、手繰網、空釣縄、鮑取、流網、北寄桁網、海鼠桁網、及藤鼠桁網		從業者一人每ニ	季税	一圓八十錢
其ノ他		從業者一人每ニ	季税	九十錢

傭婦税ノ課税標準タル酌婦、女給及仲居ノ數ハ十四歲未滿ノ者及前月中全ク就業セザル者ヲ控除シ之ヲ算定ス

傭人税ノ課税標準タル傭人ノ數ハ十四歲未滿又ハ六十歲以上ノ者ヲ控除シ之ヲ算定ス

不動産取得税ノ課税標準タル建築價格又ハ不動産價格ハ時價ニ依リ之ヲ算定ス

遊興税ノ課税標準タル消費金額ハ線香代、揚代金、飲食物ノ代價其ノ他飲食又ハ享樂ノ爲ニ要シタル金額ニ依リ之ヲ算定ス但シ同一ノ場所ニ於テ連續シテ遊興ヲ爲シタルトキハ之ヲ一回ト看做シ其ノ消費金額ヲ算定ス

興行税ノ課税標準タル料金ハ入場者一人ヨリ收得スベキ入場料（會費其ノ他入場料ニ類スルモノヲ含ム）、棧敷料及下足料ノ各最高額ヲ通算シタル金額ニ依リ之ヲ算定ス

漁業税中漁場割ノ課税標準タル漁場賃貸價格ハ貸主ガ公課其ノ他心要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ漁業權ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ通常收得スベキ金額ニ依リ之ヲ算定ス

漁業税中從業者割ノ課税標準タル從業者（直接漁撈又ハ海藻採取ニ從事スル者）ノ數ハ十五歲未滿又ハ六十歲以上ノ者ヲ控除シ之ヲ算定ス

第十六條　段別割、船税、興行税及漁業税ニ關スル市町村等級ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　家屋税、營業税、不動産取得税、遊興税又ハ漁業税ノ課税標準ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ

船税ノ課税標準タル登簿噸數又ハ積石數ニシテ一噸又ハ十石未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ

第十八條　同一年度内ニ同一市町村内ニ於テ爲シタル建築ニ付テハ其ノ建築價格ヲ通算シ通算額相當ノ不動産取得税ヲ賦課ス但シ既ニ賦課シタル税額ハ之ヲ控除ス

第三章　賦課期日

第十九條　地方税ハ左ノ賦課期日現在ニ依リ之ヲ賦課ス

一　地租附加税、特別地税、段別割、一般營業税、船税、自動車税、玉突臺税及地租割
　第一期　四月一日
　第二期　十月一日
二　法人ノ營業收益税附加税、第一種所得税附加税及法人ノ營業收益税割　事業年度終了ノ日
三　個人ノ營業收益税附加税、鑛業税附加税及個人ノ營業收益税割　國税納期ノ初日
四　第三種所得税附加税
　第一期　國税納期第一期ノ初日
　第二期　國税納期第三期ノ初日
五　家屋税、馬車税、自轉車税、電柱税、金庫税、畜犬税及傭人税　四月一日
六　傭婦税　其ノ月一日
七　狩獵税　狩獵免許ヲ受ケタル日
八　流木税　流送開始ノ日
九　不動産取得税　不動産ノ所有權ヲ取得シタル日
十　遊興税　遊興ヲ爲シタル日
十一　興行税　興行開始ノ日
十二　漁業税　漁期ノ初日但シ漁期ノ定ナキモノニ付テハ著業ノ日

第二十條　前條第一號ノ地方税ハ毎期其ノ税率ヲ二分シテ之ヲ賦課ス

個人ノ營業收益税附加税及營業收益税割ハ毎期其ノ期分國税納額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第三種所得税附加税ハ第一期ニ於テハ國税第一期分及第二期分ノ納額ヲ合算シタル額、第二期ニ於テハ國税第三期分及第四期分ノ納額ヲ合算シ

タル額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第二十一條　地方税ノ賦課期日後納税義務ノ發生シタル者ニハ次ノ賦課期日ヨリ地方税ヲ賦課ス

地方税ノ賦課期日後納税義務消滅シ又ハ變更スルモ賦課額ハ之ヲ變更セズ

前二項ノ規定ハ法令又ハ本條例ニ別段ノ定アルモノニハ之ヲ適用セズ

第二十二條　營業收益税附加税、所得税附加税、鑛業税附加税又ハ營業税益税割ノ賦課期日後國税額ニ異動ヲ生ジタルトキハ之ニ相當スル税額ヲ追徴還付ス

第二十三條　流木税ノ賦課期日後天災其ノ他不可抗力ニ因リ木材ヲ亡失シタルトキハ之ニ相當スル税額ヲ還付ス

第二十四條　興行税ノ賦課期日後興行日數又ハ料金ニ異動ヲ生ジタルトキハ之ニ相當スル税額ヲ追徴還付ス

第二十五條　漁業税ノ賦課期日後納税義務ヲ發生シタル者ニハ漁業税ノ全額ヲ賦課ス但シ漁業ヲ承繼シタルトキ又ハ納税義務ノ發生ガ漁期經過後ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

漁業税中從業者割ノ賦課期日後從業者數ニ異動ヲ生ジタルニ因リ税額ノ増加スルトキハ其ノ増加額ヲ追徴ス

第二十六條　地方税ヲ逋脱シタル者ニハ其ノ逋脱シタル年度ノ税率ニ依リ税額ヲ算出シ一時ニ之ヲ賦課ス

第四章　賦課額ノ決定

第二十七條　地方税ノ納税義務者ハ長官ノ定ムル所ニ依リ課税上必要ナル事項ヲ申告スベシ

前項ノ場合ニ於テ納税義務者申告ヲナサス又ハ其ノ申告不相當ト認ムルトキハ長官ニ於テ課税標準ヲ決定ス

第二十八條　段別割ハ賦課期日現在ニ於ケル市町村内ノ各地目ノ段別（宅地ニ付テハ坪數）ニ第十三條第一項ノ平均税率ヲ二分シタル率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ市町村ニ於ケル當該地目ノ賦課總額トス

【北海警】

段別割ハ各地目毎ニ使用收益ノ狀況ニ依リ土地ニ等差ヲ設ケテ之ヲ賦課ス其ノ土地等級及各等級ノ賦課箇數ハ毎年市町村會ニ於テ之ヲ定ム但シ市町村會ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ土地ニ等差ヲ設ケズ平均税率ニ依リ段別割ヲ賦課スルコトヲ得

市町村會ニ於テ前項ノ事項ヲ定ムルトキハ議案ノ提出アリタル日ヨリ十五日内ニ之ヲ議決スベシ

第五章　徴收

第二十九條　徴税令書一通ノ税額五錢未滿ノ地方税ハ之ヲ徴收セズ

第三十條　定期賦課ニ係ル地方税ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徴收ス

一　地租附加税、特別地税、段別割、一般營業税、船税、自動車税、玉突臺税及地租割

第一期　五月十五日ヨリ三十一日限

第二期　十一月十五日ヨリ三十日限

二　個人ノ營業收益税附加税、鑛業税附加税及個人ノ營業收益税割國税ノ納期ニ依ル

三　第三種所得税附加税

第一期　國税ノ第一期ノ納期ニ依ル

第二期　國税ノ第三期ノ納期ニ依ル

四　家屋税

第一期　四月ヨリ九月迄ノ税額　五月十五日ヨリ三十一日限

第二期　十月ヨリ翌年三月迄ノ税額　十一月十五日ヨリ三十日限

五　藝妓置屋業税　翌月十五日ヨリ末日限

六　馬車税、自轉車税、電柱税、金庫税、畜犬税及傭人税　五月十五日ヨリ三十一日限

七　傭婦税　其ノ月十五日ヨリ末日限

長官ハ市町村ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルトキハ適宜前項ノ納期ヲ變更スルコトヲ得

第三十一條　家屋税ノ毎期ノ徴收額ハ賃貸價格ニ税率ヲ二分シタル率ヲ乘ジテ之ヲ算定ス

第三十二條　隨時賦課ニ係ル地方税ハ長官ノ定ムル納期限ニ依リ之ヲ徴收ス

第三十三條　徴税令書ヲ公示送達ニ付シタルトキハ公示送達ノ期間經過後五日目ヲ以テ地方税ノ納期限トス

第三十四條　地方税ノ納期限（納期限ガ三月三十一日ナル場合ヲ除ク）ガ大祭日、日曜日其ノ他公休日ニ當ルトキハ其ノ翌日ヲ以テ納期限トス

第三十五條　地租法第六十八條、營業收益税法第二十三條又ハ所得税法第七十條ノ規定ニ依リ國税ノ徴收ヲ猶豫セラルルトキハ其ノ國税ニ對スル附加税ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十六條　遊興税ハ第五條第十三項ノ營業者ニ於テ之ヲ徴收スベシ

第二十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　督促狀ヲ發シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ徴收ス

一　督促狀一通ニ付四十錢但シ税額一圓未滿ナルトキハ二十錢

二　督促狀ノ送達ガ郵便ニ依リタルトキハ郵便料ニ相當スル増手數料、使丁ニ依リタルトキハ一里ニ付十二錢ノ増手數料但シ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三十八條　督促狀ヲ發シタルトキハ税額百圓ニ付一日四錢ノ割合ヲ以テ延滯金ヲ徴收ス

第六章　雜則

【北海警】

第三十九條　府縣制第百十條第一項及市制町村制施行令第三十九條ノ三ノ規定ニ依リ段別割ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ長官ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ長官ノ承認ヲ受クル迄收穫皆無ノ事實ヲ證スルニ足ルベキ作毛ヲ存置スベシ

第一項ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年度分段別割ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十條　詐欺其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ地方税ヲ逋脱シタル者ニハ其ノ逋脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科ス

第四十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ五圓以下ノ過料ヲ科ス

一　故ナク地方税ニ關スル鑑札又ハ檢印ヲ受ケザル者

二　故ナク地方税ニ關スル鑑札又ハ檢印ヲ毀損シタル者

三　地方税ニ關スル檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ゲタル者

第四十二條　本條例施行上必要ナル事項ハ長官之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和七年度分ヨリ之ヲ適用ス

北海道地方税規則及北海道地方税細則ハ昭和六年度分限リ之ヲ廢止ス

昭和七年度分營業税ニ限リ第十四條第一項ノ外一般營業ニ對シテハ純益百分〇、二二、藝妓置屋業ニ對シテハ本玉收入金百分ノ〇・四五、半玉收入金ノ百分ノ〇・三一ノ制限外賦課ヲ爲スモノトス

昭和七年度分傭婦税ニ限リ第十五條第一項ノ規定中一圓十錢トアルハ一圓二十錢、九十錢トアルハ一圓、八十錢トアルハ九十錢トス

漁期ノ初日ガ昭和七年一月一日ヨリ三月三十一日迄ノ間ニ屬スル漁業ニ對スル漁業税ノ賦課期日ハ昭和七年度分ニ限リ之ヲ四月一日トス

別表（略ス）

●北海道地方稅細則

昭和七年三月三十日
廳令第十一號

北海道地方稅細則左ノ通定ム

北海道地方稅細則

第一章　總則

第一條　地方稅ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外左ニ揭クル市町村ニ於テ之ヲ賦課徵收ス

一　地租附加稅、特別地稅、段別割及地租割	土地所在ノ市町村
二　營業收益稅附加稅及營業收益稅割（府縣制施行令第三十條ノ規定ニ依リ賦課スルモノヲ除ク）	
（一）法人	本店所在ノ市町村
（二）個人	
國稅納稅地道外ニ在ルモノ	主タル營業所所在ノ市町村
其ノ他	國稅納稅地市町村
三　所得稅附加稅（府縣制第百八條ノ規定ニ依リ賦課スルモノヲ除ク）	
（一）道內ニ土地、家屋、營業所ヲ有スル者ノ國稅ニシテ其ノ納稅地道外ニ在ルモノ	土地、家屋、營業所所在ノ市町村
（二）住所滯在同時ニ道ノ內外ニ涉ル者ノ國稅ニシテ其ノ納稅地道外ニ在ルモノ	住居地市町村
（三）其ノ他	
法人	本店所在ノ市町村
個人	國稅納稅地市町村
四　鑛業稅附加稅（府縣制第百八條ノ規定ニ依リ賦課スル鑛產稅附加稅ヲ除ク）	
製錬鑛物ニ係ル鑛產稅附加稅	主タル製錬所所在ノ市町村
其ノ他	鑛區所在ノ市町村
五　家屋稅	家屋所在ノ市町村
六　營業稅	
一般營業稅	主タル營業所所在ノ市町村
藝妓置屋業稅	營業所所在ノ市町村但シ自前ノ藝妓ニ在リテハ營業地市町村
七　雜種稅	
船稅	主タル定繫場所在ノ市町村
車稅	主タル定置場所在ノ市町村
電柱稅、金庫稅及玉突臺稅	物件所在ノ市町村
畜犬稅	飼育地市町村
酌婦稅	營業所所在ノ市町村但シ自前ノ酌婦ニ在リテハ營業地市町村
傭人稅	雇傭地市町村
狩獵稅	住所地市町村
流木稅	流送開始地市町村
不動產取得稅	不動產所在ノ市町村
興行稅	興行地市町村
漁業稅	
漁場割	漁場所在ノ市町村
其ノ他	漁業根據地市町村

同一稅目ニ付前項ノ市町村二以上アルトキハ同一支廳管內ニ係ルモノニ付テハ支廳長其ノ他ニ付テハ長官ノ指定シタル市町村ニ於テ賦課徵收ス

第二條　特別ノ事情アルトキハ長官又ハ支廳長ハ前條ノ規定ニ拘ラス適宜ノ市町村ニ於テ地方稅ヲ賦課徵收セシムルコトヲ得

第三條　地方稅ニ關スル申告ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外第一條ノ市町村長ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メ又ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ之ヲ申告スヘシ

第二章　賦課

第五條　道ノ內外ニ涉リ營業所ヲ有スル營業收益稅納稅義務者又ハ所得稅納稅義務者ハ純益金額又ハ所得金額ノ決定通知ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ第一號樣式ニ依リ申告書ヲ法人ニ在リテハ本店所在ノ市町村、個人ニ在リテハ國稅納稅地市町村ヲ經由シ長官ニ提出スヘシ

前項ノ規定ハ前項以外ノ營業收益稅納稅義務者ニシテ市ト町村トニ涉リ營業所ヲ有スル者ニ之ヲ準用ス

道ノ內外ニ涉リ營業所ヲ有シ鑛產稅ヲ分別シテ納メサル者ハ鑛產稅ノ納稅ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ第二號樣式ノ申告書ヲ第一項ノ例ニ依リ長官ニ提出スヘシ

第一項及前項ノ場合ニ於テ納稅義務者道內ニ本店ヲ有セサルトキハ各營業所所在ノ市町村ヲ經由シ申告書ヲ提出スヘシ但シ長官ニ於テ特ニ申告書ヲ經由スヘキ市町村ヲ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前四項ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後申告事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ納稅義務者、氏名、住所、營業ノ種類若ハ營業所ニ變更アリタルトキハ納稅義務者ハ直ニ其ノ旨及異動又ハ變更ノ年月日ヲ前四項ノ例ニ依リ申告スヘシ

第六條　家屋稅ノ賦課ヲ受クヘキ家屋ヲ建築（改築及增築ヲ含ム）シタル者又ハ家屋稅ノ賦課ヲ受クヘキモノト爲リタル家屋ノ所有者ハ納稅義務發生ノ日ヨリ十日內ニ第三號樣式ノ申告書ヲ提出スヘシ

第七條　段別割ノ賦課ヲ受クヘキモノト爲リタル土地ニ付納稅義務ヲ有スル者ハ納稅義務發生ノ日ヨリ三日內ニ第四號樣式ノ申告書ヲ提出スヘシ

第八條　一般營業稅ノ賦課ヲ受クヘキ營業ヲ爲ス者ハ每年一月末日迄（二月一日以後一般營業稅ノ賦課ヲ受クヘキ營業ヲ開始シタル者又ハ一般營業稅ノ賦課ヲ受クヘキモノト爲リタル營業ヲ爲ス者ハ納稅義務發生ノ日ヨリ十日內）ニ第五號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ藝妓置屋業稅ノ賦課ヲ受クヘキ營業ヲ爲ス者ハ每月五日迄（藝妓置屋業ヲ讓渡又ハ廢業シタル者及自前藝妓ヲ廢業シタル者ニ在リテハ讓渡又ハ廢業ノ日ヨリ五日內）ニ第六號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

第九條　雜種稅ノ賦課ヲ受クヘキ物件ヲ取得（第十二條第一項第二號ニ該當スル取得及船鑑札規則ノ適用ヲ受クル船舶ノ取得ヲ除ク）シタル者又ハ雜種稅ノ賦課ヲ受クヘキモノト爲リタル物件ノ所有者ハ納稅義務發生ノ日ヨリ三日內ニ第七號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

北海道地方稅條例（以下條例ト稱ス）第十條第二號乃至第五號及第十一條ノ規定ニ依リ雜種稅ノ賦課ヲ受ケサル船、車又ハ畜犬ヲ取得シタル者ハ其ノ物件ヲ取得シタル日ヨリ三日內ニ第八號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ハ條例第十條第二號乃至第五號及第十一條ノ規定ニ依リ雜種稅ノ賦課ヲ受ケサルモノト爲リタル船、車又ハ畜犬ノ所有者ニ之ヲ準用ス

第十條　酌婦、女給又ハ仲居ヲ傭入レ若ハ抱入レタル者又ハ自前ノ酌婦ハ傭入、抱入ノ日若ハ酌婦ト爲リタル日ヨリ三日內ニ第九號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

主トシテ家事用ニ係ル傭人ヲ傭入レタル者ハ傭入ノ日ヨリ三日內ニ第十號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

河川又ハ湖沼ニ於テ流送ヲ爲ス木材ノ所有者ハ流送開始ノ時第十一號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

不動産ノ所有權ヲ取得シタル者ハ取得ノ日ヨリ三日內ニ第十二號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

興行ヲ爲ス者ハ興行開始ノ時第十三號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

第四項ノ規定ハ第六條ノ規定ニ依リ申告スヘキ者ニハ之ヲ適用セス

第十一條　漁船割ノ賦課ヲ受クヘキ漁業（許可漁業ヲ除ク）ヲ爲ス者ハ著業ノ時第十四號樣式ノ申告書ヲ提出スヘシ

八ツ目筌ヲ使用シ漁業ヲ爲ス者ハ著業ノ時第十五號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

漁具割ノ賦課ヲ受クヘキ地曳網又ハ船曳網漁業ヲ爲ス者ハ許可ヲ受ケタル時第十六號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

漁獲割ノ賦課ヲ受クヘキ漁業ヲ爲ス者鯨ヲ捕獲シタルトキハ遲滯ナク第十七號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ

從業者割ノ賦課ヲ受クヘキ漁業ヲ爲ス者ハ著業ノ時第十八號樣式ニ依リ申告書ヲ提出スヘシ但シ漁業ヲ爲ス者（漁業ヲ爲ス者ト共ニ漁業ニ從事スル其ノ同居家族ヲ含ム）カ自ラ從業者トシテ同一年度及同一市町村內ニ於テ既ニ賦課ヲ受ケタル從業者割稅額以下ノ從業者割ノ賦課ヲ受クヘキ漁業ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　第六條乃至前條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル者（納稅義務ノ承繼者ヲ含ム）左ニ揭クル場合ニ於テハ其ノ旨及事實發生ノ年月日ヲ直ニ申告スヘシ

一　氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキ
二　相續、賣買其ノ他ノ事由ニ因リ納稅義務者ニ變更アリタルトキ
三　家屋、物件ノ滅失、廢業、其ノ他ノ事由ニ因リ納稅義務消滅シタルトキ
四　地目變更シタルトキ
五　營業ノ種類又ハ營業所ヲ變更シタルトキ

六　家屋又ハ物件ノ所在地、碇繫場、定置場、飼育地、賦課種目又ハ賦課類目ヲ變更シタルトキ
七　酌婦、女給、仲居又ハ傭人ノ雇傭又ハ抱ヲ止メタルトキ
八　天災其ノ他不可抗力ニ因リ木材ヲ亡失シタルトキ
九　興行ニ關シ申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキ
十　地曳網又ハ船曳網ノ長サヲ變更シタルトキ
十一　從業者割ノ賦課ヲ受クヘキ漁業ニ付從業者數ヲ增加シタルトキ

前項第一號ノ規定ハ第十條第三項乃至第五項ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル者ニハ之ヲ適用セス

第一項第二號ノ場合（承繼者カ申告ヲ爲ス場合ヲ除ク）ニ於テハ納稅義務ヲ承繼シタル者ノ住所及承繼ノ原因ヲ承繼者ト連署シテ申告スヘシ但シ連署ヲ爲スコト能ハサル特別ノ事由アルトキハ其ノ旨竝ニ之カ事由ヲ附記スヘシ

第一項第三號ノ規定ハ第九條第三項ノ規定ニ依リ申告ヲ爲ス者ニハ之ヲ適用セス

住所又ハ家屋、營業所若ハ物件ノ所在地、碇繫場、定置場又ハ飼育地ノ變更ニシテ市町村ヲ異ニスルトキハ其ノ雙方市町村長ニ申告スヘシ

不動産ノ讓渡人ハ第十條第四項ノ規定ニ依ル申告書ニ連署シ本條第一項第二號ノ規定ニ依ル申告書ニ代フルコトヲ得

第十三條　定置漁業、區劃漁業、特別漁業又ハ漁船割若ハ漁具割ノ賦課ヲ受クヘキ許可漁業ヲ爲ス者ニシテ年度內著業セサル見込ナルトキハ漁期開始前十五日目迄ニ、漁期開始後納稅義務發生シタル者ニ在リテハ納稅義務發生ノ日ヨリ三日內ニ其ノ旨申告スヘシ但シ漁期經過後納稅義務發生シタル者ニ在リテハ比ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル者申告後著業セントスルトキハ直ニ其ノ旨申告スヘシ

第十四條　第七條乃至前條ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ハ口頭ヲ以テ申告シ市町村ニ備フル口頭申告簿ニ捺印シテ之ニ代フルコトヲ得

第十五條　段別割、營業稅及雜種稅（遊興稅及漁業稅中漁場割ヲ除ク）ノ課稅標準ハ本章ノ規定ニ依ル申告ニ依リ第一條ノ市町村長ニ於テ之ヲ決定ス

前項ノ規定ハ前項ニ揭クル稅目ニ付條例第二十七條第二項ノ規定ニ依ル決定ニ付之ヲ準用ス

漁業稅中漁場割ノ課稅標準タル漁場賃貸價格ハ四月一日ニ現在スル漁業權ニ付テハ長官、其ノ他ニ付テハ市町村長之ヲ決定ス

第十六條　府縣制第百十條第一項及市制町村制施行令第三十九條ノ三ノ規定ニ依リ段別割ノ免除ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ第十九號樣式ニ依リ調書ヲ添附シ第一條ノ市町村ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第十七條　條例第十條第二十二號ノ規定ニ依ル興行ノ認定ヲ受ケントスル者ハ第二十號樣式ニ依リ申請書ヲ提出スヘシ

第十八條　藝妓置屋業者及自前ノ藝妓ハ第二十一號樣式ニ依リ線香帳ヲ調製シ該當事項ヲ記載スヘシ

第十九條　第九條第一項ノ規定ニ依リ申告スル者ハ申告ノ際船、自轉車、自動車及畜犬ニ付テハ第二十二號樣式ノ鑑札ノ交付ヲ、馬車ニ付テハ第二十三號樣式ノ檢印ノ押捺ヲ受クヘシ

第九條第二項及第三項ノ規定ニ依リ申告スル者ハ申告ノ際前項ノ例ニ依リ賦課外鑑札ノ交付又ハ賦課外檢印ノ押捺ヲ受クヘシ

船ノ鑑札ハ艫ノ內部ニ、自轉車及自動車ノ鑑札ハハンドルノ中軸ニ、畜犬ノ鑑札ハ頸部ニ之ヲ附著シ、乘用馬車ノ檢印ハ乘臺右側外面ノ前端ニ、二輪ノ荷積馬車ノ檢印ハ右側梶棒外面ノ中央ニ、四輪ノ荷積馬車ノ檢印ハ荷臺右側外面ノ前端ニ之ヲ押捺ス

自轉車及自動車ノ鑑札ハ市町村長ニ於テ之ヲ附著シ所有者其ノ他ニ於テ之ヲ取外スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ取外シタル鑑札ハ之ヲ無效トス

第二十條　前條ノ規定ニ依リ鑑札ノ交付又ハ檢印ノ押捺ヲ受ケタル者鑑札又ハ檢印ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ旨直ニ申告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ申告ノ時鑑札ノ再渡又ハ檢印ノ再捺ヲ受クヘシ

第十二條第一項第一號、第二號若ハ第六號ニ揭ケタル事實發生シ又ハ船名ヲ變更シタルトキハ船鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第九條第三項、第十二條第一項第三號及本條第一項ノ場合ニ於テハ申告ノ時鑑札ヲ返納シ又ハ檢印ノ抹消ヲ受クヘシ

納稅義務者亡失シタル鑑札ヲ發見シタルトキハ直ニ亡失ノ申告ヲ爲シタル市町村長ニ之ヲ返納スヘシ

第二十一條　地方稅ニ關スル檢査ハ主務ノ官吏、吏員（市町村吏員ヲ含ム以下同シ）ヲシテ之ヲ爲サシム

前項ノ官吏、吏員及市町村吏員ニハ第二十四號樣式ノ證票ヲ携帶セシム

第二十二條　地方稅ノ檢査ニ從事スル官吏、吏員ハ見番ニ對シ藝妓置屋業稅ノ賦課ニ關シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得

第二十三條　地方稅ノ檢査ニ從事スル官吏、吏員無效ノ鑑札又ハ檢印ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收又ハ抹消スルコトヲ得

第二十四條　地方稅ノ檢査ニ從事スル官吏、吏員自轉車鑑札又ハ自動車鑑札ニ覆被ヲ施シタルモノヲ發見シタルトキハ其ノ覆被物ヲ取外スコトヲ得

第三章　徵收

第二十五條　支廳長町村ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルトキハ條例第三十條第一項ノ納期ヲ變更スルコトヲ得但シ納期限ノ繰下ニ付テハ豫メ長官ノ承認ヲ受クヘシ

支廳長前項ノ規定ニ依リ納期ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨長官ニ報告

スヘシ但シ納期限ノ繰下ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　條例第三十二條ノ納期限、府縣制施行令第三十八條及市制町村制施行令第四十六條ノ規定ニ依リ納期前徴收ヲ要スル地方税ノ納期限ハ府縣制第百八條第一項及府縣制施行令第三十條ノ規定ニ依リ賦課スル地方税ニ關スルモノヲ除クノ外市町村長之ヲ定ム

前項ノ納期限ハ徴税令書發付ノ日ヨリ二十日内ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ但シ定置漁業、區劃漁業、特別漁業及漁船割又ハ漁具割ヲ賦課スヘキ許可漁業ニ對スル漁業税ノ納期限ハ左ノ範圍内ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

一　定置漁業、區劃漁業及特別漁業ニ付テハ漁期開始後三十日内
二　漁船割又ハ漁具割ヲ賦課スヘキ許可漁業ニ付テハ漁期開始後二十日内

特別ノ事情アルトキハ市ニ係ルモノハ長官、町村ニ係ルモノハ支廳長ノ承認ヲ得テ前項但書ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二十七條　地方税ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外市町村長ニ於テ納税人ニ對シ徴税令書ヲ發シ之ヲ徴收ス

府縣制第百八條第一項及府縣制施行令第三十條ノ規定ニ依リ賦課スヘキ地方税ハ長官ニ於テ納税人ニ對シ徴税令書ヲ發シ之ヲ徴收ス

徴税令書ハ第二十五號樣式ニ依ル

第二十八條　市町村長ヨリ徴税令書ヲ受ケタル納税人ハ其ノ税金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納税ノ義務ヲ了ス

第二十九條　市町村ハ毎月十日、二十日及月末ニ各其ノ前日迄ニ徴收シタル地方税ニ付第二十六號樣式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十條　督促及滯納處分ハ市ニ於テ徴收スル地方税ニ付テハ長官、町村ニ於テ徴收スル地方税ニ付テハ支廳長之ヲ行フ

支廳長ハ交通杜絶シタルトキ又ハ特別ノ事情アリト認メ長官ノ承認ヲ受ケタルトキハ督促及滯納處分ニ關スル事務ヲ町村長ニ委任スルコトヲ得

第三十一條　督促狀ハ第二十七號樣式ニ依ル

第三十二條　督促狀ニ指定スヘキ納期限ハ督促狀發付ノ日ヨリ十五日内ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

條例第三十三條及第三十四條ノ規定ハ督促狀ノ納期限ニ之ヲ準用ス

第三十三條　町村ニ於テ徴收スル地方税ノ滯納ニ付市制町村制施行令第四十五條第一項但書ニ依ル酌量スヘキ情狀ノ有無ハ支廳長之ヲ認定ス

第三十四條　納税人又ハ其ノ者ノ財産ニシテ督促狀發布廳ノ管轄區域外ニ在ルトキハ長官又ハ支廳長ハ納税人又ハ其ノ者ノ財産所在地ヲ管轄スル督促狀發布廳ニ徴收ノ引繼ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　支廳長又ハ町村長ハ差押又ハ公賣ニ關スル事務ヲ部下ノ官吏、吏員ニ委任スルコトヲ得

第三十六條　財産差押ノ事務ヲ取扱フ官吏、吏員ニハ第二十八號樣式ノ證票ヲ携帶セシム

第三十七條　納税人納期限經過後督促狀發付前税金ヲ金庫ニ納付セントスルトキハ長官、支廳長又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル委任ヲ受ケタル町村長ニ申出テ納付書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ納付書ノ樣式ハ第二十六號樣式ニ準ス

第三十八條　遊興税ハ徴税令書又ハ徴税傳令書ヲ發セスシテ之ヲ徴收ス

遊興税徴收義務者遊興税ヲ徴收シタルトキハ其ノ税額ヲ記載シタル領收證ヲ納税人ニ交付スヘシ

第三十九條　遊興税徴收義務者ハ第二十九號樣式ノ遊興税徴收簿ヲ調製シ該當事項ヲ記載スヘシ

第四十條　遊興税徴收義務者ハ第三十號樣式ニ依リ其ノ月中ニ於テ徴收スヘキ遊興税額、消費金額及人員(徴收スヘキモノナキトキハ其ノ旨)ヲ翌月十日限リ市ニ係ルモノハ長官、町村ニ係ルモノハ支廳長ニ申告スヘシ但シ遊興税徴收義務者廢業シタルトキ又ハ他市町村ニ移轉セントスルトキハ直ニ申告スヘシ

前項ノ申告書ハ市町村ヲ經由スヘシ

條例第三十四條ノ規定ハ之ヲ第一項ノ申告期限ニ準用ス

第四十一條　條例第三十六條第二項竝ニ條例第二十七條第二項ノ規定ニ依ル遊興税ノ課税標準タル消費金額ノ決定ハ町村ニ係ルモノニ付テハ支廳長之ヲ爲スヘシ

第四十二條　長官又ハ支廳長條例第三十六條第二項及前條ノ規定ニ依リ遊興税ノ課税標準タル消費金額ヲ決定シタルトキハ市町村ヲ經由シテ遊興税徴收義務者ニ之ヲ通知ス

第四十三條　遊興税徴收義務者ハ其ノ遊興税ヲ第四十條ノ規定ニ依ル申告ト同時ニ第三十一號樣式ノ拂込書ヲ添ヘ金庫又ハ出納吏ニ拂込ムヘシ

第四十四條　第三十一條乃至第三十三條、第三十五條及第三十六條ノ規定ハ遊興税徴收義務者ニ對スル督促及滯納處分ニ之ヲ準用ス

第四十五條　地方税徴收交付金ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ交付ス

一　市町村ノ拂込ミタル地方税ニ對スル交付金ハ四月ヨリ九月迄ノ分ハ其ノ年十月、十月ヨリ翌年三月迄ノ分ハ之ヲ翌年四月
二　遊興税徴收義務者ノ拂込ミタル遊興税ニ對スル交付金ハ拂込ノ時

第四章　雜則

第四十六條　段別割ニ關スル條例別表ノ宅地市街地ノ區域ハ支廳長之ヲ指定ス

第四十七條　興行税ニ付條例第十條第二十二號ノ規定ニ依ル認定ハ市ニ於テ爲ス興行ニ付テハ市長、町村ニ於テ爲ス興行ニ付テハ支廳長之ヲ爲ス

前項ノ認定ヲ受ケタル興行ニシテ其ノ後專ラ慈善ノ目的ヲ以テ爲スモノト認メ難キトキハ支廳長又ハ市長ハ何時ニテモ其ノ認定ヲ取消スコトヲ得

第四十八條　條例第三十五條ノ規定ニ依ル徴收ノ猶豫ハ市町村長之ヲ爲ス

第四十九條　地方税ニ關スル過料ニシテ町村ニ係ルモノハ支廳長之ヲ科スヘシ

第五十條　過年度ニ屬スル過納又ハ誤納ノ地方税ノ還付ヲ受ケントスル者ハ第三十二號樣式ニ依リ請求書ヲ其ノ賦課ヲ受ケタル市町村ヲ經由シ長官ニ提出スヘシ但シ第二十七條第二項ノ規定ニ依リ賦課ヲ受ケタル地方税ニ付テハ市町村ヲ經由スルヲ要セス

附　則

本令ハ昭和七年度ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十七條第二項ノ規定ハ昭和八年度ヨリ、自動車ノ鑑札及馬車ノ檢印ニ關スル第十九條第一項ノ規定ハ昭和七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

府縣制第百八條第一項及府縣制施行令第三十條ノ規定ニ依リ賦課スヘキ地方税ハ昭和七年度ニ限リ長官ノ指定スル市町村長ニ於テ納税人ニ對シ徴税令書ヲ發シ之ヲ徴收ス

昭和七年四月一日ニ於テ一般營業税ノ賦課ヲ受クヘキ營業ヲ爲ス者ハ第八條第一項ノ規定ニ拘ラス昭和七年度分ノ課税標準ニ限リ之ヲ同年四月十日迄ニ申告スヘシ

昭和七年五月末日ニ於テ雜種税ノ賦課ヲ受クヘキ自動車又ハ馬車ヲ所有スル者ハ同年六月一日ヨリ六月末日迄ニ第一條ノ市町村ニ於テ鑑札ノ交付又ハ檢印ノ押捺ヲ受クヘシ

昭和七年五月末日ニ於テ條例第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ自動車税ノ賦課ヲ受ケサル自動車ヲ所有スル者ハ同年六月一日ヨリ六月十日迄ニ第九條第二項及第三項ノ規定ニ依ル申告書ヲ提出スヘシ

樣式(略ス)

●所得税法(抄錄)

大正九年七月三十一日
法律第十一號

改正 大正一一年法律第四五號、一二年第二九號、一五年第八號

第二條 第一條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 本法施行地ニ資產又ハ營業ヲ有スルトキ

二 本法施行地ニ於テ公債、社債、又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ

三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種

甲 法人ノ普通所得

乙 法人ノ超過所得

丙 法人ノ淸算所得

第二種

甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙 第一條ノ規定ニ該當セル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一 營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給給料歲費及之等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニアラサルモノニ付テハ其年ノ豫算年額

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニアラサル資產營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其年豫算年額

株式ノ消却ニ依リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戾トシテ受クル金額カ其株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得（前條第一項第三號及第五號ノ所得）ニ付左ノ金額ヲ控除ス

一 所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二

二 所得總額中勤勞所得以外ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一

三 所得總額六千圓ヲ超、勤勞所得以外ノ所得六千圓未滿ナルトキハ勤勞所得ト合算シテ六千圓ヘ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二其他ノ金額ノ十分ノ一

戸主及其同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付又同シ

第十六條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戸主及家族中年齡第十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニヨル納稅義務者ニ付テハ此限ニ在ラス

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上信託アル場合ニ於テハ倘各信託每ニ之ヲ定ム第十五條第二項第十六條第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス

第十六條ノ三 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲メニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其所得ヨリ之ヲ控除ス

第十七條 北海道府縣郡市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

（關係法令）

民法　（抄錄）

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝、其ノ他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

民法施行法　（抄錄）

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財產ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ揭ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

一 軍人從軍中ノ俸給及手當

二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料

三 旅費、學資金及法定扶養料

四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 普通所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人　百分ノ五

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人	百分ノ十

乙　超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額	百分ノ四
同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額	百分ノ十
同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額	百分ノ二十

丙　淸算所得

淸算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス

積立金又ハ本法其他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額	百分ノ五
其他ノ金額	百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セス

前二項ノ規定ハ法人ノ淸算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十一條ノ二　同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ十、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分〆二十五、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其多額ナル一方)ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得

〔北海普〕

一　事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル時ハ其超過金額

二　事業年度末ニ於ケル積立金及其事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其超過金額但シ其事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其超過額ハ之ヲ控除ス

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族使用人等特殊ノ關係アルモノノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ云フ

第二十二條　第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲	公債ノ利子	百分ノ四
	其他	百分ノ五
乙		百分ノ七、五

信託會社カ其引受タル貸付信託ノ信託財産ニツキ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ其貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第二十三條　第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其稅額トス

千二百圓以下ノ金額	百分ノ〇、八
千二百圓ヲ超ユル金額	百分ノ二
千五百圓ヲ超ユル金額	百分ノ三

二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ四
三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ五
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ六、五
七千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八
一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ九、五
一萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十七
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十一
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十三
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十七
二百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十
三百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十三
四百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十六

前項ノ場合ニ於テ戶主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第五十六條　第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歲費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタルモノニ對シテハ

〔北海普〕

命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第六十四條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者第十四條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲナスコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

所得金額決定後相續又ハ營業繼續ニヨリ所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第六十五條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第六十七條　第一種ノ所得ニ付テハ事業年度每ニ所得稅ヲ徵收ス但シ淸算所得ニ付テハ淸算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限
第二期　其ノ年十月一日ヨリ三十一日限
第三期　翌年一月一日ヨリ三十一日限
第四期　翌年三月一日ヨリ三十一日限

第七十條　第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條　第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄內ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所地以外、住所ナキトキハ居所地外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第七十二條　第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナ

キトキハ居所地ヲ以テ納税地トス但シ住所地以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第七十三條　納税義務者納税地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納税其ノ他所得税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第七十三條ノ二　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得税逋脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ之等ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第七十三條ノ三　（削除）

第七十三條ノ四　（削除）

附　則（大正十二年三月法律第八號）

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限リ大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

●所得税法施行規則（抄錄）

大正九年七月三十一日
勅令第二百二十六號

改正（大正ハ之ヲ略ス）、昭和五年勅令第一七號

第十二條　左ニ揭クル公共團體ニハ所得税法第十七條ノ規定ニ依リ所得税ヲ課セス

一　府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村內ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合、

〔北海營〕

耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ

二　朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ他ノ法令ニ依リ所得税ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ

●賦課外自轉車鑑札ノ件

大正八年十月四日
內地第八三二七號內務部長通牒
支廳長　區長宛

官公署有ノ自轉車ニ對シテ當該名アル札ヲ附屬セシムルコトニ取扱ハレ居候筈ニ候處之レノミニテハ尙取締上遺憾ノ點アルヲ以テ賦課外鑑札ヲ附屬セシムル樣致度將來右ニ御取扱相成度尤モ之カ交付ニ當リテハ其ノ官公署有タルコトヲ確認スルニ相當御注意相成度

●寺院用自轉車ノ件

昭和三年二月二十七日
內地第三四六號

寺院ノ所有スル僧侶用自轉車ノ類ハ地方税規則第八條第一號ニ所謂「寺院ノ用ニ供スル車」ニ該當候條御了知相成度

●狩獵法（抄錄）

大正七年四月二日
法律第三十二號

改正　大正一一年法律第七四號

第八條　狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許税ヲ納ムヘシ

一　等　所得税二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族　五十圓

二　等　所得税ヲ納ムル者又ハ其ノ家族　三十圓

三　等　一等及二等以外ノ者　十五圓

前項ノ免許税ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

〔北海營〕

●課税物件竝隨時調定報告ニ關スル樣式ノ件

大正七年四月十八日
內會第二六八〇號內務部長通牒
各〔區〕長宛

定期地方税課税物件ノ報告竝隨時調定ニ關スル報告ハ自今別記樣式ニ依リ作製提出相成度

追テ地租割以外ノ各附加税ノ本税額モ參照上必要有之候ニ付地租割ノ例ニ依リ提出相成度

第一號

日分藝妓置屋業税課税物件報告

置屋數　　人

區分	標準 人員	税額	備考
藝妓	人	圓	
一等			
二等			
三等			
四等			
五等			
六等			
十五歳未滿			
酌婦			
計			

第二號

月　日現在營業雜種税課税物件報告

課目及區分	課税物件又ハ課税標準	税額	備考
營業税			
商業			
物品販賣業	圓	圓	
金錢貸付業	〃	〃	
物品貸付業	〃	〃	
運送業	〃	〃	
請負業	〃	〃	
宿業	〃	〃	
周旋業	〃	〃	
代辯業	〃	〃	
仲立業	〃	〃	
仲買業	〃	〃	

	牛馬賣買業	〃		〃	
工業	製造業	圓		圓	
雜種稅	料理店業	圓		圓	
	飲食店業	〃		〃	
	湯屋業	〃		〃	
	理髮業	〃		〃	
	代書業	〃		〃	
	市場	〃		〃	
雜種稅	（二）				
	船	艘		圓	
	小廻船	〃		〃	
	通船	〃		〃	
	艀船				
	百石未滿	艘		圓	
	百石以上	〃		石	
	日本形船				
	五十石未滿	艘		圓	
	五十石以上	〃	石	〃	
	西洋形船				
	汽船				
	十一噸未滿	艘		圓	
	十一噸以上	艘	噸		
	帆船				
	十一噸未滿	艘		圓	
	十一噸以上	〃	噸	〃	
車					
	馬車				
	一頭立	圓		圓	
	二頭立	〃		〃	
	荷積牛馬車				
	一頭立				
	一類	輛		圓	
	二類	〃		〃	
	二頭立	〃		〃	
	人力車	〃		〃	
	荷積車	〃		〃	

私法人建物割					
	倉庫業者倉庫	圓		圓	
	工業者工場	〃		〃	
	其ノ他建物	圓		圓	
	玉突臺	臺		〃	
	畜犬	頭		〃	

備考

一　自轉車稅及馬橇稅ハ本表ニ準スルコト

二　艀船百石以上日本形船五十石以上及西洋形船十一噸以上ノ船舶ニ對スル石數又ハ噸數ハ增課ヲ要スル石數又ハ噸數ノミヲ揭ケルコト

第三號

月　日現在　地租割課稅物件報告

區分	本稅（地租割）	稅額	備考
宅地	圓	圓	
其他ノ土地	〃	〃	
計	〃	〃	

第四號

月　日現在　戶數割課稅物件報告

賦課戶數	負擔稅額
戶	圓
戶	

第五號

月　日現在　段別割課稅物件報告

區分	等級	段別	負擔稅額	備考
田	何等地	段	圓	
畑	同	〃	〃	
宅地	同	〃	〃	
雜種地	同	〃	〃	
牧場	同	〃	〃	
山林原野	同	〃	〃	
計				

第六號

月　日現在　水產稅課稅物件報告

種目	員數	負擔稅額	備考
第一種			
鰊定置	統	圓	
鰊特別	〃	〃	

鮭定置	〃	〃		
鮭特別	〃	〃		
鱒定置	〃	〃		
鱒特別	〃	〃		
鰛定置	〃	〃		
鰛特別	〃	〃		
鮪鰤定置	〃	〃		
其他免許漁業	〃	〃		
鰊旋網	〃	〃		
其他旋網	〃	〃		
第二種				
鰊刺網				
六間以上ノ漁船	艘			
五間以上ノ漁船	〃			
四間以上ノ漁船	〃			
三間半以上ノ漁船	〃			
三間半未滿ノ漁船	艘			
鰊長刺網	統			

五間以上ノ漁船	艘			
四間以上ノ漁船	〃			
三間半以上ノ漁船	〃			
三間半未滿ノ漁船	〃			
計				

第七號

隨時地方稅調定報告

年度	稅目	金額	納期日	賦課物件又ハ標準	摘要
年度	何々	圓	月　日	賣上高又ハ何々何程	何某外何名分

備考

一　本書ハ大正七年三月廳令第三十號ニ依ル調定ヲ報告スヘキ様式トス

二　稅目ハ目ニ依リ記載スルコト

第八號

大正　年度　月分隨時地方稅調定計算書

稅目＼區分	調定報告濟額			納付濟額			納付未濟額			滯納報告濟額		
	本月中	前月迄累計	計	本月中	前月迄累計	計	本月中	前月迄累計	計	本月中	前月迄累計	計

合計

備考

一　本表ハ大正七年三月廳令第三十號ニ依リ取扱ヒタル地方稅ヲ記載スルモノトス

二　稅目ハ款項ニ區分ヲ要セス目ヲ記載スルコト

三　本表ハ毎月分ヲ翌月三日限提出スルコト

第三節　稅外收入

●北海道廳立學校生徒授業料額

大正十二年三月十八日
告示第百六十號

改正　大正一四年告示第二三九號、昭和二年第一三六號、三年第一一七號、六年第一四四號

北海道廳立學校生徒授業料額ヲ左ノ通定メ大正十二年度ヨリ之ヲ施行ス

北海道廳立中學校		一箇月	金四圓五十錢
北海道廳立高等女學校	本科、補習科	一箇月	金四圓五十錢
	專攻科	一箇月	金五圓
北海道廳立商業學校		一箇月	金四圓五十錢
北海道廳立實業學校（商業學校ヲ除ク）		一箇月	金三圓五十錢

但シ農業學校選科生竝工業學校木工科及選科生ハ一箇月金二圓

北海道師範學校附屬小學校　高等科一箇月　金一圓

但シ一家ノ兒童二人以上同時ニ在學スルトキハ一人ハ全額其ノ他ハ半額トス

北海道廳立商業補習學校　一箇月　金三十錢

●北海道廳立治療院規則

大正二年三月二十五日
廳令第二十一號

改正（大正ハ之ヲ略ス）、昭和二年第二七號、四年第一五號

北海道廳立治療院規則左ノ通定ム

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

北海道廳立治療院規則

第一條　明治四十三年勅令第三百十號ニ基キ北海道廳立治療院ヲ設置ス

其ノ位置及名稱ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條　廳立治療院ハ娼妓、娼妓登錄申請者及密賣淫者ノ檢診又ハ治療ヲ爲ス所トス

第三條　前條ノ患者ニシテ入院スルトキハ娼妓ニ在リテハ貸座敷業者密賣淫者ニ在リテハ雇主又ハ寄寓所ノ戸主若ハ父母其ノ他自己ノ身ヲ引受クヘキ親族ト連署ノ上院長ニ願出ツヘシ

第四條　入院患者ニシテ面會ヲ要スル場合又ハ入院患者ニ面會ヲ求ムル者ハ口頭ヲ以テ院長ニ願出ツヘシ

第五條　入院患者ニシテ外出セムトスルトキハ院長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　入院患者ノ藥價ハ一日金十五錢トス

食費ハ自辨タルヘシ

娼妓タル入院患者ニ對シテハ前項ノ藥價ヲ徵收セス

入院患者ニ對シ大手術ヲ行ヒ又ハ高價ノ藥品若ハ特ニ他ノ物品ヲ使用シタルトキハ其ノ實費ヲ徵收スルコトアルヘシ

外來患者ノ藥價處置料治療品料ハ左ノ通トス但シ特ニ高價ノ藥品又ハ物品ヲ使用シタルトキハ其ノ實費ヲ徵收ス

第六條ノ二　娼妓タル入院患者ニ對シテハ入院ノ日ヨリ退院ノ前日迄食費トシテ一日金三十錢宛ヲ補給ス

治療院所在地外ノ貸座敷ニ寄寓スル娼妓ニシテ入院スル場合ニ於テハ往復ニ要スル汽車賃三等ノ實費額ヲ支給ス

一　藥價

一　水、散、丸藥	一日分	金七錢
一　頓服藥	一劑	金五錢
一　點眼藥	五瓦	金十錢
一　含嗽藥	四〇〇瓦	金十二錢
一　膏藥	小五瓦迄 中十瓦迄 大十瓦以上	金五錢 金十錢 金十五錢
一　罨法藥	四〇〇瓦	金十二錢
一　坐藥	一個	金五錢
一　塗布藥	一〇瓦	金五錢
一　散布藥	五瓦	金十錢
一　吸入藥	四〇〇瓦	金十錢
二　處置料		
一　眼、尿道膣洗滌	一回	金五錢
一　皮下注射	一回	金十錢乃至金五十錢
一　咽頭塗布	一回	金五錢
三　治療用品料		
一　精製ガーゼ	一尺	金三錢
一　精製綿	一枚	金七錢
一　オブラート	三枚	金一錢
一　繃帶　一卷	四裂 五裂 八裂	金二十五錢 金二十錢 金十二錢
一　點眼瓶	一個	金三錢

【北海警】

一　曲物		一個	金二錢
一　藥價	二〇〇瓦入 四〇〇瓦入 一〇〇〇瓦入 六〇瓦入 三〇瓦入	一瓶 同 同 同 同	金三錢 金五錢 金二錢 金二錢 金一錢

第七條　入院料ハ毎土曜日ニ於テ其ノ前日迄ノ分ヲ徵收スヘシ但シ退院ノ際ハ當日迄ノ分ヲ即時徵收スヘシ

通院患者ニ對スル藥價ハ其ノ都度之ヲ徵收スヘシ

第八條　入院患者ハ院內ノ紀律ヲ恪守シ院長以下職員ノ命令ヲ遵奉スヘシ

●運轉手試驗用自動車貸付規則

昭和二年十一月十九日
廳令第百五十三號

改正　昭和七年廳令第一六號

運轉手試驗用自動車貸付規則左ノ通定ム

運轉手試驗用自動車貸付規則

第一條　自動車運轉手試驗用ニ充ツル爲北海道廳ニ自動車ヲ備置キ料金ヲ徵シテ之ヲ貸付ス

前項ノ貸付料ハ一人一試驗ニ付金一圓トス

第二條　借受人ハ前條ノ自動車ヲ試驗用ノ外ニ使用スルコトヲ得ス

第三條　自動車運轉手實地試驗ヲ受クル者ニシテ試驗用自動車ノ貸付ヲ受ケムトスルモノハ料金ヲ添ヘ第一號樣式ニ依リ北海道廳長官ニ願出ツヘシ貸付ヲ許可シタル者ニハ貸付料金ノ領收證ヲ交付ス

前項ノ領收證ハ試驗當日試驗開始前係員ニ提示スヘシ

第四條　貸付ノ許可ヲ受ケ納付シタル料金ハ如何ナル事由アルモ之ヲ還付セス

前項ノ貸付料金ハ納付後初回執行ノ實地試驗ノミニ效力ヲ有シ試驗ニ應セス又ハ使用セサルノ故ヲ以テ次回以後執行ノ試驗ニ使用スルコトヲ得ス

第五條　貸付ノ許可ヲ受ケタル者使用中故意又ハ過失ニ因リ自動車ヲ損傷シタルトキハ其ノ損害ノ一部若ハ全部ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ執行ス

第一號樣式

試驗用自動車貸付願

運轉手試驗用自動車貸付規則ニ依リ御廳自動車貸付相成度使用中損傷シタルトキハ指定通賠償可仕貸付料金ヲ添ヘ此段相願候也

年　月　日

住所
氏　名印

北海道廳長官　殿

●自動車手數料徵收規則

昭和七年四月一日
廳令第十五號

自動車手數料徵收規則左ノ通リ定ム

自動車手數料徵收規則

第一條　自動車運轉手免許試驗、同就業地變更ニ依ル試驗、同免許證ノ再交付又ハ自動車檢查證ノ交付若ハ再交付ニ付テハ左ノ手數料ヲ徵ス

一、甲種試驗手數料		金參圓
二、乙種試驗手數料		金貳圓
三、就業地變更試驗手數料		金壹圓
四、免許證再交付手數料	一回ニ付	金五拾錢
五、自動車檢查證交付手數料	一臺一回ニ付	金壹圓
六、自動車檢查證再交付手數料	一臺一回ニ付	金五拾錢

【北海警】

第二條　前條第一號乃至第三號ノ手數料ハ願屆書提出ノトキ前條第四號乃至第六號ノ手數料ハ免許證又ハ檢查證交付ノトキ之ヲ納付スヘシ

第三條　本令ニ依ル手數料ハ北海道廳又ハ願屆ヲ經由スル所轄警察署長ニ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ還付セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前願屆書ヲ提出シタル者ニシテ試驗未施行ノ者ハ試驗施行ノトキ本令ニ依ル手數料ヲ納付スヘシ

●道府縣手數料令

明治四十三年五月五日
勅令第二百十九號

改正　昭和二年勅令第四一號、六年第九五號

朕賣藥部外品ノ免許手數料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

道府縣手數料令

第一條　道府縣ハ左ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得但シ東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得

一　賣藥部外品ニ關スル各種ノ免許手數料並同免許鑑札名義書換及再渡手數料

一　產婆試驗手數料及產婆名簿謄本手數料

一　鍼術灸術按摩術「マッサージ」術柔道整復術免許試驗手數料、同免許手數料及同免許鑑札再渡手數料

一　看護婦（看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム）免許試驗手數料、同免許手數料及同免狀再渡手數料

一　自動車運轉手免許試驗手數料、自動車運轉手就業地變更ニ依ル試驗手數料及自動車運轉手免許證再交付手數料

一　自動車檢査證交付手數料及自動車檢査證再交付手數料
一　輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査手數料及同檢査證明手數料
一　重要物產檢査手數料及同檢査證明手數料

第二條　檢査ヲ行フ重要物產ノ種類竝前條ノ手數料額及手數料ノ免除ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス　（明治四十三年五月五日官報）

●道府縣手數料令ニ依ル手數料額及手數料免除方ニ關スル件

明治四十三年五月十三日
內務省令第十九號

改正　昭和二年內務省令第一八號、六年第九號

明治四十三年五月勅令第二百十九號ニ依ル手數料額及手數料免除ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條　明治四十三年五月勅令第二百十九號ニ依リ道府縣ニ於テ徵收スル手數料ハ左記金額ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一　賣藥部外品免許手數料　一方ニ付金貳拾錢
一　賣藥部外品免許鑑札名義書換及再渡手數料　一回ニ付金拾錢
一　賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許手數料　一方ニ付金拾錢
一　賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許鑑札名義書換及再渡手數料　一回ニ付金拾錢
一　產婆試驗手數料　金壹圓
一　產婆名簿謄本手數料　金五拾錢
一　鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術、柔道整復術免許試驗手數料　各金壹圓

〔北海書〕

一　鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術、柔道整復術免許手數料　各金五拾錢
一　鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術、柔道整復術免許鑑札再渡手數料　各金貳拾錢
一　看護婦（看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム）免許試驗手數料　金壹圓
一　看護婦（看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム）免許手數料　金五拾錢
一　看護婦（看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム）免狀再渡手數料　金貳拾錢
一　輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査手數料　一回ニ付金壹圓
一　輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査證明手數料　證明書一枚ニ付金五拾錢
竝檢査票ヲ貼付スヘキ容器　一個ニ付金貳拾錢
一　自動車運轉手免許試驗手數料　甲種金參圓　乙種金貳圓
一　自動車運轉手就業地變更ニ依ル試驗手數料　金壹圓
一　自動車運轉手免許證再交付手數料　一回ニ付金五拾錢
一　自動車檢査證交付手數料　一臺ニ付金壹圓
一　自動車檢査證再交付手數料　一回ニ付金五拾錢

第二條　道府縣ハ按摩術及「マツサージ」術ニ關シ他ニ生業ヲ營ミ難シト認ムルモノニ對シ前條ノ手數料ヲ免除スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●看護婦規則施行細則（抄錄）

大正四年十一月二十六日
廳令第九十八號

〔北海書〕

改正　昭和五年廳令第二二號

第八條　看護婦免許又ハ免狀ノ再下付若ハ書換ヲ出願スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　看護婦免許　金五十錢
二　看護婦免狀再下付又ハ書換　金二十錢

●屠場法施行細則（抄錄）

明治三十九年十月
廳令第九十號

改正　大正一一年廳令第一八四號、昭和二年第一九號、三年第四九〇號

第五條　屠場使用料屠殺料ハ場內見易キ場所ニ掲示スヘシ

第六條　獸畜ヲ屠殺解體セントスルモノハ檢査手數料トシテ左ノ金額ヲ所轄警察官署長ノ發スル納入告知書ニ依リ納付スヘシ

牛　一頭ニ付　金壹圓五十錢
馬　一頭ニ付　金壹圓參拾錢
犢（一年未滿）羊豚　各一頭ニ付　金八拾五錢

第七條　屠殺主又ハ屠畜者ハ屠殺解體セントスル獸畜ノ種類、性、年齡、毛色、產地、所有者名及屠殺解體ノ月日ヲ記シ檢査手數料領收證ヲ添ヘ所轄警察署ヘ屆出スヘシ

●屠畜法施行細則改正ノ件

大正十一年十二月八日
警衞第三二一一號警察、內務部長通牒
各警察官署長宛

本月八日廳令第百八十四號ヲ以テ屠場法施行細則中改正ノ結果同則第六條ノ屠畜檢査手數料ハ屠場ヲ管轄スル警察官署ノ發スル納入告知書ニ依リ納付スルコトト相成候ニ付警察署ニ於テハ屠畜屆ヲ受理シタルトキハ規定ノ檢査手數料ヲ指定金庫ニ納入ノ告知書ヲ發シ其領收書ヲ檢査施行前ニ提出セシメ整理スヘク又〔警察分署〕ニ於テ其ノ屆出ヲ受理シタルトキハ本年九月三日付廳令第百三十七號北海道地方費會計規則第十三條但書ニ基キ納入告知書ヲ發セス規定ノ手數料ヲ領收スルコトニ取扱可相成

追テ屠場所轄警察官署長ニ地方費出納吏任命可致ニ付了知可相成

●地方費吏員職務上證人旅費ニ關スル件

大正二年十二月十二日
內會第八八五二號內務部長回答
浦河支廳長宛

○照會

地方費支辨ノ吏員ニシテ職務上證人トシテ裁判所ヘ出頭ヲ被命タル旅費ヲ地方費ヨリ支出セラレタル場合ハ裁判所ヨリ受クル證人旅費ヲ地方費歲入ヘ納付セシムヘキ旨御推問ノ次第有之候處右ニ關スル規程等有之候得ハ承知致度

○回答

地方費支辨吏員職務上證人旅費收入方ニ付テハ別段規定シタルモノナキモ右ハ出頭シタル證人ヲシテ裁判所ヨリ受取ラシメ其證人ヲ納人トシテ納入告知書ヲ發付シ納入セシメ可然

●巡査配置請願規程（抄錄）

明治三十五年五月六日
廳令第六十五號

改正　大正八年廳令第三六號

第二條　巡査配置ノ期限ハ六箇月以上ニアラサレハ之ヲ許サス但漁業取締等ノ爲メ其ノ配置ヲ請願スル等特別ノ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　巡査配置ノ許可ヲ受ケタルトキハ巡査出張所ヲ設クヘシ其構造及備品消耗品等ハ總テ所轄警察署又ハ警察〔分署〕ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條　請願者ノ納付スヘキ配置巡査ニ要スル費額ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條　配置巡査ニ要スル費額ハ年度ノ初月ニ在リテハ其ノ月十日限リ其ノ他ノ月ニ在リテハ前月二十五日限リ月額ヲ以テ所轄警察署ニ納付スヘシ但シ一箇月未滿ノ費額ハ日割ヲ以テ納付スヘシ（大正八年三月廳令第三六號改正）

前項費額ヲ前納セサルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

附　則

第七條　明治二十六年七月北海道廳告示第三十一號巡査配置請願手續ハ之ヲ廢止ス

●請願巡査費及賄料ノ端數切捨ニ關スル件

大正六年六月二十日
警務第一八六八號警察部長通牒
（警察署長宛）

本月四日附根乙第九三號ヲ以テ稟議相成候出納金端數切捨ニ關スル件ハ左記ノ通ニ候

一　請願巡査費及建物貸下料ハ年額ノ定メアルモ月割ヲ以テ毎月徴收スヘキモノニ付其月割額ヲ分納スル場合ニアラサレハ國庫出納金端數計算法第四條ヲ適用スヘキモノニアラス從テ年額ヲ十二等分シテ壹錢未滿ノ端數アルトキハ之レヲ切捨ツヘキモノトス又日割計算スルニハ月割額ノ壹錢未滿ノ端數ヲ切捨テサル金額ヲ日割計算シテ壹錢未滿ノ端數アルトキハ之レヲ切捨テ若シ其金額壹錢未滿ナルトキハ壹錢ヲ徴收スヘキモノトス

月割及日割計算ニ就テハ前乘後除ノ算法トス

二　賄料ハ各債權者毎ニ壹錢未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキモノナルモ一夜毎ニ切捨テス請求ノ都度總金額ノ端數ヲ切捨ツルモノトス

【北海警】

●請願巡査費納金算定方

大正四年四月二十八日
警第一三二一號內務警察兩部長通牒
（警察署長宛）

巡査ノ配置ヲ許可セラレタル者ノ納金算定方ハ巡査ニ其ノ派出所勤務ヲ命シタル日ヨリ起算シ配置期間滿了ノ日迄計上徴收スルコトニ廳議決定

●巡査懲罰金ニ關スル件

大正十年十月十九日
發警第七五號內務省警保局長通牒
（廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク））

巡査懲罰例第一條ニ依リ科セラルル罰金ノ割合ニ付テハ巡査給與令第四條ノ二及第四條ノ三ノ功勞精勤兩加俸ハ之ヲ加算シ算出スヘキ義ト御了知相成度候

●巡査ノ罰俸ヲ俸給ヨリ控除スルハ國庫支辨ノモノニ限ルノ件

明治二十五年四月二十三日
秘內第二號縣治局通牒
（府縣（沖繩縣ヲ除ク））

本年三月訓第二一五號訓令官吏罰俸ノ件但書ニ巡査懲罰令云云トアルハ國庫支辨ノ分ニ限ル義ナリ

○內務省訓令明治二十五年三月二十二日訓第二一五號

官吏懲戒例ニ於ケル罰俸ノ義ハ自今減俸ト同シク俸給中ヨリ之ヲ控除シ雜收入ニ編入セサル義ト心得ヘシ

但シ巡査懲罰令ニ於ケル罰俸モ本文同樣取扱フヘシ

【北海警】

●監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額ノ件

明治三十五年三月十七日
司法省令第四號

改正　大正七年司法省令第一五號

明治三十五年法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額ハ一人一日ニ付金拾七錢トス但拘禁又ハ留置ノ初日ハ一日ヲ以テ計算シ出監ノ日ハ之ヲ算入セス

●警察署留置場ニ於ケル拘禁費請求ノ件

大正二年一月
內務省元警第一九九二號
（內務次官　司法次官）

明治三十五年法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ償還ヲ要スル金額ハ一箇月毎ニ請求セラルヘキ旨及通牒置候處自今三箇月毎ニ取纒メ請求セシメラレ度候條致度

第十三章　支出

第一節　俸給、旅費及諸給

●高等官官等俸給令

明治四十三年三月二十八日
勅令第百三十四號

（沿革略ス）

朕高等官官等俸給令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等官官等俸給令

第一條　親任式ヲ以テ敍任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ敍任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條　奏任官ノ任免及敍等ハ內閣總理大臣之ヲ奏薦シ其ノ各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ內閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第三條　高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第四條　初メテ高等文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラルル場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條　高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陞敍スルコトヲ得ス

陸海軍武官ヲ其ノ部內ノ文官ニ任用シタル場合ニ於テハ武官在職ノ年數ハ之ヲ前項ノ在職年數ニ通算ス

第六條　親任式ヲ以テ敍任スル官、內閣書記官長、特命全權公使及辨理公使ニ任セラルル場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ、文官任用令〔第一條第四項〕ノ規定ニ依リ勅任文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條　親任式ヲ以テ敍任スル文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

內閣總理大臣	年俸	九千六百圓
各省大臣 朝鮮總督	年俸	六千八百圓
樞密院議長 特命全權大使 判事 檢事 臺灣總督 關東長官 會計檢查院長 行政裁判所長官	年俸	六千六百圓
樞密院副議長 朝鮮總督府政務總監	年俸	六千二百圓
樞密顧問官	年俸	五千八百圓

第八條　勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

帝國大學總長 製鐵所長官 京城帝國大學總長	年俸	一級　六千二百圓 二級　五千八百圓

臺北帝國大學總長

北海道廳長官
內閣書記官長
法制局長官
各省政務次官
各省次官
內務技監
製鐵所技監
朝鮮總督府判事（高等法院長タルモノ）
臺灣總督府總務長官
警視總監

年俸　五千八百圓

資源局長官
社會局長官
海外駐箚財務官
專賣局長官
特許局長官
臺灣總督府法院判官（高等法院長タルモノ）
特命全權公使

年俸
一級　五千八百圓
二級　五千百圓

大使館參事官
大使館商務參事官
國際勞働機關帝國事務所長
判事（大審院部長、控訴院長タルモノ）
檢事（大審院檢事タルモノ四人、檢事長タルモノ）
會計檢查院部長
行政裁判所評定官（部長タルモノ）
朝鮮總督府各局長

年俸
一級　五千八百圓
二級　五千百圓
三級　四千六百五十圓

〔北海書〕

朝鮮總督府遞信局長
朝鮮總督府鐵道局長
朝鮮總督府檢事（高等法院檢事長タルモノ）
臺灣總督府法院檢察官（高等法院檢察官長タルモノ）

官立大學長
國民精神文化研究所員（所長タルモノ）
旅順工科大學長
樺太廳長官
南洋廳長官
府縣知事
朝鮮總督府道知事

年俸
一級　五千三百五十圓
二級　四千九百二十圓
三級　四千六百五十圓

賞勳局總裁
樞密院書記官長

年俸　五千百圓

陸軍法務官（高等軍法會議法務官タルモノ）
海軍法務官（高等軍法會議法務官タルモノ）
製鐵所理事（總務部長タルモノ）
朝鮮總督府專賣局長
朝鮮總督府判事（高等法院部長、覆審法院長タルモノ）
朝鮮總督府檢事（覆審法院檢事長タルモノ）
臺灣總督府交通局總長
關東廳法院判官
貴族院書記官長
衆議院書記官長

年俸
一級　五千百圓
二級　四千六百五十圓

各廳技師

年俸
一級　五千三百五十圓
二級　四千九百二十圓
三級　四千六百五十圓
四級　四千三百圓

內閣恩給局長
內閣統計局長
內閣印刷局長
各省參與官
各省局長
外務省情報部長
外務省文化事業部長
辨理公使
總領事
社會局部長
預金部長
造幣局長
農林省米穀部長
農林省經濟更生部長
貯金局長
簡易保險局長
國際觀光局長
臺灣總督府各局長
臺灣總督府專賣局長
臺灣總督府州知事
法制局參事官
資源局事務官
內務事務官
銀行檢査官
營繕管財局理事
稅關長
稅務監督局長

年俸　四千六百五十圓

〔北海書〕

專賣局部長
專賣局理事
陸軍法務官
千住製絨所長
海軍法務官
學生部長
營林局事務官
水產講習所敎授
保險事務官
特許局事務官
臨時產業合理局事務官
鑛山監督局長
製鐵所理事
製鐵所醫官
遞信監察官
簡易保險局理事
遞信局長
燈臺局長
鐵道監察官
鐵道局長
朝鮮總督府事務官
朝鮮總督府鐵道局理事
朝鮮總督府道參與官
朝鮮道立醫院醫官
朝鮮總督府府尹（京城府尹タルモノ）
臺灣總督府事務官

年俸
一級　四千六百五十圓
二級　四千三百圓